

**2018年（平成30年）
投資信託に関するアンケート調査
（NISA、iDeCo等制度に関する調査）
報告書**

2019年3月



一般社団法人
投資信託協会

＜目 次＞

ページ

1. 調査計画の概要	5
2. 調査結果の要約	9
3. 回答者のプロフィール	27
(1)性別、年代〔Q1〕〔Q2〕	28
(2)職業〔Q3〕	30
(3)20歳未満の親族の有無〔Q4①②〕	32
(4)世帯年収、個人年収〔Q5①②〕	34
(5)保有経験のある金融資産〔Q6①〕	36
(6)現在保有している金融資産〔Q6②〕	37
(7)投資信託/ETF/J-REITの保有期間(各商品の現在保有者)〔Q7①②③〕	38
4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向	41
(1)ETFの認知状況〔Q8①〕	42
(2)ETFの特徴認知(ETF認知者)〔Q9①〕	43
(3)ETFの魅力点、最魅力点〔Q9②③〕	44
(4)ETFの不満点、最不満点(ETF内容認知者、保有経験者)〔Q10①②〕	48
(5)ETF今後の購入・継続保有意向〔Q11〕	50
(6)J-REITの認知状況〔Q8②〕	52
(7)J-REITの特徴認知(J-REIT認知者)〔Q12①〕	53
(8)J-REITの魅力点、最魅力点〔Q12②③〕	54
(9)J-REITの不満点、最不満点(J-REIT内容認知者、保有経験者)〔Q13①②〕	58
(10)J-REIT今後の購入・継続保有意向〔Q14〕	60

<目 次>

5. NISAの浸透状況、今後の利用意向	62
(1)NISAの認知〔Q15①〕	63
(2)NISAの利用状況（制度認知者）〔Q16①〕	64
(3)NISAでの保有金融商品(現在金融商品保有者)〔Q17①〕	65
(4)NISAでの積立投資実施状況(NISAでの現在金融商品保有者)〔Q18①〕	66
(5)NISAの口座開設金融機関(NISAでの現在金融商品保有者)〔Q19①〕	67
(6)NISA口座開設・金融商品未購入理由 （NISA口座開設・金融商品未購入層）〔Q20①〕	68
(7)NISA口座未開設理由(認知・口座未開設層)〔Q20①〕	69
(8)NISA口座での金融商品購入検討のきっかけ （NISA口座開設・金融商品未購入層）〔Q21①〕	70
(9)NISA口座開設検討のきっかけ(認知・口座未開設層)〔Q21①〕	71
(10)NISAの今後の利用意向〔Q22①〕	72
(11)NISAでの投資方法意向〔Q23①〕	73
(12)NISAでの月次積立投資希望額(今後毎月定額積立投資意向者)〔Q24①〕	74
6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向	75
(1)つみたてNISAの認知〔Q15②〕	76
(2)つみたてNISAの利用状況〔Q16②〕	77
(3)つみたてNISAでの保有金融商品〔Q17②〕	78
(4)つみたてNISAの口座開設検討機関 (つみたてNISAでの現在口座開設者)〔Q19②〕	79
(5)つみたてNISA口座開設・金融商品未購入理由 （つみたてNISA口座開設・金融商品未購入層）〔Q20②〕	80
(6)つみたてNISA口座未開設理由（つみたてNISA認知・口座未開設層）〔Q20②〕	81
(7)つみたてNISAでの金融商品購入検討のきっかけ （つみたてNISA口座開設・金融商品未購入層）〔Q21②〕	82
(8)つみたてNISAでの口座開設検討のきっかけ （つみたてNISA認知・口座未開設層）〔Q21②〕	83
(9)つみたてNISAの今後の利用意向〔Q22②〕	84
(10)つみたてNISAでの月次積立投資希望額 （つみたてNISAで毎月一定額を積立投資したい者）〔Q24②〕	85

目次

7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向 * 20歳未満の親族がいる者ベース	86
(1)ジュニアNISAの認知〔Q15③〕	87
(2)ジュニアNISAの利用状況(制度認知者)〔Q16③〕	88
(3)ジュニアNISAでの保有金融商品(現在金融商品保有者)〔Q17③〕	89
(4)ジュニアNISAでの積立投資実施状況(現在金融商品保有者)〔Q18②〕	90
(5)ジュニアNISAの口座開設金融機関(現在金融商品保有者)〔Q19③〕	91
(6)ジュニアNISA口座開設・金融商品未購入理由 (ジュニアNISA口座開設・金融商品未購入層)〔Q20③〕	92
(7)ジュニアNISA口座未開設理由(認知・口座未開設層)〔Q20③〕	93
(8)ジュニアNISA口座での金融商品購入検討のきっかけ (ジュニアNISA口座開設・金融商品未購入層)〔Q21③〕	94
(9)ジュニアNISA口座開設検討のきっかけ(認知・口座未開設層)〔Q21③〕	95
(10)ジュニアNISAの今後の利用意向〔Q22②〕	96
(11)ジュニアNISAでの投資方法意向〔Q23②〕	97
(12)ジュニアNISAでの月次積立投資希望額〔Q24③〕(今後月次積立意向者)	98
8. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向	99
*(1)以外は60歳未満の者ベース	
(1)企業型確定拠出年金の認知〔Q15④〕	100
(2)企業型確定拠出年金の利用状況(制度認知者)〔Q16④〕	101
(3)企業型確定拠出年金での保有金融商品(現在金融商品保有者)〔Q17④〕	102
(4)企業型確定拠出年金のマッチング拠出実施状況 (企業型確定拠出年金加入層)〔Q30〕	104

＜目 次＞

9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向 105

* (1)(4)以外は60歳未満の者ベース

(1)個人型確定拠出年金の認知〔Q15⑤〕	106
(2)個人型確定拠出年金の利用状況(制度認知者)〔Q16⑤〕	108
(3)個人型確定拠出年金での保有金融商品(現在金融商品保有者)〔Q17⑤〕	110
(4)個人型確定拠出年金の特徴認知(制度認知者全体)〔Q27①〕	111
(5)個人型確定拠出年金の特徴認知(60歳未満の制度認知者)〔Q27①〕	112
(6)個人型確定拠出年金の魅力点、最魅力点〔Q27②③〕	113
(7)個人型確定拠出年金の口座開設・投資性商品未購入理由及び 口座未開設理由〔Q25〕	117
(8)個人型確定拠出年金での投資性商品購入及び口座開設検討のきっかけ〔Q26〕	119
(9)個人型確定拠出年金の今後の利用・継続利用意向〔Q28〕	121
(10)個人型確定拠出年金の利用対象者拡大に関する認知と興味度 (制度認知者)〔Q29〕	123

10. その他項目 125

(1)NISA/ジュニアNISA/つみたてNISA/企業型確定拠出年金/個人型確定拠出年金 で投資する場合に、選択したい金融商品〔Q31①②③④⑤〕	126
---	-----

* ジュニアNISAは20歳未満の親族がいる者ベース

* 企業型/個人型確定拠出年金は60歳未満ベース

※ 末尾添付資料 : 調査票

1. 調査計画の概要



1. 調査計画の概要

調査の目的	全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、『ETF、J-REIT』の認知・保有状況、魅力度、不満点、購入意向などを把握すると同時に、『NISA、つみたてNISA、ジュニアNISA、企業型／個人型確定拠出年金(iDeCo)』制度の認知・利用状況、口座での金融商品未購入理由や口座未開設理由、利用意向などを確認し、今後の投資信託の利用拡大及び啓発普及活動に役立つ資料とすること。																																																																																						
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：インターネットモニター） ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。																																																																																						
調査対象	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）の20～79歳の男女																																																																																						
サンプル数	<p>総計20,000サンプル</p> <p>* 性・年代・エリアで割付実施（割付は平成29年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）。</p> <p>* 職業条件による除外は実施していない。</p> <p><性・年代・エリアごとの回収数詳細></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>20-29歳</th> <th>30-39歳</th> <th>40-49歳</th> <th>50-59歳</th> <th>60-69歳</th> <th>70-79歳</th> <th>20-79歳計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">男性</td> <td>首都圏</td> <td>436</td> <td>536</td> <td>654</td> <td>480</td> <td>481</td> <td>362</td> <td>2,949</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>200</td> <td>230</td> <td>298</td> <td>225</td> <td>257</td> <td>198</td> <td>1,408</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>756</td> <td>913</td> <td>1,095</td> <td>918</td> <td>1,128</td> <td>762</td> <td>5,572</td> </tr> <tr> <td colspan="2">男性計</td> <td>1,392</td> <td>1,679</td> <td>2,047</td> <td>1,623</td> <td>1,866</td> <td>1,322</td> <td>9,929</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">女性</td> <td>首都圏</td> <td>412</td> <td>504</td> <td>614</td> <td>450</td> <td>493</td> <td>420</td> <td>2,893</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>198</td> <td>234</td> <td>303</td> <td>233</td> <td>279</td> <td>240</td> <td>1,487</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>710</td> <td>878</td> <td>1,072</td> <td>933</td> <td>1,180</td> <td>918</td> <td>5,691</td> </tr> <tr> <td colspan="2">女性計</td> <td>1,320</td> <td>1,616</td> <td>1,989</td> <td>1,616</td> <td>1,952</td> <td>1,578</td> <td>10,071</td> </tr> <tr> <td colspan="2">TOTAL</td> <td>2,712</td> <td>3,295</td> <td>4,036</td> <td>3,239</td> <td>3,818</td> <td>2,900</td> <td>20,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。</p> <p>首都圏： 東京、神奈川、埼玉、千葉／計5,842サンプル</p> <p>阪神圏： 大阪、京都、兵庫、奈良／計2,895サンプル</p> <p>その他地域： 上記以外の都道府県／計11,263サンプル</p>			20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計	男性	首都圏	436	536	654	480	481	362	2,949	阪神圏	200	230	298	225	257	198	1,408	その他地域	756	913	1,095	918	1,128	762	5,572	男性計		1,392	1,679	2,047	1,623	1,866	1,322	9,929	女性	首都圏	412	504	614	450	493	420	2,893	阪神圏	198	234	303	233	279	240	1,487	その他地域	710	878	1,072	933	1,180	918	5,691	女性計		1,320	1,616	1,989	1,616	1,952	1,578	10,071	TOTAL		2,712	3,295	4,036	3,239	3,818	2,900	20,000
		20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計																																																																															
男性	首都圏	436	536	654	480	481	362	2,949																																																																															
	阪神圏	200	230	298	225	257	198	1,408																																																																															
	その他地域	756	913	1,095	918	1,128	762	5,572																																																																															
男性計		1,392	1,679	2,047	1,623	1,866	1,322	9,929																																																																															
女性	首都圏	412	504	614	450	493	420	2,893																																																																															
	阪神圏	198	234	303	233	279	240	1,487																																																																															
	その他地域	710	878	1,072	933	1,180	918	5,691																																																																															
女性計		1,320	1,616	1,989	1,616	1,952	1,578	10,071																																																																															
TOTAL		2,712	3,295	4,036	3,239	3,818	2,900	20,000																																																																															
調査時期	2019年2月1日（金）～2月5日（火）																																																																																						
調査主体	一般社団法人 投資信託協会																																																																																						
調査実施機関	株式会社インテージ																																																																																						

<グラフ・表・コメントについて>

- ・ 本報告書の回答割合等の数値(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。
- ・ グラフ、数表上の数値は特に断りがない限りは%値となる。また“n”は各属性の実数(サンプル数)を表しており、n数が少ない属性(30未満)のデータをみる際は、あくまで参考値として捉える様に注意する必要がある。

1. 調査計画の概要

<分析軸の内容>

分析軸		カテゴリー	備考
基本軸1	性別	1 男性	Q1の調査結果から作成
		2 女性	
	年代別	1 20代	Q2の調査結果から作成
		2 30代	
		3 40代	
		4 50代	
		5 60代	
		6 70代	
	世帯年収別	1 100万円未満	Q5①の調査結果から作成
		2 ~300万円	
		3 ~500万円	
		4 ~1000万円	
5 ~1000万円以上			
職業別	1 自営/自由・農林漁業	Q3で「5.自由業」「6.農林漁業」「7.自営業」回答者	
	2 会社員、会社役員、派遣・契約社員など	Q3で「1.会社員・非営利団体職員」「2.会社役員・経営者」「3.派遣・契約社員」回答者	
	3 公務員・専業主婦/主夫	Q3で「4.公務員」「9.専業主婦/主夫」回答者	
基本軸2	投資信託保有状況別(※1)(※2)	1 現在保有層	Q6②で「4.投資信託(ETF,REIT除く)」「5.ETF」「5.不動産投信(J-REIT)」回答者
		2 保有経験層(現在非保有)	Q6①で「4」「5」「6」と回答し、Q6②で回答していない者
		3 保有未経験層(金融資産保有経験有)	Q6①で「4」「5」「6」と回答しておらず、また「13.保有したものはなし」と回答していない者
		4 保有未経験層(金融資産保有経験無)	Q6①で「13」と回答している者
ETF分析軸	ETF認知別	1 商品内容認知層	Q8①で「1.名前も商品の内容も知っている」回答者
	ETF保有状況別(※1)	1 現在保有層	Q6②で「5.ETF」回答者
		2 保有経験層(現在非保有)	Q6①で「5」と回答し、Q6②で回答していない者
		3 認知・保有未経験層(金融資産保有経験有)	Q8①で「1-2」且つ Q6①で「5と13以外」の回答者
		4 認知・保有未経験層(金融資産保有経験無)	Q8①で「1-2」且つ Q6①で「13」回答者
		5 非認知層(金融資産保有経験有)	Q8①で「3.非認知」且つ Q6①で「5と13以外」の回答者
6 非認知層(金融資産保有経験無)	Q8①で「3」且つ Q6①で「13」回答者		
J-REIT分析軸	J-REIT認知別	1 商品内容認知層	Q8②で「1-2」回答者
	J-REIT保有状況別(※1)	1 現在保有層	Q6②で「6.不動産投信(J-REIT)」回答者
		2 保有経験層(現在非保有)	Q6①で「6」と回答し、Q6②で回答していない者
		3 認知・保有未経験層(金融資産保有経験有)	Q8②で「1-2」且つ Q6①で「6と13以外」の回答者
		4 認知・保有未経験層(金融資産保有経験無)	Q8②で「1-2」且つ Q6①で「13」回答者
		5 非認知層(金融資産保有経験有)	Q8②で「3.非認知」且つ Q6①で「6と13以外」の回答者
6 非認知層(金融資産保有経験無)	Q8②で「3」且つ Q6①で「13」回答者		

※1 Q6①②のどちらかで「14.わからない・答えたくない」との回答者は、金融資産の保有状況が不明の為、分類に含めず。

※2 国内の投資信託商品の保有状況で分類を実施しており、「外国で作られた投資信託」は保有条件として加味していない。従って、「外国で作られた投資信託」の保有経験があっても、国内の投資信託(Q6=「4.投資信託」「5.ETF」「6.J-REIT」)の保有経験がなければ「保有未経験層」に分類される。

1. 調査計画の概要

<分析軸の内容>

分析軸		カテゴリー	備考
NISA 分析軸	NISA実施 状況別	1 現在口座開設層	Q16①で「1.口座開設して、現在も金融商品保有」「2.「口座を開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」「3.口座開設したが、まだ金融商品未購入」回答者
		2 口座開設経験層 (現在非開設)	Q16①で「4.過去に口座開設し金融商品保有、現在口座閉鎖」「5.過去に口座開設したが、金融商品未購入で閉鎖」回答者
		3 認知・口座非開設層	Q15①で「1.名前も制度の内容も知っている」「2.名前は知っているが、制度の内容はよく分からない」 且つ Q16①で「6.今までに口座開設なし」回答者
		4 非認知層	Q15①で「3.知らない」回答者
	今後NISA 利用意向有層	1 利用意向有層全体	Q22①で「1.利用したい、利用し続けたい」「2.やや利用したい、やや利用し続けたい」回答者
ジュニア NISA 分析軸 ^(*)	ジュニアNISA 実施状況別	1 現在口座開設層	Q16③で「1-3」回答者
		2 口座開設経験層 (現在非開設)	Q16③で「4-5」回答者
		3 認知・口座非開設層	Q15③で「1-2」 且つ Q16③で「6」回答者
		4 非認知層	Q15③で「3」回答者
	今後ジュニアNISA 利用意向有層	1 利用意向有層全体	Q22③で「1-2」回答者
企業型確定 拠出年金 分析軸 ^(*)	企業型確定拠出 年金実施状況別	1 口座開設層	Q16④で「1」回答者
		2 認知・口座非開設層	Q15④で「1-2」 且つ Q16④で「6」回答者
		3 非認知層	Q15④で「3」回答者
個人型確定 拠出年金 分析軸 ^(*)	個人型確定拠出 年金認知別	1 商品内容認知層	Q15⑤で「1」回答者
	個人型確定拠出 年金実施状況別	1 口座開設層	Q16⑤で「1」回答者
		2 認知・口座非開設層	Q15⑤で「1-2」 且つ Q16④で「5」回答者
		3 非認知層	Q15⑤で「3」回答者
今後個人型 確定拠出年金 利用意向有層	1 利用意向有層全体	Q28で「1.利用したい、利用し続けたい」「2.やや利用したい、やや利用し続けたい」回答者	

* ジュニアNISA分析軸は「20歳未満の親族がいる者」に、企業型／個人型確定拠出年金分析軸は「60歳未満の者」に絞って作成。

○ NISA／ジュニアNISA／個人型確定拠出年金では、上記以外に「現在口座非開設・投資信託保有状況」「今後利用意向有・投資信託保有状況別」でも部分的に分析を実施。

2. 調査結果の要約

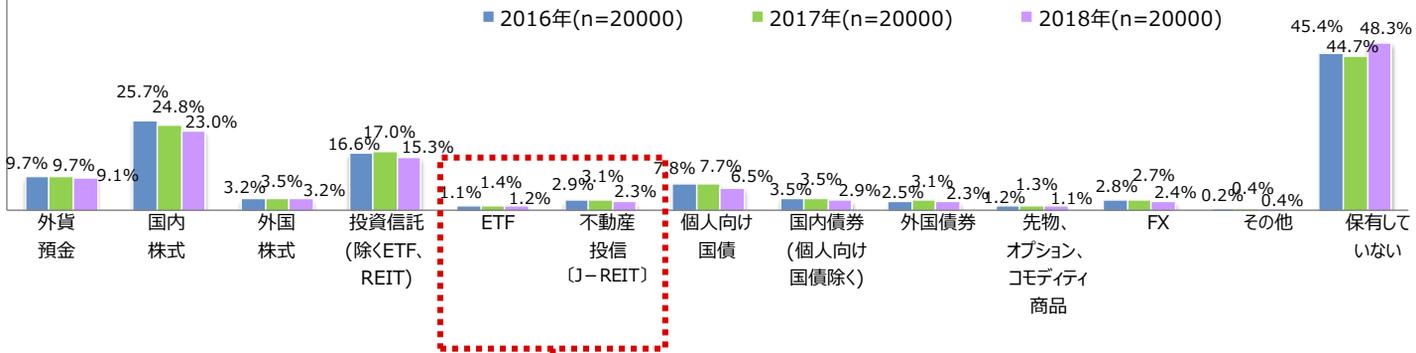


2. 調査結果の要約

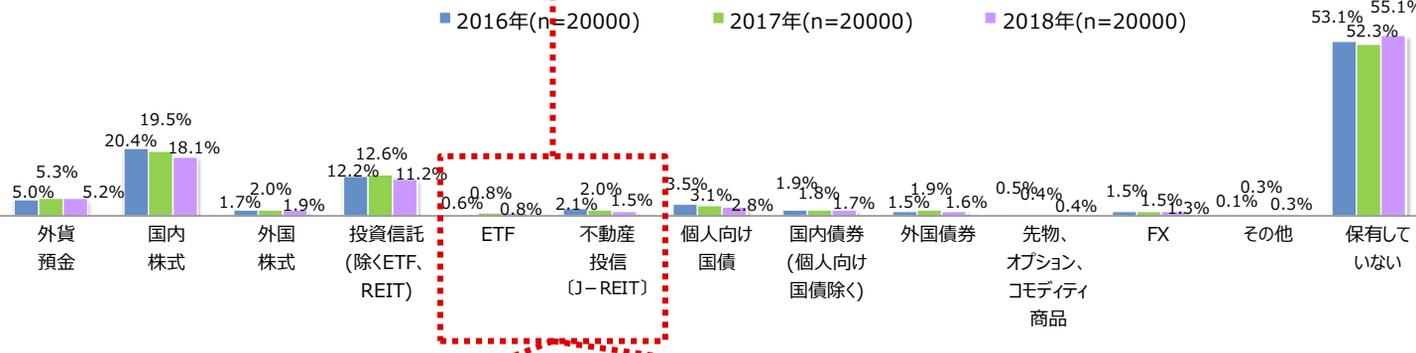
ETF、J-REITの保有率

■ ETF、J-REITの保有経験率は1.2%、2.3%、現在保有率は0.8%、1.5%と前回と大きな変動はなく、依然として少数に留まる。またETFの保有率は年代間で大きな差はないが、J-REITは高齢層ほど保有経験率、現在保有率ともに高くなる。

<保有経験のある金融資産>【ベース:TOTAL(n=20000)】(P.36) *「不明・回答拒否」を除いて掲載

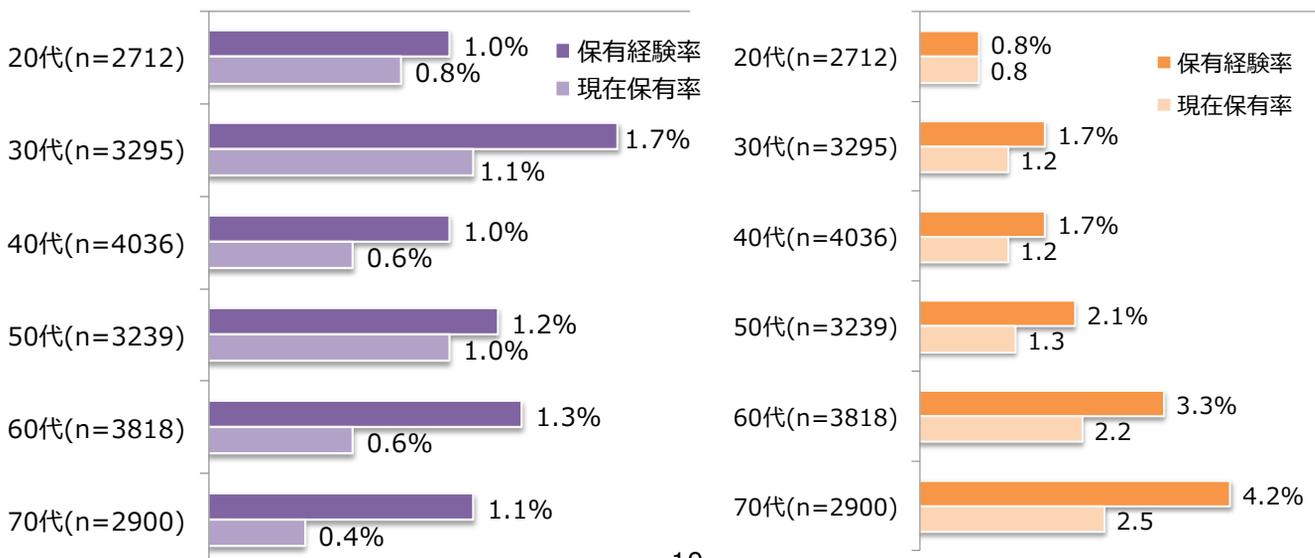


<現在保有している金融資産>【ベース:TOTAL(n=20000)】(P.37) *「不明・回答拒否」を除いて掲載



<ETF 年代別保有経験率> (P.36,P.37)

< J-REIT 年代別現在保有率> (P.36,P.37)



2. 調査結果の要約

ETF、J-REITの認知状況／特徴認知

■ ETF認知率(認知計)は20.8%、J-REIT認知率は25.3%と共に前回と同程度となる。

■ 商品特徴では、ETFは全体的に大きな変動はなく、「元本保証がない」ことの認知が最多。J-REITでは「少額から不動産投資できる」がやや増加、「保有資産には、オフィスビル〜単体、複合で保有するタイプがある」「運用益のほとんどが分配されている」が微減。

<ETFの認知状況>【ベース:TOTAL(n=20000)】(P.42)

■ 名前も商品の内容も知っている ■ 名前は知っているが、商品の内容はよく分からない ■ 知らない

認知計 (%)

年	n	名前も商品の内容も知っている (%)	名前は知っているが、商品の内容はよく分からない (%)	知らない (%)	認知計 (%)
2018年	(20000)	5.3	15.4	79.2	20.8
2017年	(20000)	5.7	15.7	78.7	21.4
2016年	(20000)	5.5	15.9	78.6	21.4

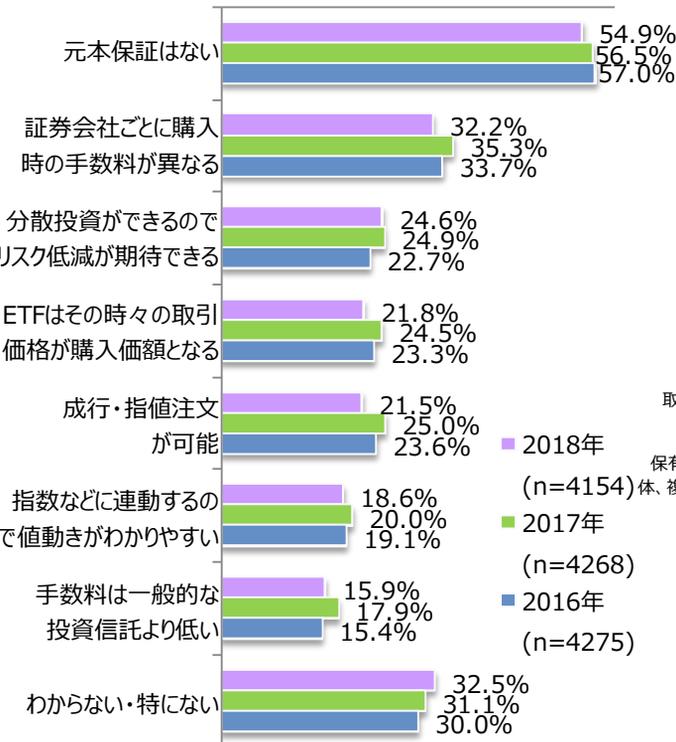
<J-REITの認知状況>【ベース:TOTAL(n=20000)】(P.52)

■ 名前も商品の内容も知っている ■ 名前は知っているが、商品の内容はよく分からない ■ 知らない

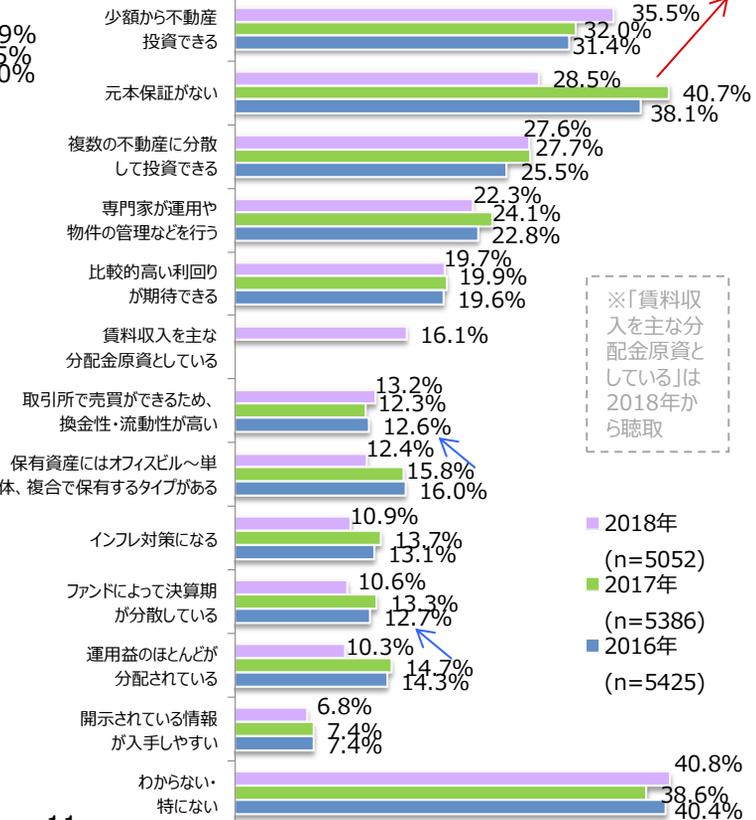
認知計 (%)

年	n	名前も商品の内容も知っている (%)	名前は知っているが、商品の内容はよく分からない (%)	知らない (%)	認知計 (%)
2018年	(20000)	7.4	17.8	74.7	25.3
2017年	(20000)	8.5	18.4	73.1	26.9
2016年	(20000)	8.4	18.7	72.9	27.1

<ETF特徴認知>【ベース:ETF認知者】(P.43)



<J-REIT特徴認知>【ベース:J-REIT認知者】(P.53)



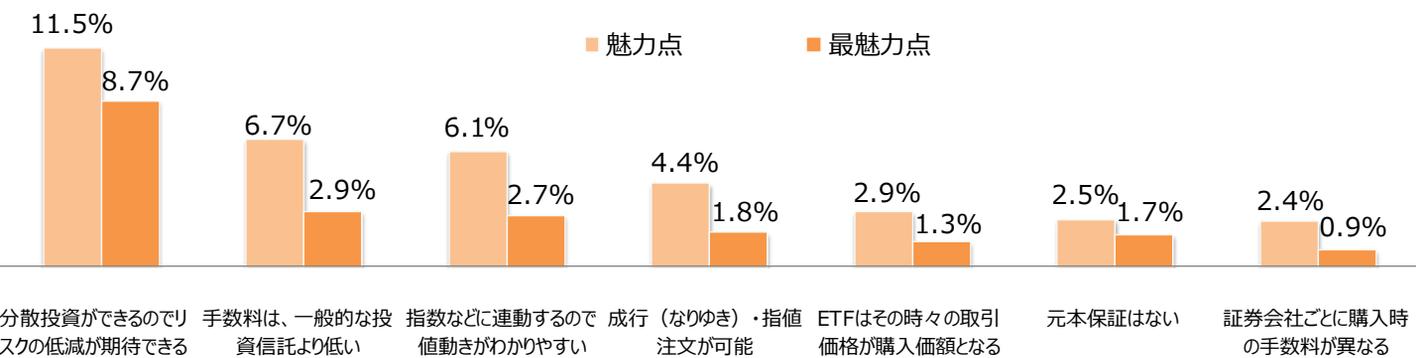
2. 調査結果の要約

ETFの魅力点、最魅力点／不満点、最不満点

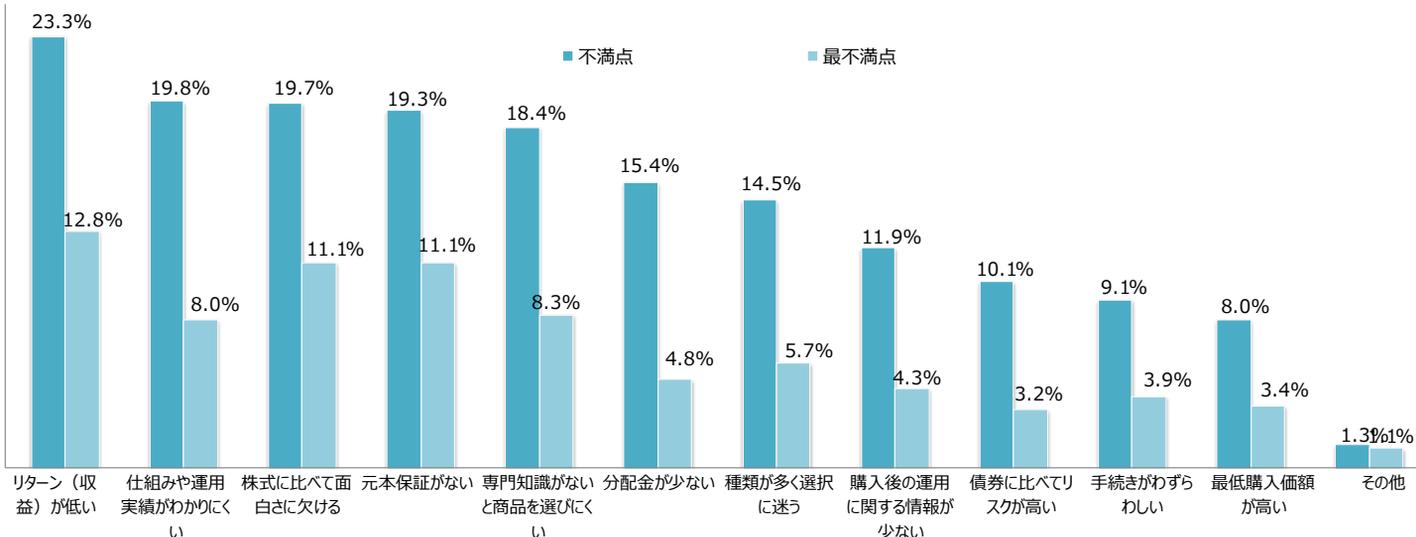
■ETFは、「分散投資できるのでリスク低減が期待できる」ことに魅力を感じられる一方で、「リターン(収益)が低い」「仕組みや運用実績がわかりにくい」「株式に比べて面白さに欠ける」ことに不満を感じられている。

・ETF現在保有層では、「分散投資できるのでリスク低減が期待できる」といった特徴に魅力を感じている人が半数以上と多い。(P.45)

<ETFの魅力点、最魅力点>【ベース:TOTAL(n=20000)】(P.44,46)



<ETFの不満点、最不満点>【ベース:ETF保有経験者および内容認知者(n=1104)】(P.48,49)



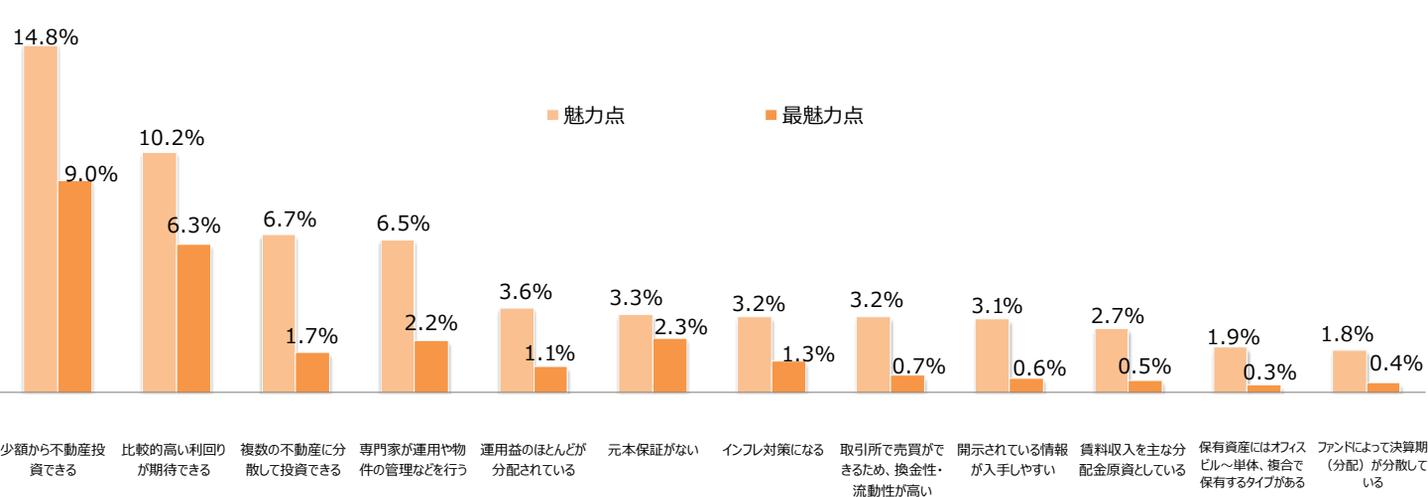
2. 調査結果の要約

J-REITの魅力点、最魅力点／不満点、最不満点

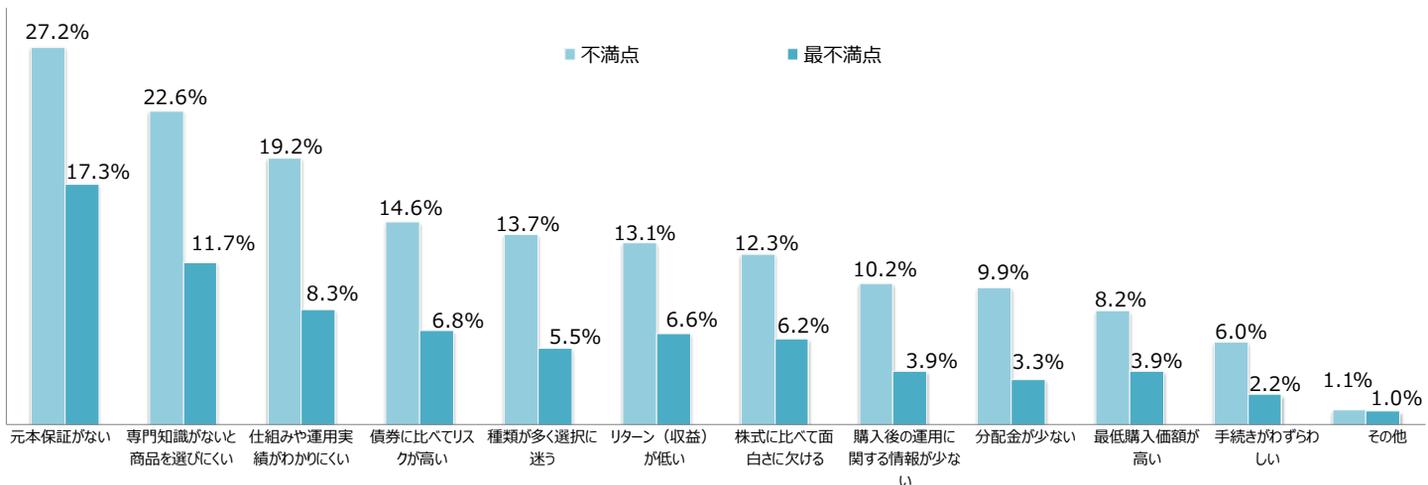
■ J-REITは、「少額から不動産投資できる」ことや「比較的高い利回りが期待できる」ことに魅力を感じる一方で、「元本保証がない」ことや「専門知識がないと商品を選びにくい」「仕組みや運用実績がわかりにくい」といった、商品内容の分かりにくさが不満となる模様。

・ J-REIT現在保有層では、他層に比べ「比較的高い利回りが期待できる」ことに魅力を感じている人が多く、「種類が多く選択に迷う」ことに不満を感じている人が多くなる。(P.55,59)

<J-REITの魅力点、最魅力点>【ベース:TOTAL(n=20000)】(P.54,56)



<J-REITの不満点、最不満点>【ベース:J-REIT保有経験者および内容認知者(n=1558)】(P.58,59)



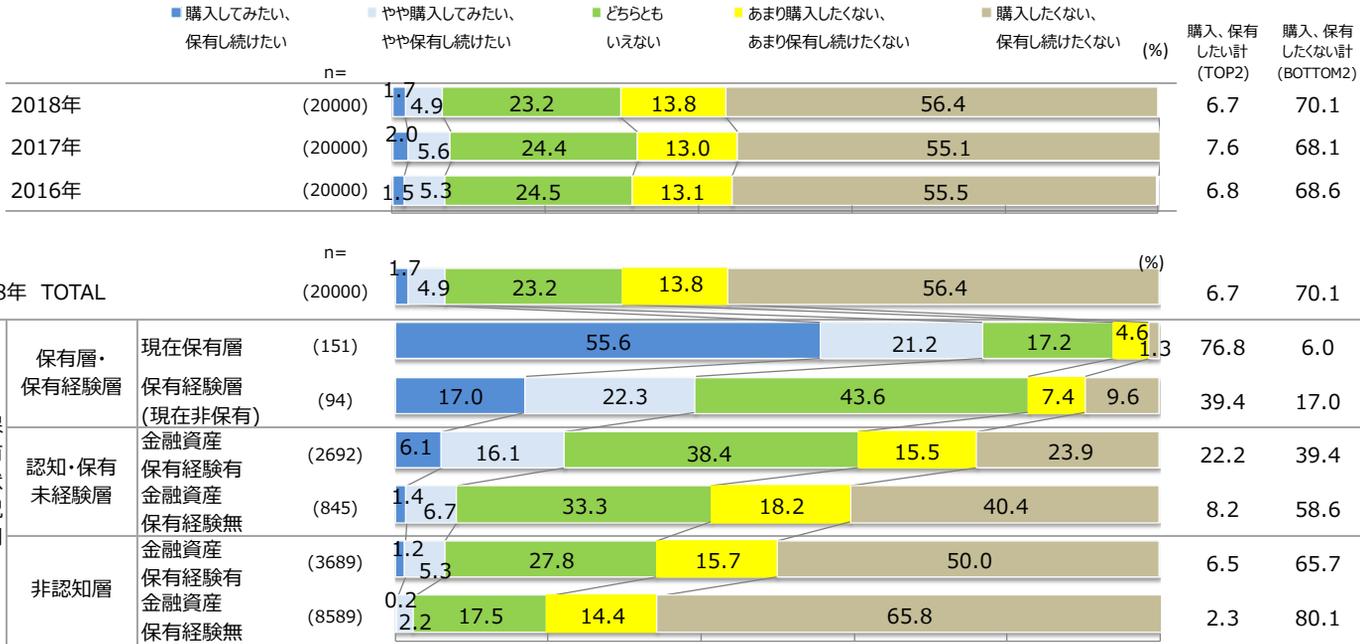
2. 調査結果の要約

ETF、J-REITの今後の購入・継続保有意向

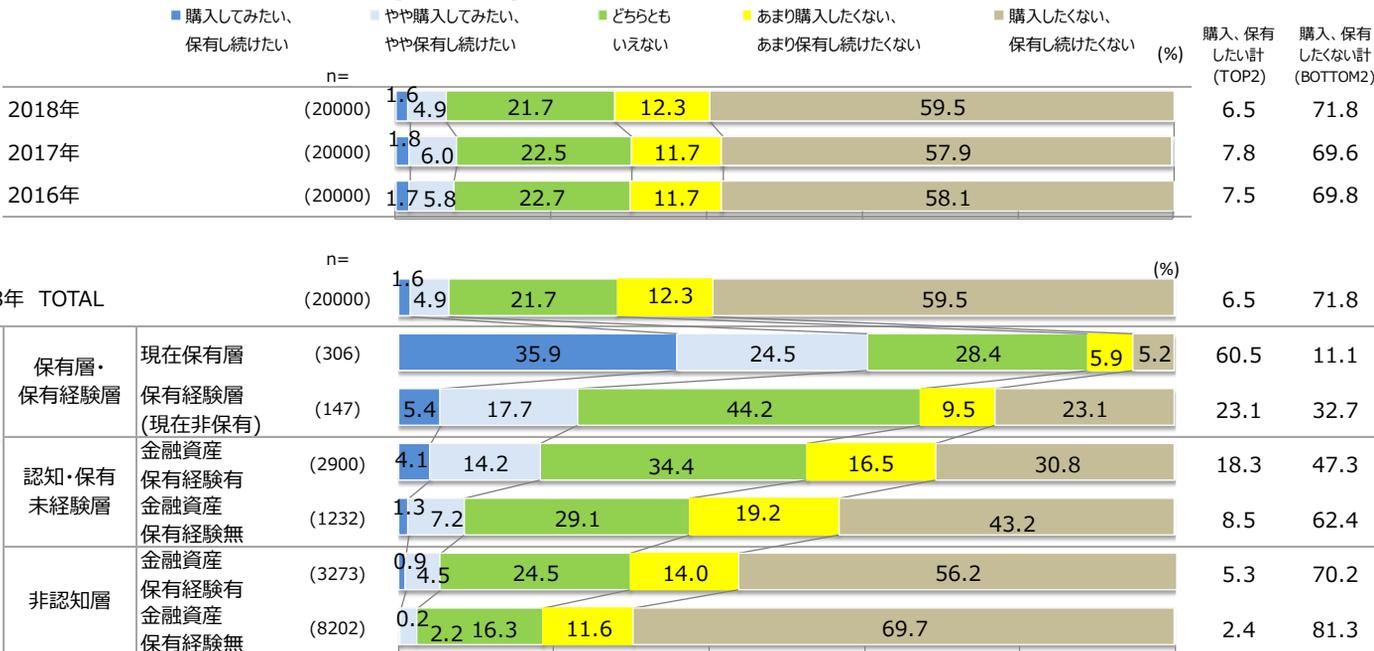
■ ETF、J-REIT共に7%程度の購入意向(TOP2 ※)と、前回と同水準。現在保有層で見ると、ETFは約80%、J-REITは約60%と半数以上が継続での保有意向を示す。

※ TOP2=購入したい計 (「購入してみたい、保有し続けたい」+「やや購入してみたい、やや保有し続けたい」)

<ETFの今後の購入・継続保有> (P.50,51)



<J-REITの今後の購入・継続保有> (P.60,61)



2. 調査結果の要約

NISA、つみたてNISA、ジュニアNISA、企業型確定拠出年金、個人型確定拠出年金 (iDeCo)の認知状況

■ 5制度の中ではNISAの認知率(61.8%)が最も高く、ジュニアNISAの認知率(32.8%)が最も低い。

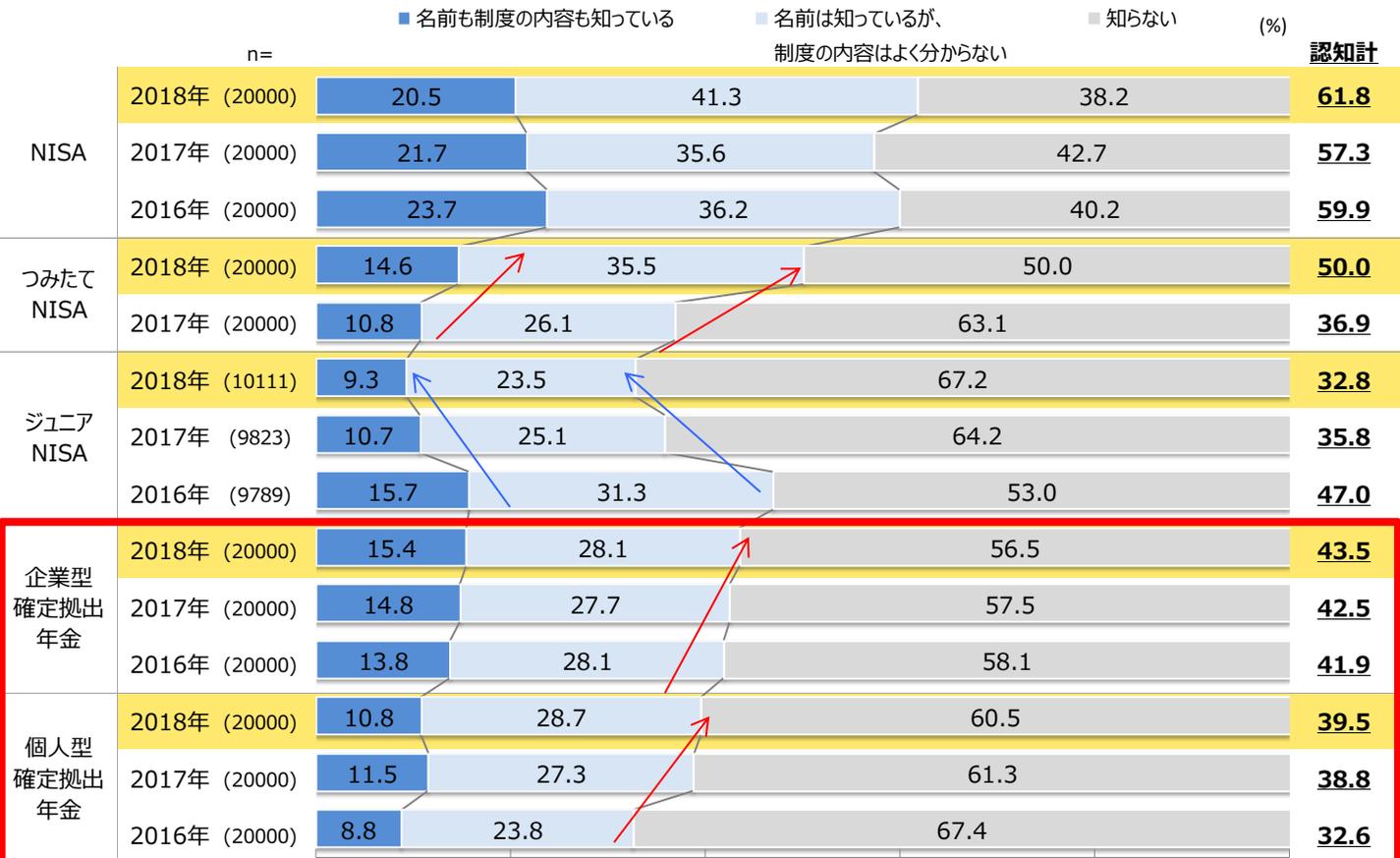
■ 時系列の変動をみると、つみたてNISAは前回より認知率、制度内容認知率ともに増加。一方でジュニアNISAは認知率、制度内容認知率共に減少傾向。企業型・個人型の確定拠出年金は、僅かだが認知率が増加傾向。

・ どの制度も、高年取層ほど認知率は高くなる。(P.63,76,87,100,107)

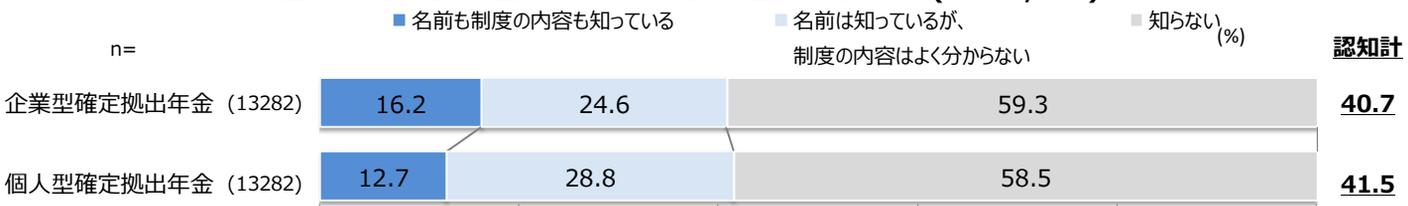
※ 制度開始は、NISAは2014年、つみたてNISAは2018年(口座開設開始は2017年10月)、ジュニアNISAは2016年より。

<NISA、つみたてNISA、ジュニアNISA、企業型確定拠出年金、個人型確定拠出年金の認知状況> (P.63,76,87,100,107)

* ジュニアNISAは20歳未満の親族有の者ベース



<60歳未満における、企業型確定拠出年金、個人型確定拠出年金の認知状況> (P.100,106)



2. 調査結果の要約

NISA、つみたてNISA、ジュニアNISA、企業型確定拠出年金、個人型確定拠出年金の利用状況／企業型確定拠出年金でのマッチング拠出利用状況

■ 各制度を知っている人で口座開設し現在金融商品を保有しているのは、NISA(18.8%)、企業型確定拠出年金(21.7%)との結果。

■ NISAでは口座開設者の20%弱が金融商品未購入。また企業型確定拠出年金では、約40%がマッチング拠出を実施している。

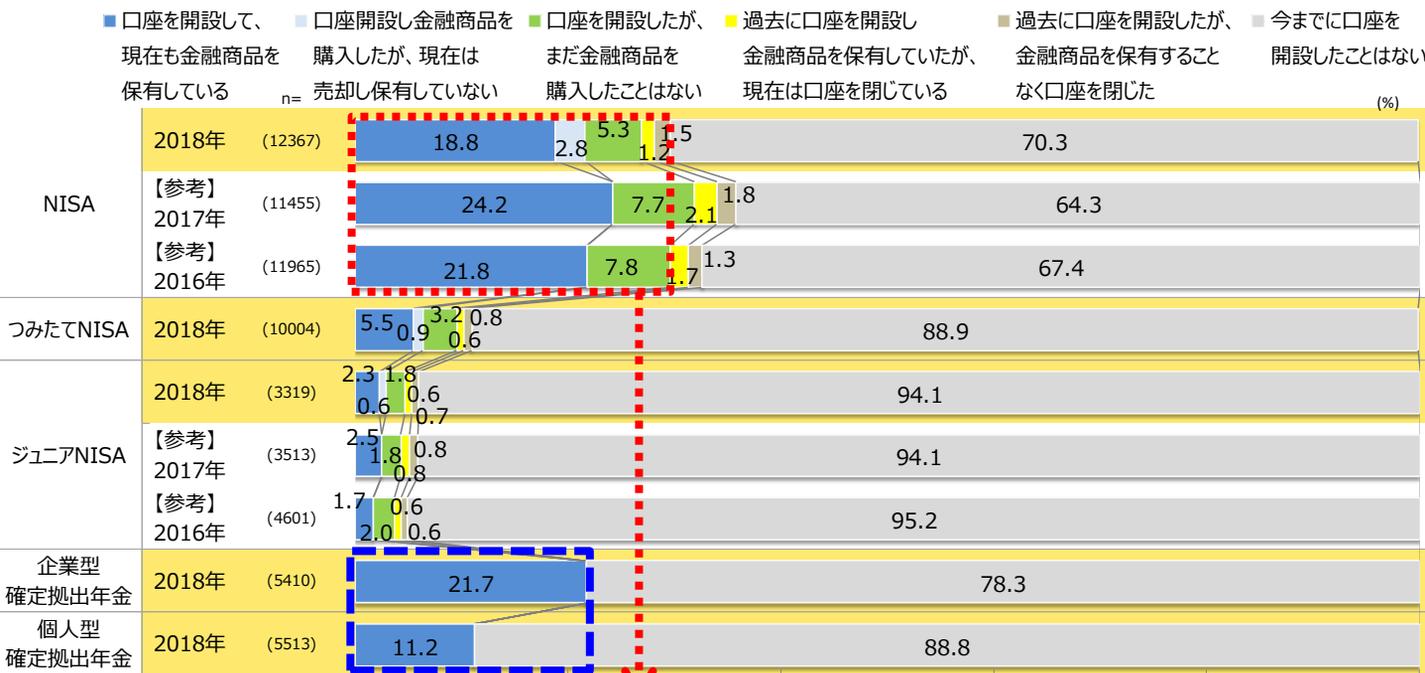
・どの制度も、高年収層ほど、口座開設し金融商品を保有している割合が高くなる傾向。(P.64,77,88,101,108)

<NISA、つみたてNISA、ジュニアNISA、企業型確定拠出年金、個人型確定拠出年金の利用状況>【ベース：各制度認知者】(P.64,77,88,101,108)

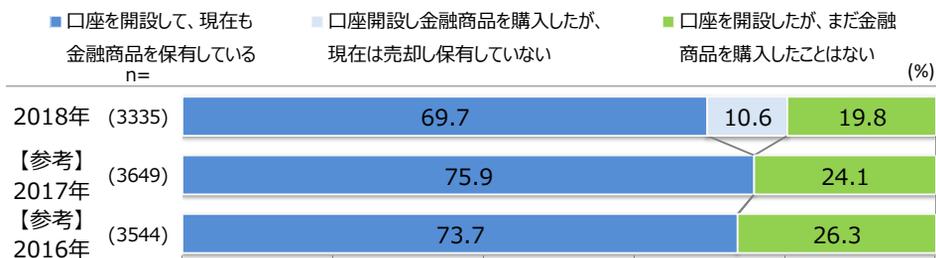
* ジュニアNISAは20歳未満の親族有の者、企業型／個人型確定拠出年金は60歳未満の者ベース

※「つみたてNISA」は2018年度から聴取。選択肢「口座開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」は2018年度から聴取

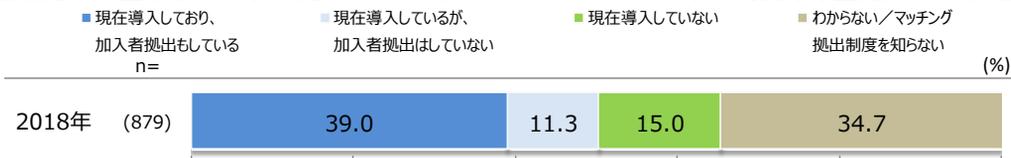
※企業型／個人型確定拠出年金では「口座を開けし金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」「口座を開けしたが、まだ金融商品を購入したことはない」を「口座を開けして、現在も金融商品を保有している」に統合。(企業型では2.5%と3.0%を16.2%に、個人型では0.8%と2.5%を7.9%に統合)



<NISA口座開設者における、同制度での金融商品保有状況>【ベース：NISA口座現在開設者】(P.64)



<企業型確定拠出年金でのマッチング拠出利用状況>【ベース：60歳未満で同制度での金融商品保有者】(P.104)

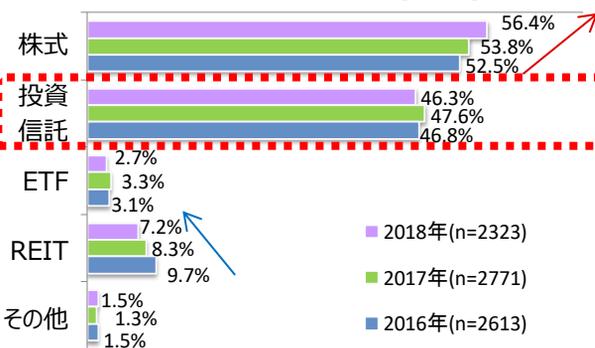


2. 調査結果の要約

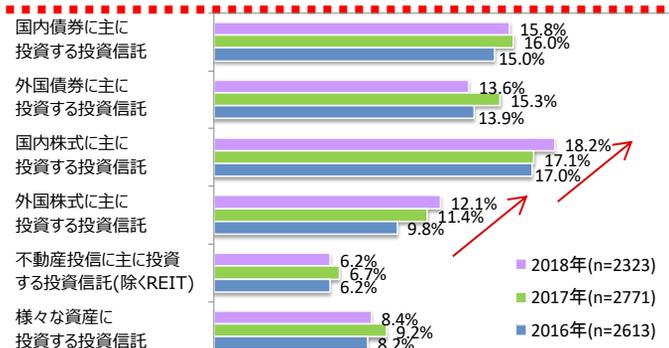
NISA、つみたてNISA、ジュニアNISAでの保有金融商品

- NISAでの保有金融商品では、「株式」の保有率が微増。「投資信託」の保有率(「国内債券に主に投資～様々な資産に投資する投資信託」のいずれか保有者の割合)は46.3%で前回同程度となる。また「株式」(56.4%)が微増し、「ETF」(2.7%)は前回と同水準。「REIT」は微減傾向。
- つみたてNISAでは「国内株式に主に投資する投資信託」の保有率(30.6%)が最も高い。
- ジュニアNISAでは「株式」「REIT」保有率が前回より減少、「投資信託」保有率は前回同程度。投資信託商品の中では、「外国債券／国内株式に主に投資する投資信託」が減少、「様々な資産に投資する投資信託」が増加。

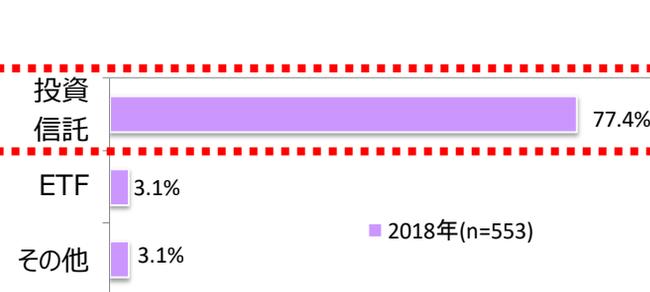
＜NISAでの保有金融商品＞ ＊「不明・回答拒否」除く
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.65)



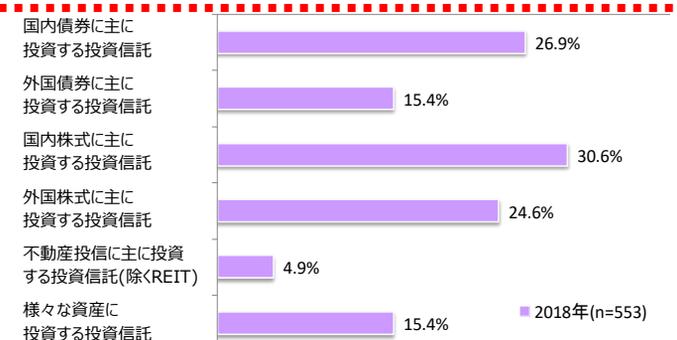
＜NISAでの保有投資信託商品詳細＞
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.65)



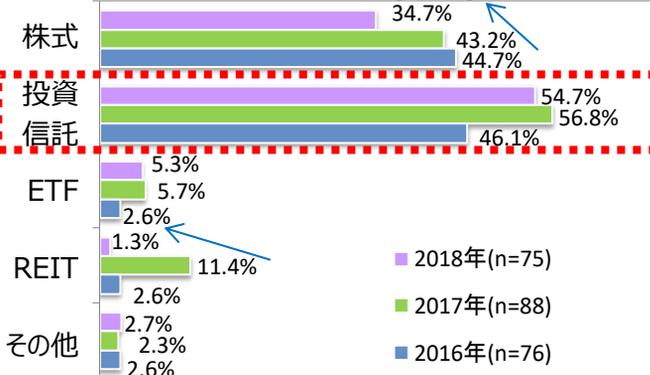
＜つみたてNISAでの保有金融商品＞ ＊「不明・回答拒否」除く
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.78)



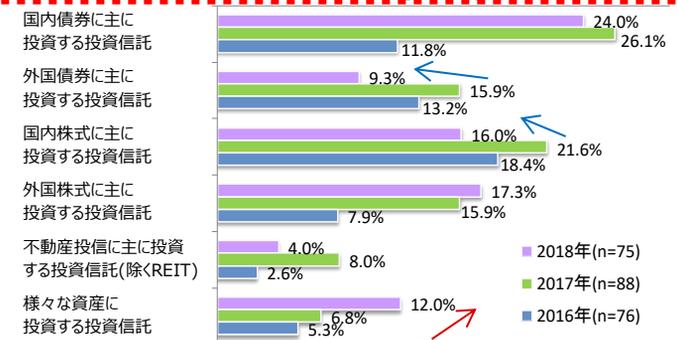
＜つみたてNISAでの保有投資信託商品詳細＞
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.78)



＜ジュニアNISAでの保有金融商品＞ ＊「不明・回答拒否」除く
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.89)



＜ジュニアNISAでの保有投資信託商品詳細＞
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.89)

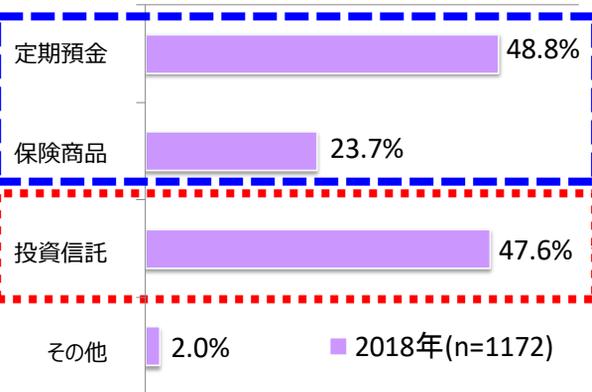


2. 調査結果の要約

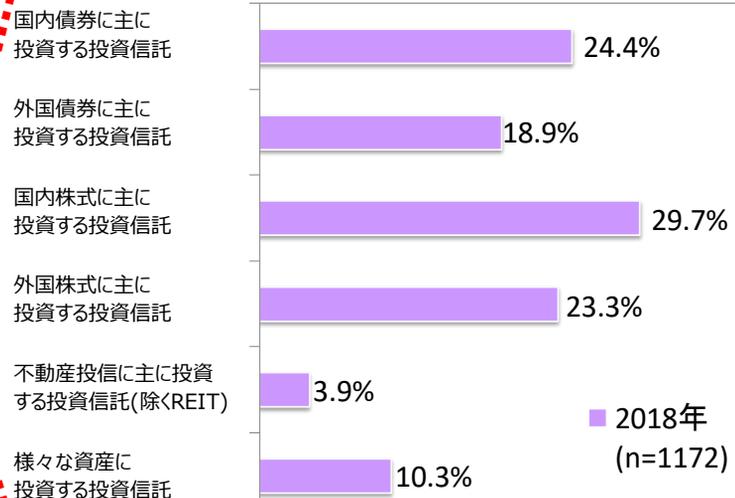
企業型確定拠出年金、個人型確定拠出年金制度での保有金融商品

- 企業型確定拠出年金での保有金融商品は、「投資信託」の保有が47.6%と約半数。中でも「国内株式に主に投資する投資信託」の保有率が最も高い。
- 個人型確定拠出年金での保有金融商品は、「投資信託」が45.2%となり、投資信託商品の中では企業型と同様に「国内株式に主に投資する投資信託」の保有率が最も高くなる。

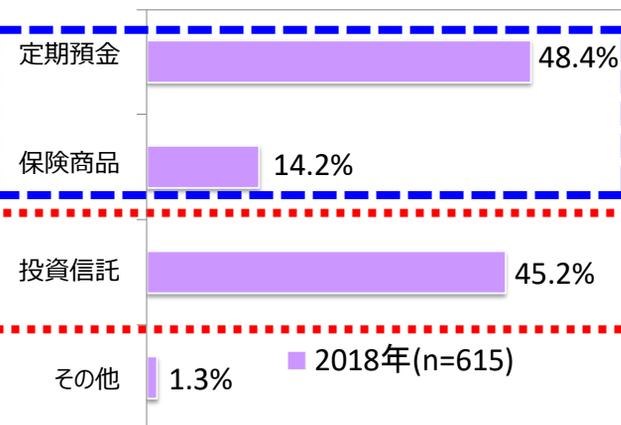
＜企業型確定拠出年金での保有金融商品＞ ＊「不明・回答拒否」除く
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.102)



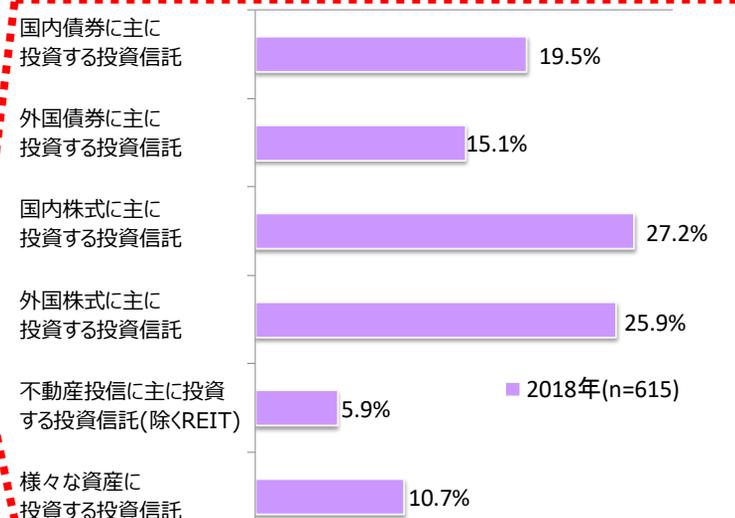
＜企業型確定拠出年金での保有投資信託商品詳細＞
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.102)



＜個人型確定拠出年金での保有金融商品＞ ＊「不明・回答拒否」除く
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.110)



＜個人型確定拠出年金での保有投資信託商品詳細＞
【ベース:制度での金融商品保有者】(P.110)



※企業型／個人型確定拠出では、「口座を開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」「口座を開設したが、まだ金融商品を購入したことはない」層を「口座を開設して、現在も金融商品保有している」層に統合(P17)。保有金融商品では、その統合した層を「定期預金」「保険商品」の2商品に案分し含有。(案分比率は統合前の定期預金／保険商品構成比に準じている。)

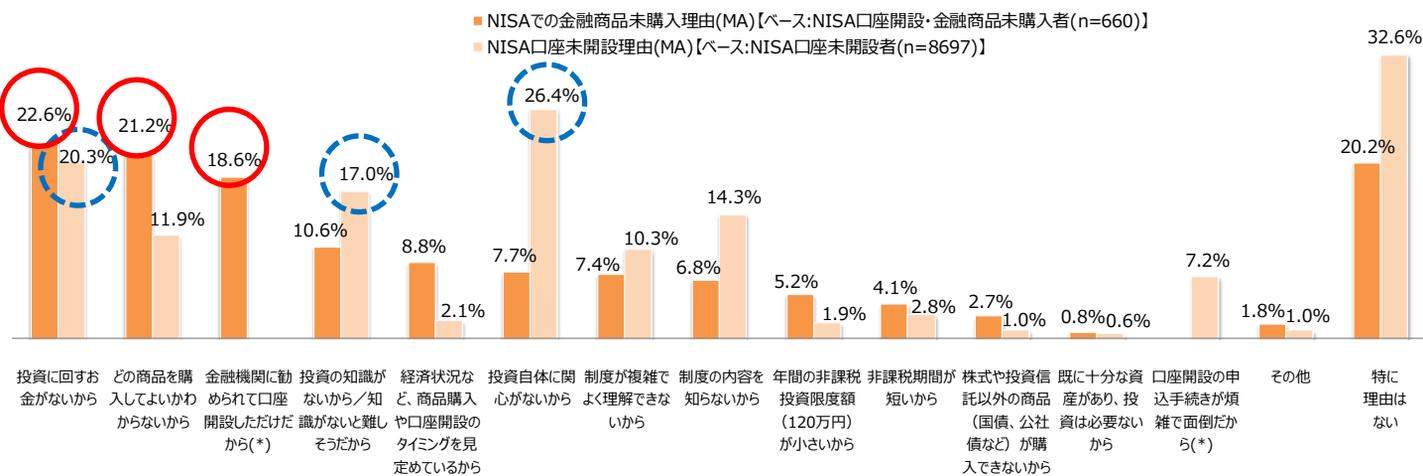
2. 調査結果の要約

NISAでの口座開設・金融商品未購入理由、口座未開設理由／ NISAでの金融商品購入、口座開設検討のきっかけ

■ NISAでの金融商品未購入理由は、「投資に回すお金がない」「どの商品を購入してよいかわからない」「金融機関の勧めで口座開設しただけ」が多く、金融商品購入検討のきっかけでは「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」が最も多くなる。

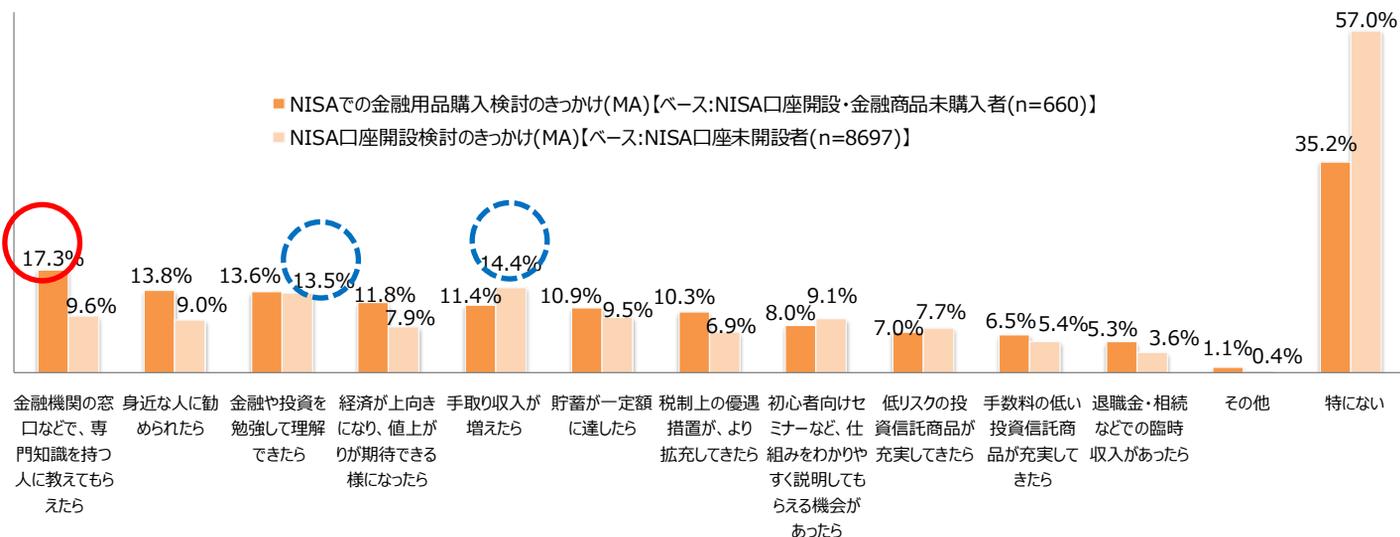
■ NISA口座未開設の理由では、「投資自体に関心がない」「投資に回すお金がない」「投資の知識がない」と、投資への関心・知識のなさ、経済的余裕のなさが多い。口座開設検討のきっかけは「手取り収入が増えたら」「金融や投資を勉強して理解できたら」と経済環境の変化や投資知識の向上が多くあがる。

<NISAでの金融商品未購入理由、口座未開設理由> (P.68,69) ※ 金融商品未購入理由で降順にソート



* 「金融機関に勧められて口座開設しただけ」は金融資産未購入層／ 「口座開設の申し込み手続きが煩雑で面倒」は口座未開設層にのみ聴取

<NISAで金融商品購入、口座開設検討のきっかけ> (P.70,71) ※ 金融商品購入のきっかけで降順にソート



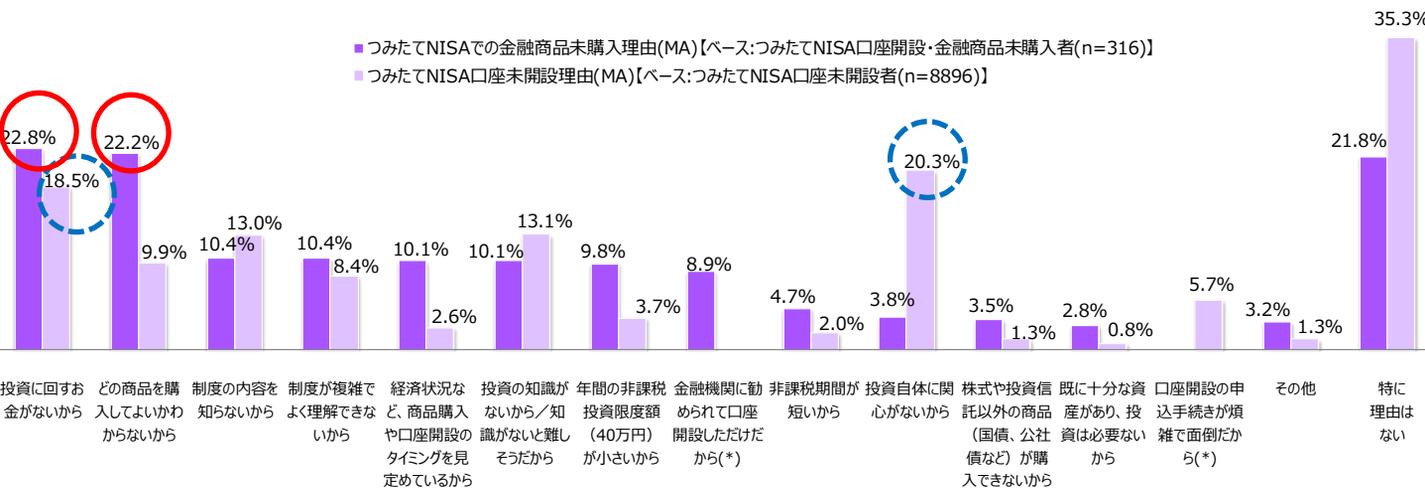
○・・・金融商品未購入理由／金融商品購入検討のきっかけで高い項目 ○・・・口座未開設理由／口座開設検討のきっかけで高い項目

2. 調査結果の要約

つみたてNISAでの口座開設・金融商品未購入理由、口座未開設理由／
つみたてNISAでの金融商品購入、口座開設検討のきっかけ

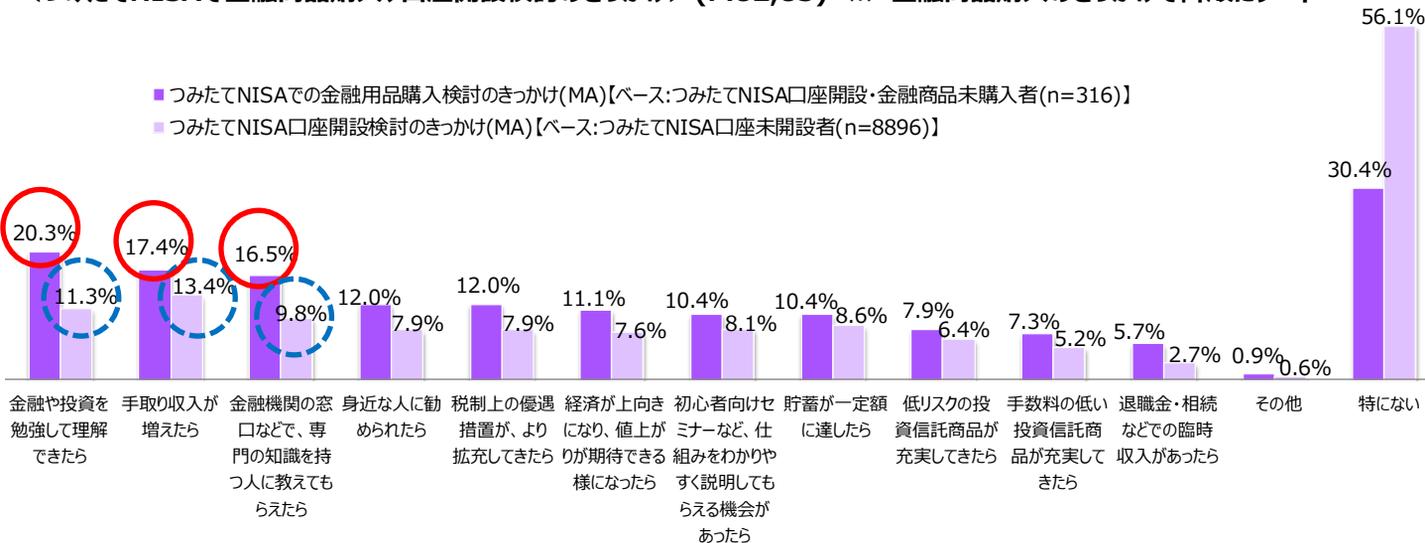
- つみたてNISAでの金融商品未購入理由は「投資に回すお金がない」「どの商品を購入してよいかわからない」が多く、金融商品購入検討のきっかけでは「金融や投資を勉強して理解できたら」「手取り収入が増えたら」「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」が多くなる。
- つみたてNISA口座未開設の理由では、「投資自体に関心がない」「投資に回すお金がない」と投資への関心のなさ、経済的余裕のなさが多い。また口座開設検討のきっかけでは「金融や投資を勉強して理解できたら」「手取り収入が増えたら」「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」といった、経済環境の変化の他に投資知識の向上が多くあがる。

<つみたてNISAでの金融商品未購入理由、口座未開設理由> (P.80,81) ※ 金融商品未購入理由で降順にソート



* 「金融機関に勤められて口座開設しただけ」は金融資産未購入層／「口座開設の申し込み手続きが煩雑で面倒」は口座未開設層にのみ聴取

<つみたてNISAで金融商品購入、口座開設検討のきっかけ> (P.82,83) ※ 金融商品購入のきっかけで降順にソート



○・・・金融商品未購入理由／金融商品購入検討のきっかけで高い項目 ○・・・口座未開設理由／口座開設検討のきっかけで高い項目

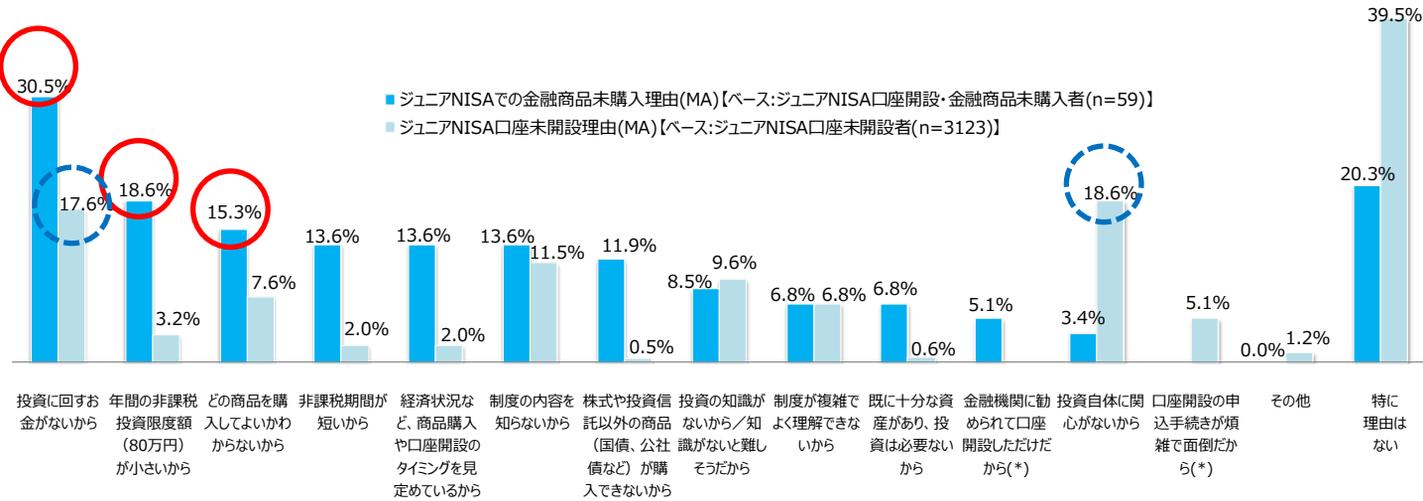
2. 調査結果の要約

ジュニアNISAでの口座開設・金融商品未購入理由、口座未開設理由／
ジュニアNISAでの金融商品購入、口座開設検討のきっかけ

■ジュニアNISAでの金融商品未購入理由は「投資に回すお金がない」が突出。
「非課税投資限度額（80万円）が小さい」「どの商品を購入してよいかわからない」が続く。
金融商品購入検討のきっかけは分散傾向で、「貯蓄が一定額に達したら」が最も多くなる。

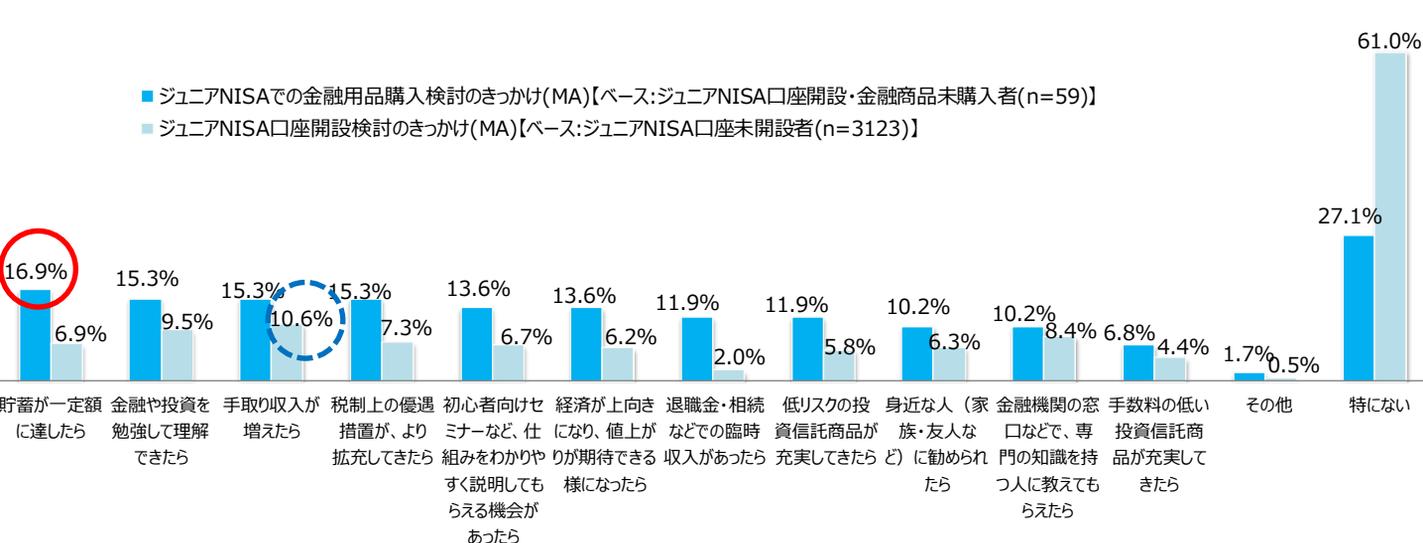
■ジュニアNISA口座未開設の理由では「投資自体に関心がない」「投資に回すお金がない」が多い。口座開設検討のきっかけでは目立って高い項目はなく、「手取り収入が増えたら」が10%強で最多となる。

<ジュニアNISAでの金融商品未購入理由、口座未開設理由> (P.92,93) ※ 金融商品未購入理由で降順にソート



* 「金融機関に勧められて口座開設しただけ」は金融資産未購入層／ 「口座開設の申し込み手続きが煩雑で面倒」は口座未開設層にのみ聴取

<ジュニアNISAで金融商品購入、口座開設検討のきっかけ> (P.94,95) ※ 金融商品購入のきっかけで降順にソート



○・・・金融商品未購入理由／金融商品購入検討のきっかけで高い項目 ○・・・口座未開設理由／口座開設検討のきっかけで高い項目

2. 調査結果の要約

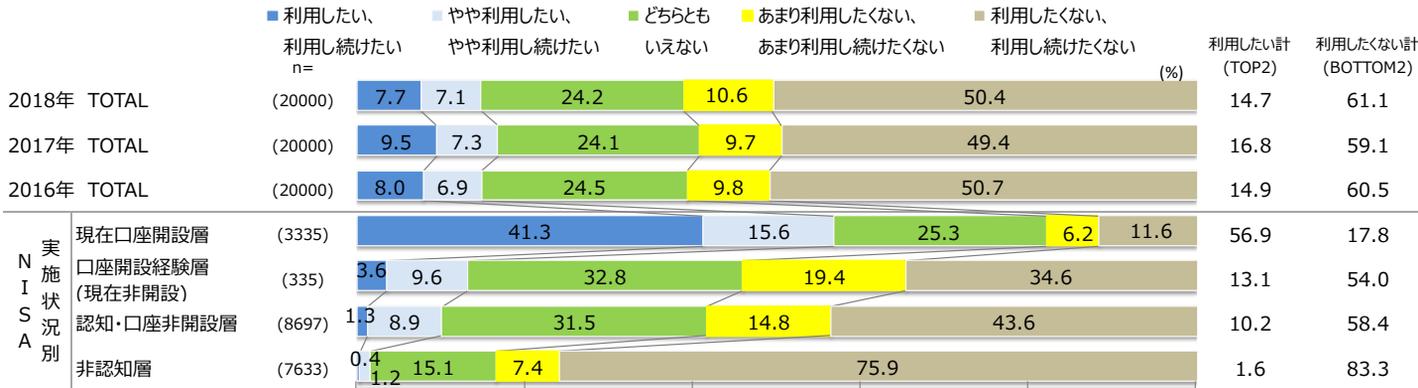
NISA、つみたてNISA、ジュニアNISAの今後の利用・継続利用意向

■ 全体では、「NISA」の利用意向(TOP2 ※)は14.7%と前回より微減。
「つみたてNISA」(9.2%)、「ジュニアNISA」(5.4%)は前回同水準。

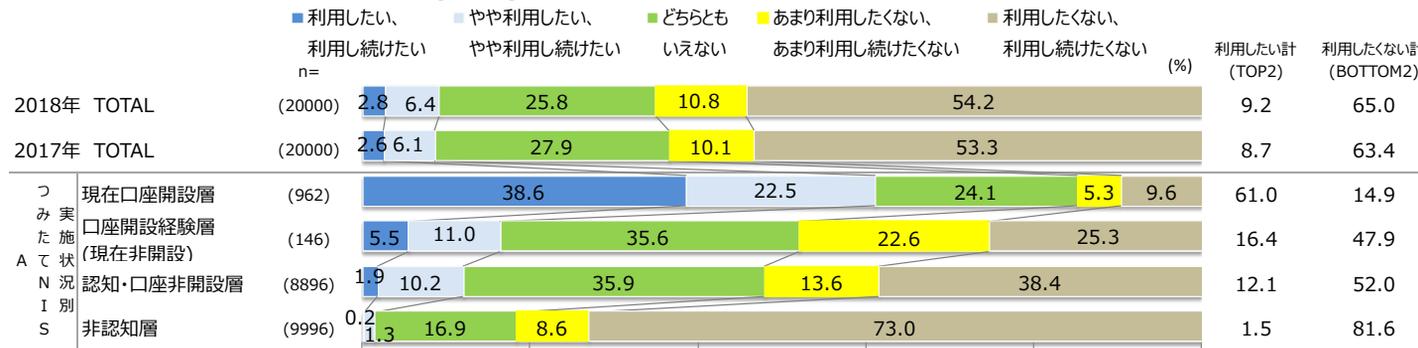
※ TOP2=利用したい計 (「利用したい、利用し続けたい」+「やや利用したい、やや利用し続けたい」)

- ・ 年代別では、若年層ほど「ジュニアNISA」「つみたてNISA」の利用意向は増加する傾向。(P.84,96)
- ・ 世帯年収別では、高年収層ほど「NISA」「つみたてNISA」「ジュニアNISA」のいずれも利用意向は高くなる。(P.72,84,96)

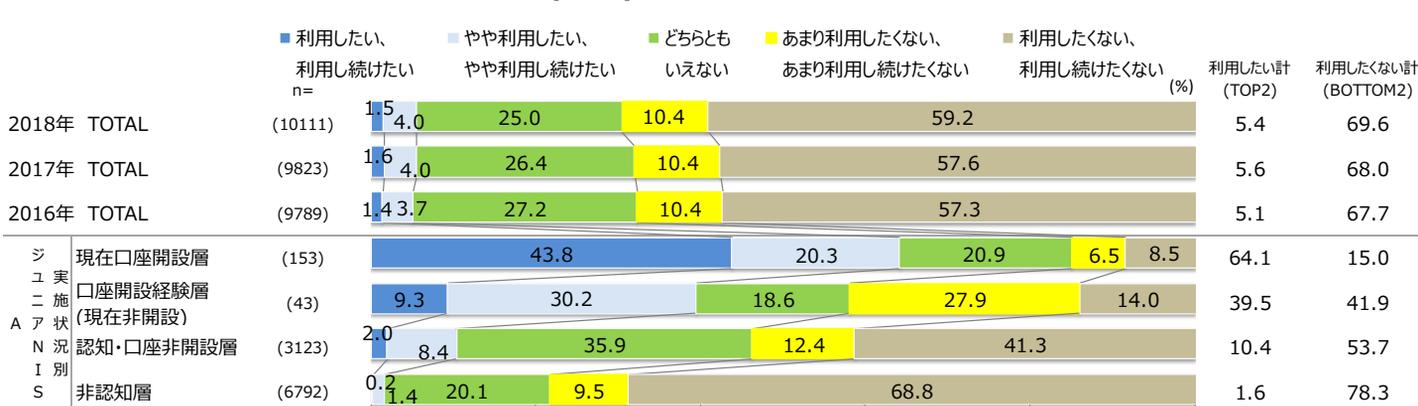
<NISAの今後の利用・継続利用意向> (P.72)



<つみたてNISAの今後の利用意向> (P.84)



<ジュニアNISAの今後の利用・継続利用意向> (P.96)



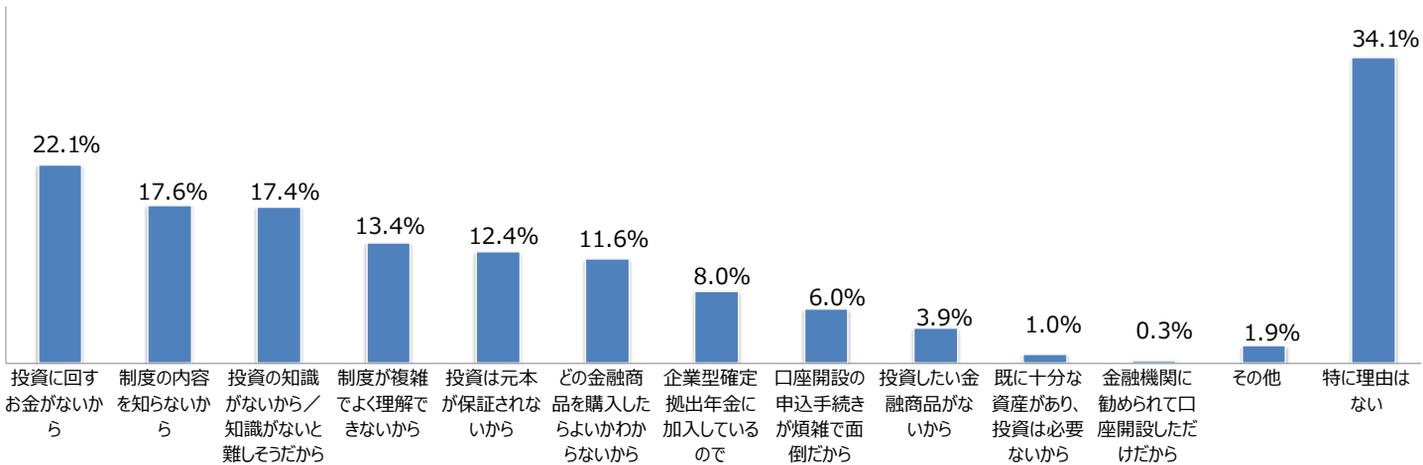
2. 調査結果の要約

個人型確定拠出年金での口座開設・金融商品未購入および口座未開設理由／
個人型確定拠出年金での金融商品購入および口座開設のきっかけ

- **金融商品未購入(定期預金・保険商品を除く投資性商品の未購入)および口座未開設の理由では、「投資に回すお金がない」の他に、「制度の内容を知らない」「投資の知識がない／知識がないと難しそう」と知識不足が多くあがる。**
- **金融商品(定期預金・保険商品を除く投資性商品)の購入および口座開設のきっかけは、「投資に回すお金ができた」「金融や投資を勉強して理解できた」「手取り収入が増えたら」が高く、開始にあたってお金や知識が必要と考えられている様子。**

<個人型確定拠出年金での金融商品未購入および口座未開設理由>

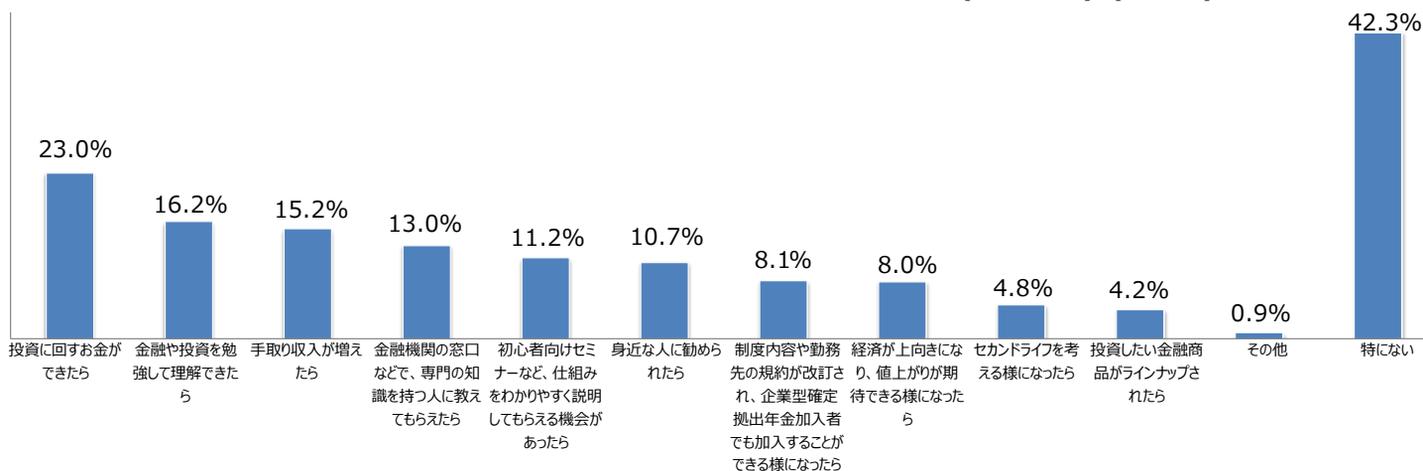
【ベース：60歳未満の個人型確定拠出年金での金融商品未購入および口座未開設者(n=5141)】(P.117)



* 「口座開設の申し込み手続きが煩雑で面倒」は口座未開設層(n=4383)／「金融機関に勧められて口座開設しただけ」は金融資産未購入層(n=172)にのみ聴取

<個人型確定拠出年金での金融商品購入および口座開設のきっかけ>

【ベース：60歳未満の個人型確定拠出年金での金融商品未購入および口座未開設者(n=5141)】(P.119)



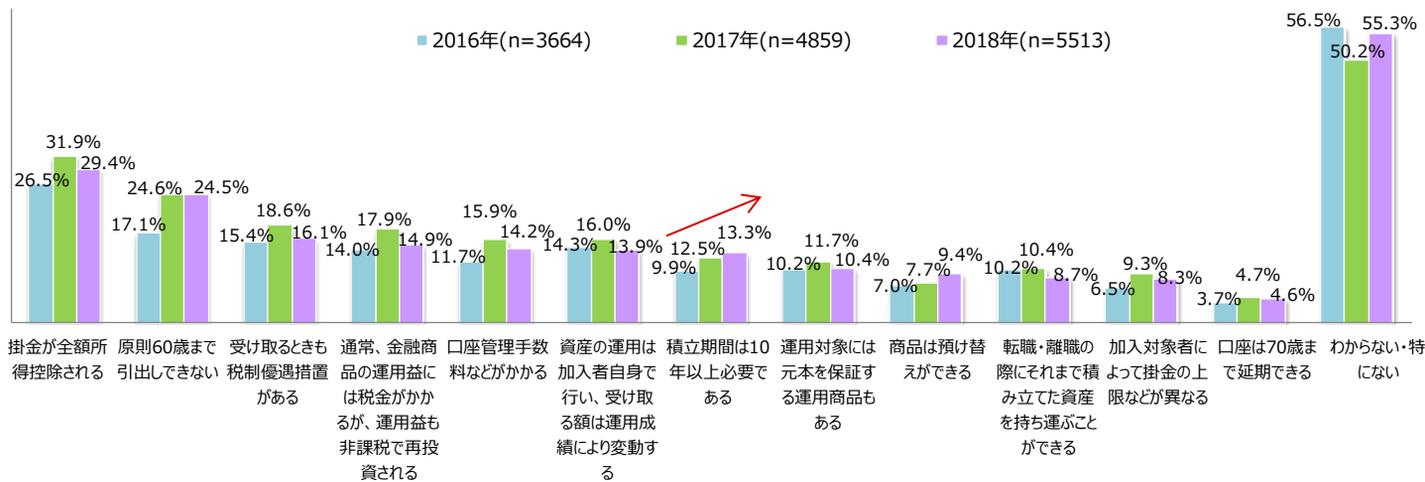
2. 調査結果の要約

個人型確定拠出年金の特徴認知／個人型確定拠出年金の魅力点・最魅力点

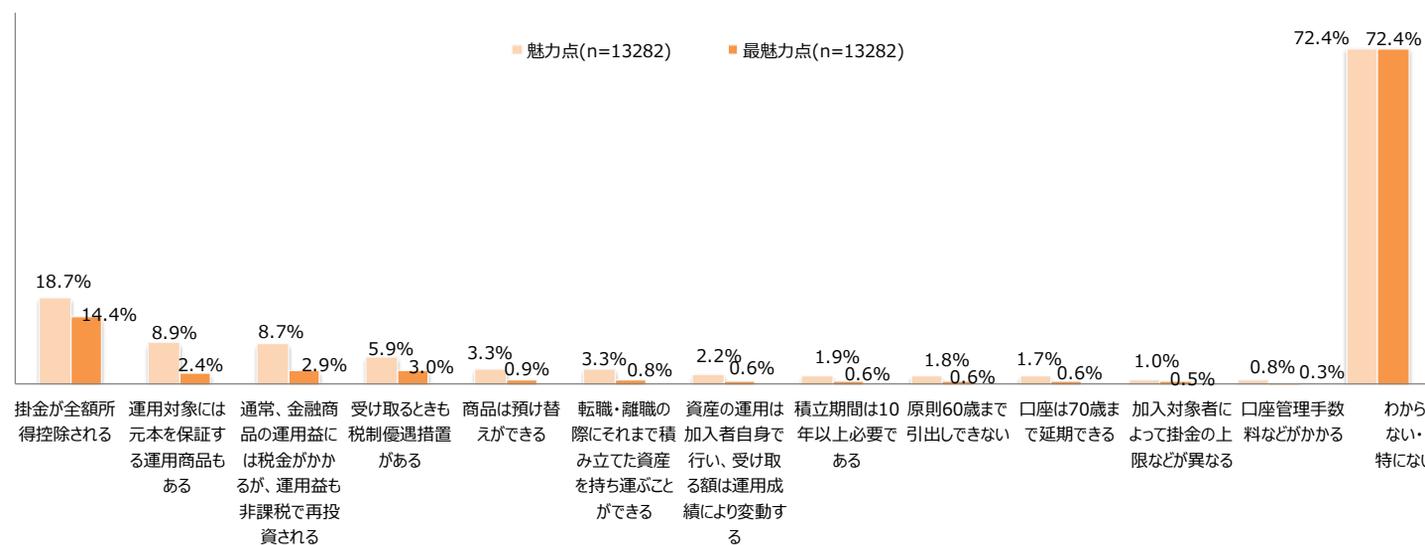
■ 特徴認知は前回同様に「掛金が全額控除される」「原則60歳まで引出しできない」が上位。また「積立期間は10年以上必要である」が微増傾向。

■ 「掛金が全額控除される」といった税制措置は、魅力点として最も高い。

<個人型確定拠出年金の特徴認知>【ベース：60歳未満の個人型確定拠出年金認知者】(P.112)



<個人型確定拠出年金の魅力点・最魅力点>【ベース：60歳未満の者TOTAL(n=13282)】(P.113,115)



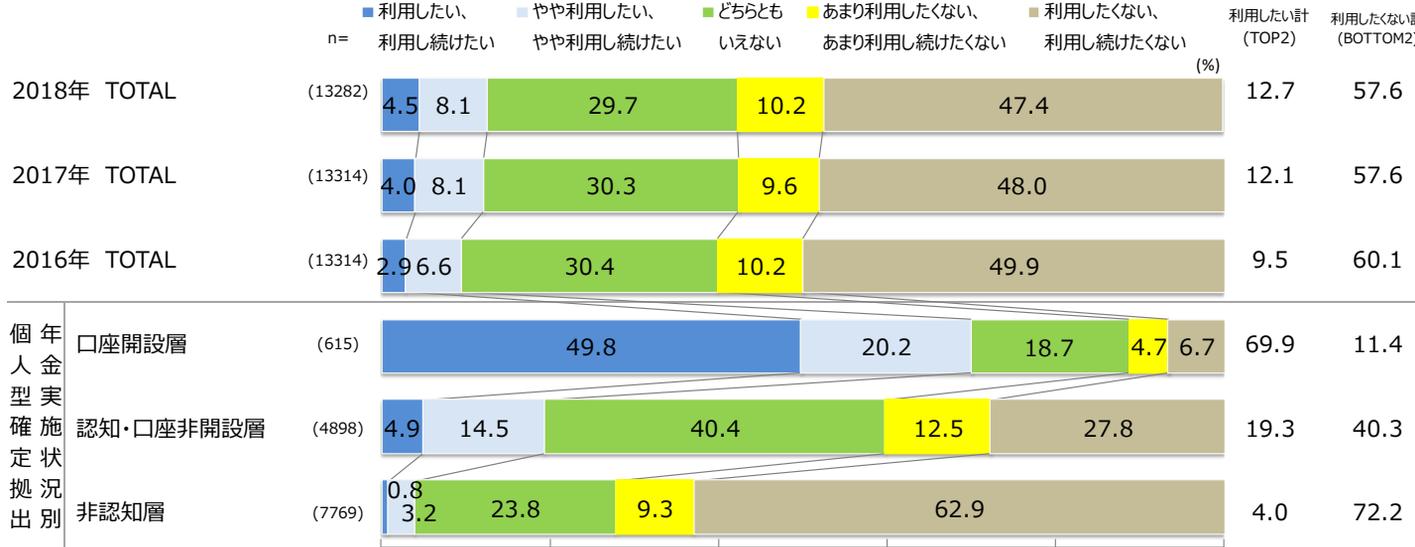
2. 調査結果の要約

個人型確定拠出年金の今後の利用・継続利用意向／個人型確定拠出年金の対象者拡大認知・興味度

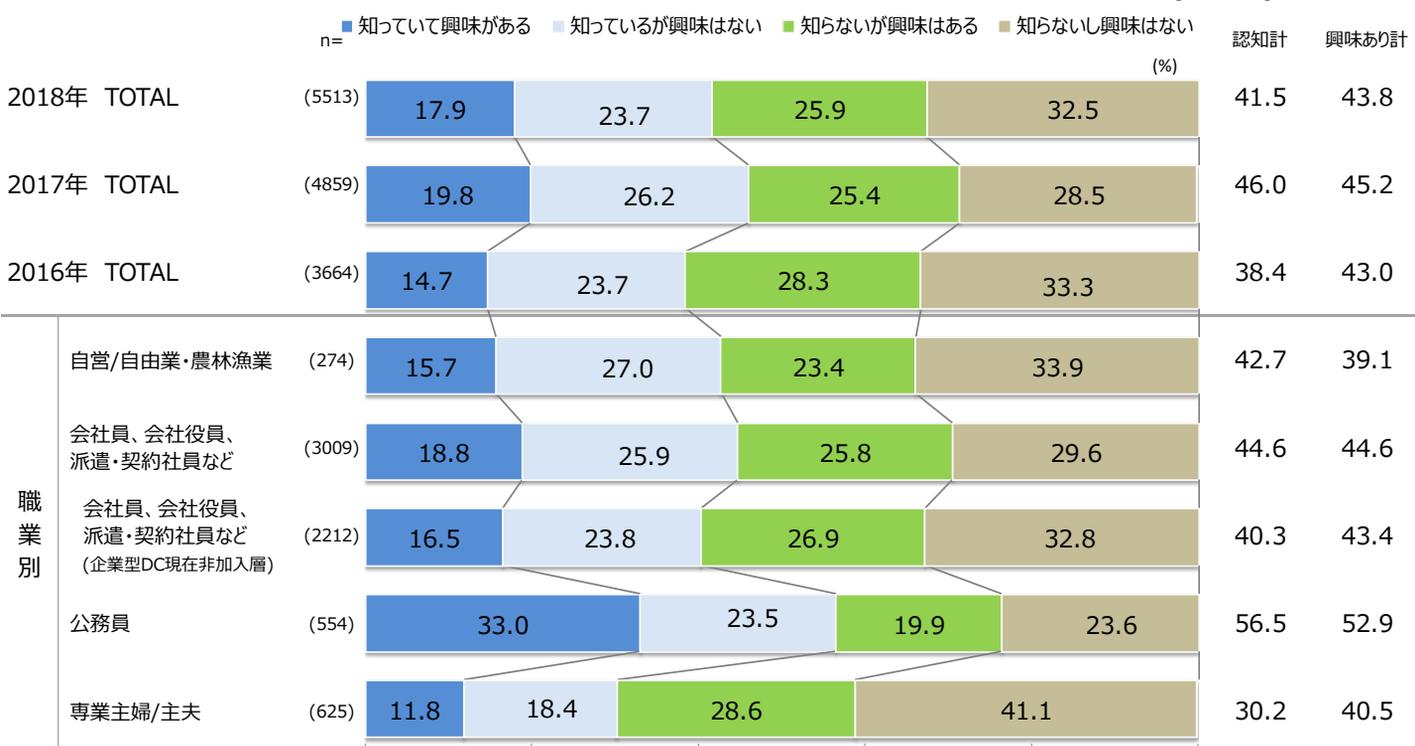
■ 全体では、利用意向(TOP2:利用したい計)が12.7%と前回と同程度となる。

■ 制度対象者の拡大については、認知率(認知計41.5%)、興味度(興味あり計43.8%)共に前回より微減。職業では特に「公務員」で、認知率／興味度共に高い。

<個人型確定拠出年金の今後の利用・継続利用意向>【ベース:60歳未満の者】(P.121)



<個人型確定拠出年金の対象者拡大認知・興味度>【ベース:60歳未満の、個人型確定拠出年金認知者】(P.123)



2. 調査結果の要約

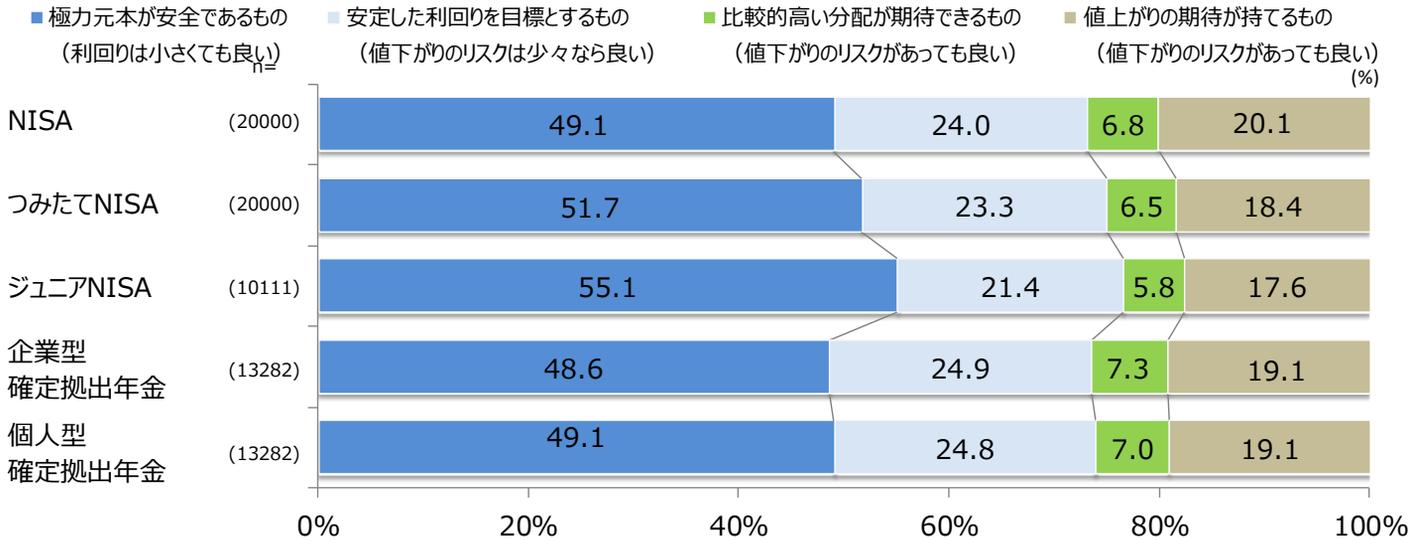
NISA、つみたてNISA、ジュニアNISA、企業型確定拠出年金、個人型確定拠出年金で投資する場合に、選択したい金融商品

- いずれの制度も、全体では「極力元本が安全であるもの(利回りは小さくてもよい)」への投資意向が強いが、制度利用意向者では「安定した利回りを目標とするもの(値下がりリスクは少々なら良い)」への投資意向が強くなる。特にNISAでは、他制度に比べてリスクの高い商品への投資意向が強くなる様子。

- ・ いずれの制度でも、高齢層ほど「極力元本安全」商品への投資意向が高まる。(P.126,128,130,132,133)
- ・ また高年収層ほど「安定利回りを目標」商品や、「比較的高い分配が期待できる」商品への投資意向が高まる。(P.126,128,130,132,133)

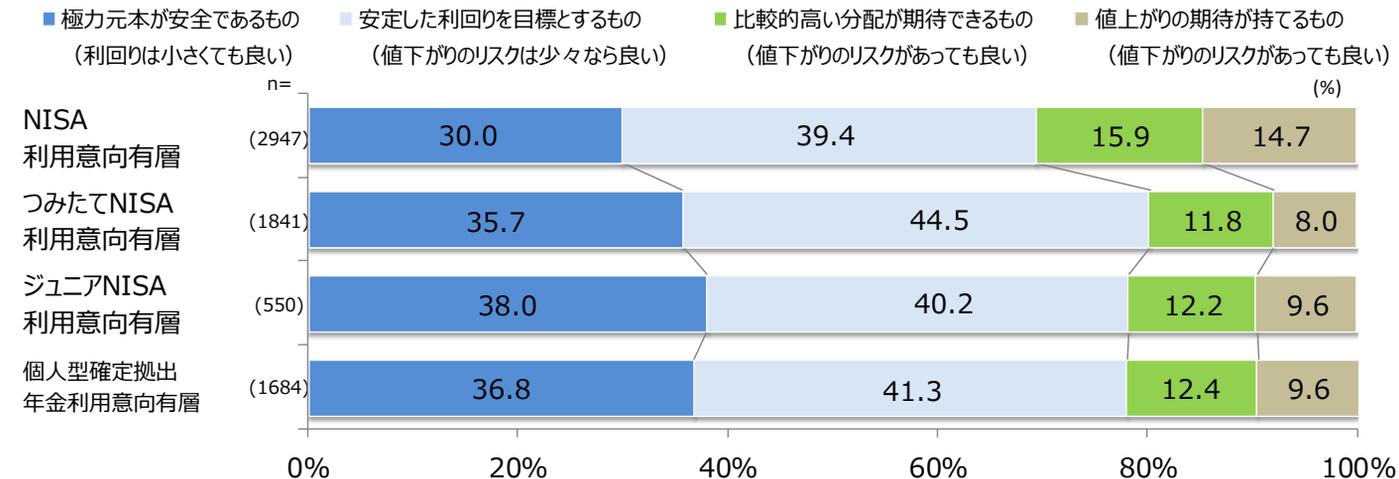
<各制度で投資する場合に、選択したい金融商品> (P.126,128,130,132,133)

* ジュニアNISAは20歳未満の親族有の者、企業型/個人型確定拠出年金は60歳未満の者ベース



<各制度で投資する場合に、選択したい金融商品>【ベース:各制度利用意向者】(P.127,129,131,134)

* ジュニアNISAは20歳未満の親族有の者、個人型確定拠出年金は60歳未満の者ベース



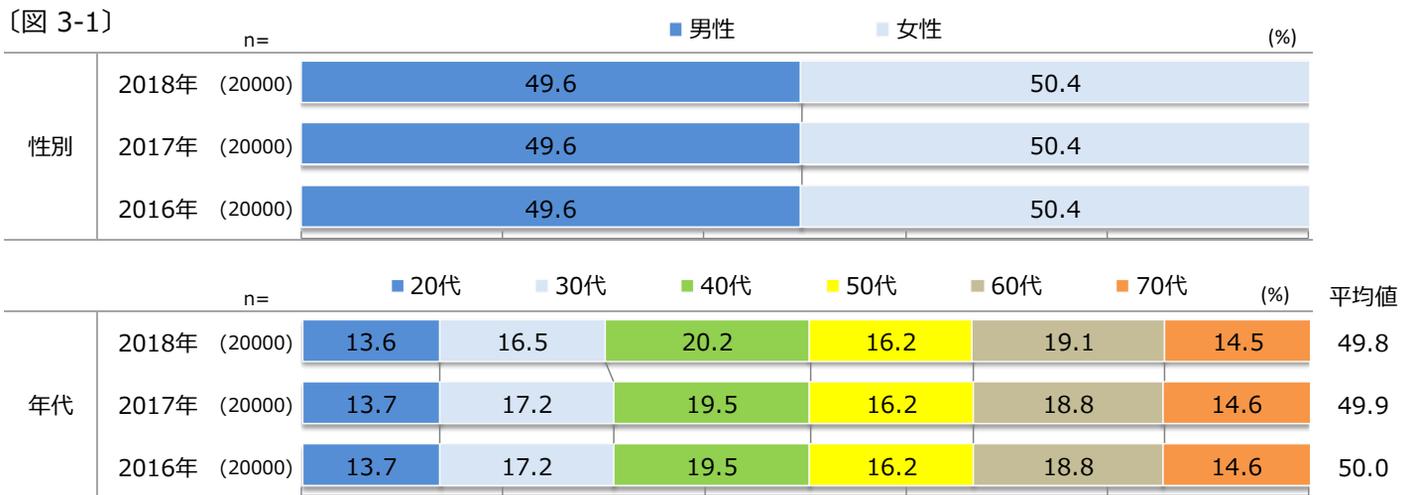
3. 回答者のプロフィール



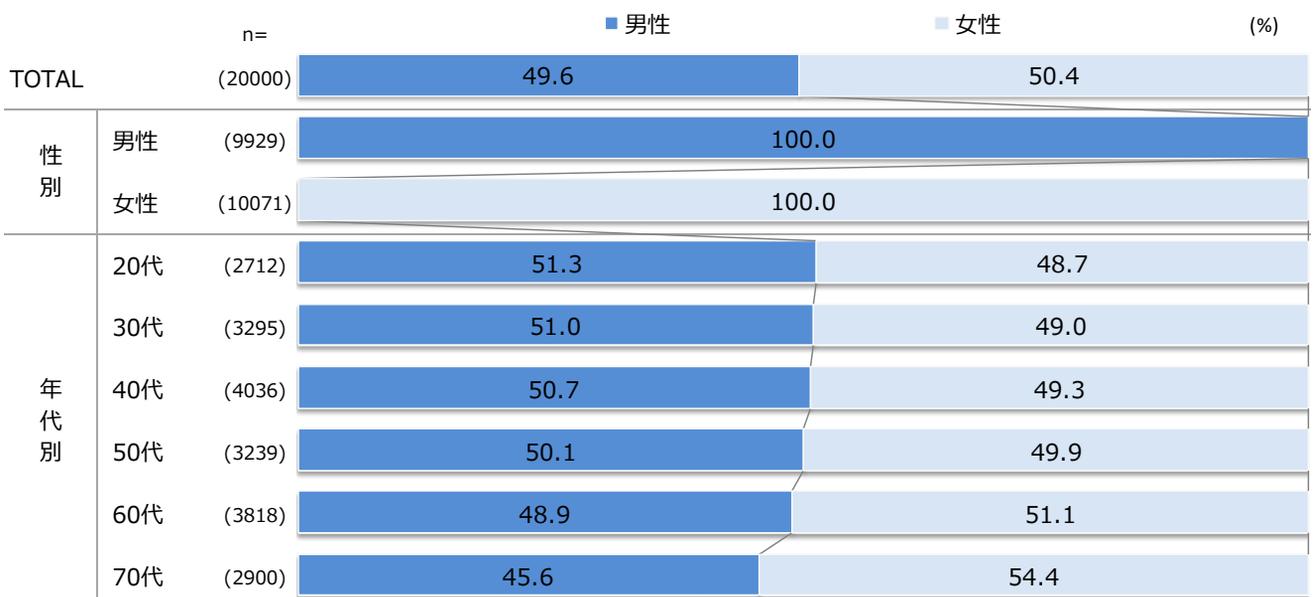
3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代〔Q1:単数回答・Q2:自由記述回答〕

- 回答者の性別は「男性」が49.6%、「女性」が50.4%。平均年齢は49.8歳となる。〔図3-1〕
- 投資信託保有状況別では、現在保有層および保有経験層、保有未経験層(金融資産保有経験有)で「男性」の方が多くなる。〔図3-3〕
- 年代が上がるにつれ投資信託の「現在保有層」「保有経験層」どちらも増加する。〔図3-5〕



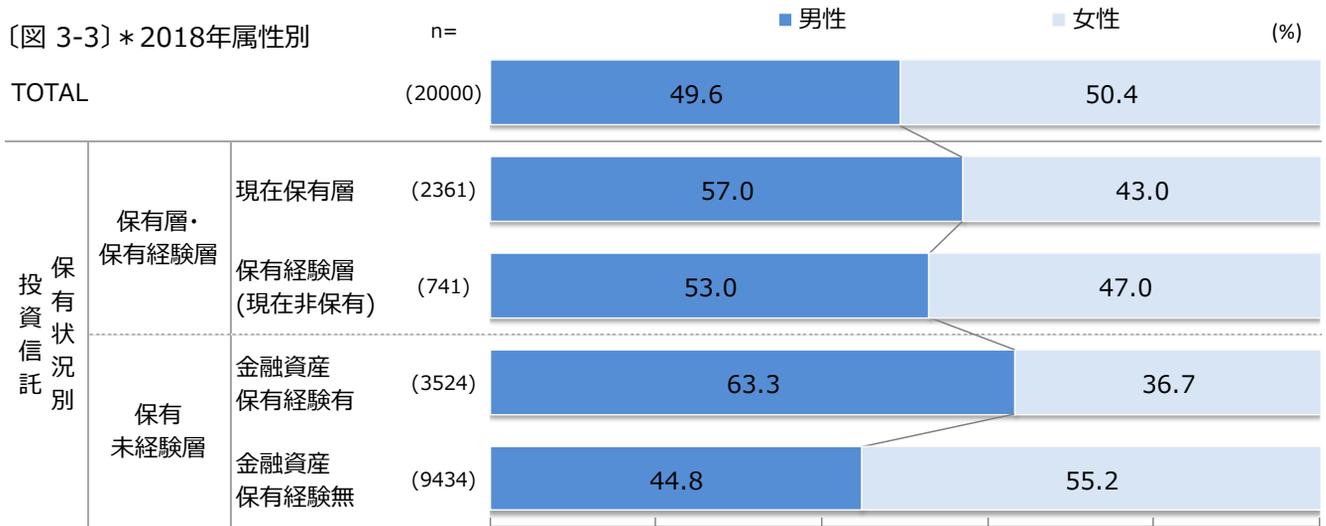
〔図 3-2〕 * 2018年属性別



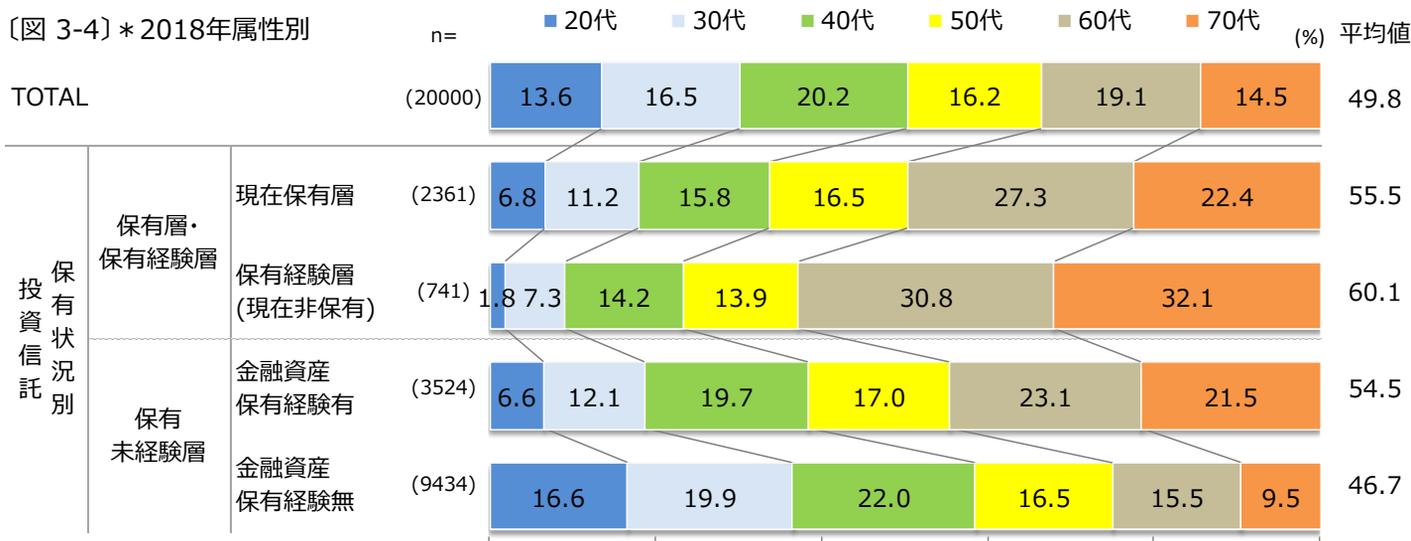
3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代〔Q1:単数回答・Q2:自由記述回答〕

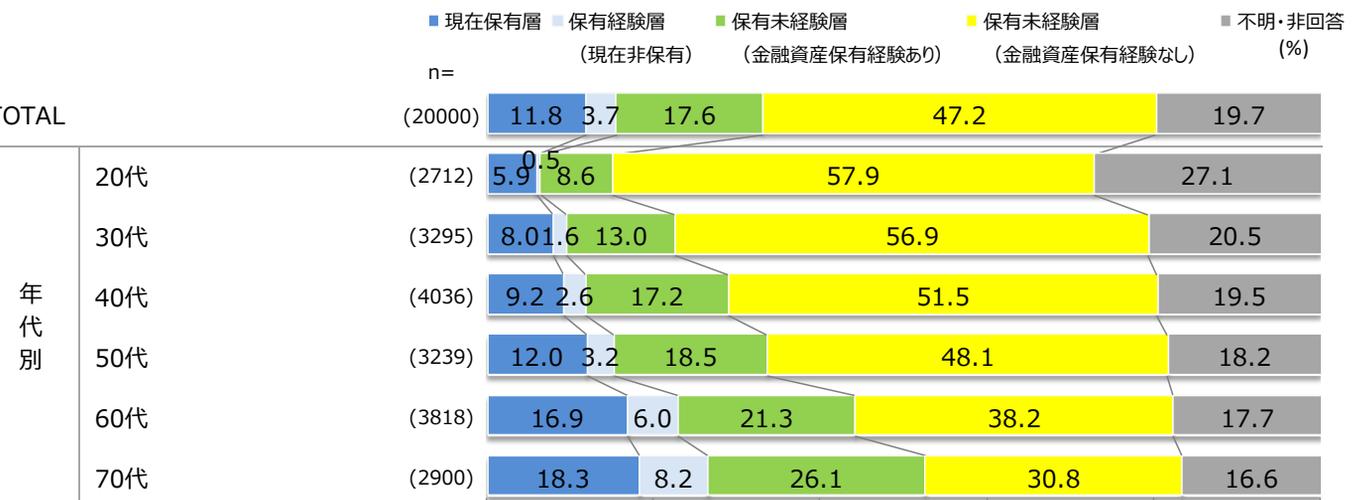
〔図 3-3〕* 2018年属性別



〔図 3-4〕* 2018年属性別



〔図 3-5〕* 2018年属性別

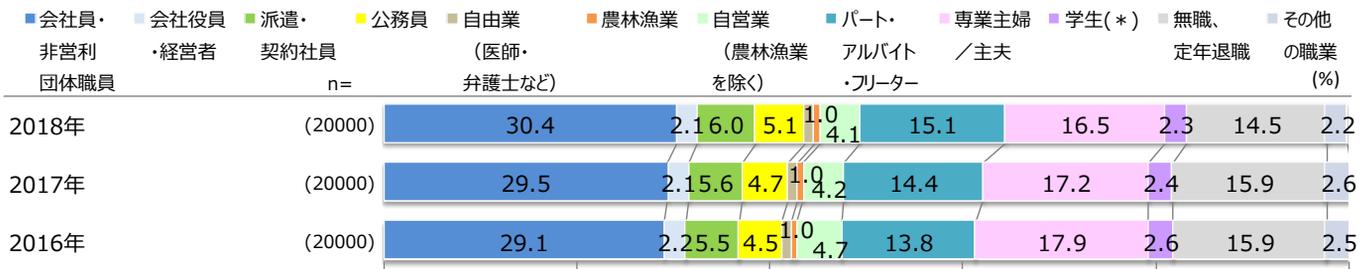


3. 回答者のプロフィール

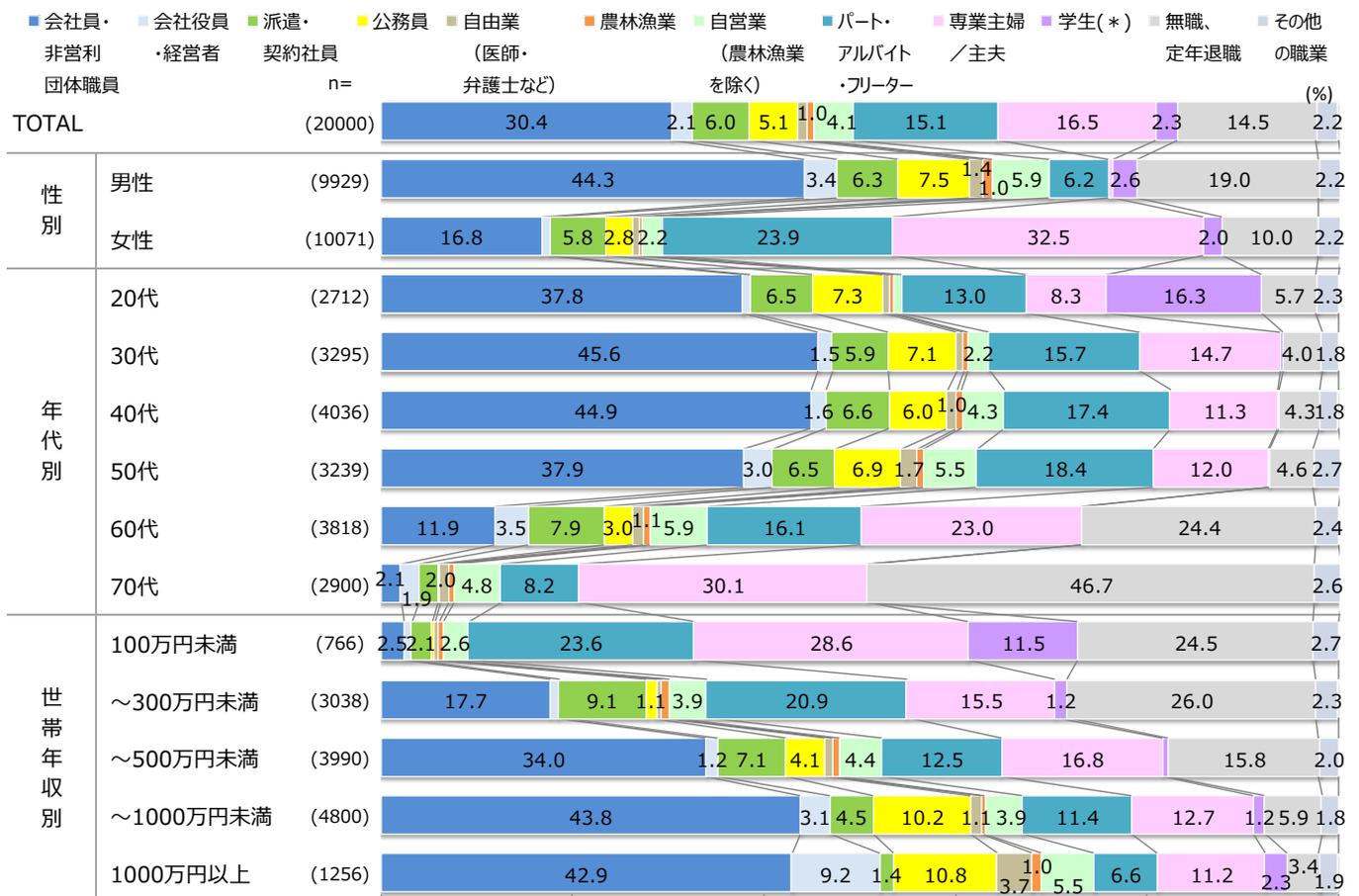
(2) 職業〔Q3:単数回答〕

- 回答者の職業は「会社員・非営利団体職員」(30.4%)が最も多く、世帯年収が上がるにつれ増加する傾向。また年収1,000万円以上の世帯では、「会社役員・経営者」(9.2%)がやや多い。〔図3-6〕〔図3-7〕
- 投資信託の現在保有層や保有経験層では、「専業主婦/主夫」「無職・定年退職」が保有未経験層に比べやや多い。〔図3-8〕

〔図 3-6〕



〔図 3-7〕* 2018年属性別



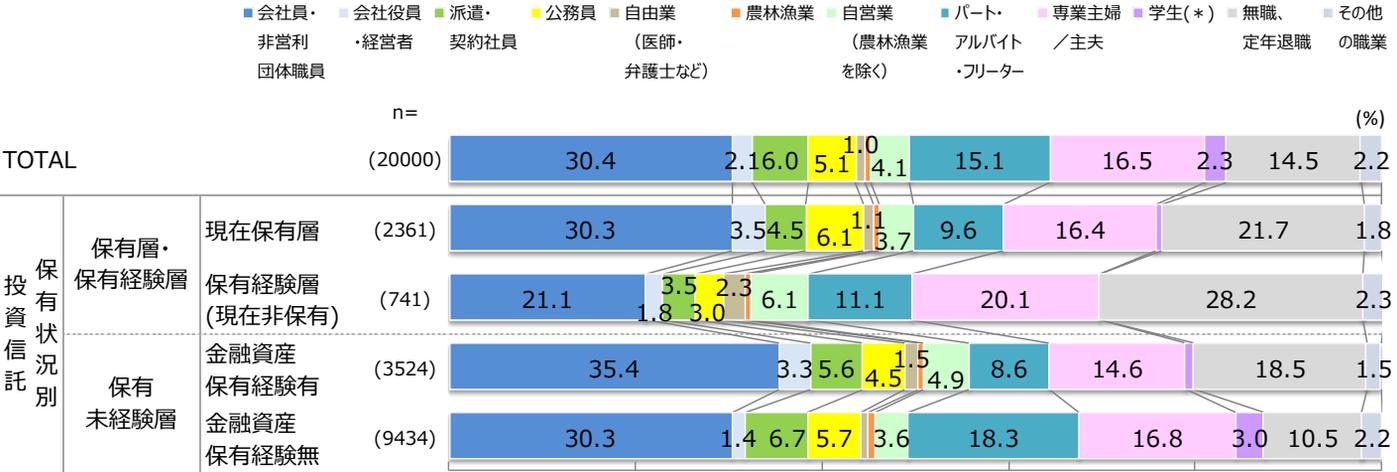
※1%未満の反応率は非表示

* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

3. 回答者のプロフィール

(2) 職業〔Q3:単数回答〕

〔図 3-8〕* 2018年属性別



※1%未満の反応率は非表示

* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

3. 回答者のプロフィール

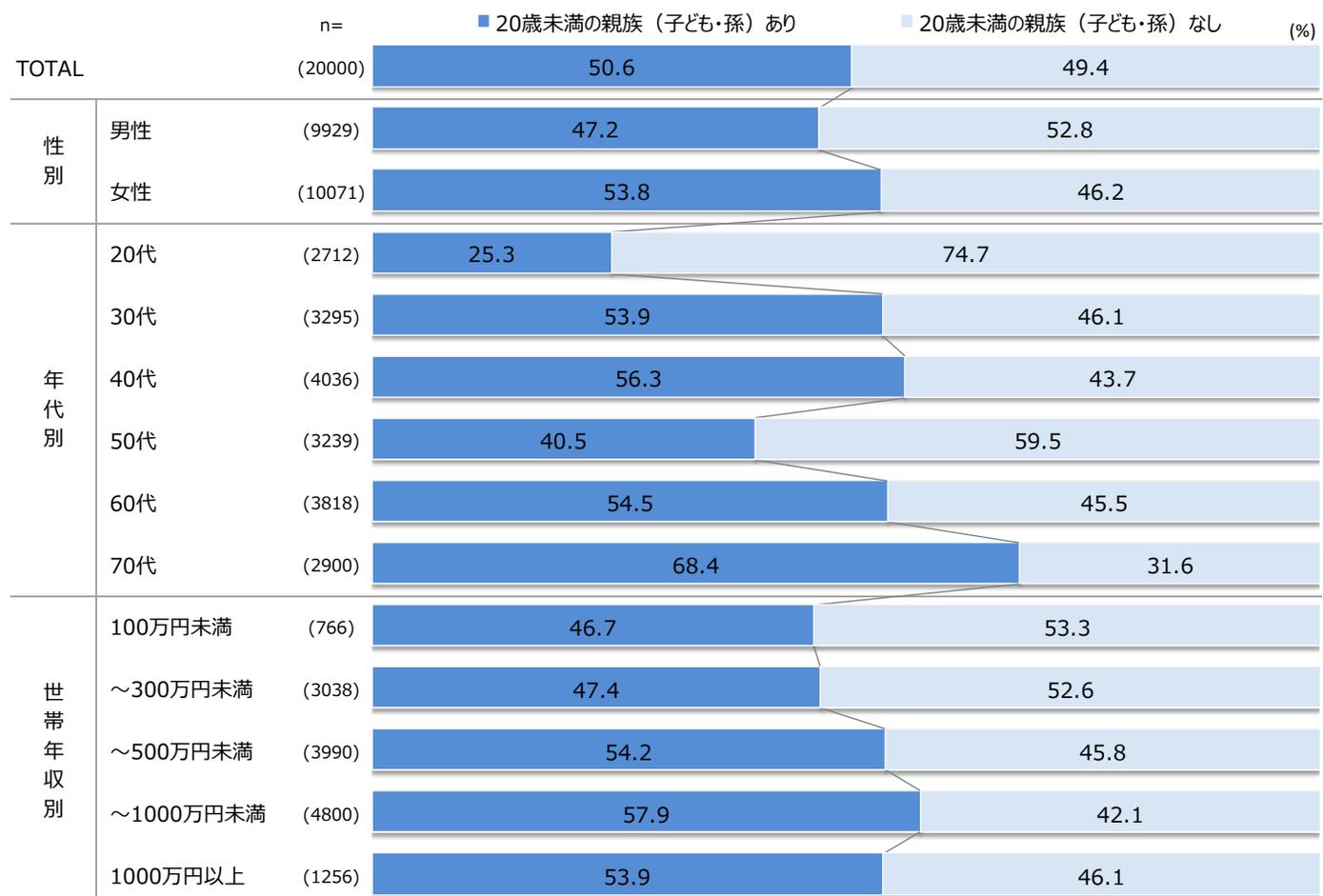
(3) 20歳未満の親族の有無〔Q4①②:単数回答〕

- 20歳未満の親族(子ども・孫)がいる割合は、50.6%と全体の半数を占める。50代でやや割合が低下するものの年代が上がるほど高くなる傾向。〔図3-9〕〔図3-10〕
- 20歳未満の親族(子ども)の数は30代・40代でピーク、20歳未満の親族(孫)の数は70代で最も高い。〔図3-11〕〔図3-12〕

〔図 3-9〕【20歳未満の親族（子ども・孫）の有無】 ※ Q4①②の結果を加工して作成



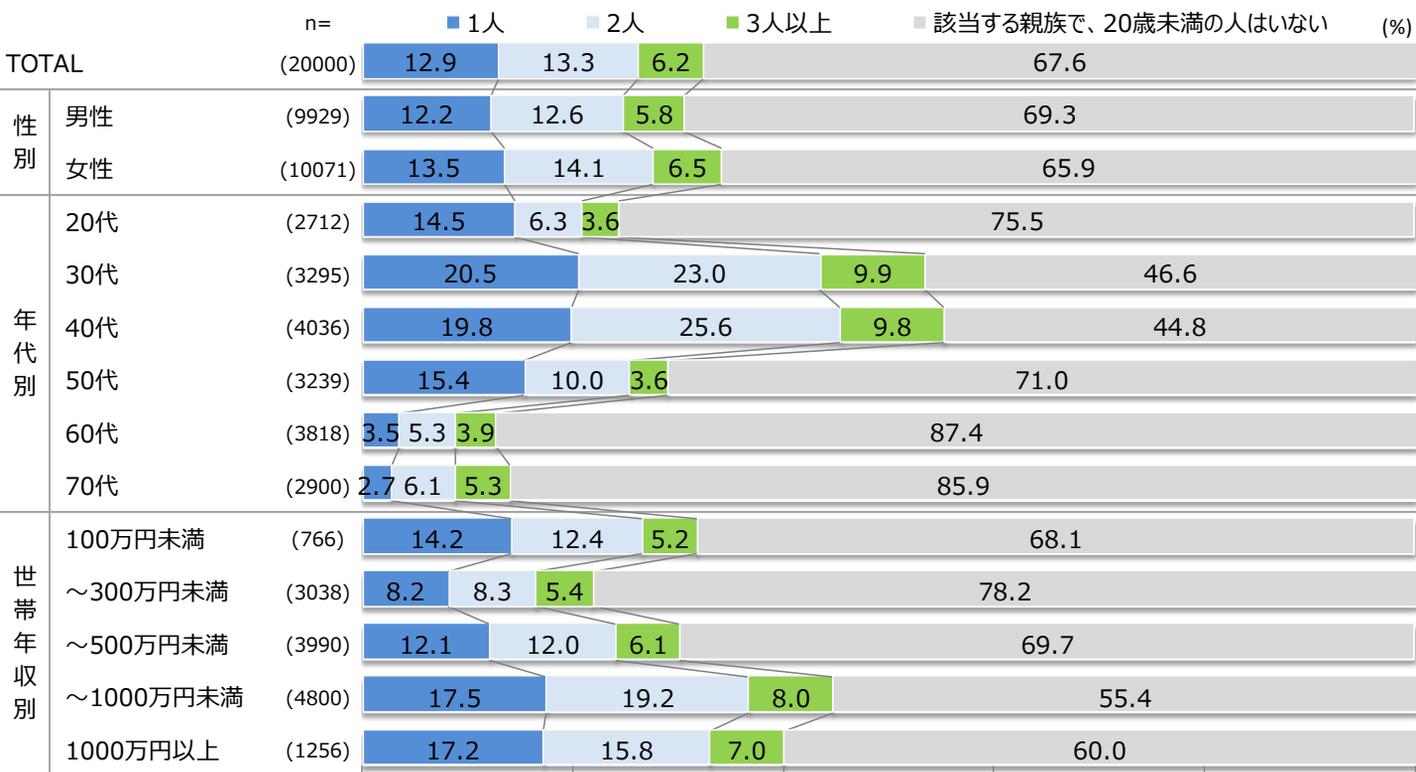
〔図 3-10〕【20歳未満の親族（子ども・孫）の有無】 ※ Q4①②の結果を加工して作成 * 2018年属性別



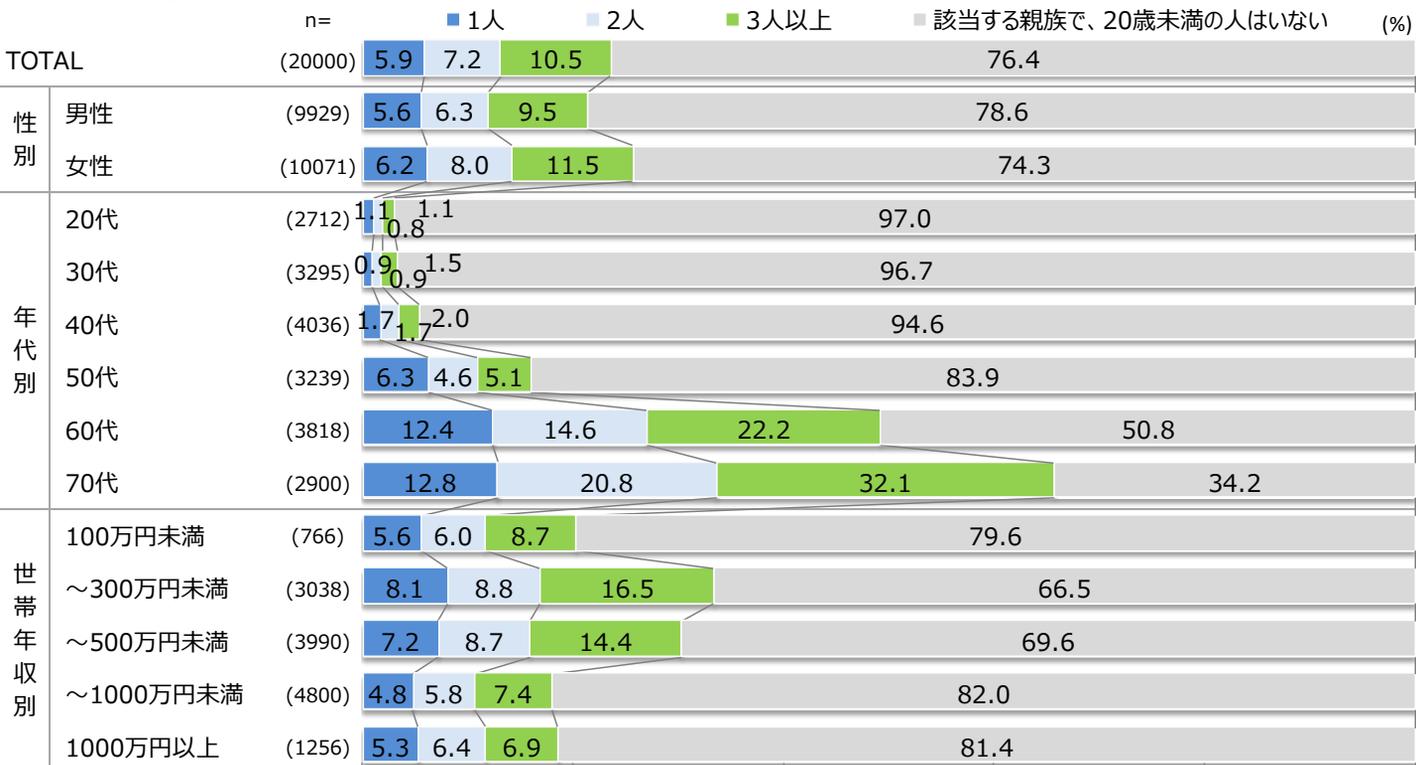
3. 回答者のプロフィール

(3) 20歳未満の親族の有無〔Q4①②:単数回答〕

〔図 3-11〕【Q4① 20歳未満の子どもの有無】 * 2018年属性別



〔図 3-12〕【Q4② 20歳未満の孫の有無】 * 2018年属性別



3. 回答者のプロフィール

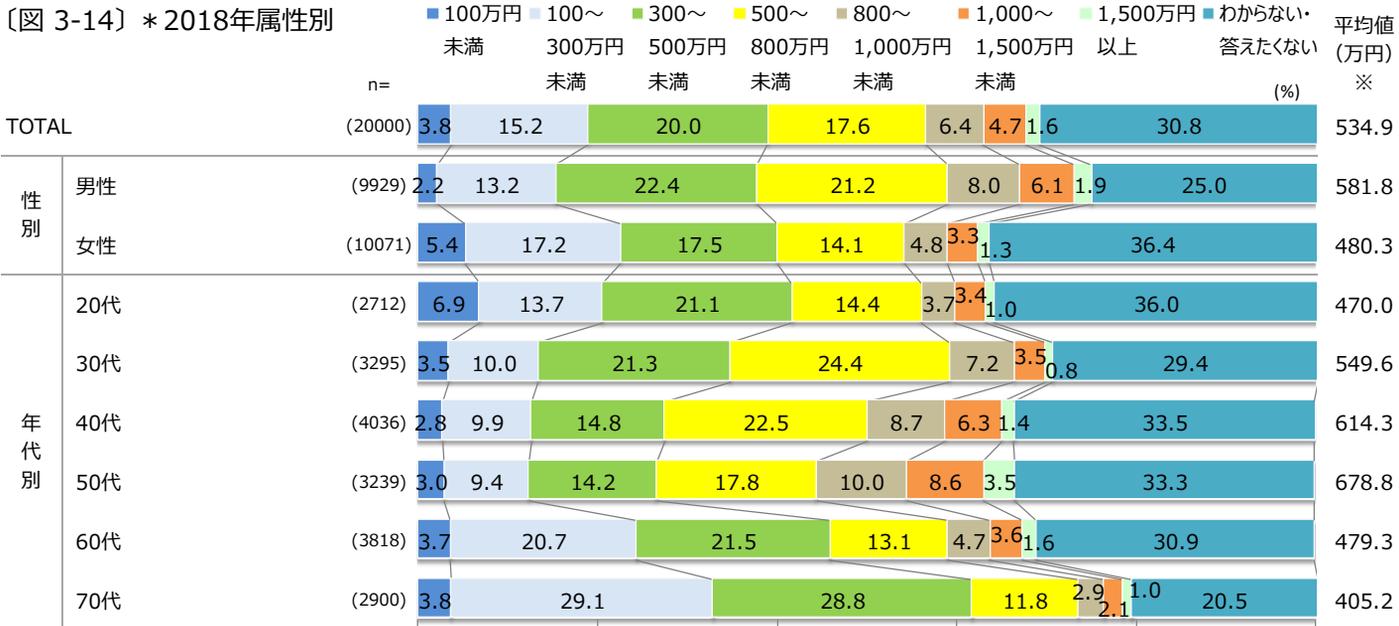
(4) 世帯年収〔Q5①:単数回答〕

- 世帯年収は「300～500万円未満」が20.0%とやや多く、また『100～800万円未満』合計で半数以上(52.8%)を占め、平均値は「534.9万円」と前回をやや上回る。〔図3-13〕
- 投資信託の保有状況別でみると、現在保有層は平均値が「約627万円」と他層に比べ高い。〔図3-15〕

〔図 3-13〕



〔図 3-14〕 * 2018年属性別



〔図 3-15〕 * 2018年属性別



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り
 100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
 800～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

(4) 個人年収〔Q5②:単数回答〕

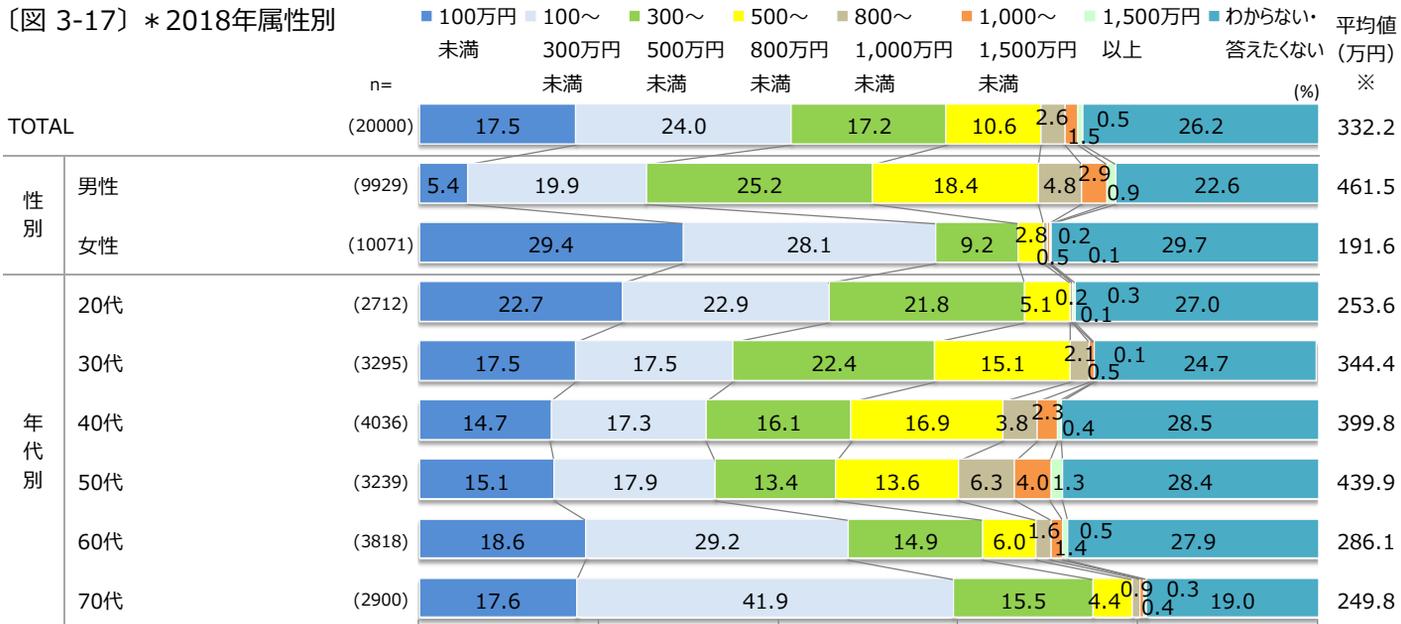
- 個人年収は「100～300万円未満」が24.0%とやや多く、また『500万円未満』合計で58.7%を占め、平均値は「332.2万円」と前回はやや上回る。〔図3-16〕

- 投資信託の保有状況別でみると、世帯年収と同様に、現在保有層で平均値が「約423万円」と他層に比べ高い。〔図3-18〕

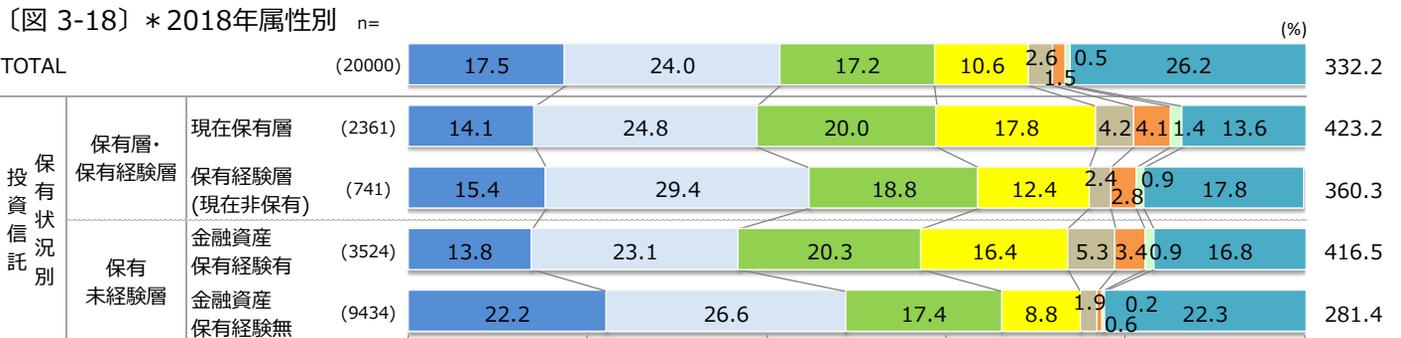
〔図 3-16〕



〔図 3-17〕 * 2018年属性別



〔図 3-18〕 * 2018年属性別



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り
 100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
 800～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

(5) 保有経験のある金融資産〔Q6①:重複回答〕

- 「投資信託」の保有経験率は15.3%と「国内株式」(23.0%)に次いで多く、「J-REIT」は2.3%、「ETF」は1.2%に留まる。また「株式」の保有率は、微減傾向。〔図3-19〕
- 年代が上がるにつれ「投資信託」「J-REIT」の保有経験率は増加するが、「ETF」は年代間で大きな差はみられない。また世帯年収別では、高年収層ほど「投資信託」「J-REIT」いずれの保有経験率も高くなる。〔図3-20〕

〔図 3-19〕

	n=	外貨 預金	国内 株式	外国 株式	投資 信託 (除く ETF、 REIT)	ETF	不動産 投信 (J- REIT)	個人 向け 国債	国内 債券 (個人向 け国債除 く)	外国 債券	先物、 オプション 、コモディ ティ商品 (金など)	FX	その他	この中 で保有 したもの はない	わから ない・ 答えた くない	(%)
2018年	(20000)	9.1	23.0	3.2	15.3	1.2	2.3	6.5	2.9	2.3	1.1	2.4	0.4	48.3	17.3	
2017年	(20000)	9.7	24.8	3.5	17.0	1.4	3.1	7.7	3.5	3.1	1.3	2.7	0.4	44.7	18.9	
2016年	(20000)	9.7	25.7	3.2	16.6	1.1	2.9	7.8	3.5	2.5	1.2	2.8	0.2	45.4	17.3	

〔図 3-20〕 * 2018年属性別

	n=	外貨 預金	国内 株式	外国 株式	投資 信託 (除く ETF、 REIT)	ETF	不動産 投信 (J- REIT)	個人 向け 国債	国内 債券 (個人向 け国債除 く)	外国 債券	先物、 オプション 、コモディ ティ商品 (金など)	FX	その他	この中 で保有 したもの はない	わから ない・ 答えた くない	(%)
TOTAL	(20000)	9.1	23.0	3.2	15.3	1.2	2.3	6.5	2.9	2.3	1.1	2.4	0.4	48.3	17.3	
性別																
男性	(9929)	10.0	30.4	4.0	17.0	1.9	2.9	5.7	3.5	2.5	1.7	4.1	0.6	43.5	15.5	
女性	(10071)	8.2	15.7	2.4	13.7	0.6	1.7	7.3	2.4	2.1	0.5	0.8	0.3	53.0	19.2	
年代別																
20代	(2712)	4.2	8.3	1.9	5.7	1.0	0.8	1.1	0.8	0.8	0.7	2.1	0.6	58.6	26.2	
30代	(3295)	6.6	14.4	2.4	9.0	1.7	1.7	2.1	1.6	1.1	0.7	3.3	0.3	57.5	19.4	
40代	(4036)	9.0	17.5	2.9	11.5	1.0	1.7	4.5	2.1	1.6	0.9	3.6	0.3	52.7	17.8	
50代	(3239)	9.7	24.0	2.9	15.1	1.2	2.1	6.4	2.7	2.1	1.6	2.8	0.4	49.4	15.9	
60代	(3818)	11.4	31.4	4.1	22.7	1.3	3.3	10.0	4.7	3.6	1.2	1.4	0.3	39.6	14.5	
70代	(2900)	12.7	42.4	5.1	27.4	1.1	4.2	14.9	5.5	4.8	1.2	1.0	0.7	32.4	11.3	
世帯 年収別																
100万円未満	(766)	5.2	12.7	1.6	8.2	0.7	1.0	4.0	1.2	0.9	0.7	1.4	1.0	62.5	15.7	
～300万円未満	(3038)	6.9	19.4	2.1	14.6	0.6	1.4	7.3	2.4	2.0	0.7	1.6	0.5	54.3	13.3	
～500万円未満	(3990)	9.7	25.8	3.3	18.2	1.4	2.7	7.4	3.2	2.8	1.3	2.9	0.4	50.5	11.0	
～1000万円未満	(4800)	11.5	30.3	4.2	19.6	1.8	3.1	7.4	4.2	3.1	1.5	3.5	0.6	47.0	8.9	
1000万円以上	(1256)	21.5	44.7	9.0	26.9	3.7	6.1	10.5	6.8	5.2	3.0	5.3	0.9	33.7	7.1	

3. 回答者のプロフィール

(6) 現在保有している金融資産〔Q6②:重複回答〕

- 「投資信託」の現在保有率は 11.2%と「国内株式」(18.1%)に次いで多くなる。「J-REIT」は1.5%、「ETF」は0.8%に留まる。「株式」の保有率は微減傾向。〔図3-21〕
- 保有経験率と同様に、年代が上がるにつれ「投資信託」「J-REIT」の現在保有率は増加するが、「ETF」は年代間で大きな差はみられない。また世帯年収別では、高年収層ほど「投資信託」「J-REIT」いずれの現在保有率も高くなる。〔図3-22〕

〔図 3-21〕

	n=	外貨 預金	国内 株式	外国 株式	投資 信託 (除く ETF、 REIT)	ETF	不動産 投信 (J- REIT)	個人 向け 国債	国内 債券 (個人向 け国債除 く)	外国 債券	先物、 オプション 、コモディ ティ商品 (金など)	FX	その他	この中 で保有 したもの はない	わか らない・ 答え たくない	(%)
2018年	(20000)	5.2	18.1	1.9	11.2	0.8	1.5	2.8	1.7	1.6	0.4	1.3	0.3	55.1	17.4	
2017年	(20000)	5.3	19.5	2.0	12.6	0.8	2.0	3.1	1.8	1.9	0.4	1.5	0.3	52.3	18.4	
2016年	(20000)	5.0	20.4	1.7	12.2	0.6	2.1	3.5	1.9	1.5	0.5	1.5	0.1	53.1	16.7	

〔図 3-22〕 * 2018年属性別

	n=	外貨 預金	国内 株式	外国 株式	投資 信託 (除く ETF、 REIT)	ETF	不動産 投信 (J- REIT)	個人 向け 国債	国内 債券 (個人向 け国債除 く)	外国 債券	先物、 オプション 、コモディ ティ商品 (金など)	FX	その他	この中 で保有 したもの はない	わか らない・ 答え たくない	(%)
TOTAL	(20000)	5.2	18.1	1.9	11.2	0.8	1.5	2.8	1.7	1.6	0.4	1.3	0.3	55.1	17.4	
性別																
男性	(9929)	5.9	24.3	2.5	12.8	1.2	2.0	2.7	2.0	1.8	0.6	2.2	0.5	50.4	15.6	
女性	(10071)	4.4	12.0	1.3	9.7	0.3	1.1	2.9	1.4	1.3	0.2	0.4	0.2	59.6	19.1	
年代別																
20代	(2712)	3.3	7.0	1.6	5.2	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8	0.7	1.5	0.5	63.6	22.8	
30代	(3295)	4.2	12.3	1.7	7.5	1.1	1.2	1.3	1.1	0.9	0.4	1.5	0.3	62.4	17.8	
40代	(4036)	5.6	14.5	1.8	8.8	0.6	1.2	2.2	1.4	1.2	0.4	2.1	0.2	58.6	17.1	
50代	(3239)	5.6	19.0	1.7	11.5	1.0	1.3	2.6	1.4	1.4	0.5	1.5	0.4	55.5	16.4	
60代	(3818)	6.2	23.5	2.2	16.2	0.6	2.2	4.4	2.8	2.3	0.4	0.6	0.2	48.2	15.9	
70代	(2900)	5.8	31.9	2.5	17.6	0.4	2.5	5.3	2.6	2.7	0.2	0.4	0.4	42.4	15.0	
世帯 年収別																
100万円未満	(766)	3.0	9.5	0.7	6.1	0.5	0.8	2.2	0.7	0.5	0.3	0.7	0.8	69.5	13.8	
～300万円未満	(3038)	3.6	13.9	1.1	10.3	0.2	0.9	3.0	1.2	1.4	0.3	0.9	0.3	62.8	13.6	
～500万円未満	(3990)	5.4	20.0	1.9	12.8	0.9	1.8	2.8	1.7	1.9	0.4	1.4	0.3	57.8	11.4	
～1000万円未満	(4800)	6.7	25.0	2.8	15.6	1.2	2.3	3.4	2.6	2.1	0.6	2.0	0.5	53.6	9.1	
1000万円以上	(1256)	13.7	38.0	5.8	21.0	2.3	4.0	5.3	4.2	3.8	1.2	3.0	0.6	41.1	7.1	

3. 回答者のプロフィール

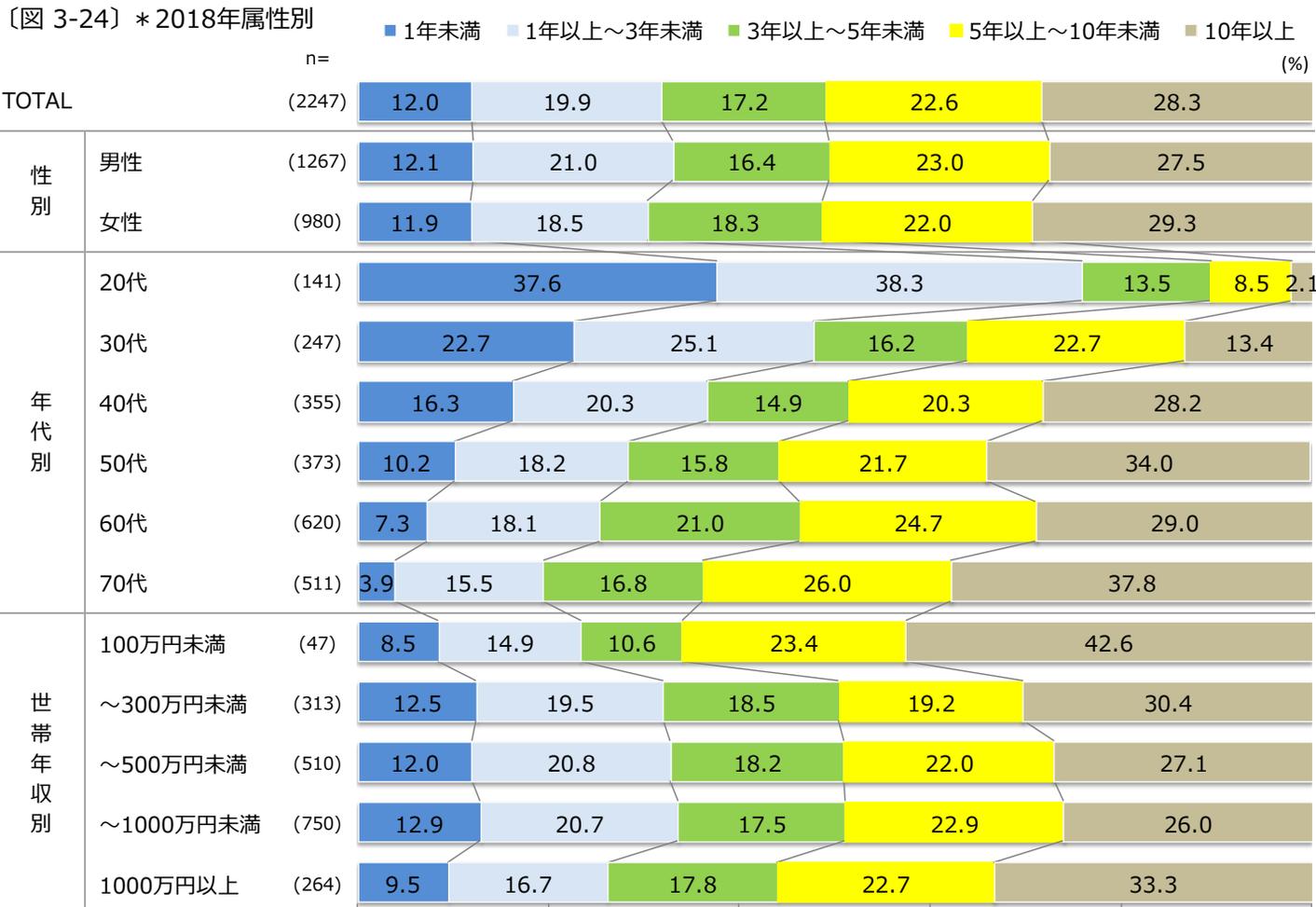
(7) 投資信託の保有期間（投資信託現在保有者）〔Q7①:単数回答〕

- 投資信託（ETF、J-REITを除く）の保有期間は、前回から僅かに減少しているものの『5年以上計』（50.9%）が半数を占める。〔図3-23〕

- 年代が上がるほど保有期間の長い層が増加し、長期保有者が多くなる傾向。〔図3-24〕



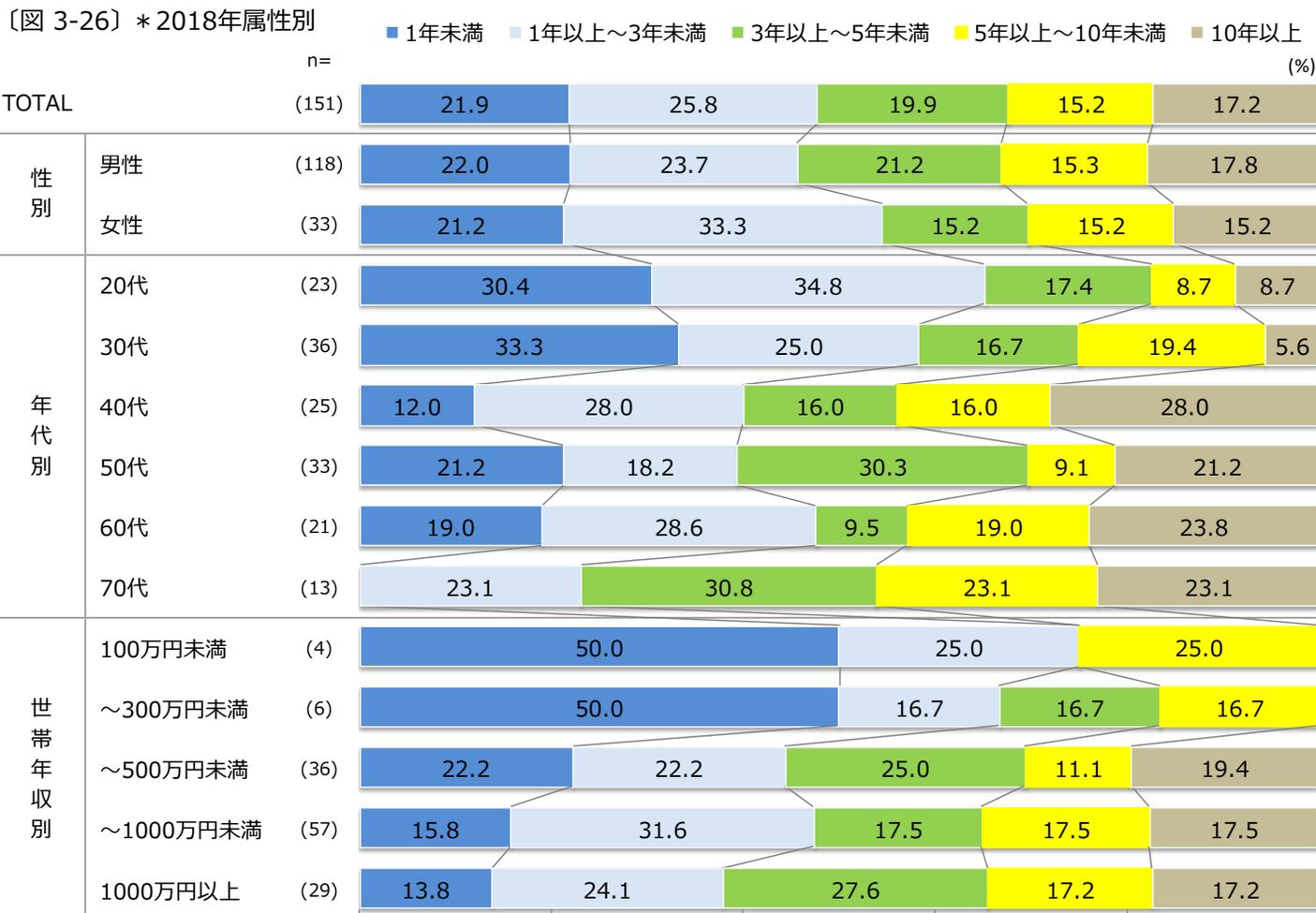
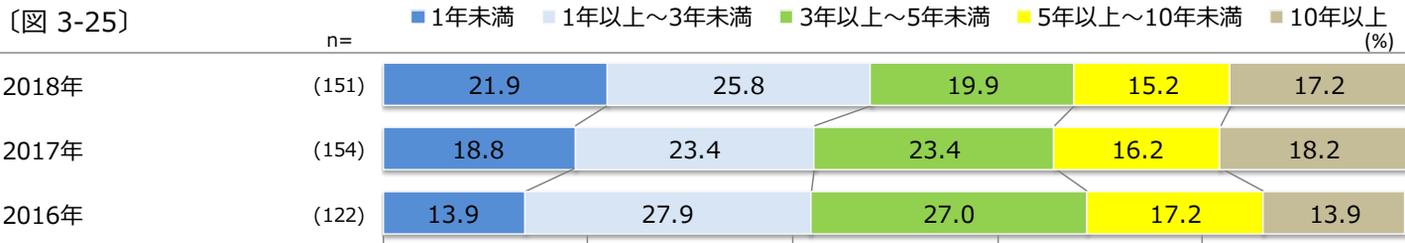
〔5年以上計〕 2018年 50.9% / 2017年 54.1% / 2016年 55.0%



3. 回答者のプロフィール

(7) ETFの保有期間（ETF現在保有者）〔Q7②:単数回答〕

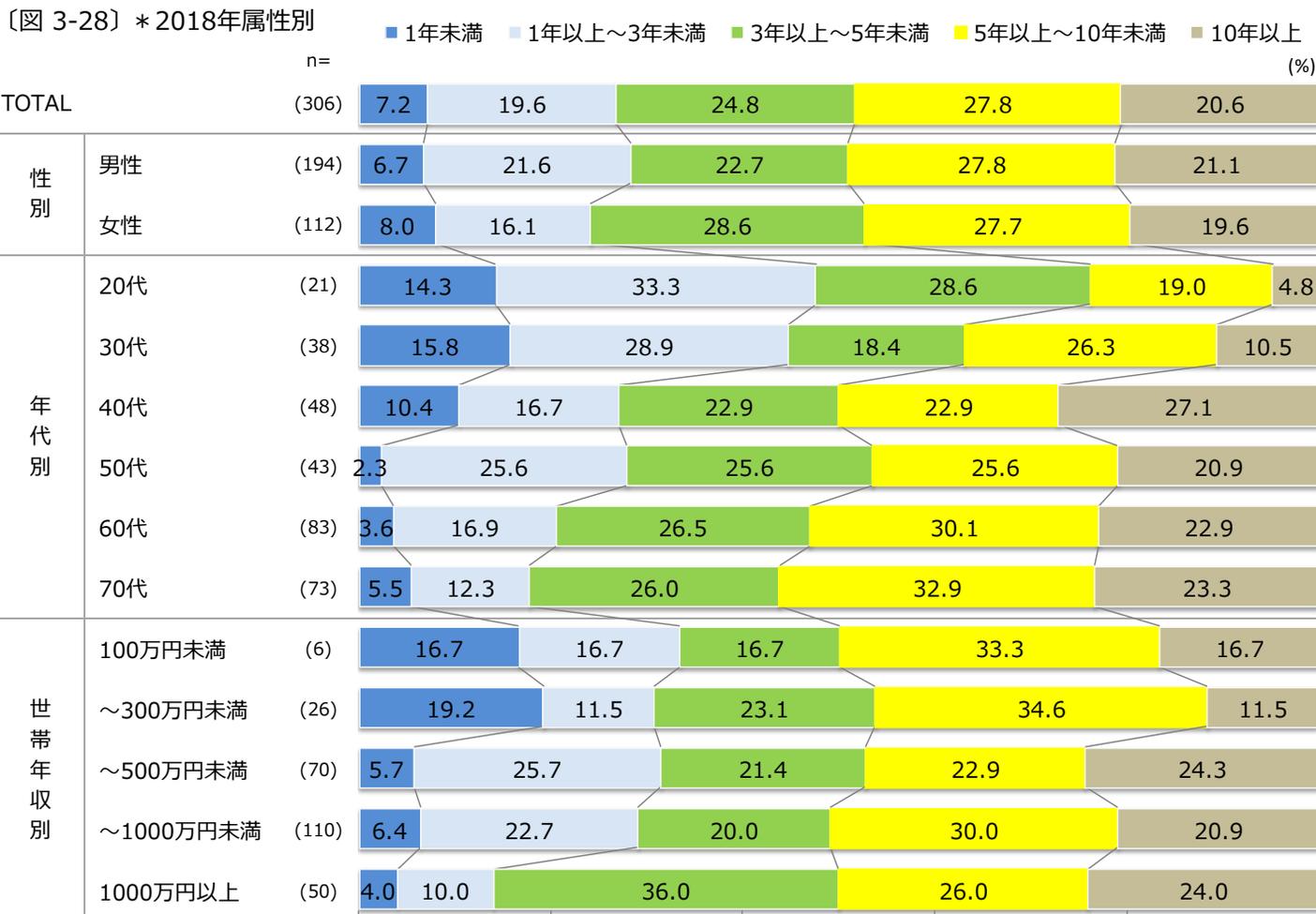
- ETFの保有期間は「1年未満」(21.9%)が2016年から継続して増加。〔図3-25〕



3. 回答者のプロフィール

(7) J-REITの保有期間 (J-REIT現在保有者) [Q7③:単数回答]

- J-REITの保有期間は、「5年以上」の層が2016年から継続して増加傾向。〔図3-27〕
- 年代や年収が上がるほど保有期間の長い層が増加し、長期保有者が多くなる傾向。〔図3-28〕



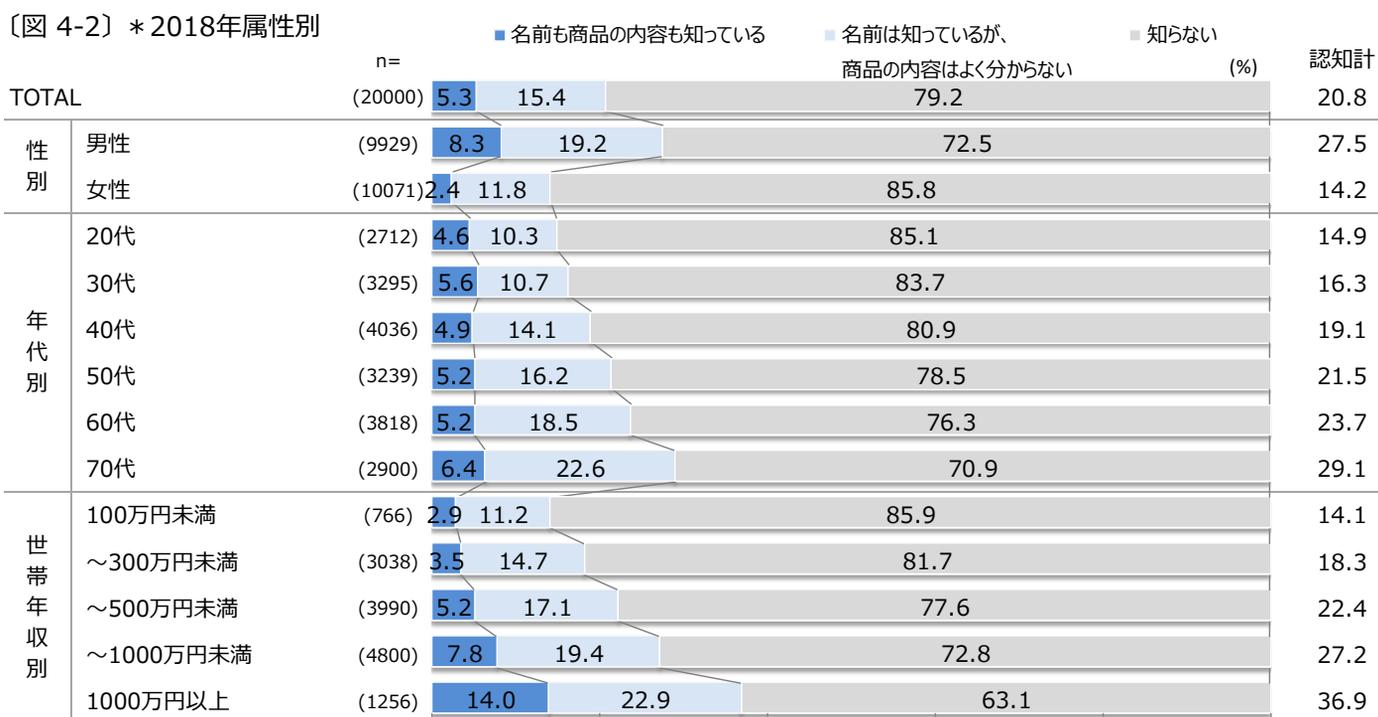
4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(1) ETFの認知状況〔Q8①:単数回答〕

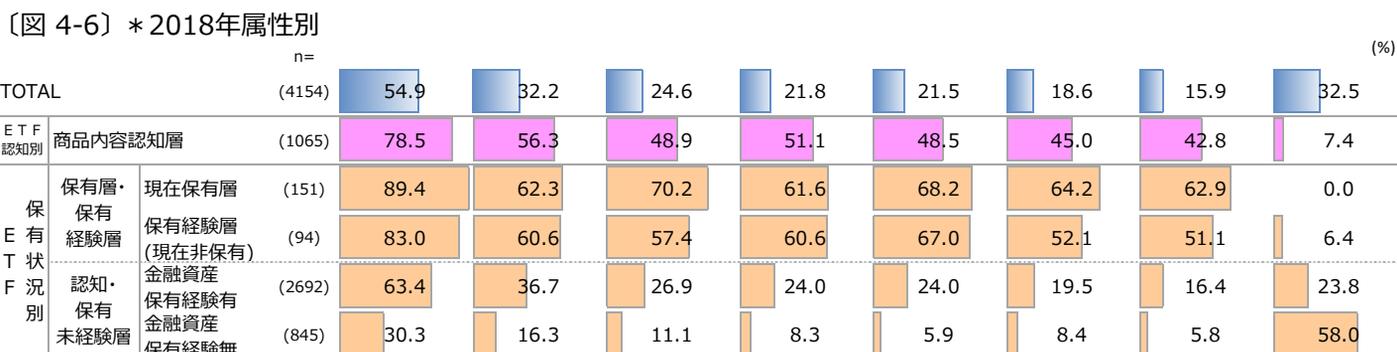
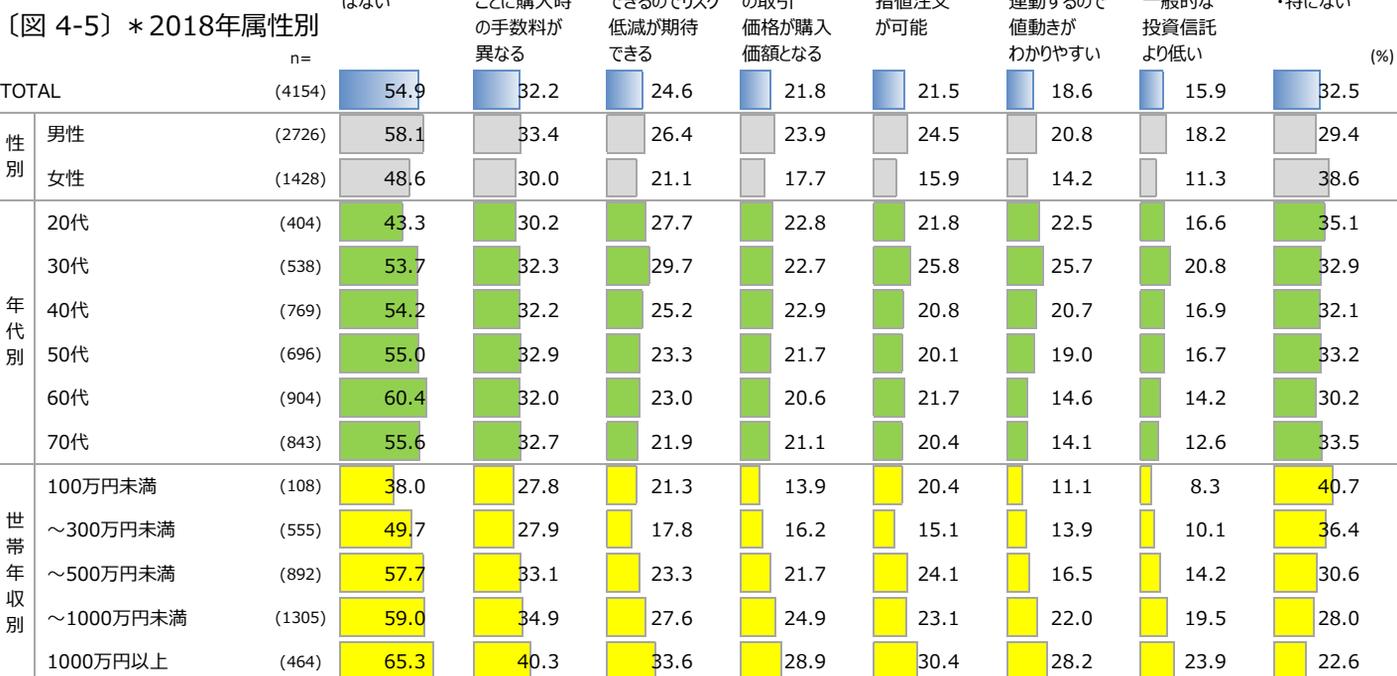
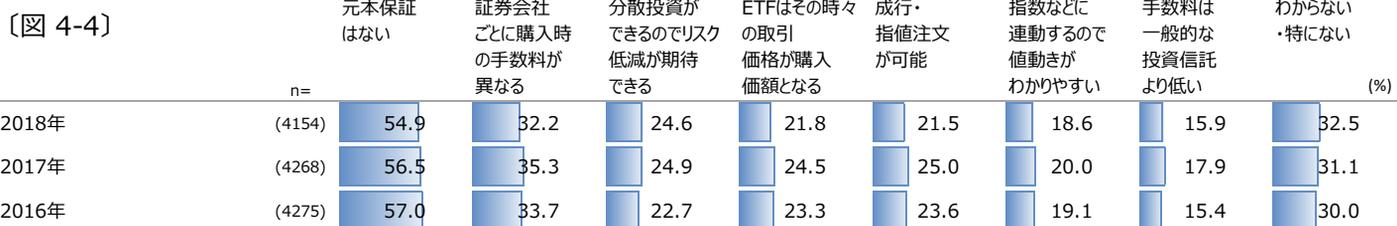
- ETFの認知率(認知計：20.8%)、商品内容認知率(5.3%)はどちらも前回と同水準。〔図4-1〕
- 年代や世帯年収が上がるにつれ認知率は高まる傾向。商品内容認知率では年代間での差はみられない〔図4-2〕
- 投資信託の現在保有層でも認知率は57.5%に留まる。〔図4-3〕



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(2) ETFの特徴認知(ETF認知者)(Q9①:複数回答)

- ETFの特徴の認知は、前回同様に「元本保証はない」(54.9%)が突出。前回から「証券会社ごとに購入時の手数料が異なる」「成行・指値注文が可能」が僅かに減少しているが全体的に大きな変動はみられない。〔図4-4〕
- いずれの項目も年収が上がるほど、認知率が高くなる。〔図4-5〕
- 現在保有層では「ETFはその時々取引価格が購入価額となる」の認知率が最も低い。〔図4-6〕



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(3) ETFの魅力点〔Q9②:重複回答〕

- ETFの魅力点は前回から大きな変動はみられず、「分散投資ができるのでリスク低減が期待できる」(11.5%)が最も高くなる〔図4-7〕
- 高年収層ほど、どの項目も高くなる傾向。〔図4-8〕
- ETF現在保有層では「分散投資ができるのでリスク低減が期待できる」が62.9%と半数以上が魅力を感じている。〔図4-9〕

〔図 4-7〕

	n=	分散投資ができるので リスク低減が期待できる	手数料は一般的な 投資信託より低い	指数などに連動するので 値動きがわかりやすい	成行・指値注文が可能	ETFはその時々 の取引価格が購入 価額となる	元本保証はない	証券会社ごとに購入時の 手数料が異なる	わからない・特にな い	(%)
2018年	(20000)	11.5	6.7	6.1	4.4	2.9	2.5	2.4	80.0	
2017年	(20000)	12.1	7.6	6.3	4.9	3.6	2.5	2.9	78.3	
2016年	(20000)	10.8	6.7	5.8	4.5	3.1	2.5	2.5	77.0	

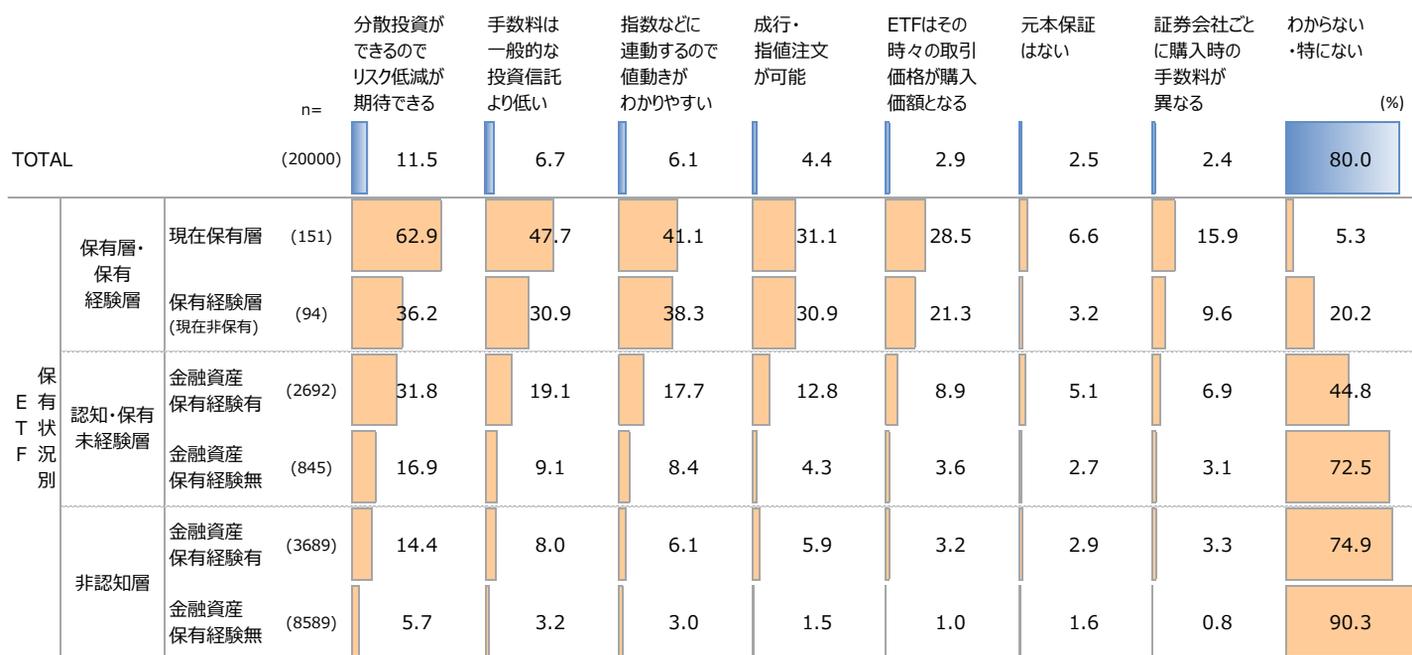
〔図 4-8〕 * 2018年属性別

	n=	分散投資ができるので リスク低減が期待できる	手数料は一般的な 投資信託より低い	指数などに連動するので 値動きがわかりやすい	成行・指値注文が可能	ETFはその時々 の取引価格が購入 価額となる	元本保証はない	証券会社ごとに購入時の 手数料が異なる	わからない・特にな い	(%)
TOTAL	(20000)	11.5	6.7	6.1	4.4	2.9	2.5	2.4	80.0	
性別										
男性	(9929)	12.6	7.2	7.3	5.7	3.7	3.2	3.0	76.6	
女性	(10071)	10.3	6.1	4.9	3.1	2.1	1.8	1.8	83.3	
年代別										
20代	(2712)	11.9	6.9	7.2	4.4	2.8	3.0	2.6	79.0	
30代	(3295)	13.4	7.8	6.5	4.5	2.3	2.2	1.7	79.0	
40代	(4036)	11.8	7.2	6.6	3.7	2.8	2.5	2.0	79.6	
50代	(3239)	11.5	6.7	6.2	3.9	2.8	2.0	2.6	81.0	
60代	(3818)	9.6	6.3	5.3	4.3	3.3	2.4	2.3	81.5	
70代	(2900)	10.9	4.9	4.8	5.8	3.3	2.9	3.6	79.2	
世帯年収別										
100万円未満	(766)	8.7	4.8	5.0	3.1	2.3	3.0	2.7	84.5	
～300万円未満	(3038)	9.2	5.1	4.7	3.7	2.3	2.8	2.1	83.0	
～500万円未満	(3990)	12.1	7.3	6.2	5.5	3.4	3.0	3.1	77.3	
～1000万円未満	(4800)	16.4	9.8	8.8	5.5	3.8	2.8	3.1	72.4	
1000万円以上	(1256)	20.9	12.4	11.4	8.8	6.3	3.1	3.8	65.4	

4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(3) ETFの魅力点〔Q9②:重複回答〕

〔図 4-9〕 * 2018年属性別



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(3) ETFの最魅力点〔Q9③:単数回答〕

- ETFの最魅力点は、魅力点と同様に前回から大きな変動はみられず、「分散投資ができるのでリスク低減が期待できる」(8.7%)が最も高くなる。〔図4-10〕
- 現在保有層は「分散投資ができるのでリスク低減が期待できる」が35.8%と高く、特に魅力を感じている様子。〔図4-12〕

〔図 4-10〕

	n=	分散投資ができるのでリスク低減が期待できる	手数料は一般的な投資信託より低い	指数などに連動するので値動きがわかりやすい	成行・指値注文が可能	元本保証はない	ETFはその時々々の取引価格が購入価額となる	証券会社ごとに購入時の手数料が異なる	わからない・特にない (%)
2018年	(20000)	8.7	2.9	2.7	1.8	1.7	1.3	0.9	80.0
2017年	(20000)	9.1	3.3	3.1	2.2	1.6	1.5	1.0	78.3
2016年	(20000)	7.3	2.4	2.2	1.8	1.5	1.3	0.8	77.0

〔図 4-11〕 * 2018年属性別

	n=	分散投資ができるのでリスク低減が期待できる	手数料は一般的な投資信託より低い	指数などに連動するので値動きがわかりやすい	成行・指値注文が可能	元本保証はない	ETFはその時々々の取引価格が購入価額となる	証券会社ごとに購入時の手数料が異なる	わからない・特にない (%)
TOTAL	(20000)	8.7	2.9	2.7	1.8	1.7	1.3	0.9	80.0
性別									
男性	(9929)	9.3	3.3	3.2	2.4	2.1	1.8	1.2	76.6
女性	(10071)	8.2	2.4	2.1	1.3	1.3	0.9	0.6	83.3
年代別									
20代	(2712)	8.7	2.6	3.5	1.9	2.1	0.9	1.3	79.0
30代	(3295)	10.4	3.5	2.4	1.5	1.6	0.9	0.5	79.0
40代	(4036)	8.9	3.6	2.8	1.4	1.7	1.4	0.6	79.6
50代	(3239)	8.5	2.7	2.7	1.3	1.5	1.4	0.9	81.0
60代	(3818)	7.4	2.7	2.2	2.1	1.7	1.7	0.8	81.5
70代	(2900)	8.6	2.0	2.6	3.0	1.6	1.7	1.3	79.2
世帯年収別									
100万円未満	(766)	6.8	1.2	2.1	0.9	2.9	0.8	0.9	84.5
～300万円未満	(3038)	7.1	2.1	2.1	1.9	2.0	1.0	0.8	83.0
～500万円未満	(3990)	9.0	3.6	2.7	2.5	1.8	1.7	1.4	77.3
～1000万円未満	(4800)	12.3	4.5	3.9	2.3	1.8	1.7	1.1	72.4
1000万円以上	(1256)	16.1	5.1	4.6	2.8	2.2	2.7	1.0	65.4

4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(3) ETFの最魅力点〔Q9③:単数回答〕

〔図 4-12〕 * 2018年属性別

		n=	分散投資ができるのでリスク低減が期待できる	手数料は一般的な投資信託より低い	指数などに連動するので値動きがわかりやすい	成行・指値注文が可能	元本保証はない	ETFはその時々々の取引価格が購入価額となる	証券会社ごとに購入時の手数料が異なる	わからない・特にない (%)
TOTAL		(20000)	8.7	2.9	2.7	1.8	1.7	1.3	0.9	80.0
保有状況別	保有層・保有経験層	現在保有層 (151)	35.8	18.5	17.2	6.0	2.6	10.6	4.0	5.3
		保有経験層 (現在非保有) (94)	23.4	17.0	18.1	8.5	2.1	7.4	3.2	20.2
	認知・保有未経験層	金融資産保有経験有 (2692)	23.9	8.6	8.1	5.1	2.7	4.3	2.4	44.8
		金融資産保有経験無 (845)	12.9	3.6	3.8	1.4	2.4	1.8	1.7	72.5
	非認知層	金融資産保有経験有 (3689)	11.4	3.5	2.2	3.1	2.0	1.8	1.2	74.9
		金融資産保有経験無 (8589)	4.5	1.3	1.3	0.7	1.3	0.3	0.3	90.3

4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(4) ETFの不満点（ETF内容認知者、保有経験者）〔Q10①:重複回答〕

- ETFの不満点は「リターン(収益)が低い」(23.3%)が最も高い。
また前回から「仕組みや運用実績がわかりにくい」(19.8%)がやや増加。〔図4-13〕
- 保有経験層では「株式に比べて面白さに欠ける」(30.9%)が、他層に比べて高い。
また認知・保有未経験層では金融資産の保有経験有無に関わらず、
「元本保証がない」といった不満が他層に比べてやや高い。〔図4-15〕

〔図 4-13〕

	n=	リターン (収益) が低い	仕組み や運用 実績が わかり にくい	株式に 比べて 面白さ に欠ける	元本 保証 がない	専門知 識がな いと商 品を選 びにくい	分配金 が少な い	種類 が多く 選択に 迷う	購入後 の運用 に関する 情報が 少ない	債券に 比べて リスク が高い	手続き がわずら わしい	最低 購入 価額が 高い	その他	わから ない・ 特にな い	(%)
2018年	(1104)	23.3	19.8	19.7	19.3	18.4	15.4	14.5	11.9	10.1	9.1	8.0	1.3	22.3	
2017年	(1168)	21.7	13.4	19.9	30.6	18.7	15.8	15.2	12.5	10.3	7.7	8.7	1.5	21.3	
2016年	(1119)	22.9	16.2	18.2	29.4	16.2	16.5	14.2	11.6	9.3	7.1	7.4	0.6	24.1	

〔図 4-14〕
* 2018年属性別

	n=	リターン (収益) が低い	仕組み や運用 実績が わかり にくい	株式に 比べて 面白さ に欠ける	元本 保証 がない	専門知 識がな いと商 品を選 びにくい	分配金 が少な い	種類 が多く 選択に 迷う	購入後 の運用 に関する情 報が少な い	債券に 比べて リスク が高い	手続き がわずら わしい	最低 購入 価額が 高い	その他	わから ない・ 特にな い	(%)
TOTAL	(1104)	23.3	19.8	19.7	19.3	18.4	15.4	14.5	11.9	10.1	9.1	8.0	1.3	22.3	
性別															
男性	(846)	25.2	18.8	20.8	16.4	16.8	15.6	14.3	12.4	8.7	9.3	7.8	1.3	23.0	
女性	(258)	17.1	23.3	15.9	28.7	23.6	14.7	15.1	10.1	14.7	8.5	8.5	1.2	19.8	
年 代 別															
20代	(128)	22.7	21.1	19.5	14.1	19.5	15.6	14.8	11.7	15.6	14.8	11.7	0.8	18.0	
30代	(190)	21.1	18.9	15.3	14.7	18.4	11.6	14.7	10.5	6.8	10.0	11.1	2.6	24.7	
40代	(204)	26.0	20.6	18.1	15.2	16.2	14.2	13.2	11.3	6.9	8.3	4.4	1.0	25.0	
50代	(179)	25.7	15.6	12.8	22.9	14.5	19.0	14.0	8.9	8.4	15.6	8.9	1.7	22.9	
60代	(209)	24.9	22.5	22.5	21.1	23.0	19.1	15.3	16.7	12.4	4.8	9.1	1.0	19.6	
70代	(194)	19.1	20.1	28.9	26.3	18.6	12.9	14.9	11.3	12.4	4.1	4.1	0.5	22.2	
世 帯 年 収 別															
100万円未満	(23)	17.4	30.4	8.7	21.7	26.1	8.7	26.1	17.4	8.7	13.0	13.0	0.0	21.7	
～300万円未満	(112)	27.7	25.0	20.5	28.6	20.5	25.9	19.6	15.2	9.8	7.1	9.8	0.9	15.2	
～500万円未満	(220)	22.7	21.4	18.2	24.1	21.4	13.6	13.6	9.1	10.9	8.6	9.5	0.0	18.2	
～1000万円未満	(384)	26.6	20.8	22.4	16.9	17.7	13.8	13.8	11.5	11.2	9.6	8.6	2.3	18.5	
1000万円以上	(178)	23.6	16.3	22.5	15.2	13.5	16.9	15.7	12.4	7.3	11.2	6.2	1.1	30.3	

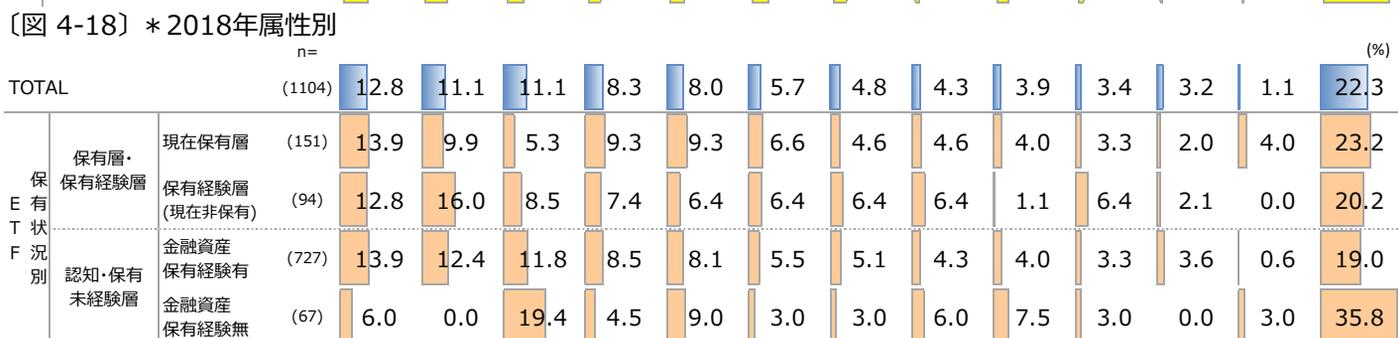
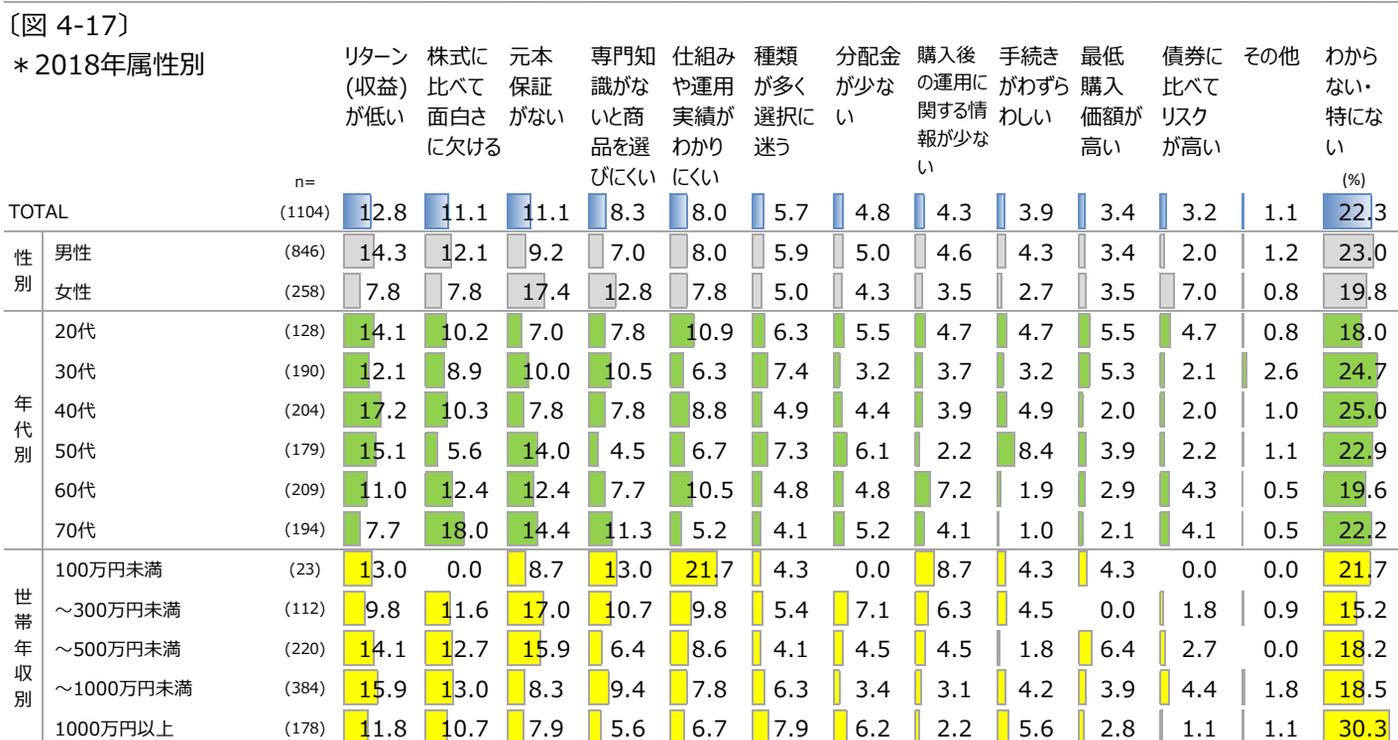
〔図 4-15〕 * 2018年属性別

	n=	リターン (収益) が低い	仕組み や運用 実績が わかり にくい	株式に 比べて 面白さ に欠ける	元本 保証 がない	専門知 識がな いと商 品を選 びにくい	分配金 が少な い	種類 が多く 選択に 迷う	購入後 の運用 に関する情 報が少な い	債券に 比べて リスク が高い	手続き がわずら わしい	最低 購入 価額が 高い	その他	わから ない・ 特にな い	(%)
TOTAL	(1104)	23.3	19.8	19.7	19.3	18.4	15.4	14.5	11.9	10.1	9.1	8.0	1.3	22.3	
保 有 経 験 層	保有層・ 保有経験層														
	現在保有層	(151)	28.5	19.9	16.6	17.2	19.2	18.5	18.5	13.9	10.6	11.3	11.3	4.0	23.2
	保有経験層 (現在非保有)	(94)	24.5	18.1	30.9	14.9	11.7	20.2	16.0	16.0	8.5	5.3	14.9	0.0	20.2
	金融資産 保有経験有	(727)	23.9	20.9	20.9	20.4	19.5	15.0	14.3	11.6	10.2	8.5	6.9	0.8	19.0
認 知 ・ 保 有 未 経 験 層	金融資産 保有経験無	(67)	13.4	16.4	6.0	22.4	17.9	10.4	6.0	11.9	9.0	19.4	4.5	3.0	35.8

4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(4) ETFの最不満点(ETF内容認知者、保有経験者)[Q10②:単数回答]

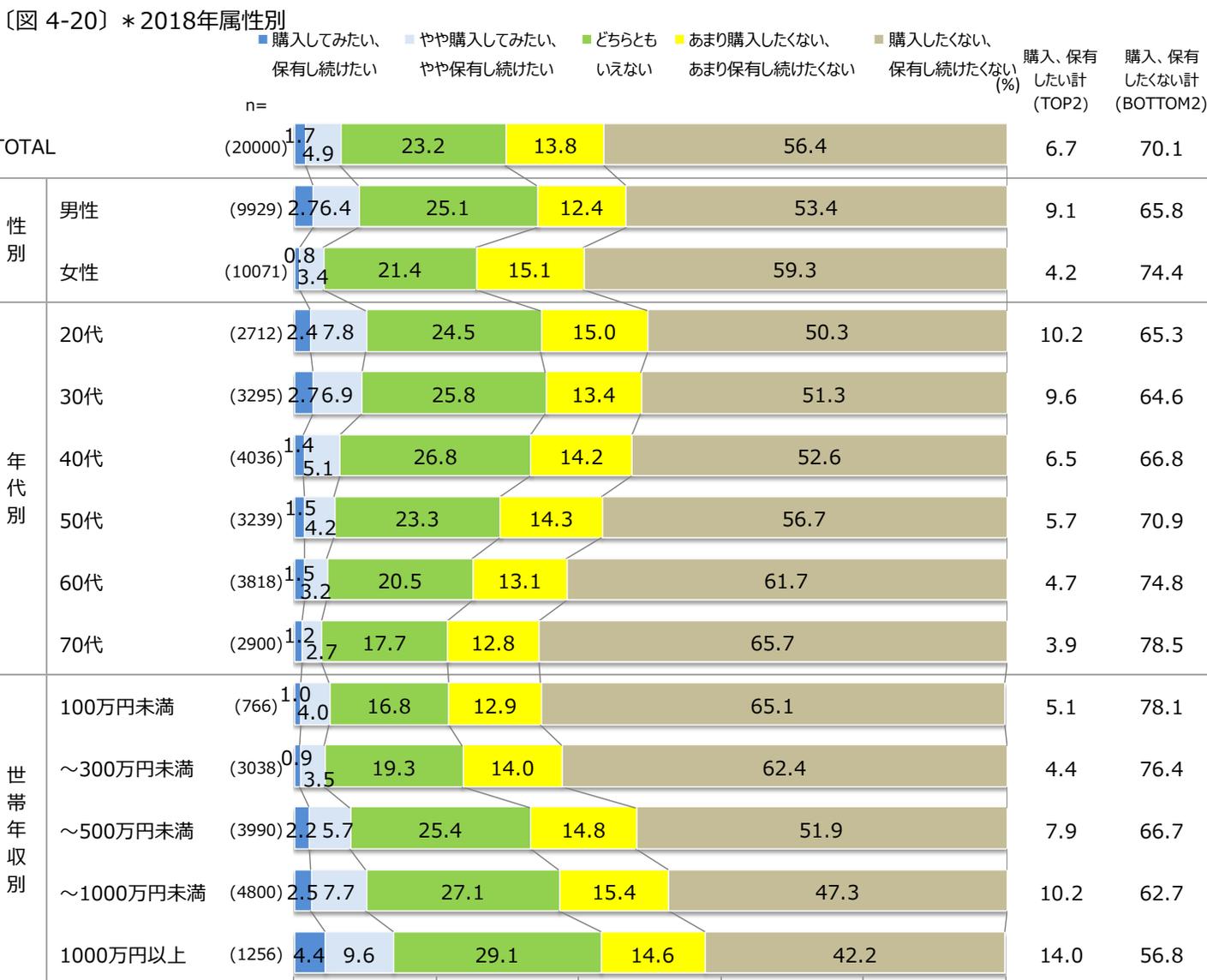
- ETFの最不満点は、「リターン(収益)が低い」(12.8%)、「株式に比べて面白さに欠ける」
「元本保証がない」(各11.1%)の3項目が上位にあがる。〔図4-16〕
- 現在保有層は「専門知識がないと商品を選びにくい」(9.3%)が僅かだが他層に比べて高い。
また保有経験層では「株式に比べて面白さに欠ける」(16.0%)が他層に比べてやや高い。〔図4-18〕



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(5) ETF今後の購入・継続保有意向〔Q11:単数回答〕

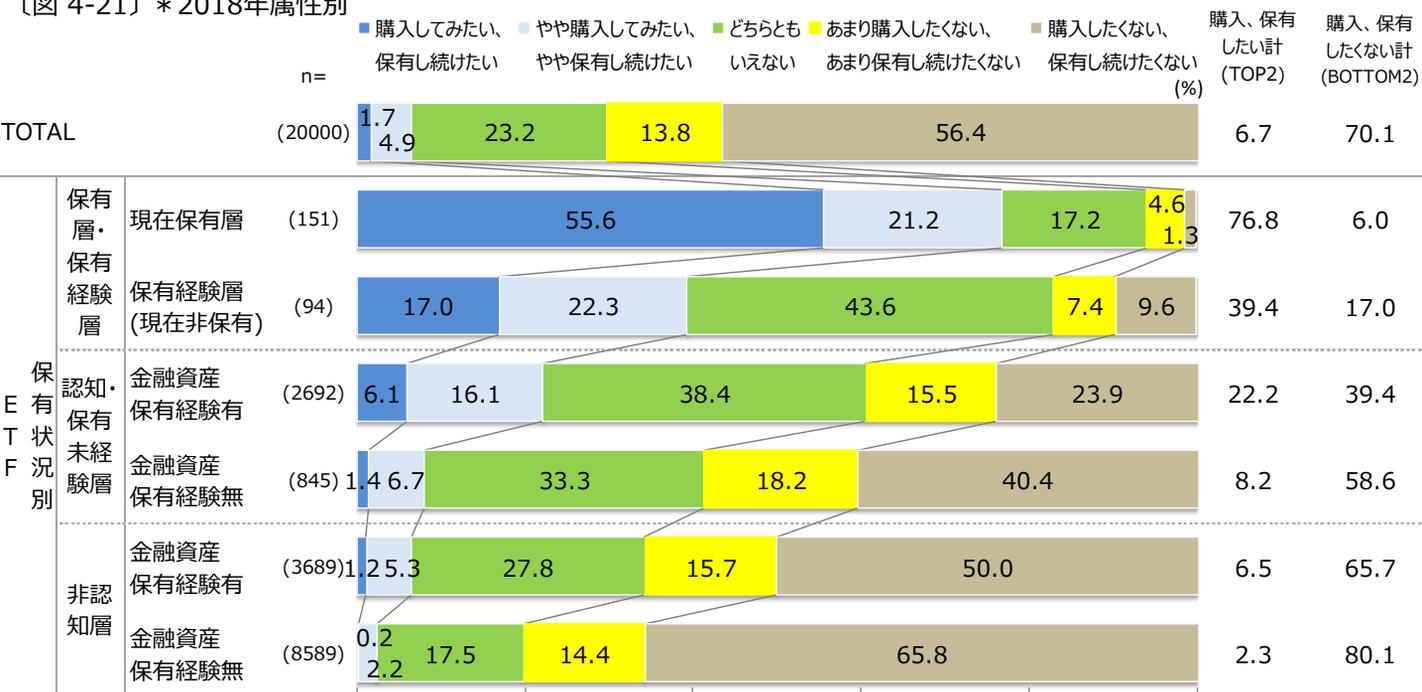
- ETF今後の購入・継続保有意向は、「購入、保有したい計」(TOP2)が6.7%、「購入、保有したくない計」(BOTTOM2)が70.1%と前回と同水準。〔図4-19〕
- 「購入、保有したい計」は若年層ほど、また高年収層ほど高くなる。〔図4-20〕
- 現在保有層は「購入、保有したい計」が76.8%と継続での保有意向は高い。また保有経験層では「購入、保有したい計」が39.4%となり、約4割が再度の購入意向を持つ模様。〔図4-21〕



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(5) ETF今後の購入・継続保有意向〔Q11:単数回答〕

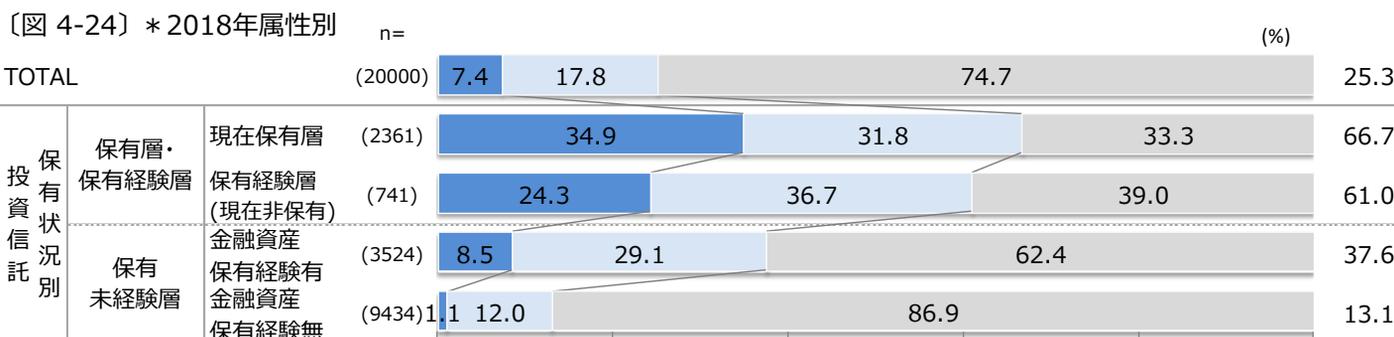
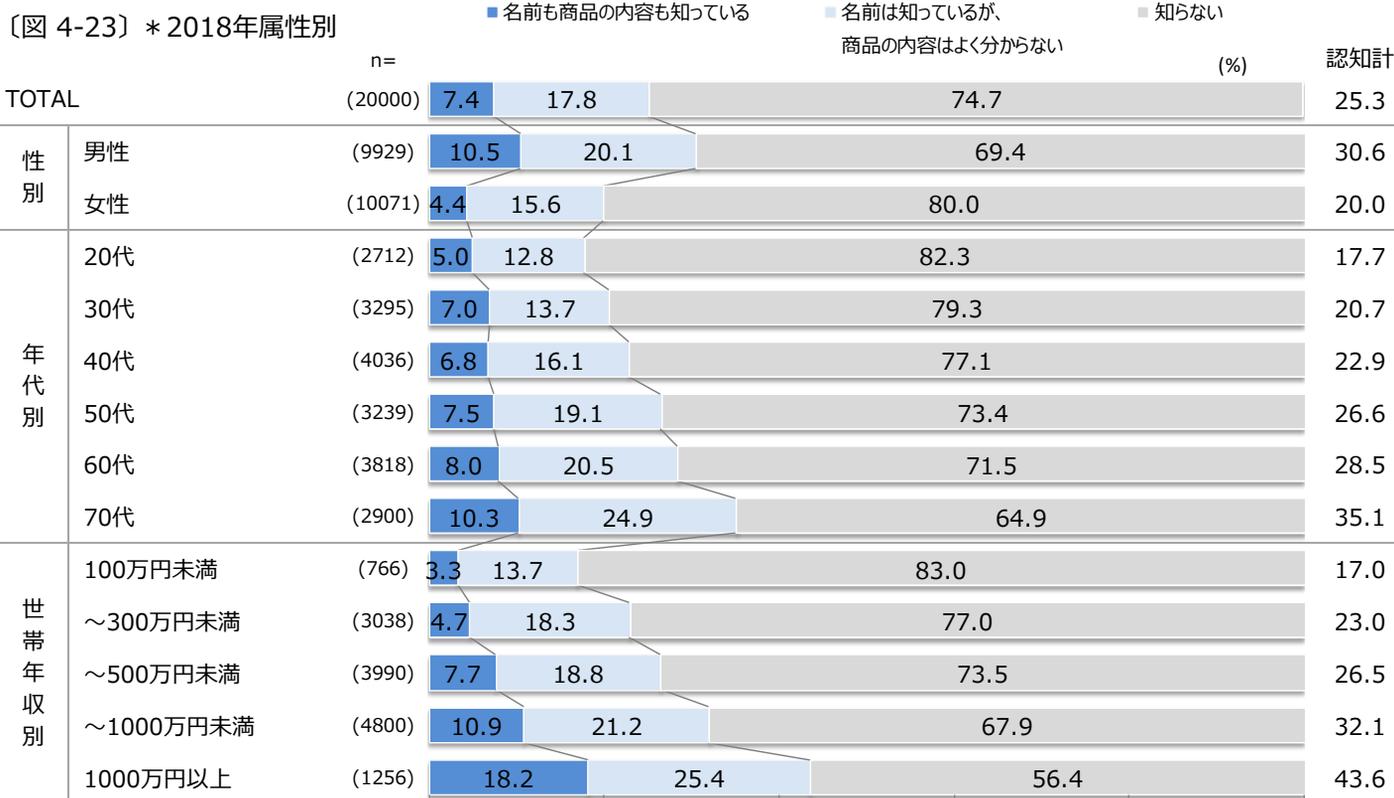
〔図 4-21〕 * 2018年属性別



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(6) J-REITの認知状況〔Q8②:単数回答〕

- J-REITの認知率(認知計：25.3%)、商品内容認知率(7.4%)は前回同水準。〔図4-22〕
- ETFと同様に、年代や世帯年収が上がるにつれ認知率は高まる傾向。〔図4-23〕
- 投資信託保有状況別では、投資への関与が強い層ほど認知率は高く、現在保有層では66.7%に達する。〔図4-24〕



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(7) J-REITの特徴認知 (J-REIT認知者)〔Q12①:複数回答〕

- J-REITの特徴の認知は、「少額から不動産投資できる」(35.5%)が前回から僅かに増加し最も高い。次いで「元本保証がない」(28.5%)、「複数の不動産に分散して投資できる」(27.6%)が続く。〔図4-25〕
- J-REITの保有状況別でみると、商品内容認知層や現在保有層などの関与の高い層でも「インフレ対策になる」「開示されている情報が入手しやすい」といった特徴の認知は低く、10～30%台に留まる。〔図4-27〕

〔図 4-25〕

	n=	少額から不動産投資できる	元本保証がない	複数の不動産に分散して投資できる	専門家が運用や物件の管理などを行う	比較的高い利回りが期待できる	賃料収入を主な分配金原資としている	取引所で売買ができるため、換金性・流動性が高い	保有資産にはオフィスビル～単体、複合で保有するタイプがある	インフレ対策になる	ファンドによって決算期が分散している	運用益のほとんどが分配されている	開示されている情報が入手しやすい	わからない・特いない
2018年	(5052)	35.5	28.5	27.6	22.3	19.7	16.1	13.2	12.4	10.9	10.6	10.3	6.8	40.8
2017年	(5386)	32.0	40.7	27.7	24.1	19.9	-	12.3	15.8	13.7	13.3	14.7	7.4	38.6
2016年	(5425)	31.4	38.1	25.5	22.8	19.6	-	12.6	16.0	13.1	12.7	14.3	7.4	40.4

〔図 4-26〕 * 2018年属性別

		n=	少額から不動産投資できる	元本保証がない	複数の不動産に分散して投資できる	専門家が運用や物件の管理などを行う	比較的高い利回りが期待できる	賃料収入を主な分配金原資としている	取引所で売買ができるため、換金性・流動性が高い	保有資産にはオフィスビル～単体、複合で保有するタイプがある	インフレ対策になる	ファンドによって決算期が分散している	運用益のほとんどが分配されている	開示されている情報が入手しやすい	わからない・特いない
TOTAL		(5052)	35.5	28.5	27.6	22.3	19.7	16.1	13.2	12.4	10.9	10.6	10.3	6.8	40.8
性別	男性	(3038)	38.9	29.3	31.2	23.8	22.3	19.5	15.7	13.7	12.2	12.0	11.7	7.5	36.7
	女性	(2014)	30.4	27.3	22.1	20.0	15.6	11.0	9.4	10.3	8.8	8.4	8.2	5.9	46.8
年代別	20代	(481)	36.4	18.3	26.0	22.5	17.7	17.5	11.6	10.8	12.5	8.3	11.9	10.2	38.7
	30代	(681)	39.9	26.1	32.9	23.3	22.3	19.4	14.7	13.2	11.2	12.0	12.2	8.7	40.7
	40代	(923)	40.4	27.8	32.6	23.0	20.5	17.9	12.6	14.4	12.0	12.9	10.8	7.4	39.4
	50代	(861)	34.6	27.8	25.6	19.4	17.1	12.0	11.6	10.7	10.8	10.3	8.2	7.0	42.2
	60代	(1087)	34.8	31.0	27.2	22.8	20.0	15.8	14.0	12.8	10.5	10.9	10.8	5.5	40.1
	70代	(1019)	29.2	33.5	22.3	22.8	19.9	15.4	14.1	11.6	9.3	8.5	9.0	4.8	42.5
世帯年収別	100万円未満	(130)	22.3	25.4	16.9	13.8	12.3	8.5	10.0	6.2	7.7	6.9	5.4	5.4	50.0
	～300万円未満	(700)	30.1	28.1	20.6	17.6	13.3	10.6	9.7	8.3	6.3	7.3	7.1	4.9	46.9
	～500万円未満	(1057)	37.2	29.4	27.2	25.4	21.2	17.3	13.4	12.1	10.2	10.1	9.6	5.9	37.5
	～1000万円未満	(1540)	41.8	29.4	33.4	24.8	24.3	19.6	15.4	15.1	13.5	13.7	12.9	8.6	33.5
	1000万円以上	(548)	43.6	33.8	37.0	27.7	25.9	23.0	18.8	19.2	17.2	14.8	15.0	10.0	30.3

〔図 4-27〕 * 2018年属性別

		n=	少額から不動産投資できる	元本保証がない	複数の不動産に分散して投資できる	専門家が運用や物件の管理などを行う	比較的高い利回りが期待できる	賃料収入を主な分配金原資としている	取引所で売買ができるため、換金性・流動性が高い	保有資産にはオフィスビル～単体、複合で保有するタイプがある	インフレ対策になる	ファンドによって決算期が分散している	運用益のほとんどが分配されている	開示されている情報が入手しやすい	わからない・特いない	
TOTAL		(5052)	35.5	28.5	27.6	22.3	19.7	16.1	13.2	12.4	10.9	10.6	10.3	6.8	40.8	
J-REIT認知別	商品内容認知層	(1487)	63.3	46.7	55.5	46.8	39.7	39.5	33.1	32.0	26.4	25.7	26.2	14.7	10.6	
J-REIT保有状況別	保有層・保有経験層	現在保有層	(306)	74.5	53.6	67.3	56.9	52.0	52.3	45.8	45.1	36.3	41.8	42.2	23.5	4.6
		保有経験層(現在非保有)	(147)	57.1	53.7	51.7	53.1	42.2	40.1	37.4	31.3	25.2	33.3	31.3	16.3	10.9
	認知・保有未経験層	金融資産保有経験有	(2900)	39.2	32.1	31.3	24.2	21.8	17.3	13.9	12.8	11.6	10.3	10.1	6.0	33.1
		金融資産保有経験無	(1232)	20.1	14.4	11.1	9.9	7.8	5.2	3.7	3.8	3.2	3.2	2.6	4.5	64.3

4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(8) J-REITの魅力点〔Q12②:重複回答〕

- J-REITの魅力点は「少額から不動産投資できる」(14.8%)が前回から僅かに増加し、最も高い。その他の項目では前回からの大きな変動はみられない。〔図4-28〕
- 現在保有層では「比較的高い利回りが期待できる」が50.3%と最も高い。〔図4-30〕

〔図 4-28〕

	n=	少額から 不動産 投資できる	比較的 高い利回り が期待 できる	複数の 不動産に 分散して 投資できる	専門家 が運用や 物件の 管理など を行う	運用益の ほとんどが 分配されて いる	元本保証 がない	インフレ 対策になる	取引所で 売買が できるため 、換金性 ・流動性 が高い	開示され ている情報 が入手 しやすい	賃料収入を 主な 分配金 原資として いる	保有資産 にはオフィス ビル〜単 体、複合で 保有するタ イプがある	ファンドに よって決算 期が分散 している	わから ない・ 特にな い	(%)
2018年	(20000)	14.8	10.2	6.7	6.5	3.6	3.3	3.2	3.2	3.1	2.7	1.9	1.8	73.6	
2017年	(20000)	12.0	10.2	6.7	6.4	7.0	2.2	4.0	4.9	4.2	-	2.7	2.2	73.9	
2016年	(20000)	11.2	10.2	6.3	5.8	6.8	2.1	3.9	4.7	4.2	-	2.5	1.9	74.9	

〔図 4-29〕 * 2018年属性別

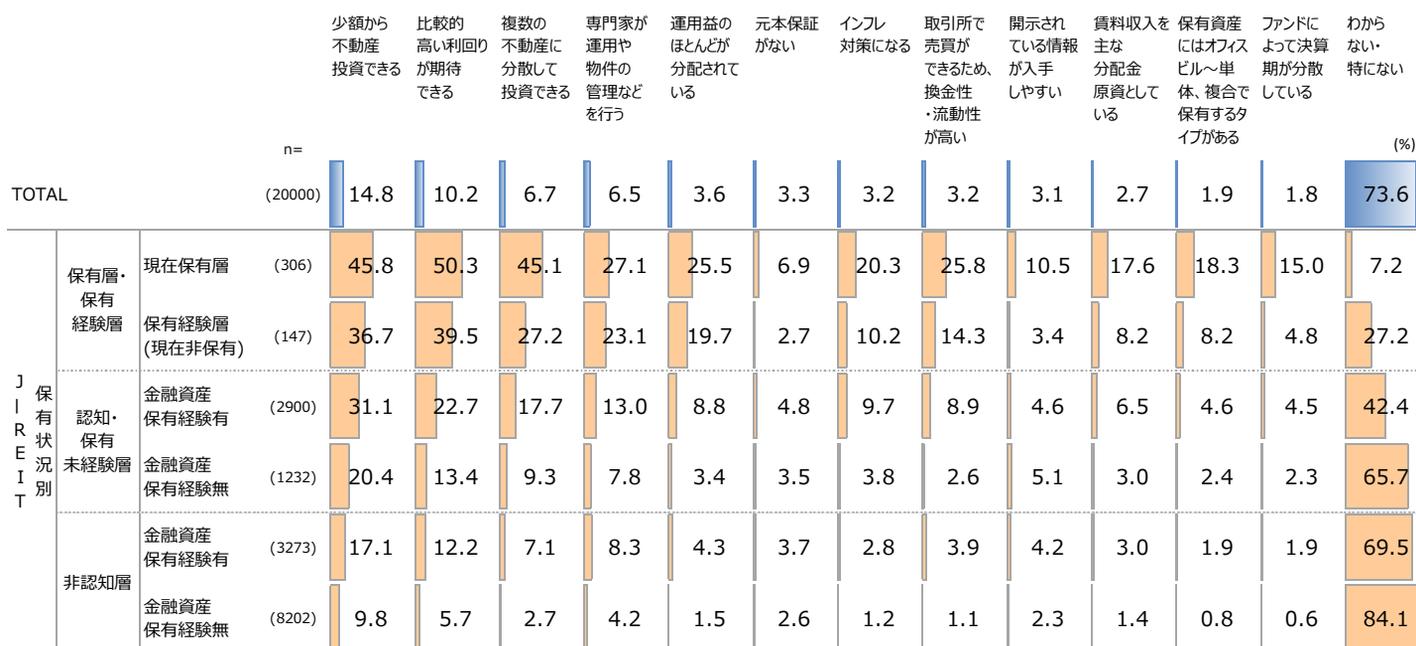
※選択肢「物件の賃料収入を主な分配金原資としている」は2018年より聴取

	n=	少額から 不動産 投資できる	比較的 高い利回り が期待 できる	複数の 不動産に 分散して 投資できる	専門家 が運用や 物件の 管理など を行う	運用益の ほとんどが 分配されて いる	元本保証 がない	インフレ 対策になる	取引所で 売買が できるため 、換金性 ・流動性 が高い	開示され ている情報 が入手 しやすい	賃料収入を 主な 分配金 原資として いる	保有資産 にはオフィス ビル〜単 体、複合で 保有するタ イプがある	ファンドに よって決算 期が分散 している	わから ない・ 特にな い	(%)
TOTAL	(20000)	14.8	10.2	6.7	6.5	3.6	3.3	3.2	3.2	3.1	2.7	1.9	1.8	73.6	
性別	男性	(9929)	15.6	11.0	8.4	6.2	4.3	3.5	3.9	4.0	2.7	3.3	2.2	2.0	71.1
	女性	(10071)	14.0	9.5	5.0	6.9	2.8	3.1	2.5	2.5	3.5	2.1	1.6	1.5	76.0
年代別	20代	(2712)	17.2	11.1	6.5	7.6	3.6	2.1	3.2	2.5	4.3	3.4	2.1	1.7	72.4
	30代	(3295)	18.0	11.8	7.9	7.7	3.6	2.0	3.0	3.0	3.7	2.8	1.8	1.5	71.2
	40代	(4036)	16.1	10.4	7.5	6.7	3.6	2.6	3.3	2.9	3.2	2.9	2.3	1.9	73.4
	50代	(3239)	14.1	9.9	6.0	5.9	3.4	3.1	3.2	3.3	3.1	2.3	1.8	2.0	74.3
	60代	(3818)	11.8	8.9	5.6	5.8	3.7	3.6	2.9	3.1	2.5	2.3	1.5	1.8	76.1
	70代	(2900)	11.9	9.4	6.8	5.7	3.2	6.4	3.5	4.5	1.9	2.5	1.9	1.8	73.6
世帯年収別	100万円未満	(766)	13.4	7.7	5.0	6.3	2.3	4.0	3.1	2.3	4.3	2.7	1.4	1.6	76.6
	～300万円未満	(3038)	13.0	7.9	6.1	6.0	2.8	4.5	2.6	2.7	2.8	2.2	1.7	1.8	76.4
	～500万円未満	(3990)	16.9	11.4	6.8	7.9	3.8	4.5	3.3	3.7	3.1	3.0	2.3	1.8	70.0
	～1000万円未満	(4800)	19.8	14.8	9.6	8.5	5.2	2.7	4.4	4.3	4.0	3.7	2.5	2.4	65.2
	1000万円以上	(1256)	22.9	18.8	13.6	9.9	7.4	3.3	6.3	7.0	4.5	4.9	3.3	2.8	58.0

4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(8) J-REITの魅力点〔Q12②:重複回答〕

〔図 4-30〕 * 2018年属性別



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(8) J-REITの最魅力点〔Q12③:単数回答〕

- J-REITの最魅力点は魅力点と同様に「少額から不動産投資できる」(9.0%)が前回から僅かに増加し最も高い。その他の項目では前回からの大きな変動はみられない。〔図4-31〕
- 現在保有層では「比較的高い利回りが期待できる」が33.3%と最も高くなる。〔図4-33〕

〔図 4-31〕

	n=	少額から 不動産 投資できる	比較的 高い利回り が期待 できる	元本保証 がない	専門家 が運用や 物件の 管理など を行う	複数の 不動産に 分散して 投資できる	インフレ 対策になる	運用益の ほとんどが 分配されて いる	取引所で 売買が できるため、 換金性 ・流動性 が高い	開示され ている情報 が入手 しやすい	賃料収入を 主な 分配金 原資として している	ファンドに よって決算 期が分散 している	保有資産 にはオフィス ビル～単 体、複合で 保有するタ イプがある	わから ない・ 特にな い	(%)
2018年	(20000)	9.0	6.3	2.3	2.2	1.7	1.3	1.1	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3		73.6
2017年	(20000)	6.6	6.2	1.4	2.3	1.8	1.5	2.6	1.3	1.4	-	0.5	0.6		73.9
2016年	(20000)	6.0	6.5	1.2	1.9	1.6	1.5	2.5	1.4	1.4	-	0.5	0.5		74.9

※選択肢「賃料収入を主な分配金原資としている」は2018年より聴取

〔図 4-32〕

* 2018年属性別

	n=	少額から 不動産 投資できる	比較的 高い利回り が期待 できる	元本保証 がない	専門家 が運用や 物件の 管理など を行う	複数の 不動産に 分散して 投資できる	インフレ 対策になる	運用益の ほとんどが 分配されて いる	取引所で 売買が できるため、 換金性 ・流動性 が高い	開示され ている情報 が入手 しやすい	賃料収入を 主な 分配金 原資として している	ファンドに よって決算 期が分散 している	保有資産 にはオフィス ビル～単 体、複合で 保有するタ イプがある	わから ない・ 特にな い	(%)
TOTAL	(20000)	9.0	6.3	2.3	2.2	1.7	1.3	1.1	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3		73.6
性別	男性 (9929)	9.5	6.9	2.4	1.9	2.2	1.6	1.4	0.9	0.5	0.7	0.4	0.4		71.1
	女性 (10071)	8.5	5.7	2.3	2.5	1.2	1.0	0.8	0.5	0.7	0.3	0.3	0.2		76.0
年代別	20代 (2712)	10.8	6.5	1.3	2.2	1.5	1.0	1.3	0.5	1.0	0.8	0.3	0.4		72.4
	30代 (3295)	11.8	7.6	1.3	2.3	1.7	1.1	0.9	0.6	0.5	0.5	0.3	0.2		71.2
	40代 (4036)	10.1	6.1	1.8	2.2	1.8	1.2	1.1	0.4	0.6	0.6	0.3	0.4		73.4
	50代 (3239)	9.0	6.1	2.4	2.0	1.5	1.3	1.0	0.8	0.8	0.4	0.3	0.2		74.3
	60代 (3818)	6.6	5.7	2.5	2.1	1.8	1.2	1.4	0.9	0.4	0.4	0.5	0.3		76.1
	70代 (2900)	5.8	5.9	4.8	2.3	1.8	1.8	1.2	1.2	0.4	0.5	0.5	0.3		73.6
世帯年収別	100万円未満 (766)	9.3	3.9	3.1	2.3	1.0	1.2	0.5	0.3	0.5	1.0	0.1	0.0		76.6
	～300万円未満 (3038)	8.0	4.3	3.3	2.3	1.9	1.0	0.8	0.7	0.4	0.3	0.4	0.3		76.4
	～500万円未満 (3990)	10.1	7.1	3.2	2.6	1.8	1.2	1.3	0.8	0.4	0.7	0.5	0.4		70.0
	～1000万円未満 (4800)	12.1	9.1	1.7	2.6	2.5	1.8	1.7	0.8	0.8	0.8	0.4	0.5		65.2
	1000万円以上 (1256)	11.4	12.3	2.0	3.7	3.3	2.6	2.2	1.7	0.9	0.9	0.6	0.4		58.0

4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(8) J-REITの最魅力点〔Q12③:単数回答〕

〔図 4-33〕 * 2018年属性別

		n=	少額から 不動産 投資できる	比較的 高い利回り が期待 できる	元本保証 がない	専門家 が運用や 物件の 管理など を行う	複数の 不動産に 分散して 投資できる	インフ ル対策に なる	運用益の ほとんどが 分配されて いる	取引所で 売買が できるため、 換金性 ・流動性 が高い	開示され ている情報 が入手 しやすい	賃料収入を 主な 分配金 原資として いる	ファンドに よって決算 期が分散 している	保有資産 にはオフィス ビル～単 体、複合で 保有するタ イプがある	わから ない・ 特にな い	(%)
TOTAL		(20000)	9.0	6.3	2.3	2.2	1.7	1.3	1.1	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	73.6	
J R E I T 保 有 状 況 別	保有層・ 保有 経験層	現在保有層	(306)	14.4	33.3	1.0	7.5	11.4	6.9	7.2	3.6	0.7	3.6	1.0	2.3	7.2
		保有経験層 (現在非保有)	(147)	17.7	25.9	1.4	4.1	4.8	5.4	7.5	2.7	0.0	1.4	0.7	1.4	27.2
	認知・ 保有 未経験層	金融資産 保有経験有	(2900)	17.3	14.7	2.6	4.4	5.4	4.1	3.2	2.3	0.7	1.4	0.8	0.7	42.4
		金融資産 保有経験無	(1232)	13.2	8.0	2.4	2.3	2.7	1.1	1.3	0.6	1.1	0.6	0.5	0.7	65.7
	非認知層	金融資産 保有経験有	(3273)	10.6	7.3	2.9	3.1	1.4	1.3	1.1	0.8	0.5	0.6	0.5	0.2	69.5
		金融資産 保有経験無	(8202)	6.8	3.3	2.0	1.5	0.5	0.3	0.4	0.2	0.5	0.2	0.2	0.1	84.1

4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(9) J-REITの不満点 (J-REIT内容認知者、保有経験者) [Q13①:重複回答]

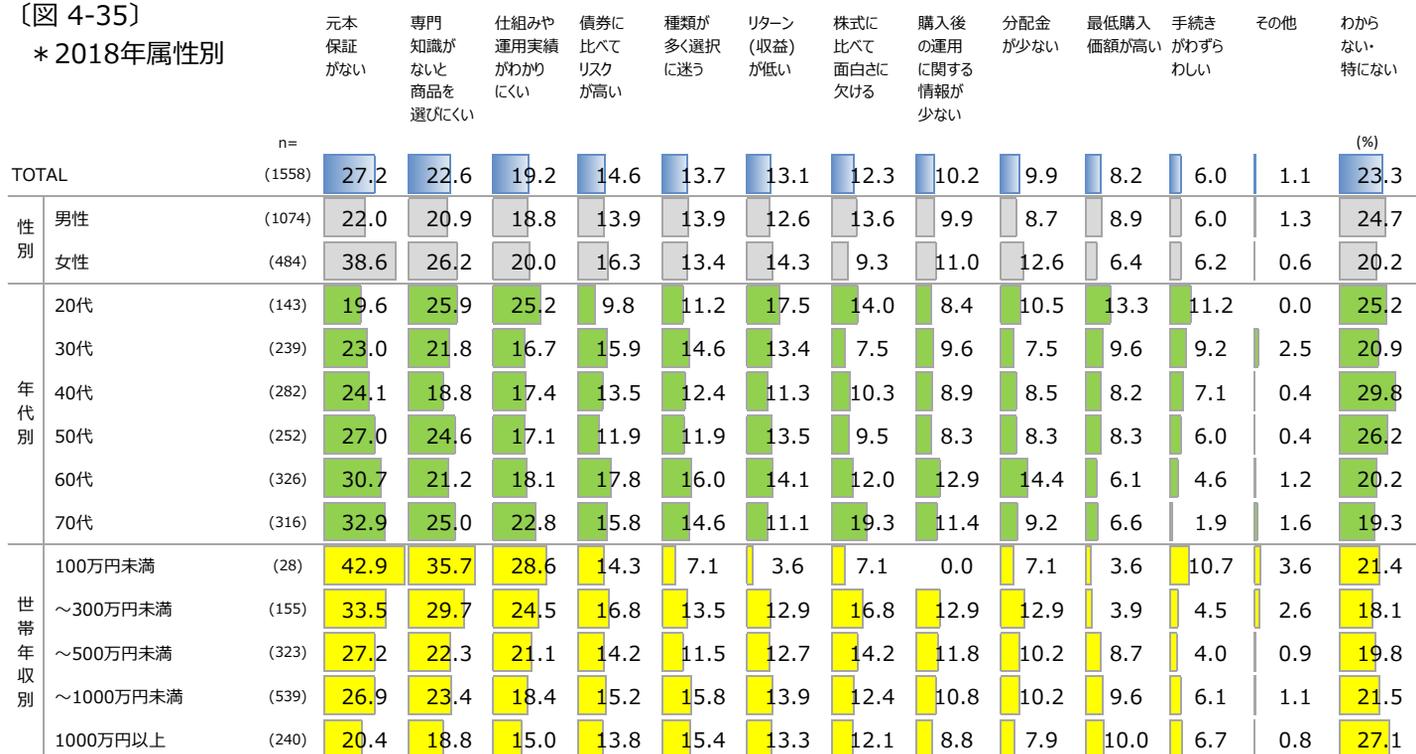
- J-REITの不満点は「専門知識がないと商品を選びにくい」(22.6%)、「仕組みや運用実績がわかりにくい」(19.2%)が前回よりやや増加する。〔図4-34〕
- J-REIT保有状況別では、現在保有層で「種類が多く選択に迷う」(21.2%)、「リターン(収益)が少ない」(18.3%)、「分配金が少ない」(15.4%)が他層に比べてやや高い。〔図4-36〕

〔図 4-34〕

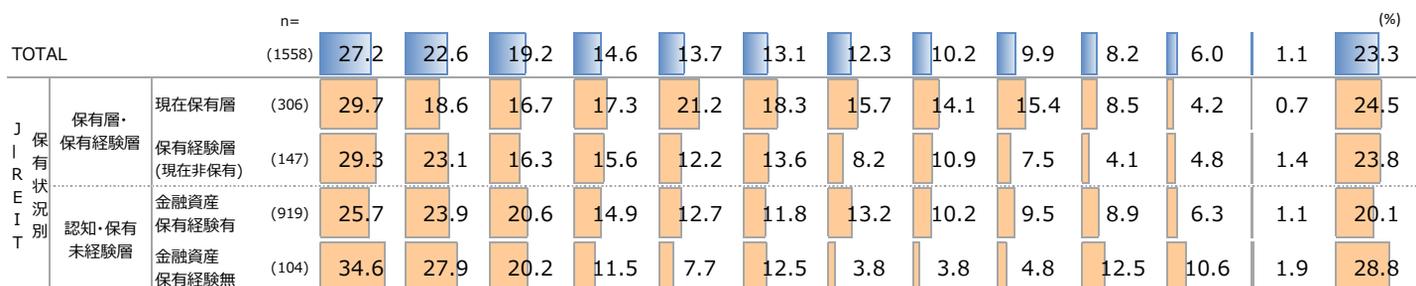


〔図 4-35〕

* 2018年属性別



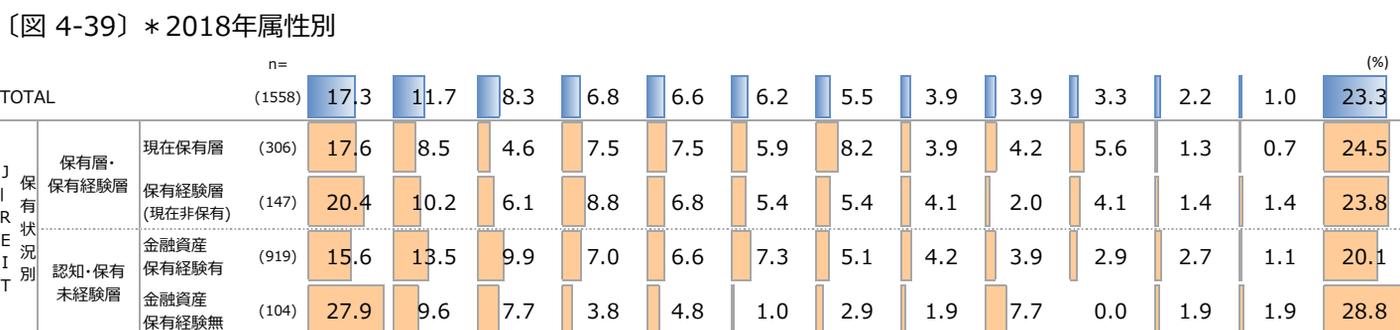
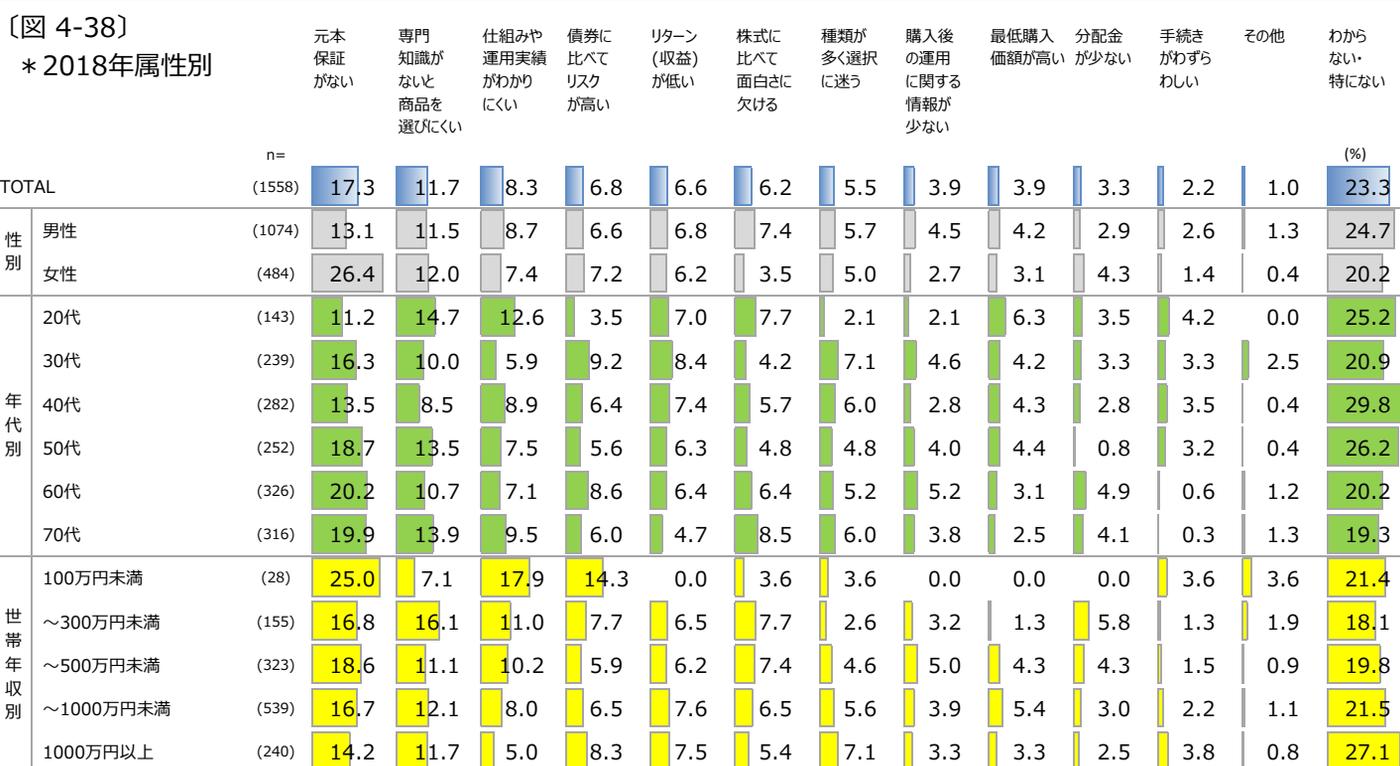
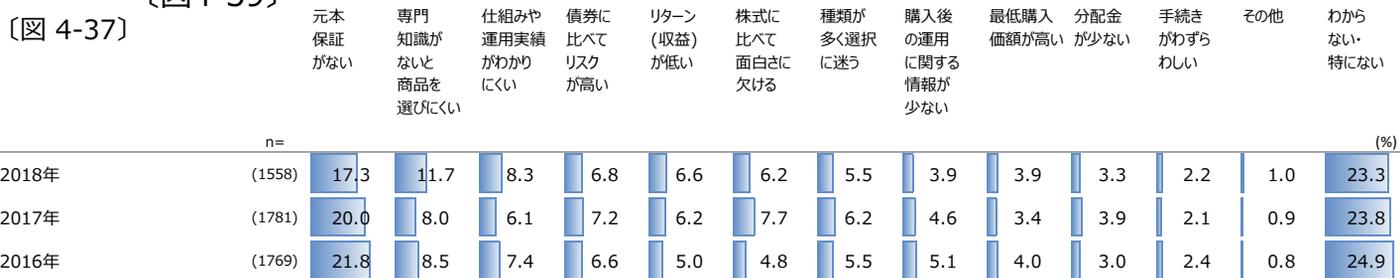
〔図 4-36〕 * 2018年属性別



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(9) J-REITの最不満点 (J-REIT内容認知者、保有経験者) [Q13②:単数回答]

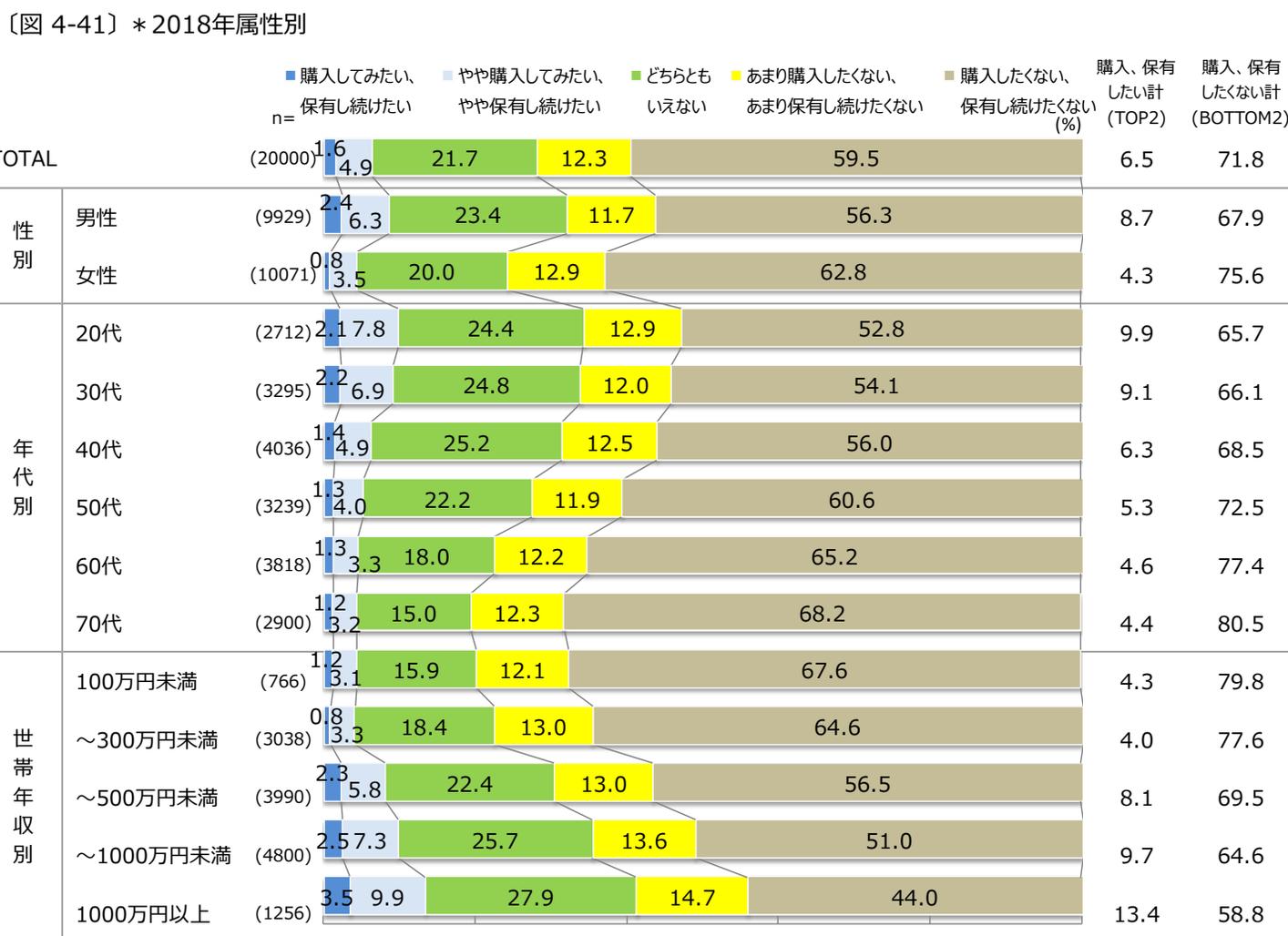
- J-REITの最不満点は、前回と同様に「元本保証がない」(17.3%)が最も高い。また「専門知識がないと商品を選びにくい」(11.7%)、「仕組みや運用実績がわかりにくい」(8.3%)が前回からやや増加。[図4-37]
- J-REIT保有状況別では、現在保有層で「種類が多く選択に迷う」(8.2%)が他層に比べてやや高い。[図4-39]



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(10) J-REIT今後の購入・継続保有意向〔Q14:単数回答〕

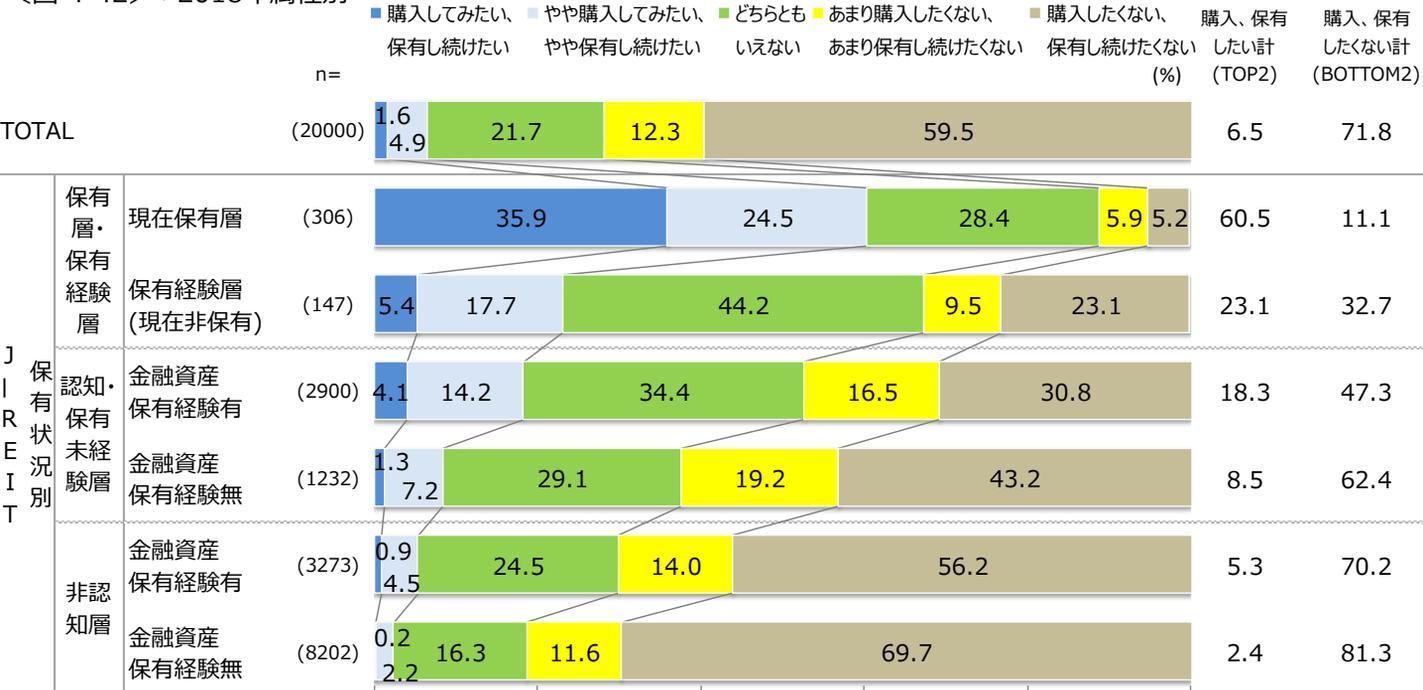
- J-REITの今後の購入・継続保有意向は、「購入、保有したい計」(TOP2)が6.5%、「購入、保有したくない計」(BOTTOM2)が71.8%と前回と同水準。〔図4-40〕
- 「購入、保有したい計」は、年代が低いほど、また世帯年収が上がるにつれ増加する傾向。〔図4-41〕
- 現在保有層では「購入、保有したい計」が60.5%と、半数以上が継続での保有意向を示す。〔図4-42〕



4. ETF、J-REITの浸透状況、今後の購入意向

(10) J-REIT今後の購入・継続保有意向〔Q14:単数回答〕

〔図 4-42〕 * 2018年属性別



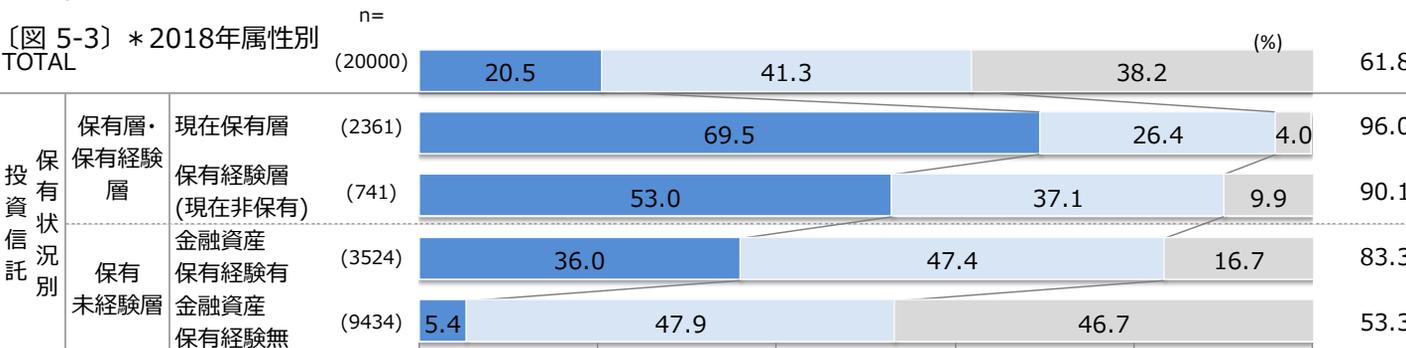
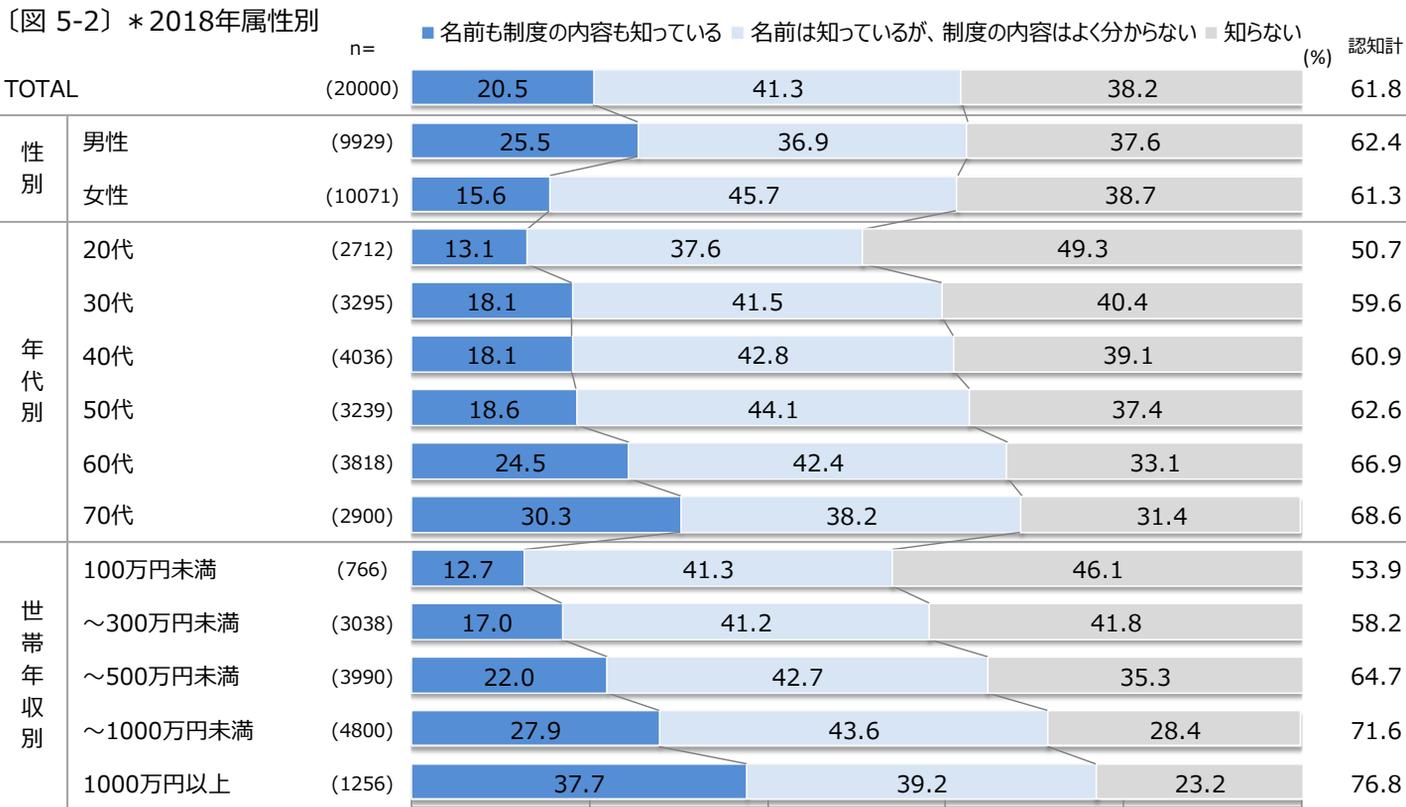
5. NISAの浸透状況、 今後の利用意向



5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(1) NISAの認知〔Q15①:単数回答〕

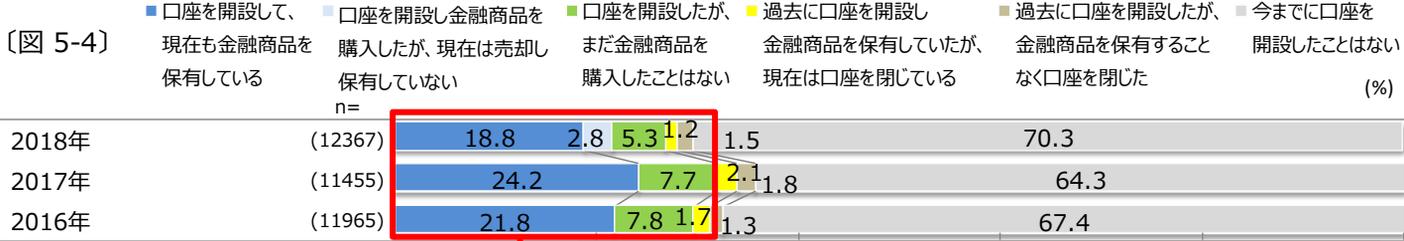
- NISAの認知率(認知計)は61.8%で前回からやや増加。一方、制度内容認知率は20.5%と前回より微減。〔図5-1〕
- 年代や世帯年収が上がるにつれ、認知率は高まる傾向。〔図5-2〕
- 投資信託保有状況別でみると、投資への関与が強い層ほど認知率は高く、現在保有層では96.0%に達する。一方で最もボリュームの大きい保有未経験層（金融資産保有経験無）での認知率は53.3%と半数程度、制度内容認知率は5.4%に留まる。〔図5-3〕



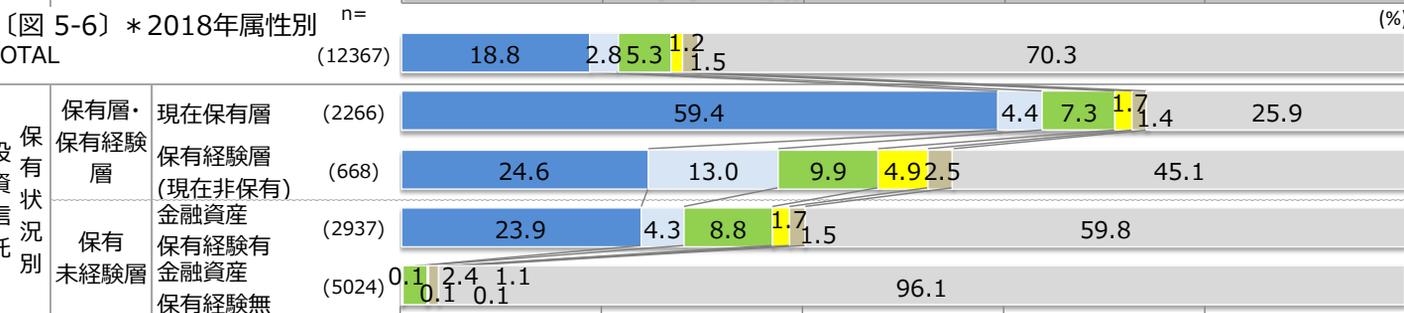
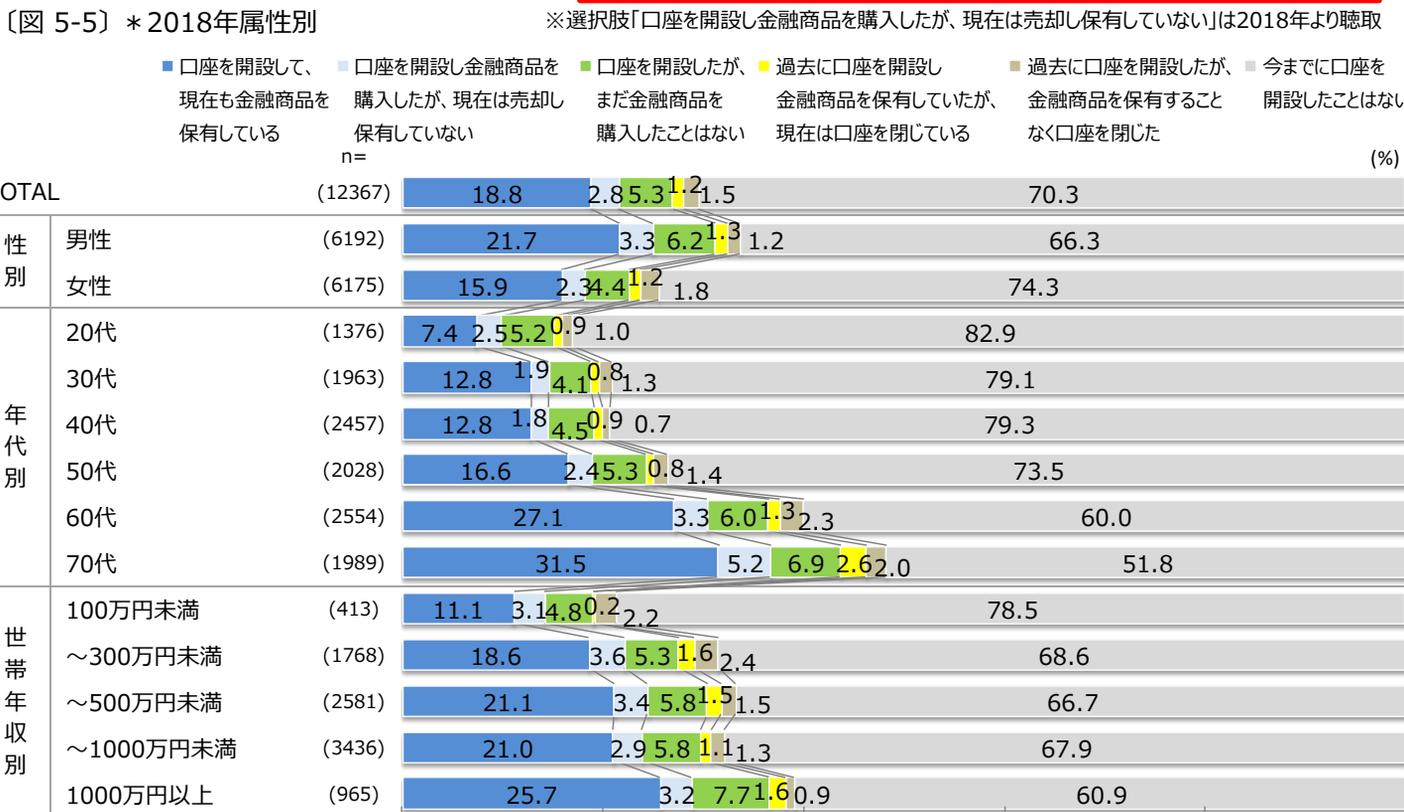
5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(2) NISAの利用状況(制度認知者)[Q16①:単数回答]

- NISAを知っている人のうち、同制度での現在金融商品保有者は18.8%。
「口座開設したが金融商品を保有していない人」は5.3%と前回よりやや減少。〔図5-4〕
- 年代や世帯年収が上がるにつれ同制度での現在金融商品保有者は多くなる。〔図5-5〕
- 投信現在保有層では、同制度での現在金融商品保有者が59.4%に及ぶ。〔図5-6〕



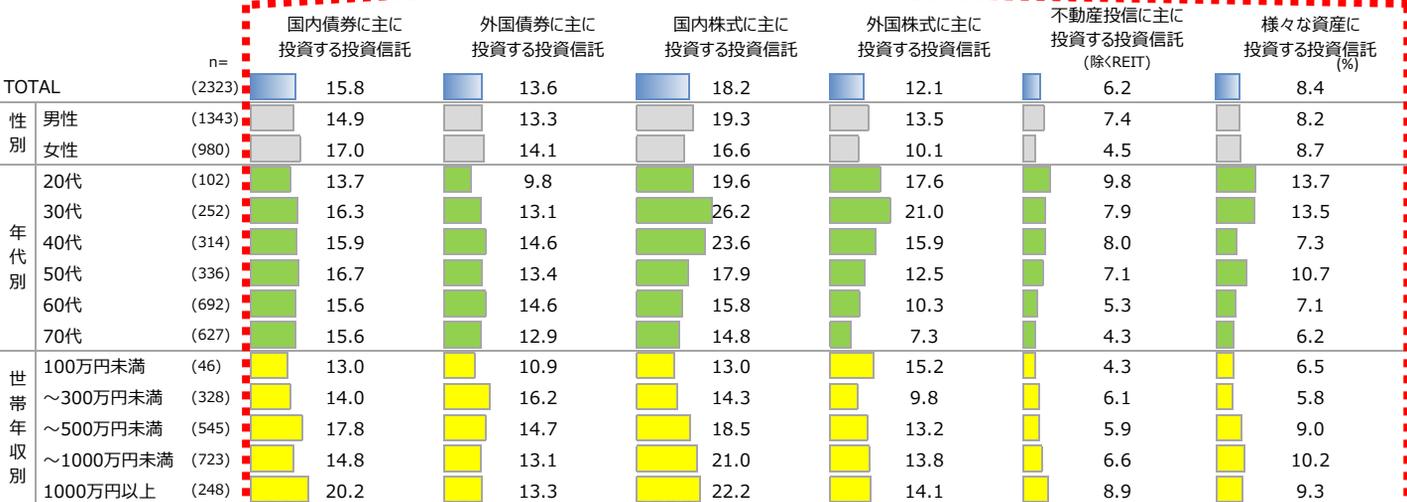
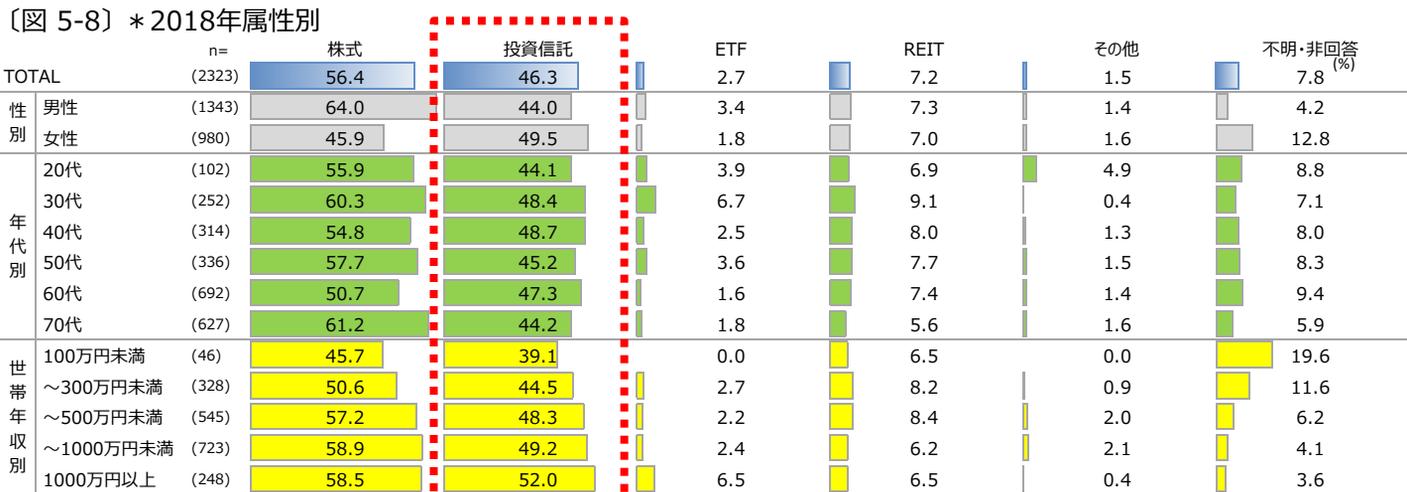
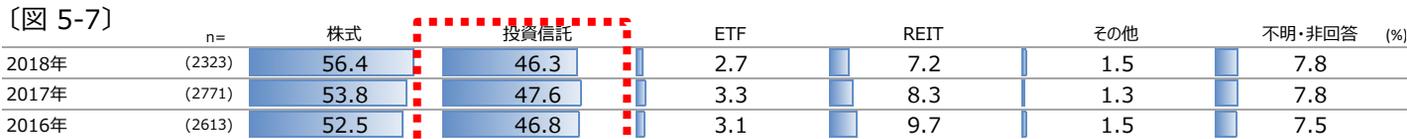
口座開設者における金融商品保有率：2018年(n=3335)69.7%
(参考値) 2017年(n=3649)75.9%/2016年(n=3544)73.7%



5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(3) NISAでの保有金融商品(NISAでの現在金融商品保有者) 〔Q17①:重複回答〕

- NISAでの保有金融商品をカテゴリごとにみると、「株式」(56.4%)が微増、「投資信託」(46.3%)、
「ETF」(2.7%)は前回と同水準。「REIT」は傾向。〔図5-7〕
- 「国内株式／外国株式に主に投資する投資信託」では30代をピークに若年層ほど保有率が高い傾向。
一方「国内債券／外国債券に主に投資する投資信託」では年代間での大きな差はみられない。〔図5-8〕



5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

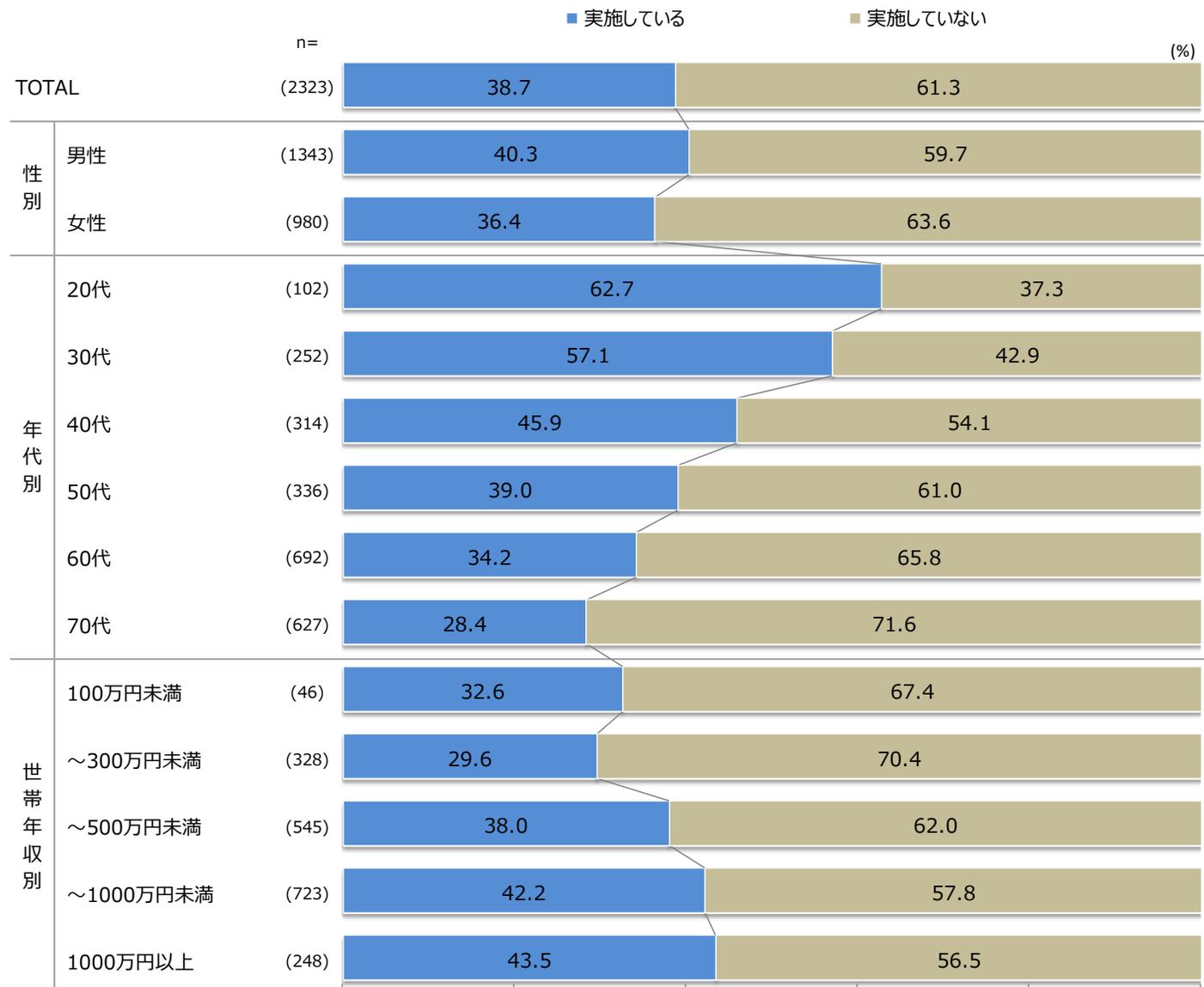
(4) NISAでの積立投資実施状況

(NISAでの現在金融商品保有者)〔Q18①:単数回答〕

- NISAでの積立投資実施率は、38.7%と前回からやや減少。〔図5-9〕
- 年代別では若年層ほど積立投資実施率は高くなる。また世帯年収別では年収が高いほど実施率が高くなる傾向。〔図5-10〕



〔図 5-10〕 * 2018年属性別

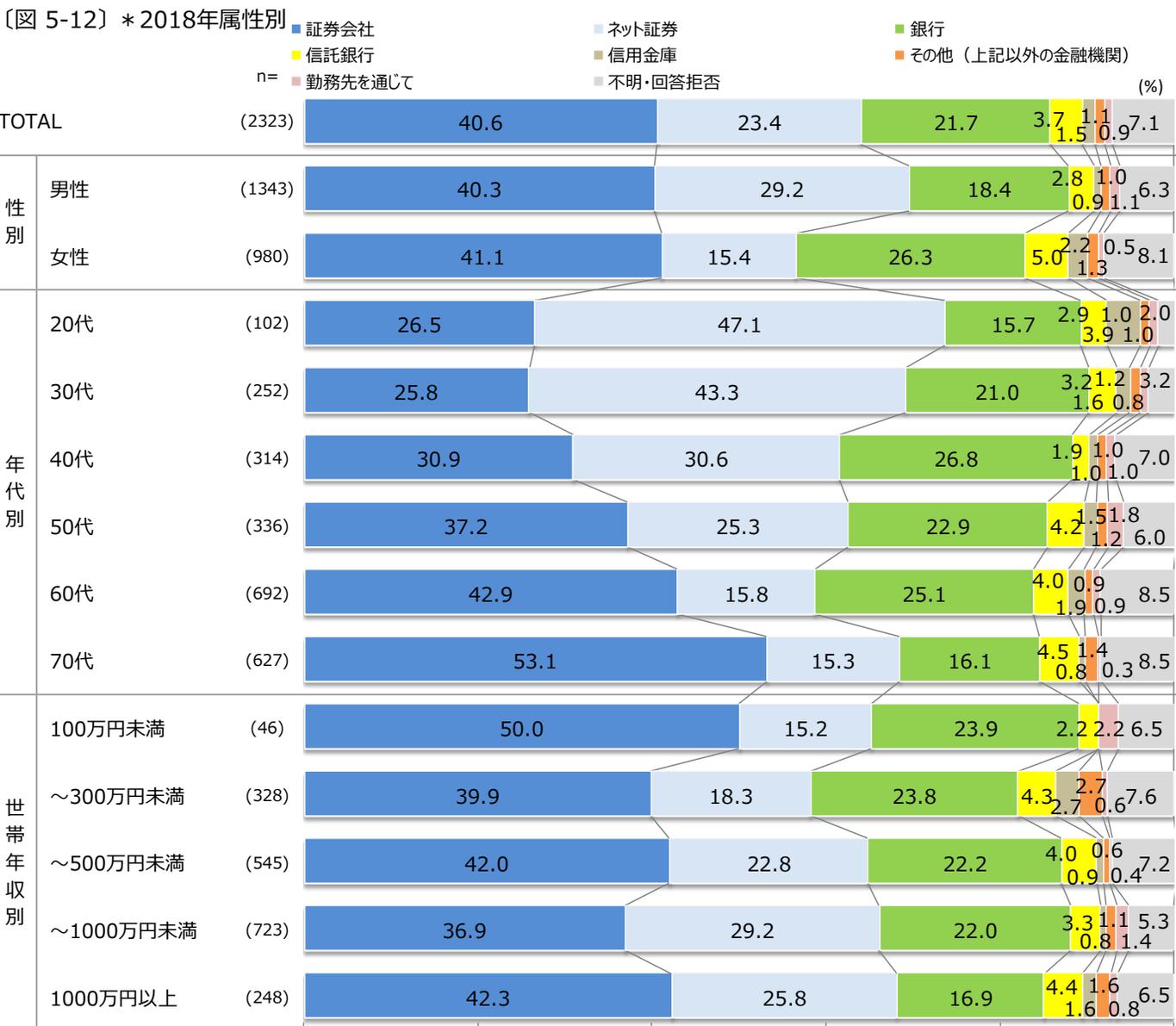


5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(5) NISAの口座開設金融機関

(NISAでの現在口座開設者)〔Q19①:単数回答〕

- NISAの口座開設の金融機関は「証券会社」が40.6%で最多、次いで「ネット証券」(23.4%)、「銀行」(21.7%)が続く。〔図5-11〕
- 年代別で見ると、「証券会社」は高齢層ほど多く、「ネット証券」は若年層ほど多くなる傾向。〔図5-12〕



5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(6) NISA口座開設・金融商品未購入理由

(NISA口座開設・金融商品未購入層)[Q20①:重複回答]

- NISAでの金融商品未購入理由は、前回同様に「投資に回すお金がない」(22.6%)、「どの商品を購入してよいかわからない」(21.2%)が上位にあがる。また「金融機関に勧められて口座開設しただけ」(18.6%)は前回よりやや増加。〔図5-13〕
- 年代別で見ると、20代で「制度が複雑でよく理解できない」「制度内容を知らない」といった制度への理解不足や「非課税投資限度額が小さい」「非課税期間が短い」と制度への不満が理由としてやや高い。〔図5-14〕
- 投信保有状況別で見ると、現在保有層で「非課税期間が短いから」が僅かに高い。また投信への関与が低くなるにつれ、「投資知識がない／知識がないと難しそう」「投資自体に関心がない」「制度内容を知らない」と知識不足や制度の理解不足からくる不安感が高くなる。〔図5-15〕

〔図 5-13〕

	投資に回すお金がないから	どの商品を購入してよいかわからないから	金融機関に勧められて口座開設しただけだから	投資の知識がないと難しそうだから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	投資自体に関心がないから	制度が複雑でよく理解できないから	制度の内容を知らないから	年間の非課税投資限度額(120万円)が小さいから	非課税期間が短いから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由は
2018年	22.6	21.2	18.6	10.6	8.8	7.7	7.4	6.8	5.2	4.1	2.7	0.8	1.8	20.2
2017年	20.6	19.5	14.0	9.0	9.0	8.2	6.8	6.9	6.4	7.2	5.9	1.4	1.6	23.0
2016年	20.7	19.9	17.3	8.4	11.1	9.0	7.2	5.4	6.9	7.9	4.8	0.9	1.6	21.3

〔図 5-14〕 * 2018年属性別

	投資に回すお金がないから	どの商品を購入してよいかわからないから	金融機関に勧められて口座開設しただけだから	投資の知識がないと難しそうだから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	投資自体に関心がないから	制度が複雑でよく理解できないから	制度の内容を知らないから	年間の非課税投資限度額(120万円)が小さいから	非課税期間が短いから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由は
TOTAL	22.6	21.2	18.6	10.6	8.8	7.7	7.4	6.8	5.2	4.1	2.7	0.8	1.8	20.2
性別														
男性	24.1	19.4	14.8	10.6	9.8	7.3	7.8	7.0	7.0	4.1	2.6	1.0	1.3	21.0
女性	20.4	23.7	24.1	10.6	7.3	8.4	6.9	6.6	2.6	4.0	2.9	0.4	2.6	19.0
年代別														
20代	22.2	27.8	9.7	11.1	8.3	6.9	12.5	13.9	13.9	9.7	5.6	0.0	4.2	13.9
30代	18.8	20.0	12.5	10.0	15.0	2.5	5.0	7.5	6.3	5.0	2.5	2.5	2.5	22.5
40代	23.4	27.0	12.6	7.2	15.3	7.2	8.1	9.9	6.3	6.3	1.8	0.0	1.8	17.1
50代	27.8	23.1	17.6	11.1	7.4	9.3	8.3	2.8	0.9	2.8	3.7	0.0	2.8	13.0
60代	21.1	20.4	28.3	15.8	5.3	8.6	6.6	5.9	3.3	2.0	2.6	0.0	0.0	23.0
70代	21.9	13.1	21.9	7.3	5.1	9.5	5.8	4.4	4.4	2.2	1.5	2.2	1.5	27.0
世帯年収別														
100万円未満	30.0	25.0	5.0	10.0	15.0	20.0	10.0	15.0	5.0	5.0	10.0	0.0	0.0	10.0
~300万円未満	27.7	21.3	21.3	12.8	6.4	3.2	7.4	4.3	4.3	1.1	3.2	0.0	0.0	20.2
~500万円未満	23.5	18.8	24.8	12.1	5.4	8.1	8.1	7.4	5.4	4.7	3.4	0.7	1.3	17.4
~1000万円未満	21.6	21.1	17.6	8.0	11.6	7.0	8.0	7.5	7.5	5.5	1.0	1.5	2.0	17.1
1000万円以上	25.7	28.4	14.9	12.2	14.9	10.8	6.8	9.5	2.7	2.7	4.1	1.4	2.7	13.5

〔図 5-15〕 * 2018年属性別

	投資に回すお金がないから	どの商品を購入してよいかわからないから	金融機関に勧められて口座開設しただけだから	投資の知識がないと難しそうだから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	投資自体に関心がないから	制度が複雑でよく理解できないから	制度の内容を知らないから	年間の非課税投資限度額(120万円)が小さいから	非課税期間が短いから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由は	
TOTAL	22.6	21.2	18.6	10.6	8.8	7.7	7.4	6.8	5.2	4.1	2.7	0.8	1.8	20.2	
投資信託保有状況別	保有層・保有経験層														
	現在保有層	19.9	22.9	25.9	7.2	11.4	3.0	5.4	3.6	6.0	7.2	2.4	1.2	2.4	18.7
	保有経験層(現在非保有)	22.7	15.2	24.2	9.1	12.1	7.6	3.0	4.5	3.0	4.5	3.0	3.0	3.0	18.2
	金融資産保有経験層	22.1	20.9	14.7	12.8	9.3	8.1	10.9	8.9	7.4	2.3	3.5	0.4	1.6	19.4
未経験層															
金融資産保有経験無	30.1	22.8	20.3	13.8	4.9	12.2	5.7	8.9	0.8	4.1	1.6	0.0	0.8	18.7	

5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(7) NISA口座未開設理由(NISA認知・口座未開設層)〔Q20①:重複回答〕

- NISA口座未開設理由は前回同様に「投資自体に関心がない」(26.4%)、「投資に回すお金がない」(20.3%)が上位にあがる。また前回より「投資自体に関心がない」がやや増加している。〔図5-16〕
- 若年層ほど「投資自体に関心がない」は低いものの、「投資に回すお金がない」といった経済的な理由や、「投資の知識がない／知識がないと難しそう」「制度内容を知らない」「どの商品を購入してよいかわからない」「制度が複雑でよく理解できない」といった知識不足が高くなる。〔図5-17〕
- 投信保有状況別でみると、現在保有層・保有経験層で「口座開設の申込手続きが煩雑で面倒」がやや高い。また現在保有層で「非課税期間が短い」「非課税投資限度額が小さい」と制度への不満もやや高い〔図5-18〕

〔図 5-16〕

	n=	投資自体に関心がないから	投資に回すお金がないから	投資の知識がないと難しそうだから	制度の内容を知らないから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	口座開設の申込手続きが煩雑で面倒だから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	年間の非課税投資限度額(120万円)が小さいから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由はない	(%)
2018年	(8697)	26.4	20.3	17.0	14.3	11.9	10.3	7.2	2.8	2.1	1.9	1.0	0.6	1.0	32.6	
2017年	(7369)	22.8	20.9	17.6	15.9	12.4	10.8	7.7	3.7	2.1	2.5	1.3	0.5	0.8	34.1	
2016年	(8068)	24.3	21.6	16.9	14.5	10.8	9.2	7.7	3.3	2.1	3.2	1.3	0.6	0.9	32.2	

〔図 5-17〕 * 2018年属性別

	n=	投資自体に関心がないから	投資に回すお金がないから	投資の知識がないと難しそうだから	制度の内容を知らないから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	口座開設の申込手続きが煩雑で面倒だから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	年間の非課税投資限度額(120万円)が小さいから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由はない	(%)
TOTAL	(8697)	26.4	20.3	17.0	14.3	11.9	10.3	7.2	2.8	2.1	1.9	1.0	0.6	1.0	32.6	
性別																
男性	(4106)	23.2	18.9	13.1	11.3	10.0	7.3	7.6	3.8	2.4	2.7	1.2	0.9	1.3	37.2	
女性	(4591)	29.3	21.5	20.6	17.1	13.5	13.0	6.9	2.0	1.9	1.1	0.9	0.3	0.7	28.5	
年代別																
20代	(1141)	18.9	23.6	20.2	22.7	14.9	15.1	8.8	2.6	2.3	1.1	0.7	0.7	1.2	33.1	
30代	(1553)	21.1	21.1	19.8	19.1	16.8	13.6	9.1	3.7	2.9	1.5	1.1	0.4	0.9	31.4	
40代	(1949)	23.2	20.1	16.3	14.4	12.8	10.5	7.7	3.8	3.0	2.2	1.3	0.5	0.7	34.7	
50代	(1491)	27.4	21.1	17.8	13.1	10.8	9.5	6.8	2.0	1.9	1.3	0.9	0.5	0.9	31.7	
60代	(1533)	32.6	19.0	15.0	9.0	7.8	7.1	5.4	2.2	1.0	1.8	0.8	0.6	1.0	32.9	
70代	(1030)	38.3	16.5	12.5	7.3	6.9	5.4	5.1	2.0	1.0	3.6	1.5	1.3	1.5	30.9	
世帯年収別																
100万円未満	(324)	34.6	26.2	19.4	15.7	10.2	12.3	5.6	1.5	1.2	2.2	0.3	0.6	0.6	25.9	
～300万円未満	(1212)	30.2	26.7	17.7	15.3	11.3	10.4	6.4	2.7	1.7	1.4	1.4	0.4	1.5	29.4	
～500万円未満	(1722)	26.9	23.7	17.9	15.0	12.4	11.6	7.3	2.6	1.7	2.1	0.8	0.5	1.2	28.6	
～1000万円未満	(2332)	23.6	19.9	18.2	14.5	13.9	10.0	8.8	3.9	3.0	2.4	1.1	0.9	0.9	29.7	
1000万円以上	(588)	24.0	13.6	15.5	12.1	12.9	10.7	10.4	4.9	3.6	2.9	2.0	1.2	1.7	28.7	

〔図 5-18〕 * 2018年属性別

	n=	投資自体に関心がないから	投資に回すお金がないから	投資の知識がないと難しそうだから	制度の内容を知らないから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	口座開設の申込手続きが煩雑で面倒だから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	年間の非課税投資限度額(120万円)が小さいから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由はない	(%)
TOTAL	(8697)	26.4	20.3	17.0	14.3	11.9	10.3	7.2	2.8	2.1	1.9	1.0	0.6	1.0	32.6	
投資信託保有状況別	保有層・保有経験層															
	現在保有層	(586)	8.4	13.3	10.9	10.4	11.8	8.0	13.5	8.7	4.4	7.2	2.4	1.2	3.9	32.4
	保有経験層(現在非保有)	(301)	25.9	23.3	13.6	10.6	14.0	7.0	12.6	6.0	3.0	5.6	2.3	1.3	2.3	23.6
	金融資産保有経験有	(1756)	20.9	20.4	16.3	11.6	13.6	8.9	9.9	4.8	3.4	3.7	1.8	1.1	1.8	28.4
金融資産保有経験無	(4830)	31.7	23.2	20.1	17.1	12.1	12.2	6.0	1.6	1.6	0.5	0.6	0.4	0.4	29.8	

5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(8) NISA口座での金融商品購入検討のきっかけ

(NISA口座開設・金融商品未購入層)〔Q21①:重複回答〕

- NISA口座での金融商品購入検討のきっかけは、「金融機関窓口などで専門知識を持つ人に教えてもらえたら」(17.3%)が前回同様で最も高い。また前回より「経済が上向きになり、値上がりが期待できる様になったら」(11.8%)が微増。〔図5-19〕
- 年代別でみると、20代で「身近な人に勧められたら」が他の年代より高い。また30代で「初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえらる機会があったら」「低リスクの投資信託商品が充実してきたら」がやや高い傾向。〔図5-20〕
- 投信保有状況別でみると、保有経験層で「経済が上向きになり、値上がりが期待できる様になったら」が他層よりやや高い。〔図5-21〕

〔図 5-19〕

	n=	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	身近な人に勧められたら	金融や投資を勉強して理解できたら	経済が上向きになり、値上がりが期待できる様になったら	手取り収入が増えたら	貯蓄が一定額に達したら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	初心者セミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえらる機会があったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	その他	特にない
2018年	(660)	17.3	13.8	13.6	11.8	11.4	10.9	10.3	8.0	7.0	6.5	5.3	1.1	35.2
2017年	(878)	18.8	12.9	12.9	8.2	11.7	9.7	11.4	7.2	8.0	7.4	3.6	1.0	35.5
2016年	(931)	19.7	9.9	13.6	11.7	9.1	9.5	11.5	7.6	8.6	6.6	4.7	1.7	33.2

〔図 5-20〕 * 2018年属性別

	n=	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	身近な人に勧められたら	金融や投資を勉強して理解できたら	経済が上向きになり、値上がりが期待できる様になったら	手取り収入が増えたら	貯蓄が一定額に達したら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	初心者セミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえらる機会があったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	その他	特にない
TOTAL	(660)	17.3	13.8	13.6	11.8	11.4	10.9	10.3	8.0	7.0	6.5	5.3	1.1	35.2
性別														
男性	(386)	15.3	12.2	13.7	10.1	13.0	12.2	10.4	8.8	5.7	5.2	5.2	1.0	34.7
女性	(274)	20.1	16.1	13.5	14.2	9.1	9.1	10.2	6.9	8.8	8.4	5.5	1.1	35.8
年代別														
20代	(72)	18.1	31.9	20.8	9.7	20.8	13.9	4.2	5.6	6.9	6.9	4.2	0.0	15.3
30代	(80)	13.8	15.0	11.3	11.3	18.8	15.0	10.0	12.5	11.3	7.5	0.0	1.3	33.8
40代	(111)	23.4	22.5	18.9	15.3	16.2	17.1	17.1	8.1	8.1	8.1	8.1	0.9	26.1
50代	(108)	18.5	10.2	17.6	9.3	15.7	15.7	11.1	8.3	8.3	5.6	5.6	0.9	31.5
60代	(152)	16.4	7.2	9.2	13.8	3.9	7.9	5.9	7.9	5.9	7.2	7.2	1.3	46.1
70代	(137)	13.9	6.6	8.8	10.2	2.9	1.5	12.4	6.6	3.6	4.4	4.4	1.5	44.5
世帯年収別														
100万円未満	(20)	30.0	25.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	5.0	5.0	0.0	5.0	0.0	45.0
~300万円未満	(94)	27.7	9.6	16.0	11.7	9.6	8.5	8.5	11.7	8.5	7.4	7.4	2.1	30.9
~500万円未満	(149)	16.8	11.4	13.4	12.8	12.1	10.1	12.1	9.4	4.7	5.4	4.7	2.0	33.6
~1000万円未満	(199)	16.6	16.6	13.6	9.0	17.1	14.6	10.1	5.5	7.0	6.5	6.5	0.5	29.1
1000万円以上	(74)	17.6	14.9	18.9	18.9	14.9	16.2	14.9	13.5	12.2	10.8	5.4	1.4	28.4

〔図 5-21〕 * 2018年属性別

	n=	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	身近な人に勧められたら	金融や投資を勉強して理解できたら	経済が上向きになり、値上がりが期待できる様になったら	手取り収入が増えたら	貯蓄が一定額に達したら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	初心者セミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえらる機会があったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	その他	特にない	
TOTAL	(660)	17.3	13.8	13.6	11.8	11.4	10.9	10.3	8.0	7.0	6.5	5.3	1.1	35.2	
投資信託保有状況別	保有層・保有経験層														
	現在保有層	(166)	18.7	13.3	18.1	14.5	10.8	12.0	8.4	10.2	9.6	6.0	6.0	1.2	30.7
	保有経験層(現在非保有)	(66)	16.7	6.1	13.6	21.2	6.1	6.1	12.1	7.6	6.1	6.1	0.0	3.0	33.3
	金融資産保有経験有	(258)	18.6	14.7	12.8	10.1	12.0	13.6	12.0	9.3	6.6	8.9	7.0	0.4	32.9
金融資産保有経験無	(123)	15.4	18.7	9.8	8.1	14.6	8.9	8.9	4.1	4.9	4.1	5.7	1.6	39.8	

5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(9) NISA口座開設検討のきっかけ

(NISA認知・口座未開設層)[Q21①:重複回答]

- NISA口座開設検討のきっかけは、前回より大きな変動はみられず、「手取り収入が増えたら」(14.4%)「金融や投資を勉強して理解できたら」(13.5%)が上位にあがる。〔図5-22〕
- 年代別では、若年層ほど経済的状況の変化や知識不足の解消、および「身近な人の勧め」が高くなる傾向。〔図5-23〕
- 投信保有状況別でみると、保有層・保有経験層では「経済が上向きになり、値上がり期待できる様になった」が、認知・保有未経験層では「手取り収入が増えたら」と経済的理由が高くなる様子。〔図5-24〕

〔図 5-22〕

	n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できたら	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者セミナーなど、仕組みやわかりやすく説明してもらえる機会があったら	身近な人に勧められたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になった	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	その他	特にな
2018年	(8697)	14.4	13.5	9.6	9.5	9.1	9.0	7.9	7.7	6.9	5.4	3.6	0.4	57.0
2017年	(7369)	13.5	14.2	10.3	10.0	9.5	8.0	7.3	7.9	7.9	6.4	4.3	0.5	57.5
2016年	(8068)	14.4	13.7	9.3	10.9	9.6	8.2	8.4	6.9	7.5	5.3	4.4	0.6	56.3

〔図 5-23〕 * 2018年属性別

	n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できたら	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者セミナーなど、仕組みやわかりやすく説明してもらえる機会があったら	身近な人に勧められたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になった	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	その他	特にな
TOTAL	(8697)	14.4	13.5	9.6	9.5	9.1	9.0	7.9	7.7	6.9	5.4	3.6	0.4	57.0
性別														
男性	(4106)	14.6	12.2	8.4	9.9	7.4	7.1	7.3	5.9	7.5	4.6	3.6	0.5	59.4
女性	(4591)	14.1	14.6	10.7	9.1	10.7	10.7	8.4	9.3	6.4	6.1	3.7	0.3	54.9
年代別														
20代	(1141)	21.1	20.3	15.9	15.9	15.0	15.8	7.8	9.6	5.4	6.0	3.1	0.4	47.8
30代	(1553)	20.4	19.5	12.5	11.5	12.5	13.2	8.8	10.0	7.2	7.1	3.5	0.2	47.5
40代	(1949)	17.3	14.2	10.8	10.4	9.2	9.6	7.3	7.7	8.5	5.7	3.8	0.4	53.6
50代	(1491)	14.0	11.9	8.9	8.6	8.9	6.5	10.1	7.8	7.0	6.1	6.3	0.7	57.4
60代	(1533)	6.1	7.6	5.2	5.6	4.5	4.8	7.5	6.7	6.0	4.1	2.6	0.5	67.2
70代	(1030)	5.0	6.5	3.9	4.5	4.7	3.9	5.2	3.4	6.4	2.2	1.7	0.5	72.3
世帯年収別														
100万円未満	(324)	12.3	14.2	7.4	12.0	8.0	9.6	7.1	8.3	6.8	6.5	2.8	0.3	59.0
~300万円未満	(1212)	17.0	12.2	8.4	10.1	7.5	6.6	7.3	7.8	5.1	6.1	2.8	0.2	60.1
~500万円未満	(1722)	18.3	13.6	11.7	10.9	10.6	9.6	8.8	8.7	7.0	5.5	3.9	0.5	52.9
~1000万円未満	(2332)	15.4	14.8	10.6	11.1	10.3	10.9	8.5	8.4	8.6	5.5	4.4	0.4	50.5
1000万円以上	(588)	10.0	13.8	13.3	8.8	11.2	11.4	8.7	8.3	9.9	7.5	5.1	1.4	48.3

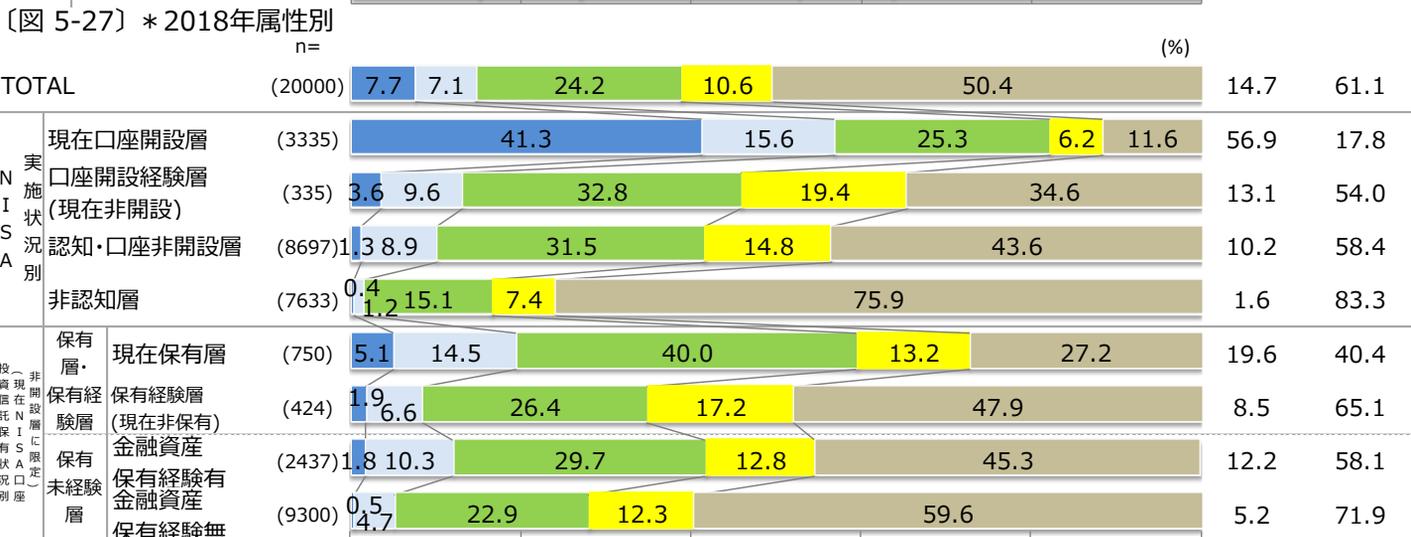
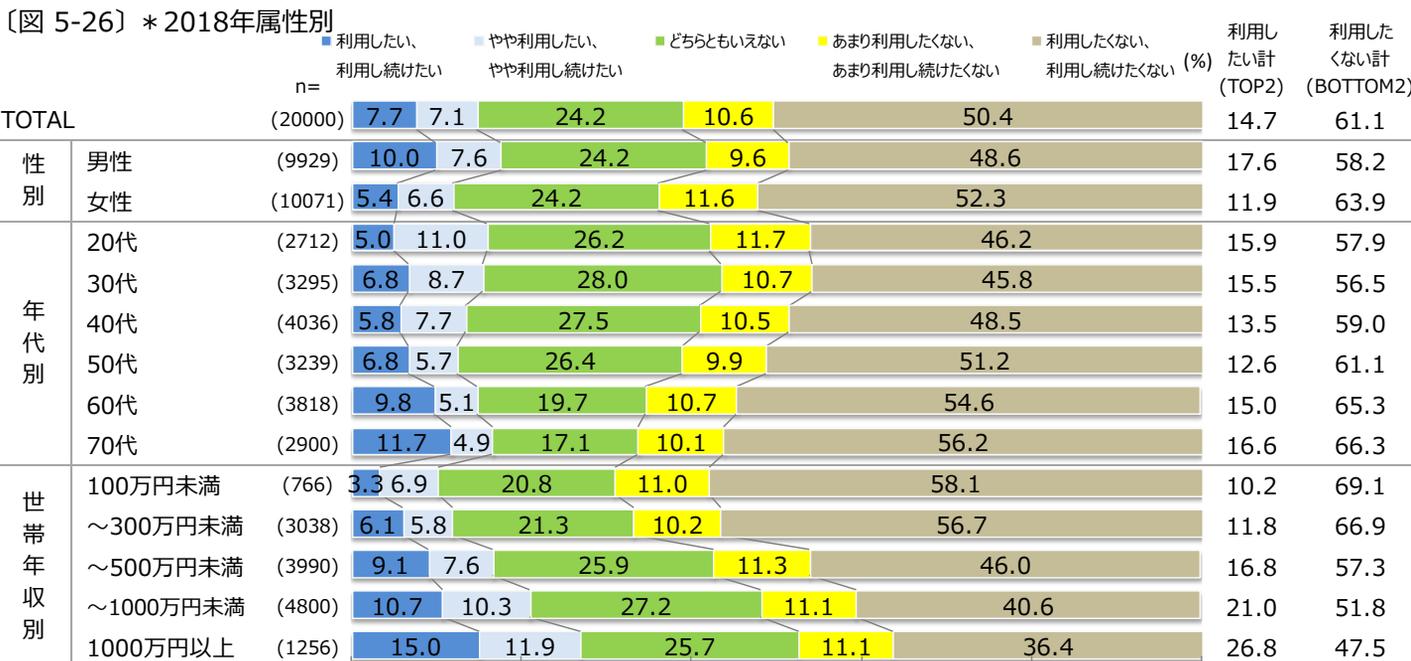
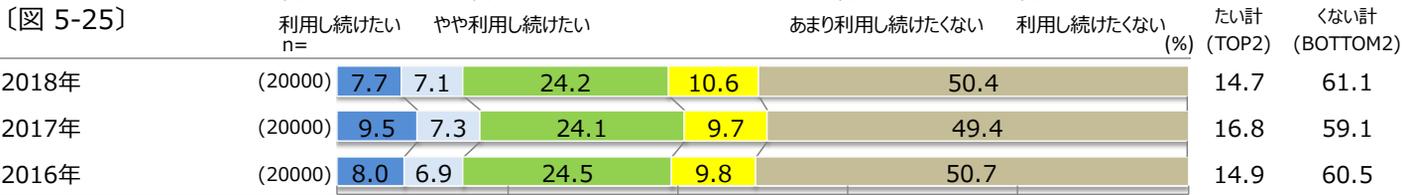
〔図 5-24〕 * 2018年属性別

	n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できたら	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者セミナーなど、仕組みやわかりやすく説明してもらえる機会があったら	身近な人に勧められたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になった	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	その他	特にな		
TOTAL	(8697)	14.4	13.5	9.6	9.5	9.1	9.0	7.9	7.7	6.9	5.4	3.6	0.4	57.0		
投資信託保有状況別	保有層・保有経験層	現在保有層	(586)	9.4	14.8	12.1	9.2	9.0	9.6	11.9	8.9	13.1	8.9	3.6	1.4	46.4
		保有経験層(現在非保有)	(301)	8.3	10.3	8.0	9.0	6.3	7.0	13.6	11.3	12.3	9.0	3.7	0.7	53.2
	認知・保有未経験層	金融資産保有経験有	(1756)	14.9	14.3	9.9	10.6	9.1	8.1	9.1	7.9	10.1	6.3	5.0	0.7	50.7
		金融資産保有経験無	(4830)	16.3	14.4	10.3	10.2	10.3	9.9	7.2	8.1	5.3	4.9	3.4	0.2	57.2

5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(10) NISAの今後の利用意向〔Q22①:単数回答〕

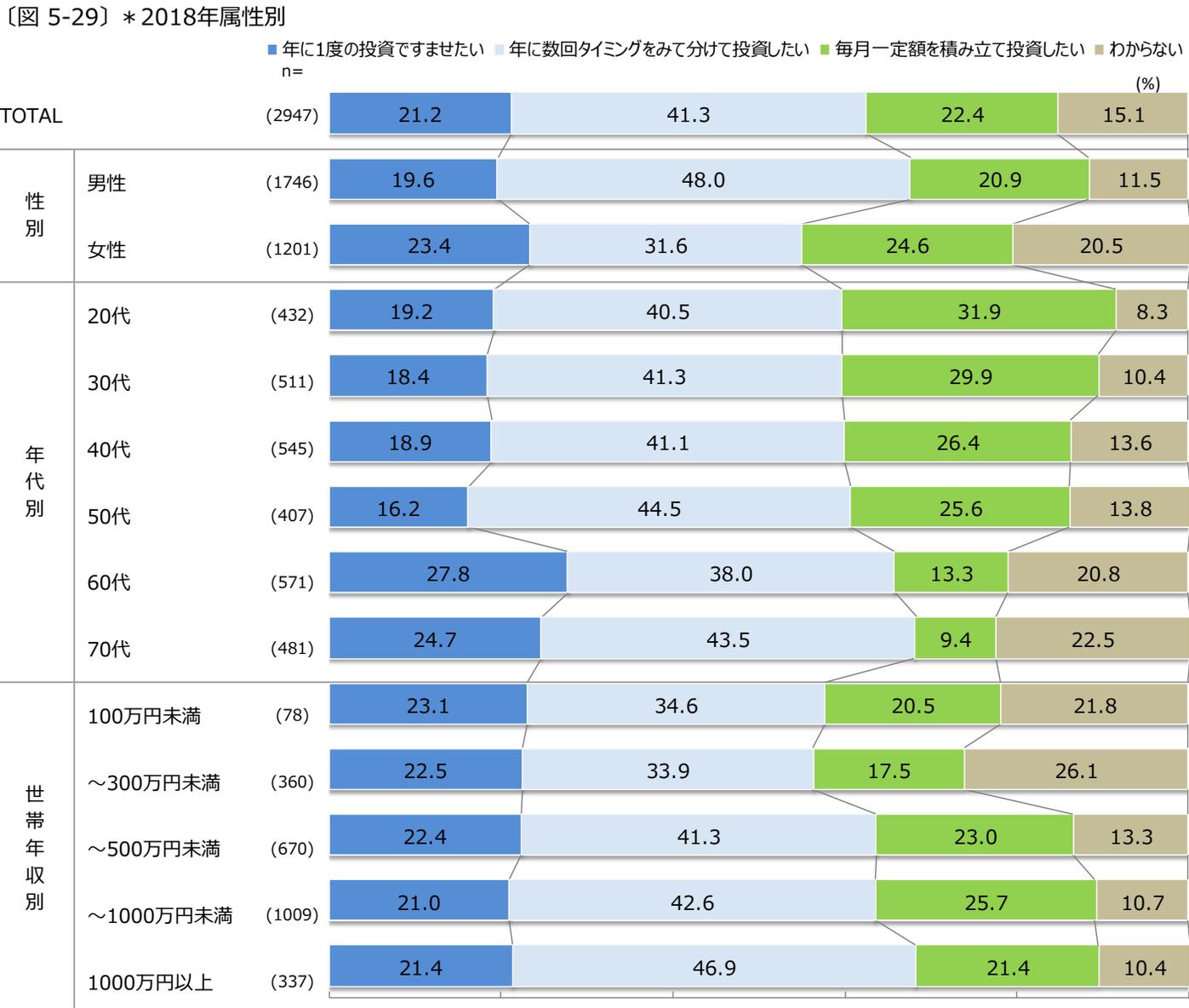
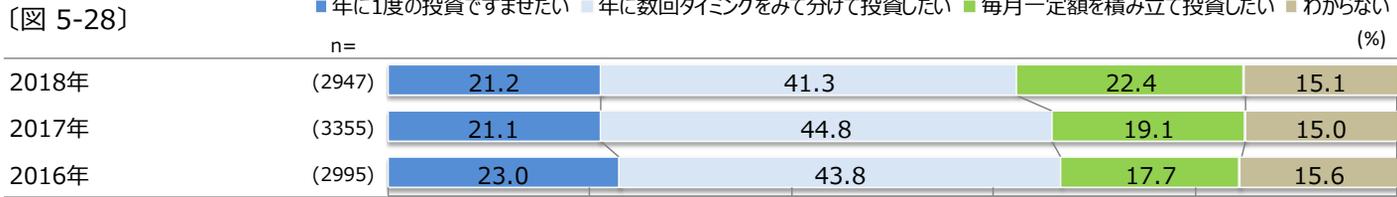
- NISAの利用・継続利用意向は、「利用したい計」(TOP2)が14.7%で前回から僅かに減少、利用したくない計(BOTTOM2)が61.1%で前回からやや増加している。〔図5-25〕
- 「利用したい、利用し続けたい」といった確かな利用意向の割合は年代や世帯年収が上がるにつれ増加する傾向。〔図5-26〕
- 現在NISA口座開設層は「利用したい計」が56.9%で半数以上が継続意向を示す。〔図5-27〕



5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(11) NISAでの投資方法意向(NISA今後利用意向者)[Q23①:単数回答]

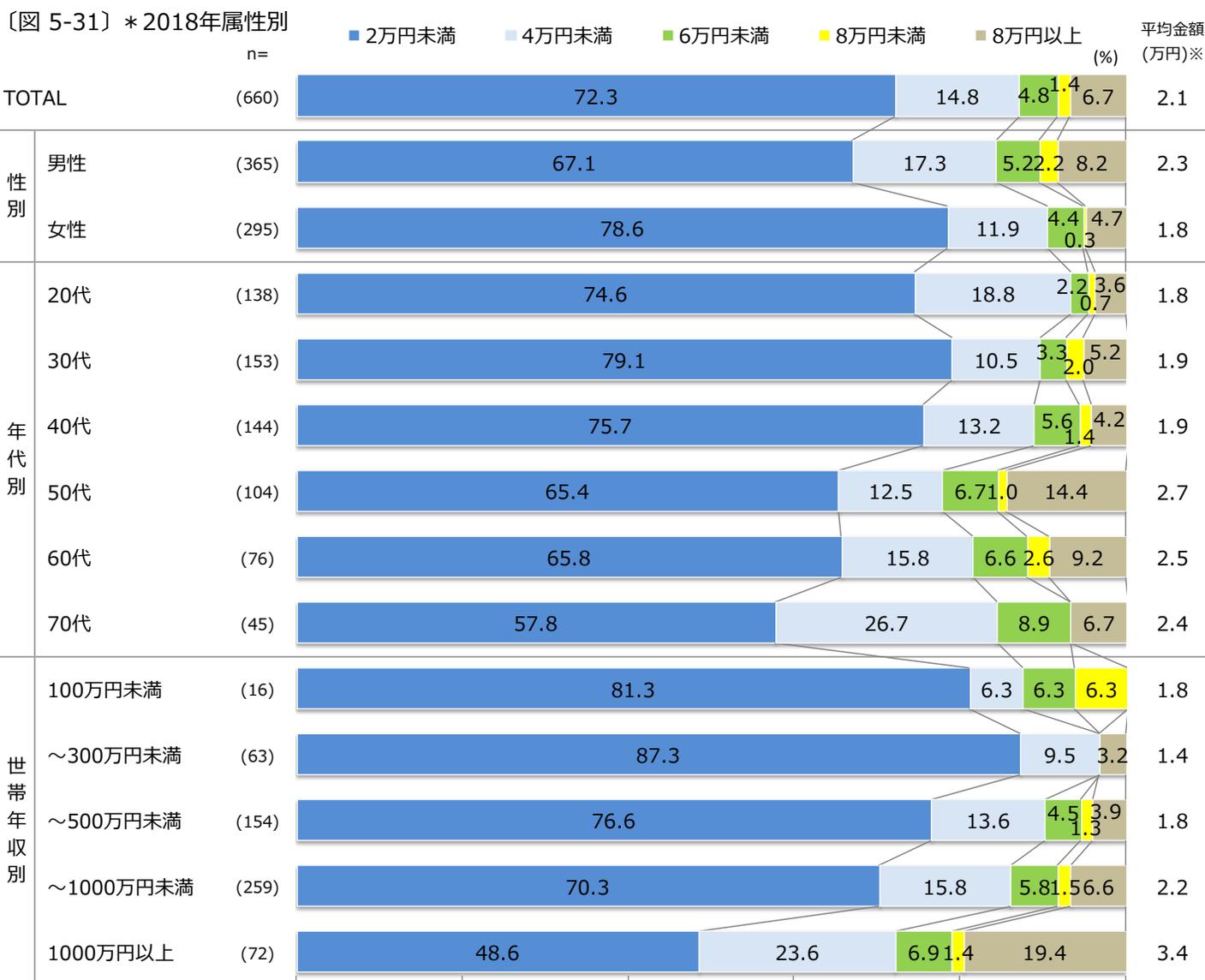
- NISAで実施したい投資方法は、前回同様「年に数回タイミングをみて分けて」(41.3%)が最多、「毎月一定額積立投資」は22.4%と前回より僅かに増加。〔図5-28〕
- 若年層ほど「毎月一定額積立投資意向」が高くなる。また世帯収入が上がるにつれ「年に数回タイミングをみて分けて投資したい」意向が高くなる。〔図5-29〕



5. NISAの浸透状況、今後の利用意向

(12) NISAでの月次積立投資希望額(NISAで毎月一定額を積立投資したい者ベース)[Q24①:単数回答]

- NISAでの月次積立投資希望額は前回より「2万円未満」(72.3%)がやや増加、平均金額(2.1万円)はやや減少。〔図5-30〕
- 平均金額は40代以下で2万円弱。50代以上で2万円台となる。また年収が上がるにつれ高くなる傾向。〔図5-31〕



※平均値算出にあたってのウエイト値 2万円未満：1万円／4万円未満：3万円／6万円未満：5万円／8万円未満：7万円／8万円以上：9万円

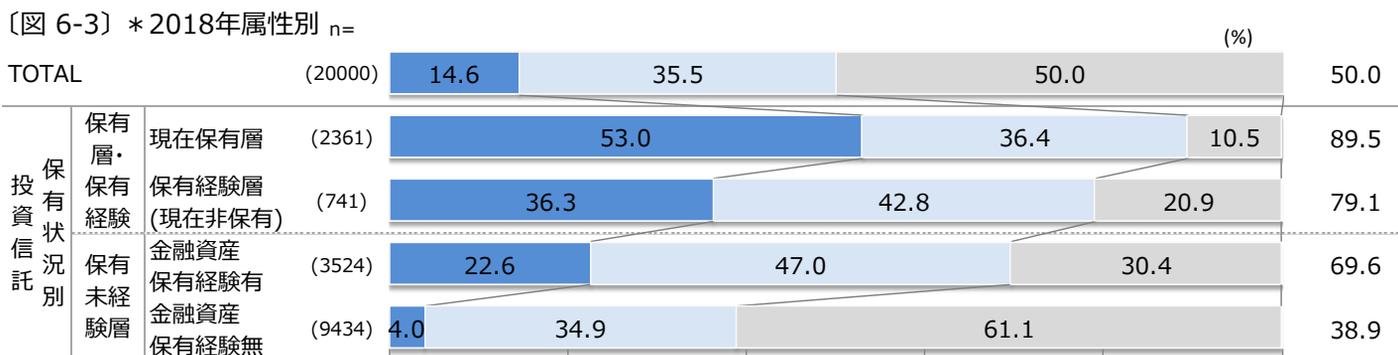
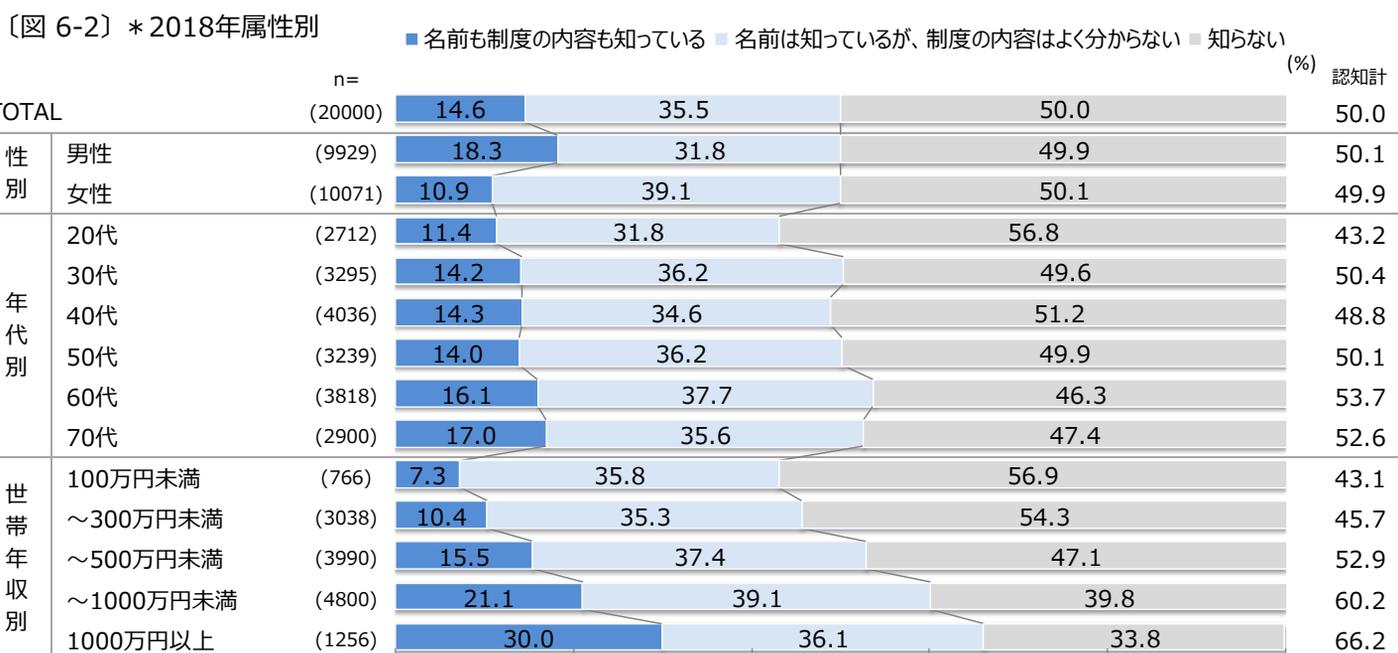
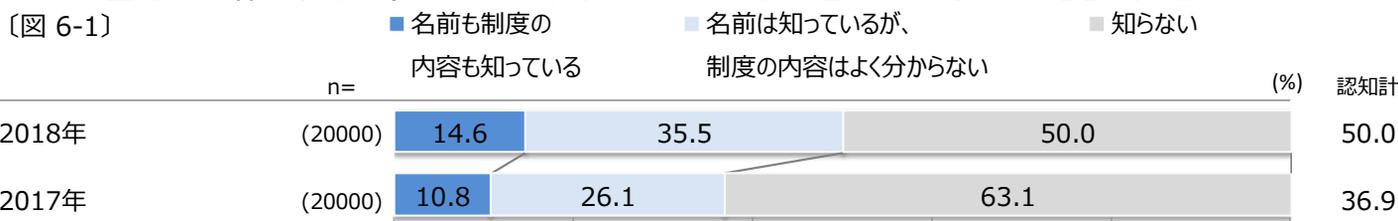
6. つみたてNISAの 今後の利用意向



6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(1) つみたてNISAの認知〔Q15②:単数回答〕

- つみたてNISAの認知率(認知計)は50.0%と前回36.9%より13.1ポイント増加。制度内容認知率(14.6%と)も前回(10.8%)よりやや増加となる。〔図6-1〕
- 年代間で認知率に大きな差はみられない。また世帯年収が上がるにつれ認知率は高まる傾向。〔図6-2〕
- 投資信託保有状況別で見ると、投資への関与が強い層ほど認知率は高く、現在保有層で89.5%、保有経験層では79.1%に達する。一方で最もボリュームの大きい保有未経験層(金融資産保有経験無)での認知率は38.9%、制度内容認知率は4.0%と低い。〔図6-3〕



6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

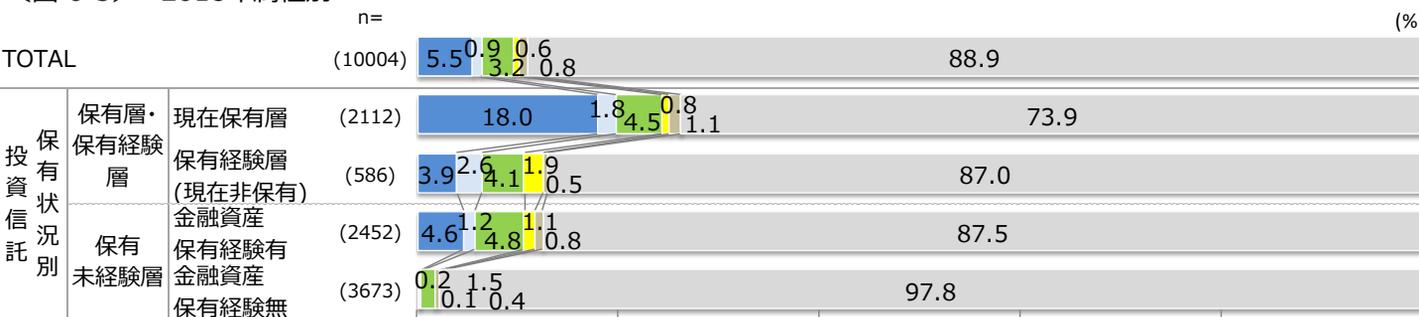
(2) つみたてNISAの利用状況〔Q16②:単数回答〕

- つみたてNISAを知っている人のうち、同制度での現在金融商品保有者は5.5%に留まる。〔図6-4〕
- 投資信託の現在保有層では、同制度での現在金融商品保有者が18.0%で他層より高くなる。〔図6-5〕

〔図 6-4〕 * 2018年属性別



〔図 6-5〕 * 2018年属性別

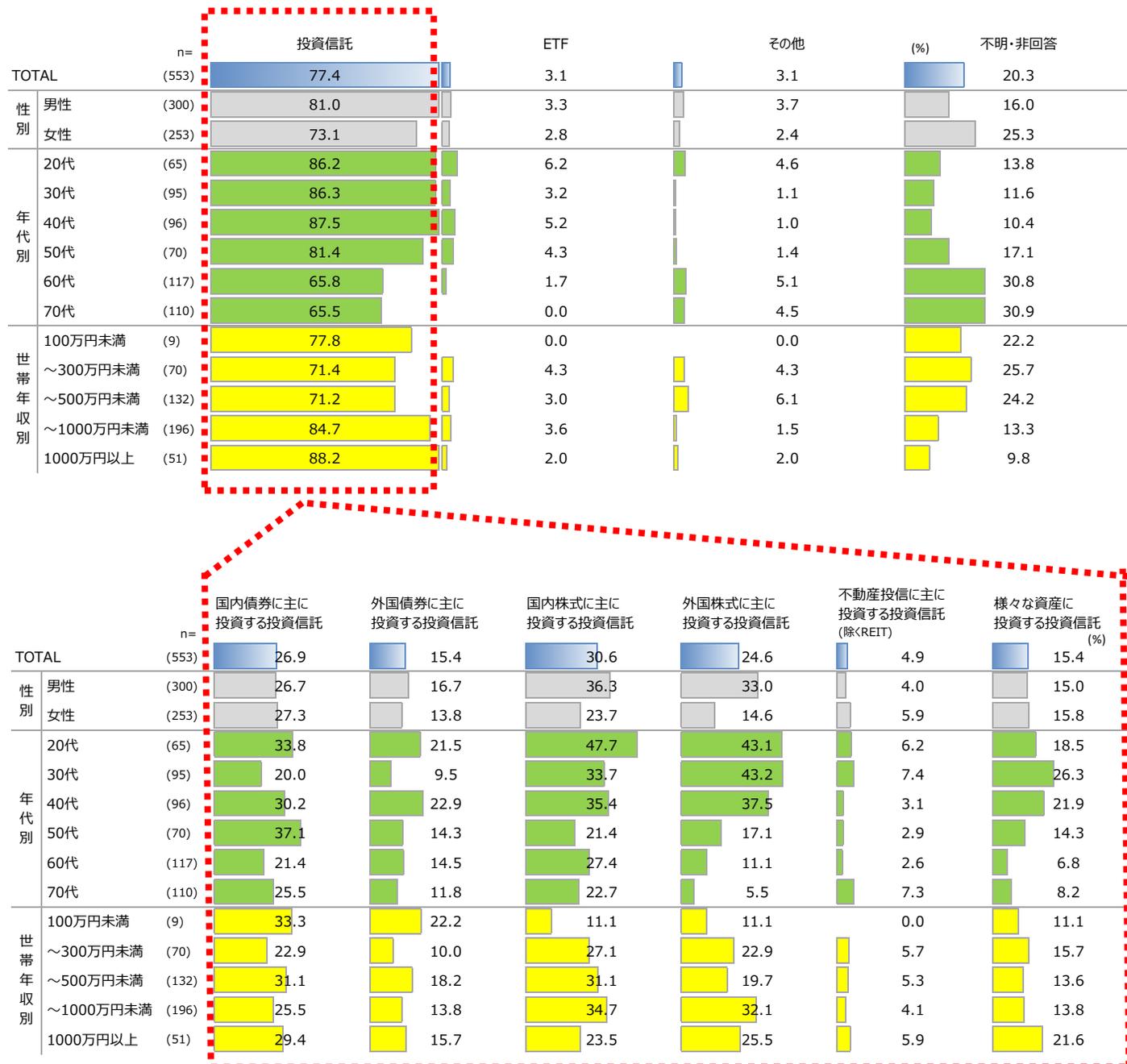


6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(3) つみたてNISAでの保有金融商品〔Q17②:重複回答〕

- つみたてNISAでの保有金融商品をカテゴリごとにとみると、「投資信託」の保有率が77.4%を占める。また「投信信託」の詳細な商品で確認すると、「国内株式に主に投資する投資信託」(30.6%)の保有率が最も高い。〔図6-6〕
- 「国内株式／外国株式に主に投資する投資信託」では若年層ほど保有率が高くなる傾向。〔図6-6〕

〔図 6-6〕 * 2018年属性別



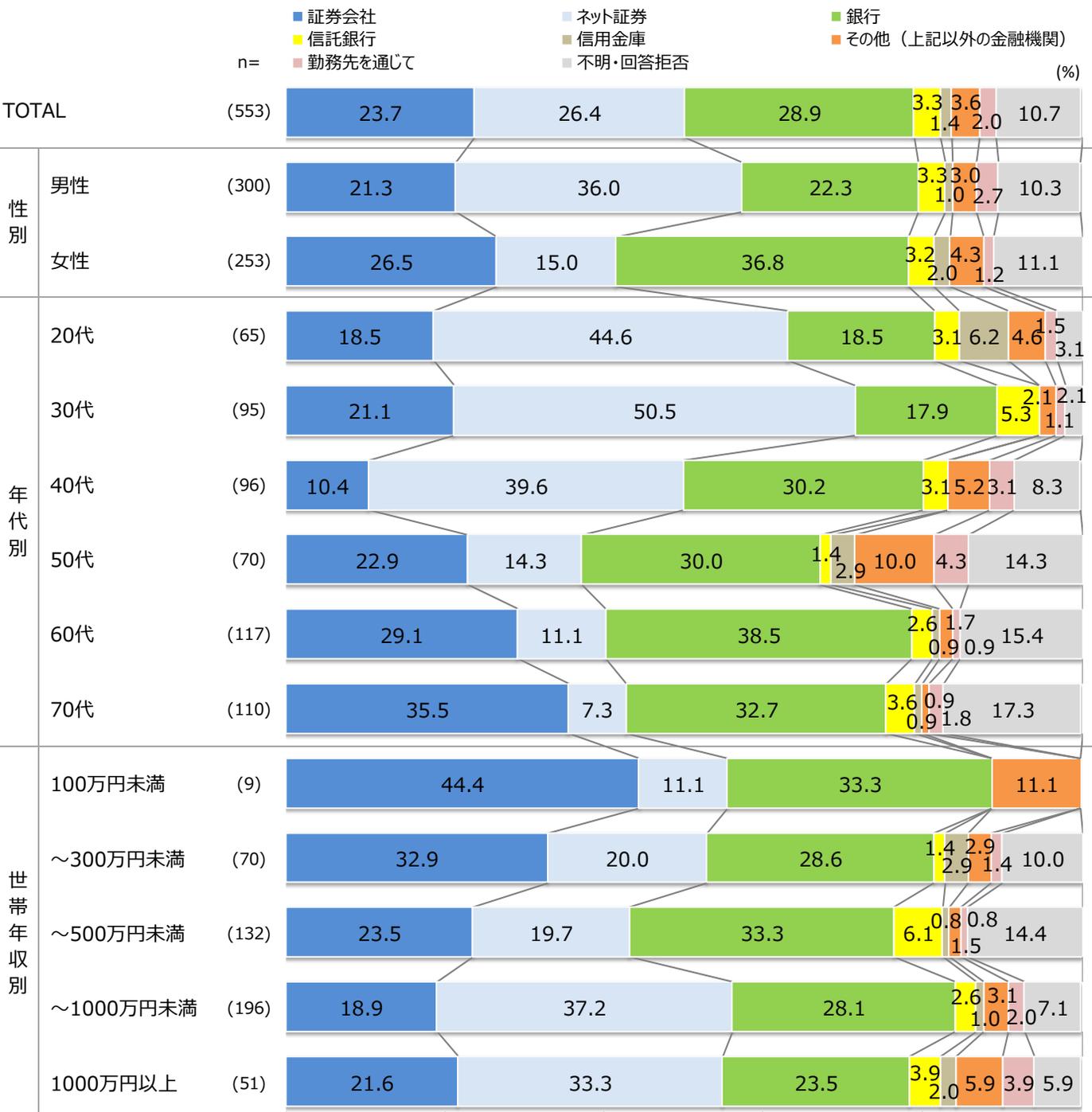
6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(4) つみたてNISAの口座開設検討機関

(つみたてNISAでの現在口座開設者)[Q19②:単数回答]

- つみたてNISAの口座開設金融機関は「銀行」が28.9%で最多、次いで「ネット証券」(26.4%)、「証券会社」(23.7%)が続く。「証券会社」は高齢層ほど多く、「ネット証券」は若年層ほど多くなる傾向。〔図6-7〕

〔図 6-7〕 * 2018年属性別



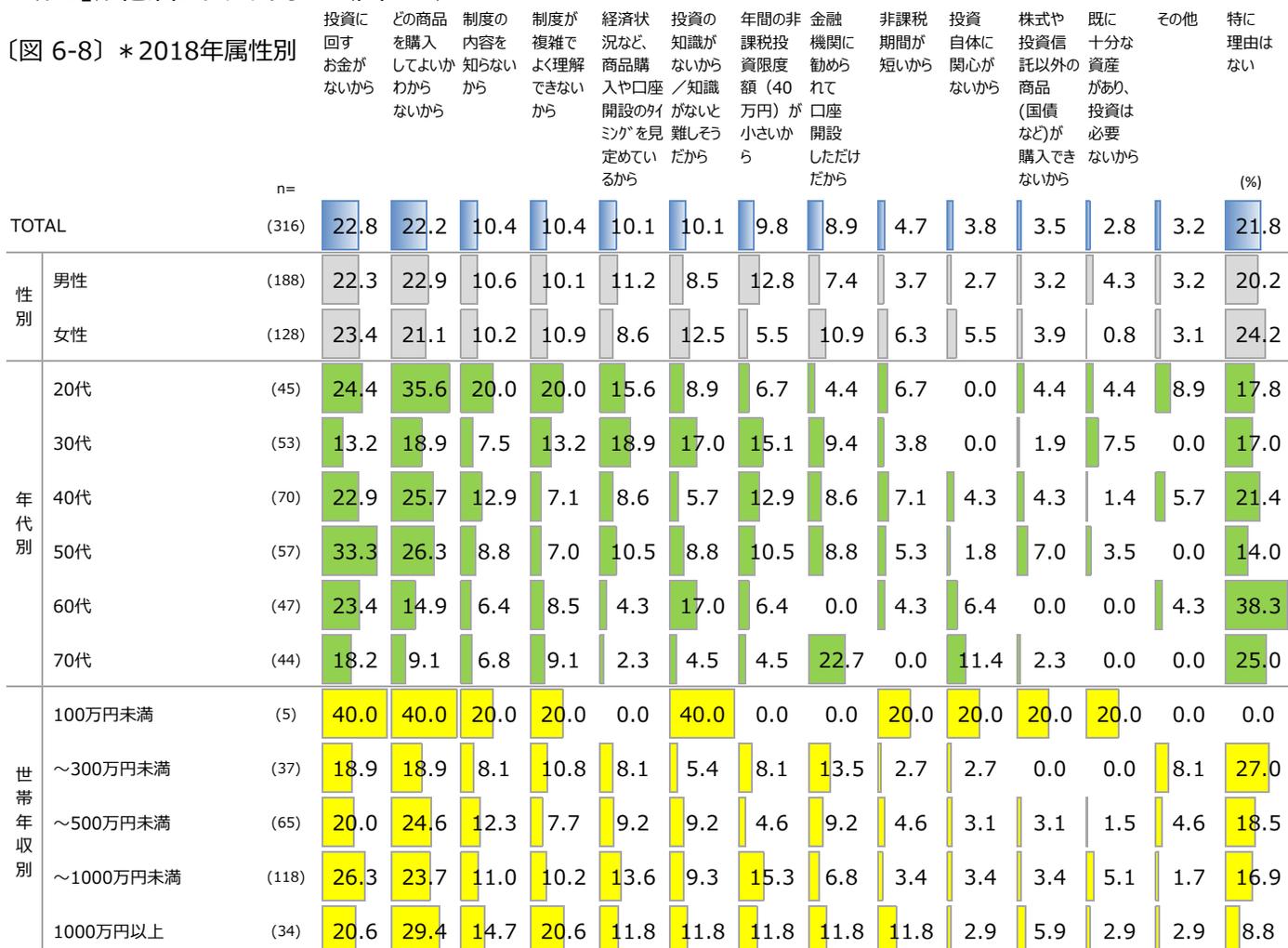
6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(5) つみたてNISA口座開設・金融商品未購入理由

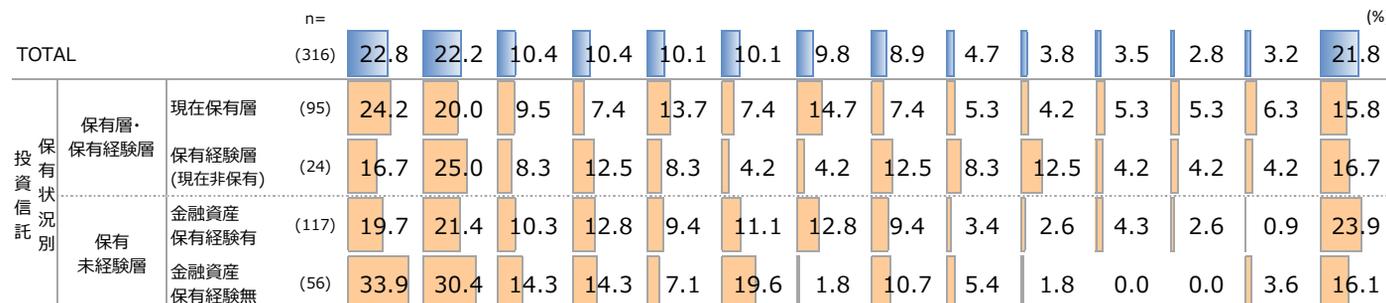
(つみたてNISA口座開設・金融商品未購入層)[Q20②:重複回答]

- つみたてNISAでの金融商品未購入理由は、「投資に回すお金がない」(22.8%)、「どの商品を購入してよいかわからない」(22.2%)が上位にあがる。〔図6-8〕
- 年代別では、20代・30代で「制度が複雑でよく理解できない」「タイミングを見定めている」がやや高い。〔図6-8〕
- 投信保有状況別でみると、現在保有層で「タイミングを見定めているから」「年間非課税投資限度額が小さいから」が他層よりやや高い。〔図6-9〕

〔図 6-8〕 * 2018年属性別



〔図 6-9〕 * 2018年属性別



6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(6) つみたてNISA口座未開設理由

(つみたてNISA認知・口座未開設層)[Q20②:重複回答]

- つみたてNISA口座未開設理由は「投資自体に関心がない」(20.3%)、「投資に回すお金がない」(18.5%)が上位にあがる。〔図6-10〕
- 若年層ほど「投資の知識がない／知識がないと難しそう」「制度の内容を知らない」「どの商品を購入してよいかわからない」「制度が複雑で理解できない」といった知識不足や理解不足が理由として高い。〔図6-10〕
- 投信保有状況別でみると、現在保有層で「年間の非課税投資限度額が小さくなる」がやや高い。〔図6-11〕

〔図 6-10〕 * 2018年属性別

		n=	投資自体に関心がないから	投資に回すお金がないから	投資の知識がないから	制度の内容を知らないから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	口座開設の申込み手続きが煩雑で面倒だから	年間の非課税投資限度額(40万円)が小さいから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	非課税期間が短いから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由はなし	(%)
TOTAL		(8896)	20.3	18.5	13.1	13.0	9.9	8.4	5.7	3.7	2.6	2.0	1.3	0.8	1.3	35.3	
性別	男性	(4351)	16.8	17.0	9.5	9.9	8.2	5.7	6.1	5.7	2.9	2.4	1.7	1.1	1.5	39.8	
	女性	(4545)	23.7	20.0	16.6	15.9	11.6	11.0	5.3	1.9	2.4	1.6	0.9	0.6	1.2	31.0	
年代別	20代	(1016)	18.1	21.9	19.4	20.6	13.1	14.8	7.7	3.1	3.3	1.5	1.1	0.7	1.4	31.3	
	30代	(1483)	16.5	21.1	16.5	17.8	13.8	11.1	6.9	3.9	3.8	2.2	1.3	0.5	1.2	32.8	
	40代	(1775)	17.4	19.7	14.3	14.0	11.5	8.9	7.8	3.6	3.5	2.5	1.5	0.8	1.4	35.8	
	50代	(1471)	20.7	18.6	13.1	12.4	8.6	8.6	4.8	3.3	2.2	1.8	0.9	0.3	1.4	35.0	
	60代	(1830)	23.7	15.4	9.4	8.9	6.3	5.2	4.1	4.1	1.5	1.7	1.1	1.0	1.1	38.1	
	70代	(1321)	25.0	15.6	8.3	6.6	7.3	4.0	3.0	4.2	1.5	2.0	1.7	1.6	1.6	36.9	
世帯年収別	100万円未満	(301)	30.2	26.6	15.3	15.3	11.3	11.6	5.6	3.3	2.0	1.3	0.7	0.7	1.0	25.6	
	～300万円未満	(1238)	22.9	23.0	14.7	13.2	10.5	8.0	5.1	2.3	2.3	1.5	1.6	0.4	1.3	33.1	
	～500万円未満	(1837)	19.8	22.1	13.4	12.7	9.9	8.7	5.0	3.5	2.5	1.8	1.6	0.6	1.7	32.1	
	～1000万円未満	(2522)	18.3	17.8	12.8	13.0	11.3	8.0	6.9	5.0	3.6	2.5	1.3	1.5	1.6	32.7	
	1000万円以上	(730)	16.3	10.7	10.8	11.2	8.6	8.5	7.3	7.8	3.2	3.2	1.4	1.1	2.2	34.2	

〔図 6-11〕 * 2018年属性別

		n=	投資自体に関心がないから	投資に回すお金がないから	投資の知識がないから	制度の内容を知らないから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	口座開設の申込み手続きが煩雑で面倒だから	年間の非課税投資限度額(40万円)が小さいから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	非課税期間が短いから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	その他	特に理由はなし	(%)
TOTAL		(8896)	20.3	18.5	13.1	13.0	9.9	8.4	5.7	3.7	2.6	2.0	1.3	0.8	1.3	35.3	
投資信託保有状況別	保有層・保有経験層	(1561)	7.6	12.2	5.4	8.5	7.8	4.6	6.9	10.1	4.5	3.3	2.8	1.4	3.7	39.8	
	保有経験層(現在非保有)	(510)	14.3	18.6	7.6	8.4	9.2	3.9	6.7	7.6	3.3	3.3	2.0	1.2	1.0	35.5	
	保有金融資産保有経験有	(2145)	15.0	18.7	11.0	11.5	10.4	7.7	7.0	5.0	3.0	3.1	1.8	1.2	1.7	34.4	
	未経験層金融資産保有経験無	(3592)	29.3	22.8	20.0	17.3	11.5	11.7	4.9	0.6	1.9	0.8	0.4	0.5	0.4	29.4	

6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(7) つみたてNISAでの金融商品購入検討のきっかけ

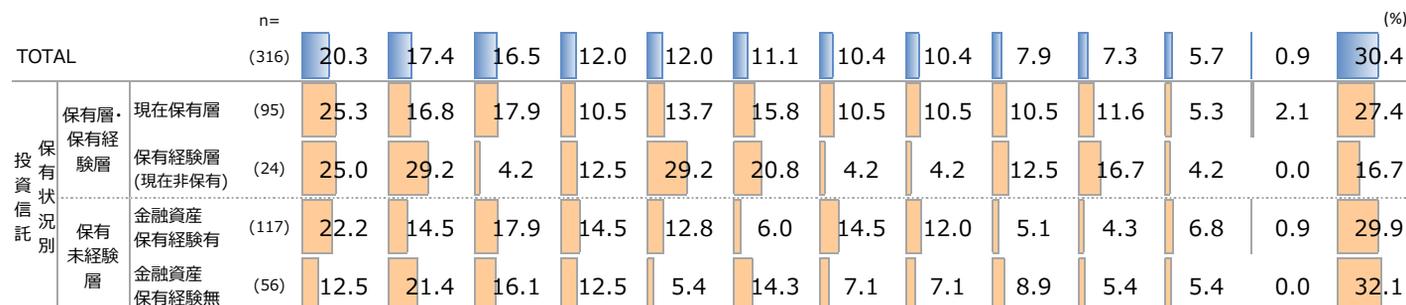
(つみたてNISA口座開設・金融商品未購入層)[Q21②:重複回答]

- つみたてNISA口座での金融商品購入検討のきっかけは、「金融や投資を勉強して理解できたら」(20.3%)が最も高い。次いで「手取り収入が増えたら」(17.4%)、「金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら」(16.5%)が続く。〔図6-12〕
- 年代別で見ると、20代で「手取り収入が増えたら」「金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら」が他の年代より高い。また30代で「貯蓄が一定額に達したら」がやや高い。〔図6-12〕

〔図 6-12〕 * 2018年属性別



〔図 6-13〕 * 2018年属性別



6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(8) つみたてNISAでの口座開設検討のきっかけ (つみたてNISA認知・口座未開設層)[Q21②:重複回答]

- つみたてNISA口座開設検討のきっかけは、「手取り収入が増えたら」(13.4%)、「金融や投資を勉強して理解できたら」(11.3%)が上位にあがる。その他の項目はいずれも1割未満となる。〔図6-14〕
- 年代別では若年層ほど経済的理由や知識不足の解消、「身近な人の勧め」が高くなる傾向。〔図6-14〕
- 投信保有状況別でみると、投資への関与が高くなるほど、「税制上の優遇措置がより拡充してきたら」「経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら」が高くなる。〔図6-15〕

〔図 6-14〕 * 2018年属性別

		n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できたら	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者セミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえらる機会があったら	身近な人に勧められたら	税制上の優遇措置がより拡充してきたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	その他	特にない	(%)
TOTAL		(8896)	13.4	11.3	9.8	8.6	8.1	7.9	7.9	7.6	6.4	5.2	2.7	0.6	56.1	
性別	男性	(4351)	13.4	9.8	8.0	8.9	6.1	5.7	8.7	7.2	4.9	4.3	2.7	0.6	58.3	
	女性	(4545)	13.3	12.7	11.4	8.3	10.0	10.0	7.1	8.0	7.9	6.1	2.8	0.5	53.9	
年代別	20代	(1016)	21.8	18.1	14.6	16.4	13.6	14.7	6.3	6.3	8.8	6.1	2.6	0.5	46.2	
	30代	(1483)	20.1	17.5	11.5	12.2	11.7	11.8	8.6	7.3	8.2	7.1	3.4	0.4	46.8	
	40代	(1775)	18.5	12.5	12.5	9.5	8.6	9.6	9.5	7.1	6.8	6.0	2.7	0.7	50.3	
	50代	(1471)	13.0	11.4	9.4	7.5	8.0	6.3	7.8	8.8	6.5	5.6	4.7	0.6	55.7	
	60代	(1830)	4.8	6.2	6.2	4.4	4.4	3.8	7.0	7.5	5.1	3.8	1.9	0.4	66.0	
	70代	(1321)	4.8	4.5	5.9	4.2	4.2	3.5	7.3	8.5	4.1	3.0	1.2	0.7	68.4	
世帯年収別	100万円未満	(301)	13.3	14.3	7.6	12.3	7.3	11.0	6.6	6.0	7.3	6.0	2.3	0.0	56.5	
	～300万円未満	(1238)	14.4	10.3	8.2	8.9	7.3	5.1	6.1	6.9	6.5	4.8	2.7	0.4	60.4	
	～500万円未満	(1837)	17.0	9.9	11.5	9.2	9.3	7.6	7.7	8.9	6.0	5.4	3.5	0.5	53.3	
	～1000万円未満	(2522)	14.9	12.8	11.0	10.2	8.1	9.5	9.1	8.0	7.8	5.9	2.9	0.6	49.4	
	1000万円以上	(730)	8.9	10.8	11.6	8.2	8.2	8.9	11.6	7.5	6.3	7.3	2.6	1.2	50.1	

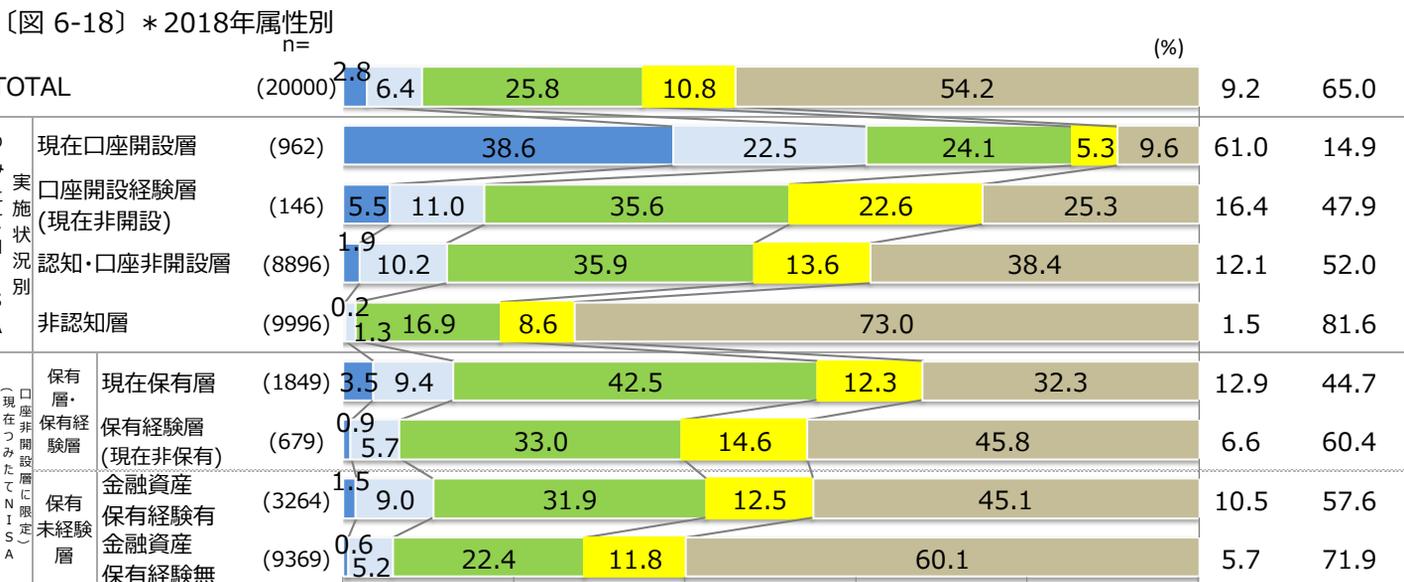
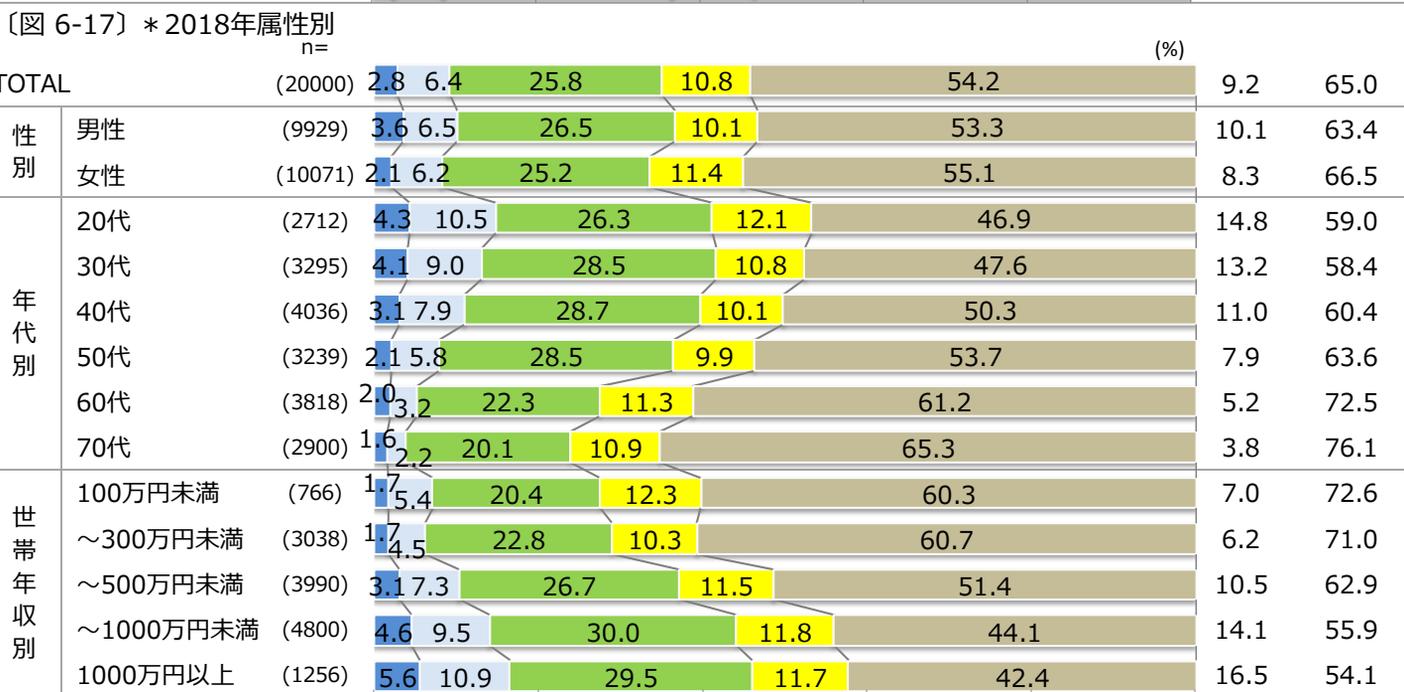
〔図 6-15〕 * 2018年属性別

		n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できたら	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者セミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえらる機会があったら	身近な人に勧められたら	税制上の優遇措置がより拡充してきたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	その他	特にない	(%)
TOTAL		(8896)	13.4	11.3	9.8	8.6	8.1	7.9	7.9	7.6	6.4	5.2	2.7	0.6	56.1	
投資状況別	保有層・保有経験層	(1561)	7.8	8.5	11.9	6.5	5.8	5.2	11.5	10.7	6.3	7.4	1.3	1.4	53.3	
	保有経験層(現在非保有)	(510)	8.8	6.3	7.1	6.3	4.9	4.5	12.0	10.8	5.9	5.7	2.2	0.4	58.6	
	保有層・未経験層	(2145)	13.3	11.2	8.7	9.0	7.8	6.9	10.1	8.3	5.8	5.5	3.5	0.7	52.6	
	未経験層	(3592)	17.7	14.6	11.1	10.7	10.4	10.3	5.5	6.4	7.5	4.9	3.1	0.1	54.5	

6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(9) つみたてNISAの今後の利用意向〔Q22②:単数回答〕

- つみたてNISAの利用意向は「利用したい計」(TOP2)が9.2%、「利用したくない計」(BOTTOM2)が65.0%と前回同水準。「利用したい計」は若年層ほど、また高年収層ほど増加する傾向。〔図6-16〕〔図6-17〕
- 投信の現在保有層では「どちらともいえない」が42.5%と多く、今後の利用を決めかねている様子。保有経験層、保有未経験層はいずれも「利用したくない計」が半数以上となり、利用意向は低い。〔図6-18〕

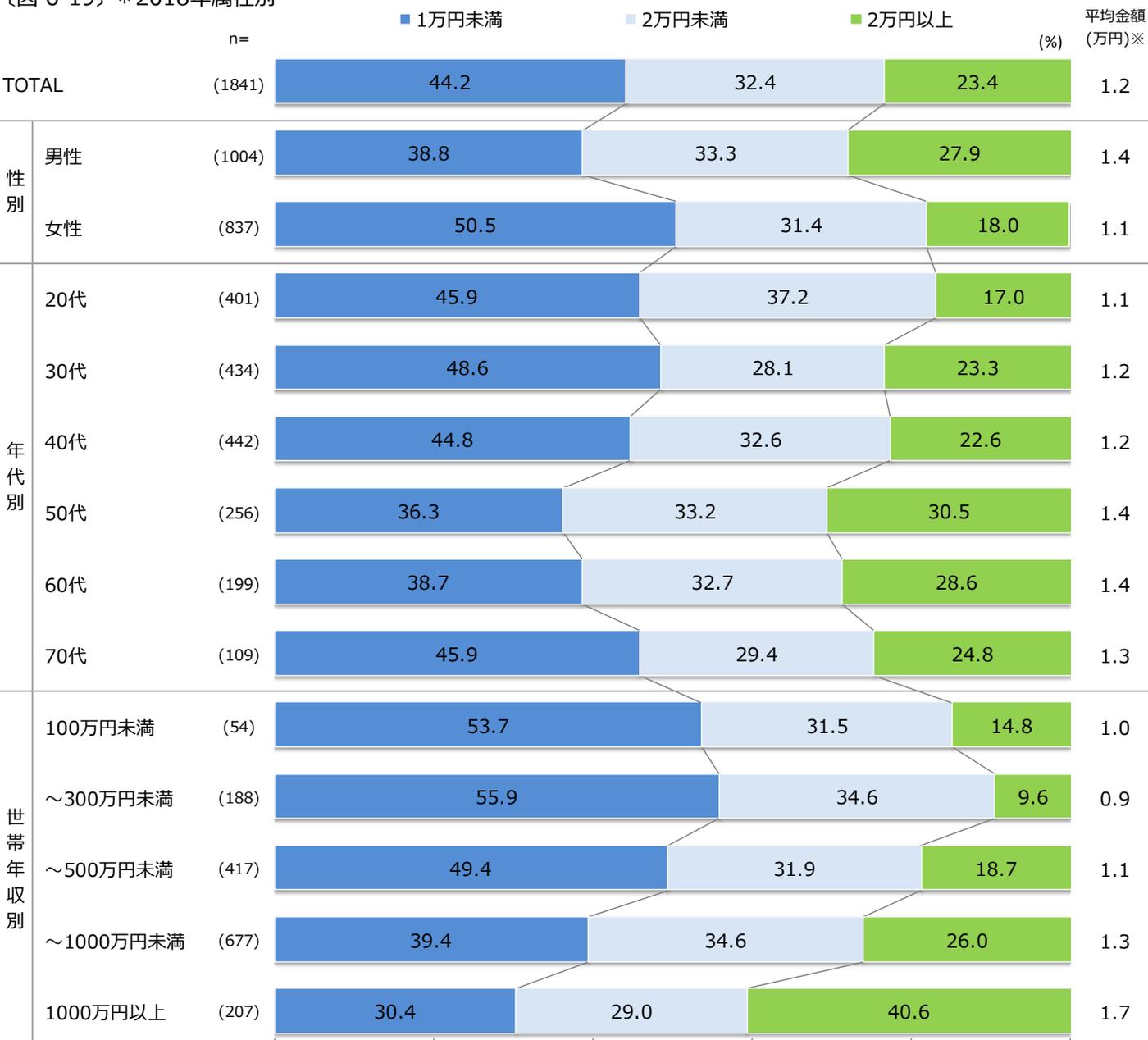


6. つみたてNISAの浸透状況、今後の利用意向

(10) つみたてNISAでの月次積立投資希望額(つみたてNISAで毎月一定額を積立投資したい者ベース)[Q24②:単数回答]

- つみたてNISAでの「毎月定額」の額面は、「1万円未満」が44.2%と多く、平均金額は「1.2万円」となる。平均金額は年代別で大きな差はみられない。〔図6-19〕

〔図 6-19〕 * 2018年属性別



※平均値算出にあたってのウエイト値 1万円未満：0.5万円/2万円未満：1万円/2万円以上：3万円

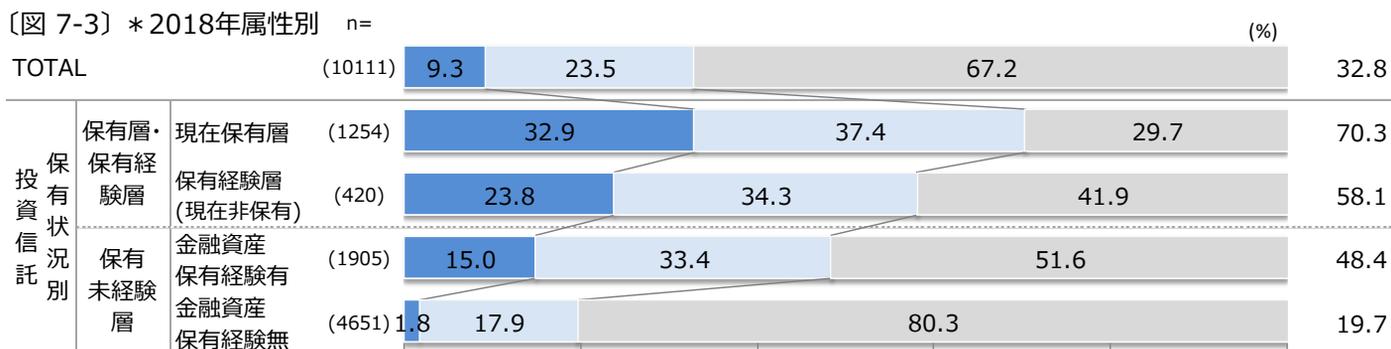
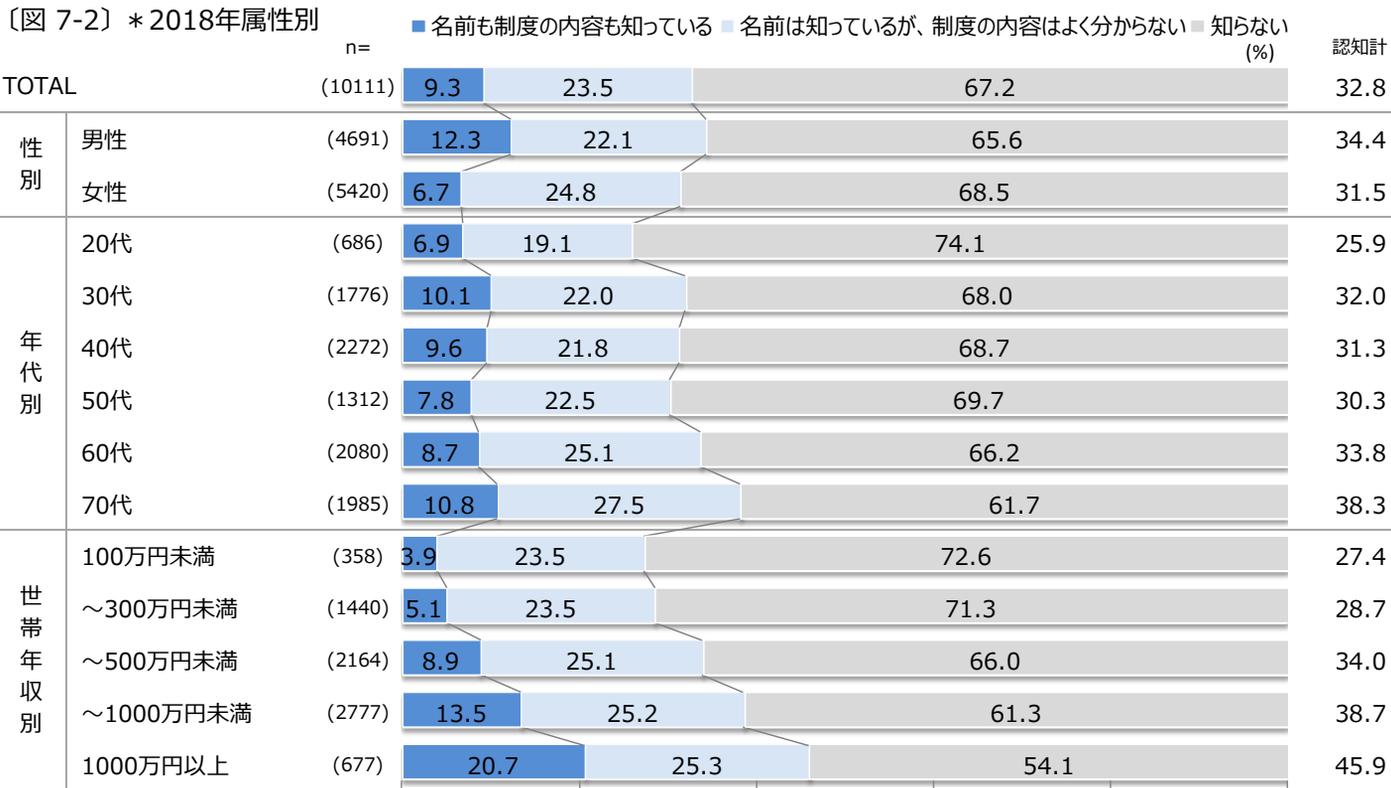
7. ジュニアNISAの浸透状況、 今後の利用意向



7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(1) ジュニアNISAの認知(20歳未満の親族がいる者)〔Q15③:単数回答〕

- ジュニアNISAの認知率(認知計：32.8%)、商品内容認知率(9.3%)は前回よりやや減少。〔図7-1〕
- 年代や世帯年収が上がるにつれ認知率は高まる傾向。〔図7-2〕
- 投資信託保有状況別で見ると、投資への関与が強い層ほど認知率は高くなる。また保有未経験層(金融資産保有経験無)での認知率は19.7%、制度内容認知率は1.8%と金融資産の保有経験がある層と比べ非常に低くなる。〔図7-3〕



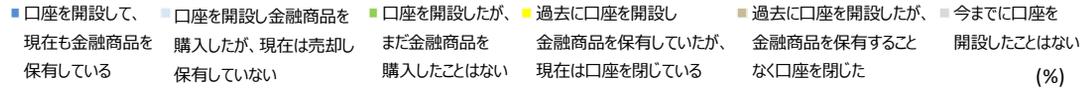
7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(2) ジュニアNISAの利用状況(20歳未満の親族がいる制度認知者) 〔Q16③:単数回答〕

- 同制度で現在金融商品を保有している者は2.3%と前回と同水準。
口座開設未経験は94.1%と依然として大半を占める。〔図7-4〕

- 同制度での現在金融商品保有率は、どの属性でみても5%以下に留まる。〔図7-5〕〔図7-6〕

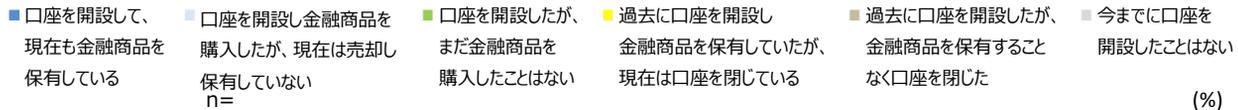
〔図 7-4〕



年	n	現在も金融商品を保有している (%)	過去に口座を開設し金融商品を保有していたが、現在は口座を閉じている (%)	過去に口座を開設したが、金融商品を保有することなく口座を閉じた (%)	今までに口座を開設したことはない (%)	
2018年	(3319)	2.3	0.6	1.8	0.6	94.1
2017年	(3513)	2.5	1.8	0.8	0.8	94.1
2016年	(4601)	1.7	2.0	0.6	0.6	95.2

〔図 7-5〕 * 2018年属性別

※選択肢「口座を開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」は2018年より聴取



属性	性別	年代	世帯年収	n	現在も金融商品を保有している (%)	過去に口座を開設し金融商品を保有していたが、現在は口座を閉じている (%)	過去に口座を開設したが、金融商品を保有することなく口座を閉じた (%)	今までに口座を開設したことはない (%)	
TOTAL				(3319)	2.3	0.6	1.8	0.7	94.1
性別	男性			(1614)	3.1	0.7	2.4	0.7	92.4
	女性			(1705)	1.5	0.4	1.2	0.6	95.7
年代別		20代		(178)	1.7	1.7	5.1	2.8	84.8
		30代		(569)	4.6	0.7	1.8	0.5	91.4
		40代		(712)	3.8	1.0	2.4	0.6	91.6
		50代		(397)	1.5	0.8	3.5	0.3	93.5
		60代		(703)	0.1	0.3	0.4	0.3	98.7
		70代		(760)	1.6	0.8	0.7	0.3	96.7
世帯年収別			100万円未満	(98)	2.0	2.0	1.0	4.1	90.8
			~300万円未満	(413)	0.5	0.5	1.2	1.0	96.9
			~500万円未満	(735)	1.8	0.4	1.9	0.7	94.7
			~1000万円未満	(1075)	3.7	0.7	2.0	0.7	92.1
			1000万円以上	(311)	3.5	1.3	2.9	0.3	92.0

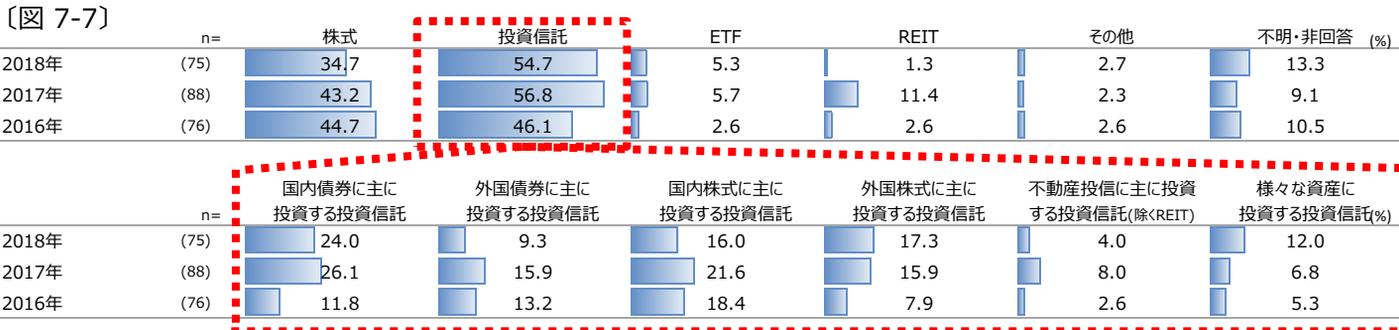
〔図 7-6〕 * 2018年属性別

属性	保有層	n	現在も金融商品を保有している (%)	過去に口座を開設し金融商品を保有していたが、現在は口座を閉じている (%)	過去に口座を開設したが、金融商品を保有することなく口座を閉じた (%)	今までに口座を開設したことはない (%)	
TOTAL		(3319)	2.3	0.6	1.8	0.7	94.1
投資状況別	保有層・保有経験層	(882)	5.0	1.0	2.4	0.8	90.2
	保有経験層 (現在非保有)	(244)	1.2	0.6	2.5	0.8	94.7
	保有未経験層	(922)	2.6	0.9	2.3	0.8	92.3
	保有未経験層 保有経験無	(916)	0.1	0.8	0.4	0.3	98.7

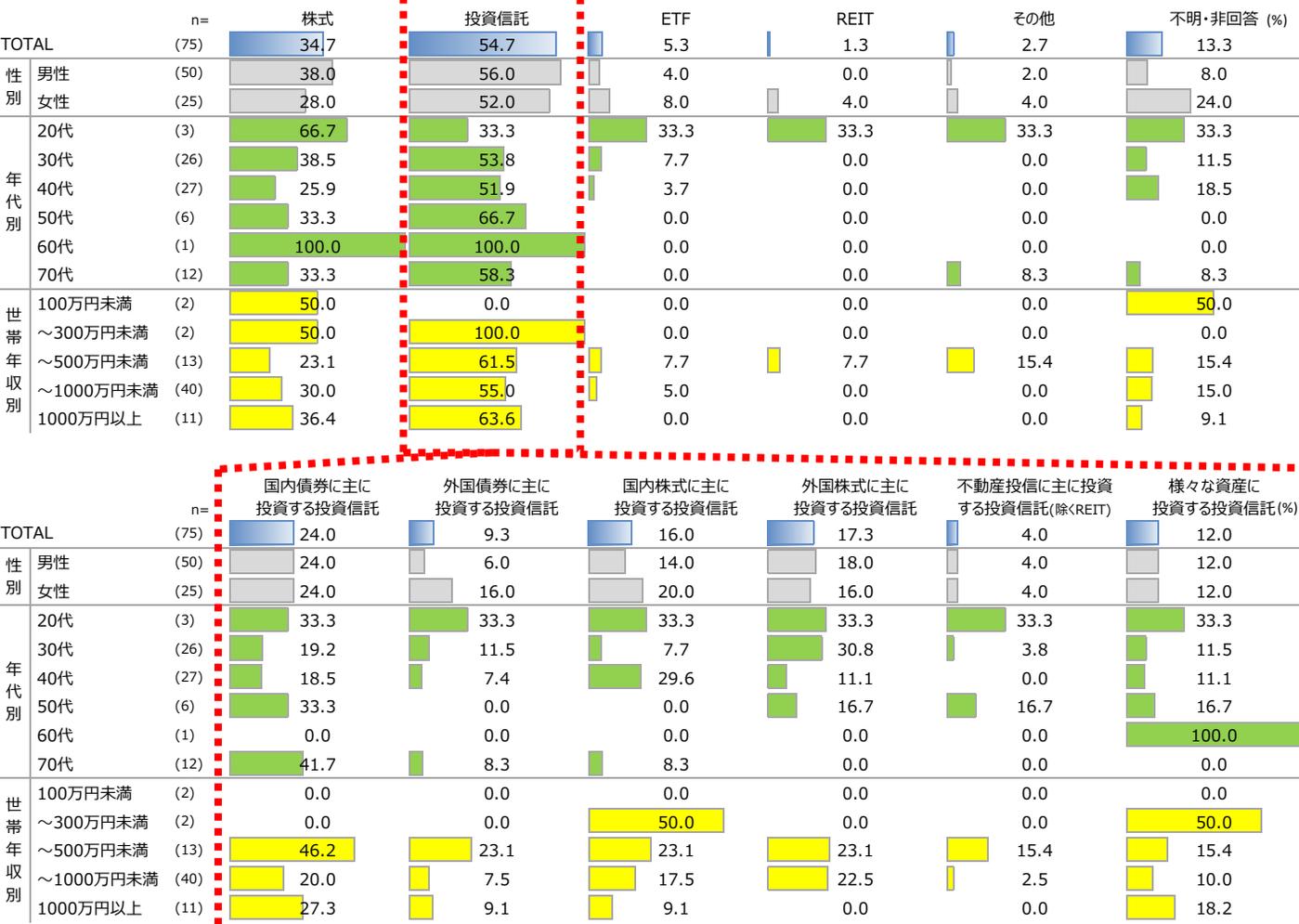
7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(3) ジュニアNISAでの保有金融商品(20歳未満の親族がいる ジュニアNISAでの現在金融商品保有者)[Q17③:重複回答]

- ジュニアNISAでの保有金融商品をカテゴリごとにとみると、「投資信託」の保有率は54.7%と前回から大きな変動はみられず、「株式」「REIT」が減少。「REIT」は前回より10ポイント程度と大きく減少している。また投資信託の内訳をみると、「外国債券に主に投資する投資信託」「国内株式に主に投資する投資信託」の保有率が比較的大きく減少、「様々な資産に投資する投資信託」が増加。〔図7-7〕



〔図 7-8〕 * 2018年属性別



7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

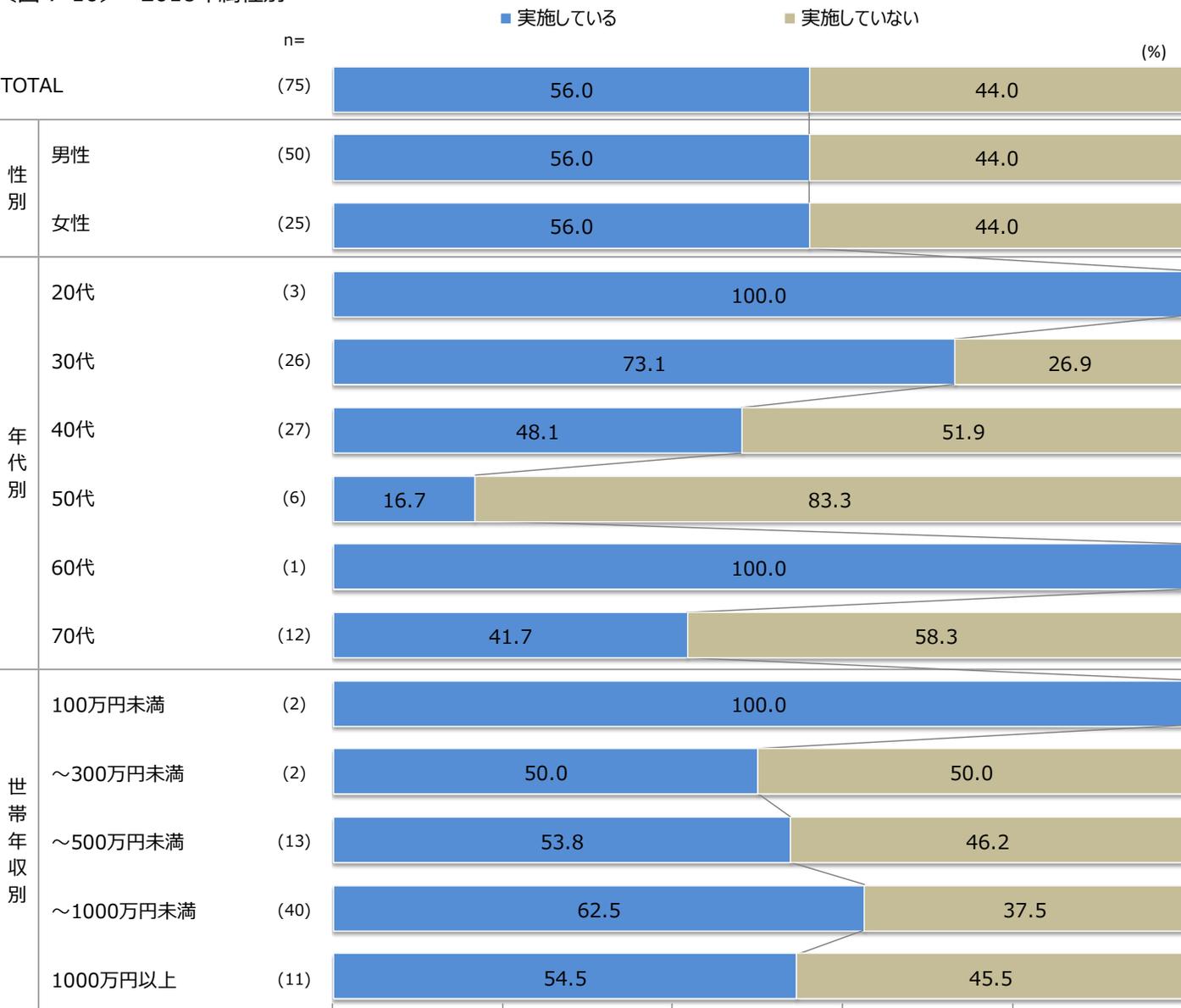
(4) ジュニアNISAでの積立投資実施状況 (20歳未満の親族がいるジュニアNISAでの現在金融商品保有者)〔Q18②:単数回答〕

- ジュニアNISAでの積立投資実施率は、56.0%と前回より10ポイント以上減少。〔図7-9〕

〔図 7-9〕



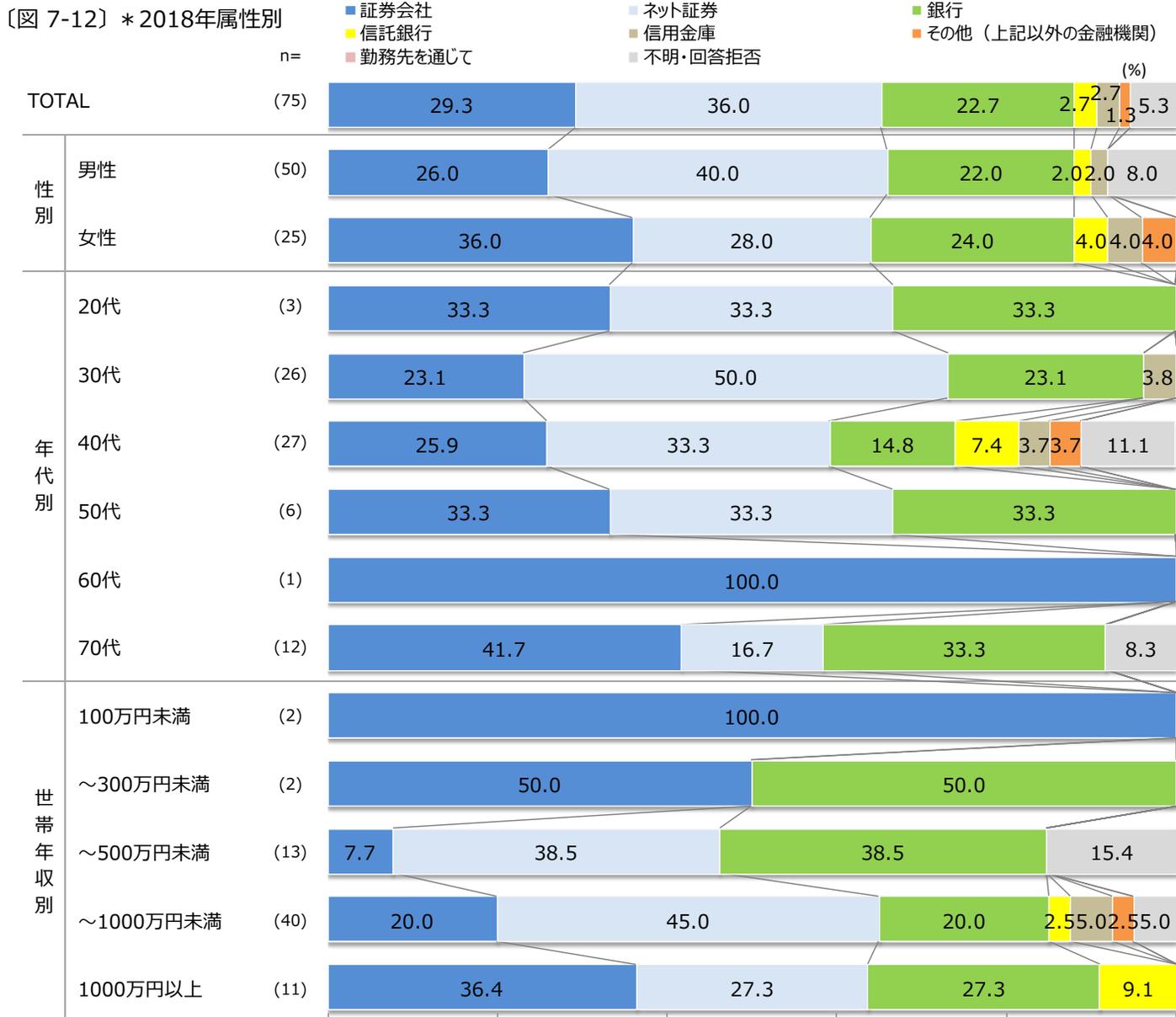
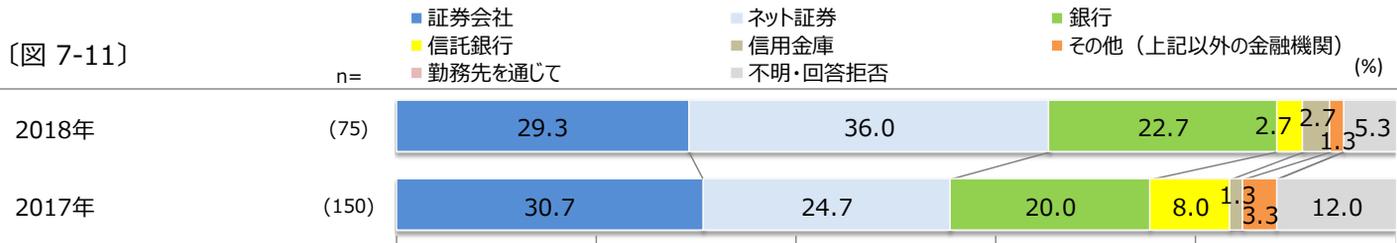
〔図 7-10〕 * 2018年属性別



7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(5) ジュニアNISAの口座開設金融機関(20歳未満の親族がいるジュニアNISAでの現在口座開設者)〔Q19③:単数回答〕

- ジュニアNISAの口座開設金融機関は「ネット証券」が36.0%で最も多く、前回から10ポイント以上増加。次いで「証券会社」(29.3%)、「銀行」(22.7%)となっている。〔図7-11〕



7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(6) ジュニアNISA口座開設・金融商品未購入理由(20歳未満の親族がいる、ジュニアNISA口座開設・金融商品未購入層)〔Q20③:重複回答〕

- ジュニアNISAでの金融商品未購入理由は、「投資に回すお金がないから」(30.5%)が前回から大きく増加し最も高い。また「制度の内容を知らない」「投資の知識がない」といった知識や制度への理解不足がやや増加。その一方で、前回上位の「非課税期間が短いから」は減少。〔図7-13〕

〔図 7-13〕

	n=	投資に回すお金がないから	年間の非課税投資限度額(80万円)が小さいから	どの商品を購入してよいかわからないから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入入や口座開設のタイミングを定めているから	制度の内容を知らないから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	投資の知識がないから	投資の知識が／知識がないと難しいから	制度が複雑でよく理解できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	金融機関に勧められて口座開設しただけだから	投資自体に関心がないから	その他	特に理由はない
2018年	(59)	30.5	18.6	15.3	13.6	13.6	13.6	11.9	8.5	6.8	6.8	5.1	3.4	0.0	20.3	
2017年	(62)	11.3	17.7	11.3	21.0	16.1	4.8	12.9	1.6	6.5	1.6	11.3	4.8	0.0	21.0	
2016年	(91)	17.6	11.0	23.1	8.8	17.6	5.5	9.9	4.4	4.4	1.1	7.7	4.4	1.1	19.8	

〔図 7-14〕 * 2018年属性別

	n=	投資に回すお金がないから	年間の非課税投資限度額(80万円)が小さいから	どの商品を購入してよいかわからないから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入入や口座開設のタイミングを定めているから	制度の内容を知らないから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	投資の知識がないから	投資の知識が／知識がないと難しいから	制度が複雑でよく理解できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	金融機関に勧められて口座開設しただけだから	投資自体に関心がないから	その他	特に理由はない
TOTAL	(59)	30.5	18.6	15.3	13.6	13.6	13.6	11.9	8.5	6.8	6.8	5.1	3.4	0.0	20.3	
性別																
男性	(38)	28.9	21.1	10.5	13.2	13.2	15.8	10.5	10.5	5.3	7.9	7.9	5.3	0.0	18.4	
女性	(21)	33.3	14.3	23.8	14.3	14.3	9.5	14.3	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0	0.0	23.8	
年代別																
20代	(9)	22.2	33.3	22.2	11.1	33.3	0.0	22.2	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	
30代	(10)	30.0	30.0	10.0	30.0	20.0	30.0	10.0	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	0.0	20.0	
40代	(17)	47.1	11.8	11.8	11.8	0.0	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	
50代	(14)	21.4	21.4	28.6	14.3	7.1	0.0	14.3	7.1	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	21.4	
60代	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	
70代	(6)	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	
世帯年収別																
100万円未満	(2)	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
~300万円未満	(5)	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	
~500万円未満	(14)	21.4	21.4	21.4	14.3	0.0	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	21.4	
~1000万円未満	(21)	33.3	23.8	9.5	4.8	14.3	9.5	4.8	0.0	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0	14.3	
1000万円以上	(9)	44.4	22.2	33.3	22.2	22.2	33.3	44.4	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1	0.0	11.1	

〔図 7-15〕 * 2018年属性別

	n=	投資に回すお金がないから	年間の非課税投資限度額(80万円)が小さいから	どの商品を購入してよいかわからないから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入入や口座開設のタイミングを定めているから	制度の内容を知らないから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	投資の知識がないから	投資の知識が／知識がないと難しいから	制度が複雑でよく理解できないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	金融機関に勧められて口座開設しただけだから	投資自体に関心がないから	その他	特に理由はない
TOTAL	(59)	30.5	18.6	15.3	13.6	13.6	13.6	11.9	8.5	6.8	6.8	5.1	3.4	0.0	20.3	
投資状況別	保有層・保有経験層	現在保有層	(21)	42.9	23.8	9.5	19.0	23.8	9.5	9.5	14.3	9.5	14.3	4.8	0.0	14.3
		保有経験層(現在非保有)	(6)	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	保有層・未経験層	金融資産保有経験有	(21)	9.5	19.0	14.3	9.5	9.5	9.5	9.5	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	33.3
		金融資産保有経験無	(7)	57.1	14.3	28.6	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0

7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(7) ジュニアNISA口座未開設理由(20歳未満の親族がいる、ジュニアNISA認知・口座未開設層)〔Q20③:重複回答〕

- ジュニアNISA口座未開設理由は、「投資自体に関心がない」(18.6%)、「投資に回すお金がない」(17.6%)が前回からやや増加し、引き続き上位となる。〔図7-16〕
- 若年層ほど「制度の内容を知らない」「投資の知識がない／知識がないと難しそう」「どの商品を購入してよいかわからない」「制度が複雑でよく理解できない」といった制度への理解不足、知識不足が理由として高くなる傾向。〔図7-17〕

〔図 7-16〕

	n=	投資自体に関心がないから	投資に回すお金がないから	制度の内容を知らないから	投資の知識がないから／知識がないと難しそうだから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	口座開設の申込み手続きが煩雑で面倒だから	年間の非課税投資限度額(80万円)が小さいから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	その他	特に理由はない	(%)
2018年	(3123)	18.6	17.6	11.5	9.6	7.6	6.8	5.1	3.2	2.0	2.0	0.6	0.5	1.2	39.5	
2017年	(3307)	15.6	16.8	9.2	8.2	6.9	5.7	6.0	2.9	2.4	2.4	0.8	1.1	1.5	45.1	
2016年	(4380)	19.7	19.9	10.5	9.4	6.0	6.1	5.5	2.8	1.8	2.4	0.8	0.7	1.6	41.2	

〔図 7-17〕 * 2018年属性別

	n=	投資自体に関心がないから	投資に回すお金がないから	制度の内容を知らないから	投資の知識がないから／知識がないと難しそうだから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	口座開設の申込み手続きが煩雑で面倒だから	年間の非課税投資限度額(80万円)が小さいから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	その他	特に理由はない	(%)
TOTAL	(3123)	18.6	17.6	11.5	9.6	7.6	6.8	5.1	3.2	2.0	2.0	0.6	0.5	1.2	39.5	
性別																
男性	(1491)	16.0	15.8	8.9	5.8	6.1	5.0	5.2	4.9	2.1	2.0	1.0	0.7	1.1	44.5	
女性	(1632)	21.1	19.2	13.9	13.1	8.9	8.3	5.0	1.6	1.8	2.0	0.2	0.4	1.3	34.9	
年代別																
20代	(151)	15.2	23.2	21.2	17.2	15.2	14.6	9.3	3.3	4.0	2.6	0.0	2.0	0.7	28.5	
30代	(520)	13.8	19.2	20.2	15.6	11.7	10.2	6.3	4.0	1.9	2.9	0.6	0.6	1.2	35.2	
40代	(652)	14.3	22.4	12.4	8.9	10.7	7.1	7.4	3.8	2.5	3.4	0.8	0.8	1.1	36.3	
50代	(371)	17.3	19.4	10.5	11.3	7.8	7.3	3.8	1.9	2.4	1.3	0.8	0.0	1.6	39.4	
60代	(694)	23.8	13.5	7.2	6.5	4.5	4.6	3.6	3.3	1.0	1.0	0.3	0.3	1.6	44.2	
70代	(735)	22.4	13.9	7.1	6.5	3.1	4.2	3.4	2.4	1.8	1.4	0.8	0.4	1.1	43.3	
世帯年収別																
100万円未満	(89)	23.6	28.1	14.6	14.6	7.9	10.1	7.9	1.1	3.4	1.1	1.1	1.1	0.0	33.7	
~300万円未満	(400)	23.8	21.3	9.0	11.5	7.3	8.5	4.8	2.3	2.0	1.5	0.0	0.3	1.3	36.3	
~500万円未満	(696)	19.7	19.8	12.6	7.9	5.7	6.3	4.5	3.0	1.3	1.3	0.3	0.3	1.1	39.8	
~1000万円未満	(990)	15.7	18.1	12.3	9.6	8.6	6.3	5.6	3.7	2.4	2.8	1.2	0.7	1.7	36.9	
1000万円以上	(286)	16.1	10.8	8.0	8.0	8.7	7.0	8.4	5.9	4.5	4.5	1.0	1.4	1.4	39.2	

〔図 7-18〕 * 2018年属性別

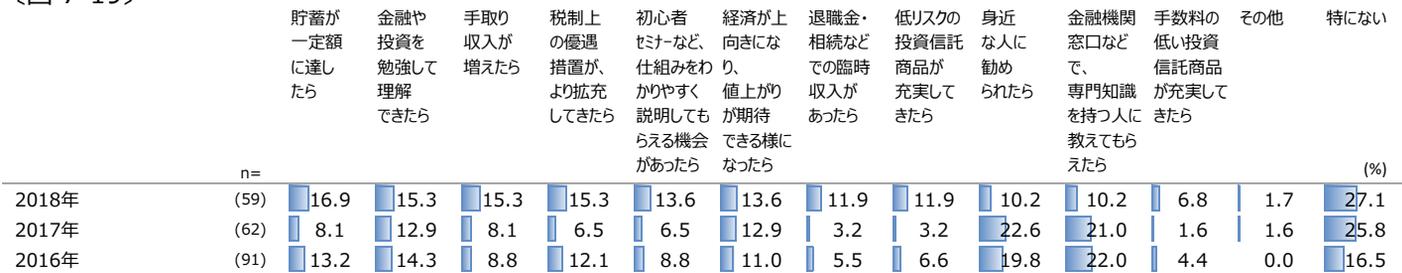
	n=	投資自体に関心がないから	投資に回すお金がないから	制度の内容を知らないから	投資の知識がないから／知識がないと難しそうだから	どの商品を購入してよいかわからないから	制度が複雑でよく理解できないから	口座開設の申込み手続きが煩雑で面倒だから	年間の非課税投資限度額(80万円)が小さいから	非課税期間が短いから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	株式や投資信託以外の商品(国債など)が購入できないから	その他	特に理由はない	(%)	
TOTAL	(3123)	18.6	17.6	11.5	9.6	7.6	6.8	5.1	3.2	2.0	2.0	0.6	0.5	1.2	39.5		
投資信託保有状況別	保有層・保有経験層	現在保有層	(796)	10.4	13.6	8.7	3.3	4.6	4.3	6.2	4.1	3.3	3.4	0.9	0.6	1.9	47.0
		保有経験層(現在非保有)	(231)	16.5	16.5	6.9	4.8	5.2	3.5	6.5	4.8	1.7	1.7	1.3	0.4	2.6	42.4
	保有層・未経験層	金融資産保有経験有	(851)	15.3	18.3	9.2	7.6	7.3	5.9	6.0	4.9	1.8	1.9	0.6	0.7	1.4	40.3
		金融資産保有経験無	(904)	28.9	22.3	18.3	18.7	11.8	10.5	3.9	0.8	1.5	1.7	0.3	0.2	0.2	28.2

7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

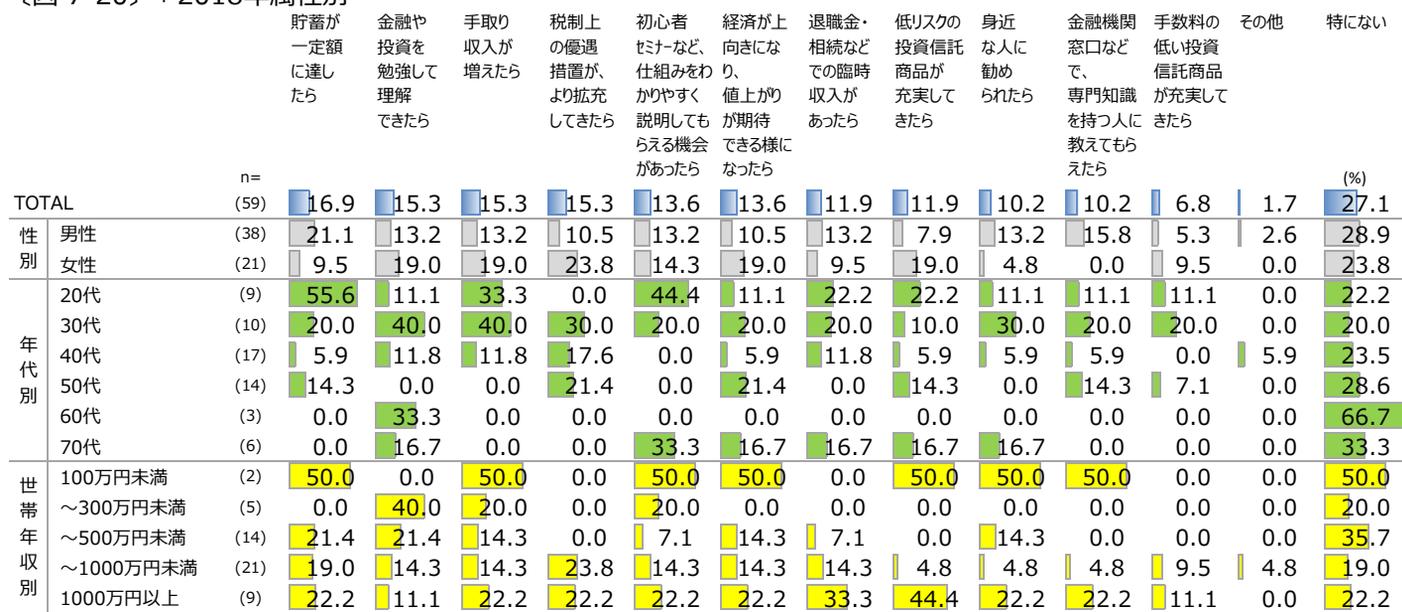
(8) ジュニアNISA口座での金融商品購入検討のきっかけ(20歳未満の親族がいるジュニアNISA口座開設・金融商品未購入層)[Q21③:重複回答]

- ジュニアNISA口座での金融商品購入検討のきっかけは、「貯蓄が一定額に達したら」(16.9%)が最も高い。前回から増加した項目が多い中、前回上位であった「身近な人に勧められたら」、「金融機関窓口などで専門知識を持つ人に教えてもらえたら」(各10.2%)が大きく減少。〔図7-19〕

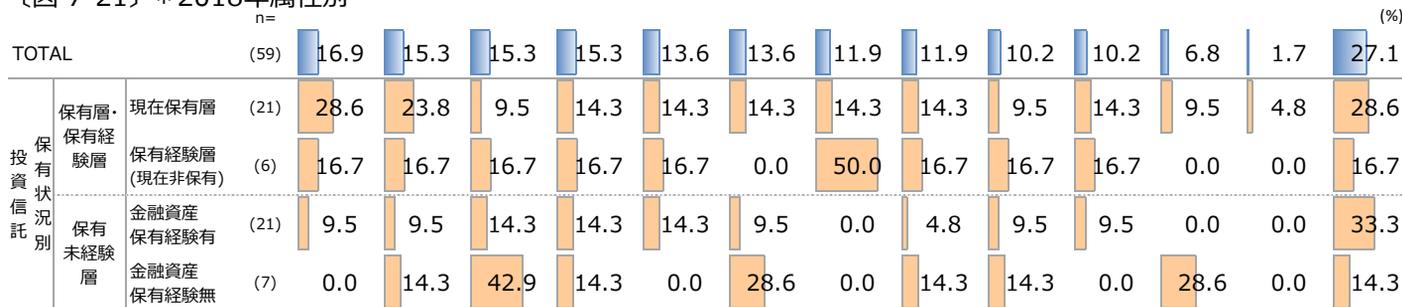
〔図 7-19〕



〔図 7-20〕 * 2018年属性別



〔図 7-21〕 * 2018年属性別



7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(9) ジュニアNISA口座開設検討のきっかけ(20歳未満の親族がいる、ジュニアNISA認知・口座未開設層)[Q21③:重複回答]

- ジュニアNISA口座開設検討のきっかけでは前回と大きな変動はみられず、「手取り収入が増えたら」(10.6%)が最も高くなる。〔図7-22〕
- 年代別でみると、「金融や投資を勉強して理解できた」「初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があった」「身近な人に勧められたら」が20代・30代で他年代に比べ高くなる傾向。〔図7-23〕

〔図 7-22〕

	n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できた	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら	身近な人に勧められたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	その他	特にな	(%)
2018年	(3123)	10.6	9.5	8.4	7.3	6.9	6.7	6.3	6.2	5.8	4.4	2.0	0.5	61.0	
2017年	(3307)	9.3	8.0	7.1	8.9	7.7	5.6	5.0	5.7	5.3	4.2	3.4	0.5	62.0	
2016年	(4380)	10.5	7.9	7.1	7.2	7.8	6.1	5.7	7.2	4.8	3.8	3.3	0.7	62.0	

〔図 7-23〕 * 2018年属性別

	n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できた	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら	身近な人に勧められたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	その他	特にな	(%)
TOTAL	(3123)	10.6	9.5	8.4	7.3	6.9	6.7	6.3	6.2	5.8	4.4	2.0	0.5	61.0	
性別															
男性	(1491)	10.6	7.0	6.5	8.5	6.2	4.9	4.3	5.7	4.0	3.8	1.9	0.6	63.0	
女性	(1632)	10.7	11.8	10.0	6.3	7.5	8.3	8.1	6.6	7.5	5.0	2.0	0.4	59.1	
年代別															
20代	(151)	19.2	19.9	13.9	4.0	21.2	12.6	15.2	6.6	6.6	3.3	2.6	0.7	47.0	
30代	(520)	18.8	16.2	12.3	8.3	10.4	11.7	12.9	6.7	7.9	6.5	1.5	0.8	48.1	
40代	(652)	19.8	12.1	11.2	9.8	10.7	8.6	8.0	7.7	8.0	6.3	2.9	0.5	46.9	
50代	(371)	10.0	9.4	10.0	8.9	5.1	6.7	5.4	7.5	7.8	5.4	2.7	0.5	61.7	
60代	(694)	2.9	5.8	4.5	6.1	2.3	3.6	2.4	6.2	4.0	2.9	2.2	0.0	71.9	
70代	(735)	2.6	3.8	4.8	5.4	3.1	3.0	2.4	3.7	3.0	2.4	0.7	0.8	74.7	
世帯年収別															
100万円未満	(89)	11.2	13.5	7.9	3.4	4.5	11.2	10.1	3.4	7.9	4.5	0.0	0.0	62.9	
~300万円未満	(400)	9.0	6.8	7.3	6.0	5.5	4.8	4.0	5.0	6.0	4.5	1.8	0.0	68.0	
~500万円未満	(696)	10.3	7.9	8.2	6.6	6.8	7.0	5.5	6.3	3.6	3.0	1.9	0.4	65.1	
~1000万円未満	(990)	13.9	11.2	8.5	9.0	8.4	7.2	7.3	6.7	7.5	5.3	2.5	0.8	52.6	
1000万円以上	(286)	9.4	9.1	11.9	10.8	8.4	9.4	10.1	7.7	7.3	6.3	1.7	1.0	52.4	

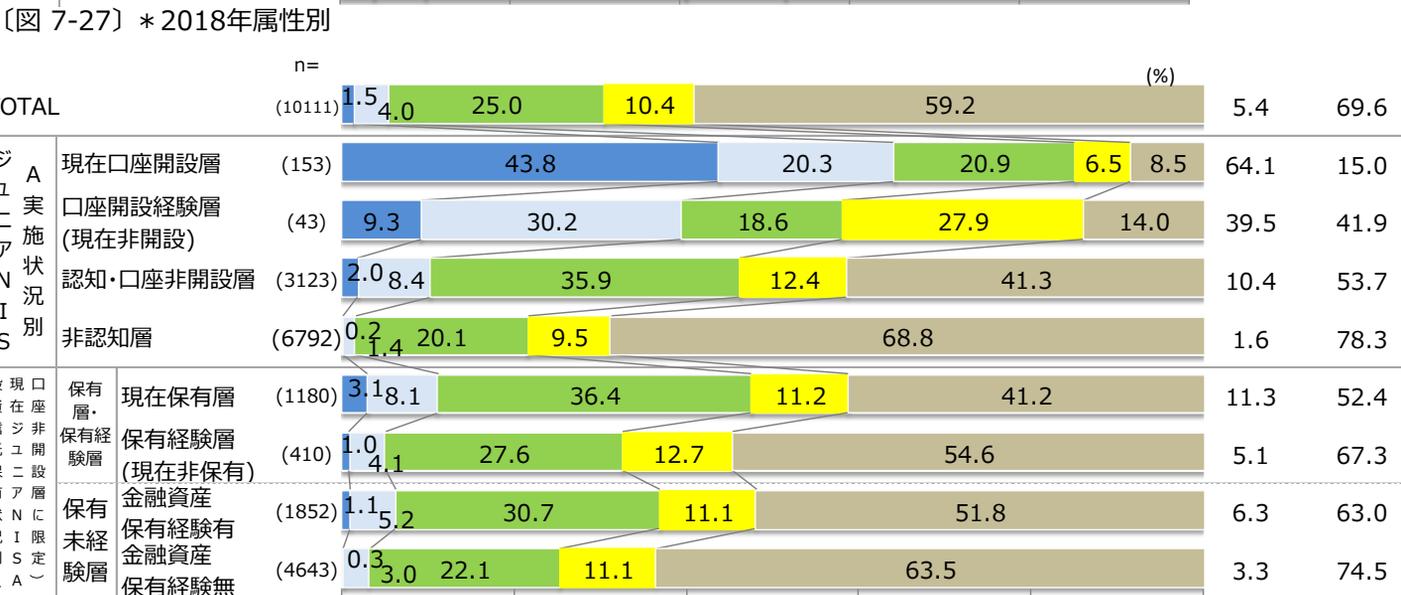
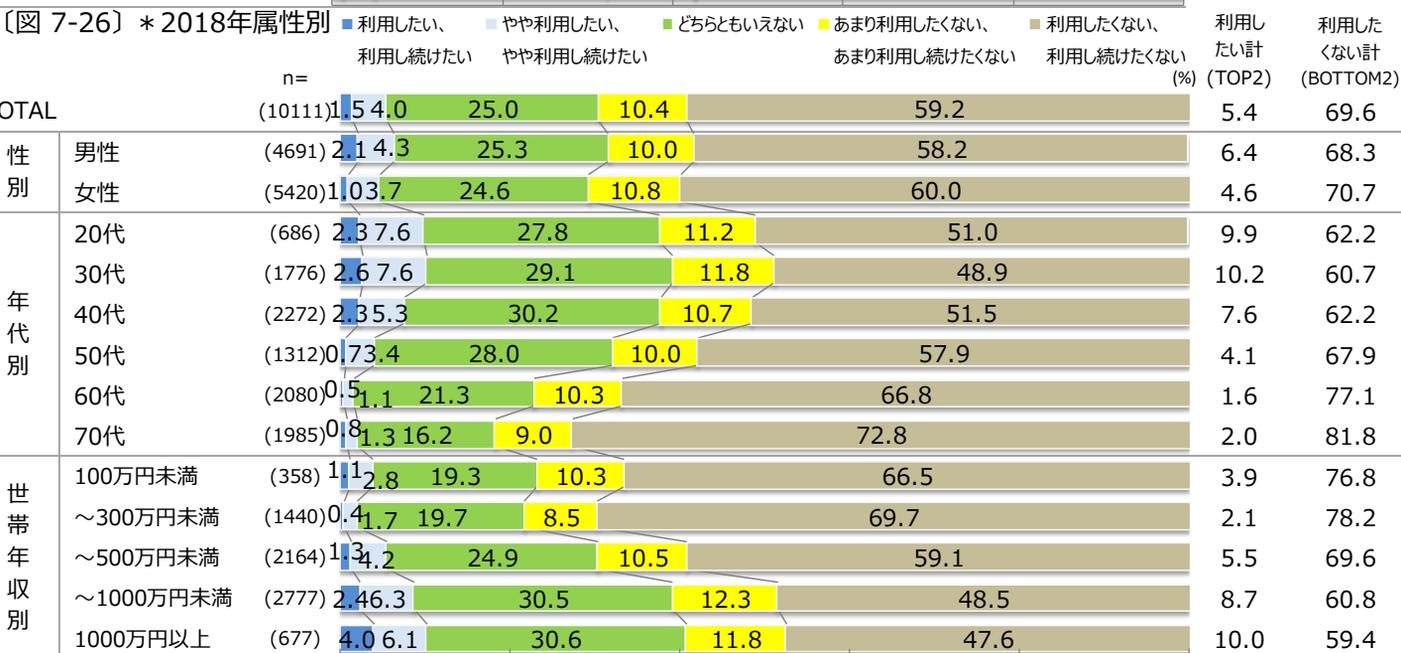
〔図 7-24〕 * 2018年属性別

	n=	手取り収入が増えたら	金融や投資を勉強して理解できた	金融機関窓口などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	貯蓄が一定額に達したら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら	身近な人に勧められたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	その他	特にな	(%)
TOTAL	(3123)	10.6	9.5	8.4	7.3	6.9	6.7	6.3	6.2	5.8	4.4	2.0	0.5	61.0	
投資信託保有状況別															
保有層・保有経験層															
現在保有層	(796)	7.0	6.3	9.0	11.3	4.9	4.9	4.6	7.3	5.8	4.6	1.5	0.9	60.6	
保有経験層(現在非保有)	(231)	5.6	6.1	3.5	8.2	3.5	3.9	2.2	6.5	3.0	4.8	0.4	0.9	67.5	
保有未経験層															
金融資産保有経験有	(851)	9.9	8.3	6.6	8.1	7.1	5.4	5.6	6.1	4.8	4.2	3.5	0.6	60.2	
金融資産保有経験無	(904)	16.3	15.2	12.1	4.2	10.3	10.8	9.7	6.0	8.5	5.2	1.7	0.1	56.3	

7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(10) ジュニアNISAの今後の利用意向(20歳未満の親族がいる者) 〔Q22③:単数回答〕

- ジュニアNISAの利用・継続利用意向は、「利用したい計」(TOP2)が5.4%と前回と同程度となり、「利用したくない計」(BOTTOM2)が69.6%と前回から僅かに増加している。〔図7-25〕
- 「利用したい計」は若年層や、高年収層ほど増す傾向。〔図7-26〕
- 現在ジュニアNISA口座開設層では、「利用したい計」は64.1%と半数を超える。〔図7-27〕



7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

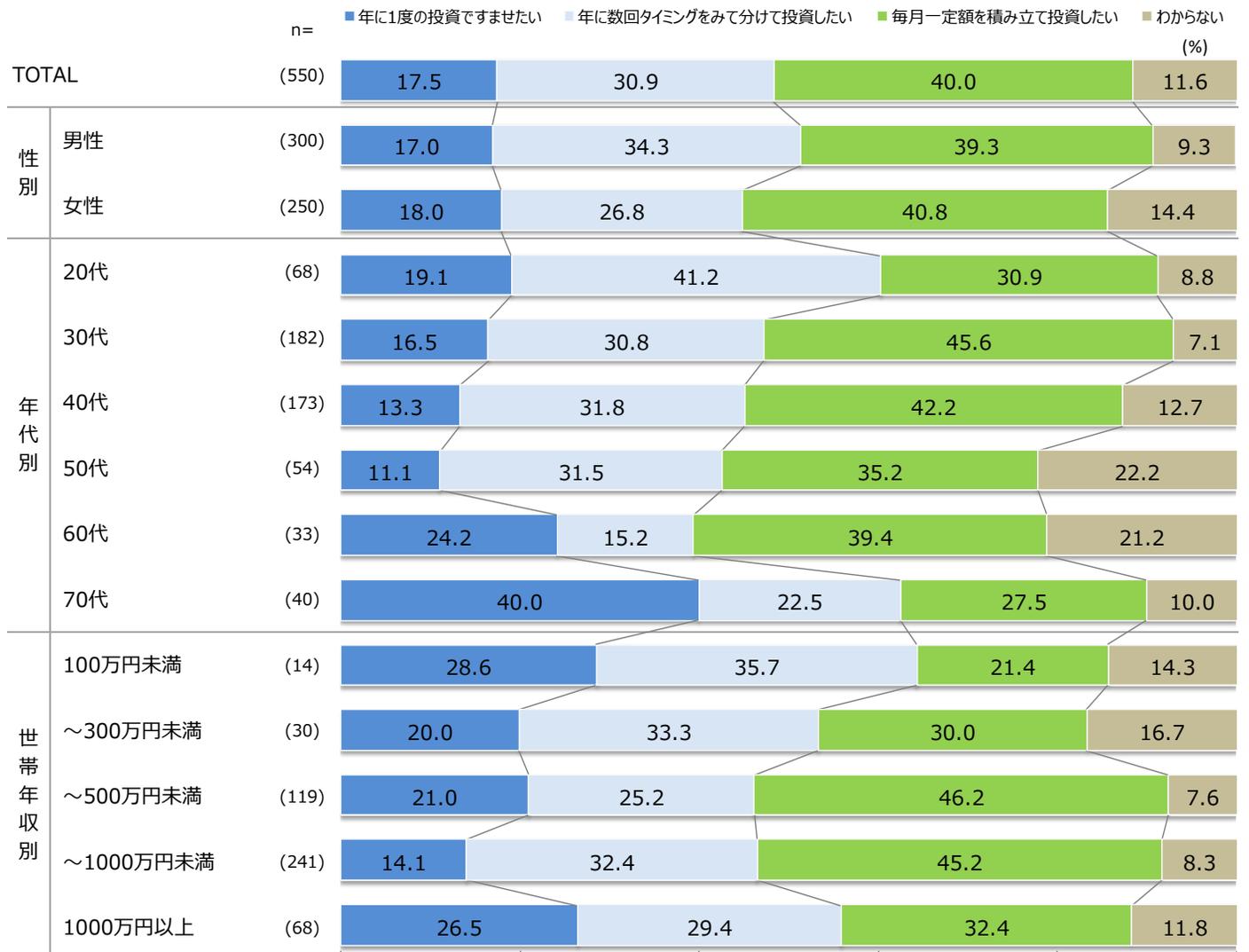
(11) ジュニアNISAでの投資方法意向(ジュニアNISA今後利用意向者) 〔Q23②:単数回答〕

- 実施したい投資方法では、「毎月一定額積立投資」(40.0%)が前回より増加し、「年に数回タイミングを見て投資したい」(30.9%)、「わからない」(11.6%)が減少。〔図7-28〕
- 年代別では30代で「毎月一定額積立投資」(45.6%)が高くなる。〔図7-29〕

〔図 7-28〕



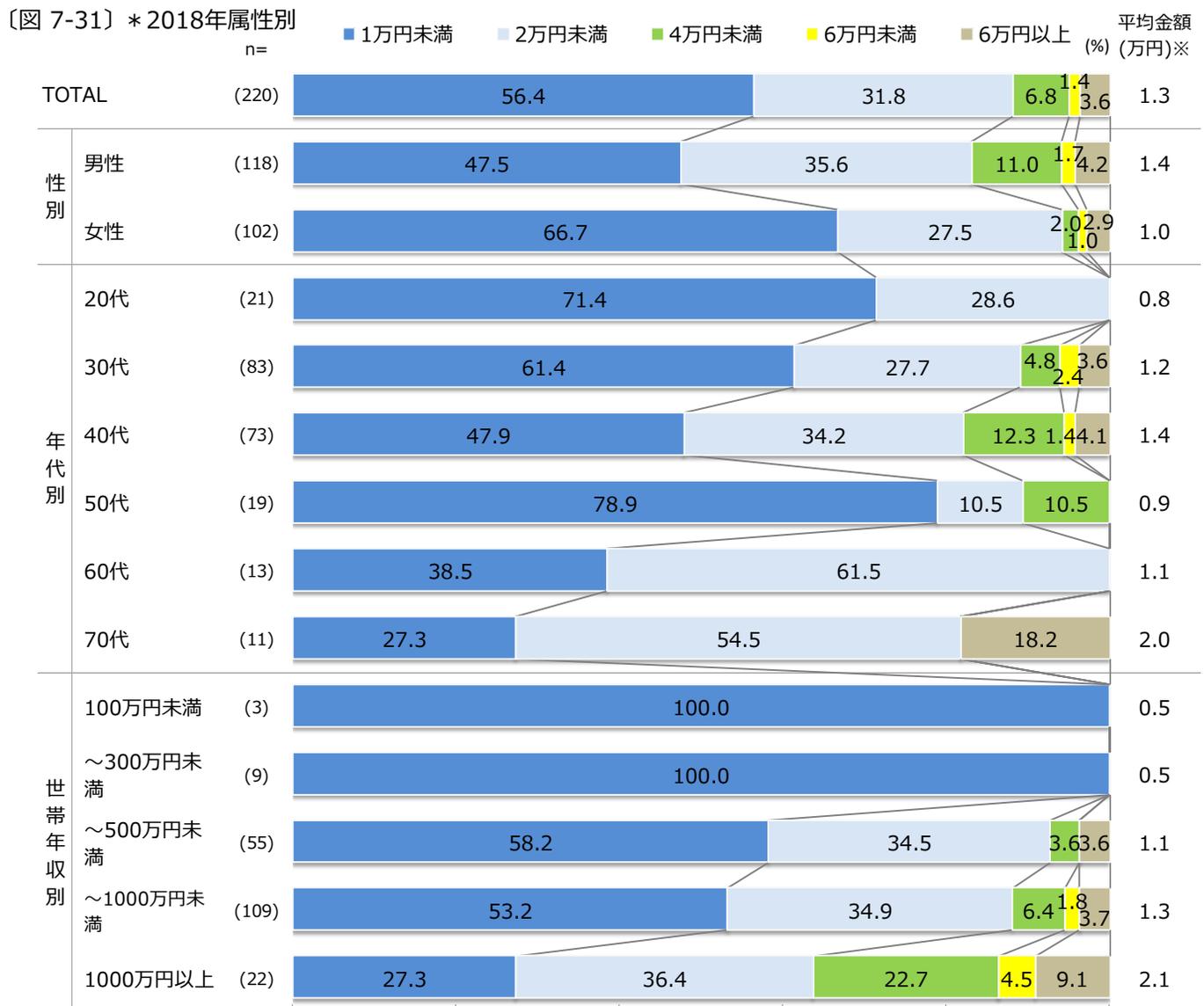
〔図 7-29〕 * 2018年属性別



7. ジュニアNISAの浸透状況、今後の利用意向

(12) ジュニアNISAでの月次積立投資希望額(ジュニアNISAで毎月一定額を積立投資したい者ベース)[Q24③:単数回答]

- 「毎月定額」の額面は、前回より「1万円未満」(56.4%)が増加、「2万円未満」(31.8%)、「4万円未満」(6.8%)が減少し、平均金額は「1.3万円」に減少。〔図7-30〕



※平均値算出にあたってのウエイト値 1万円未満：0.5万円／2万円未満：1.5万円／4万円未満：3万円／6万円未満：5万円／6万円以上：6万円

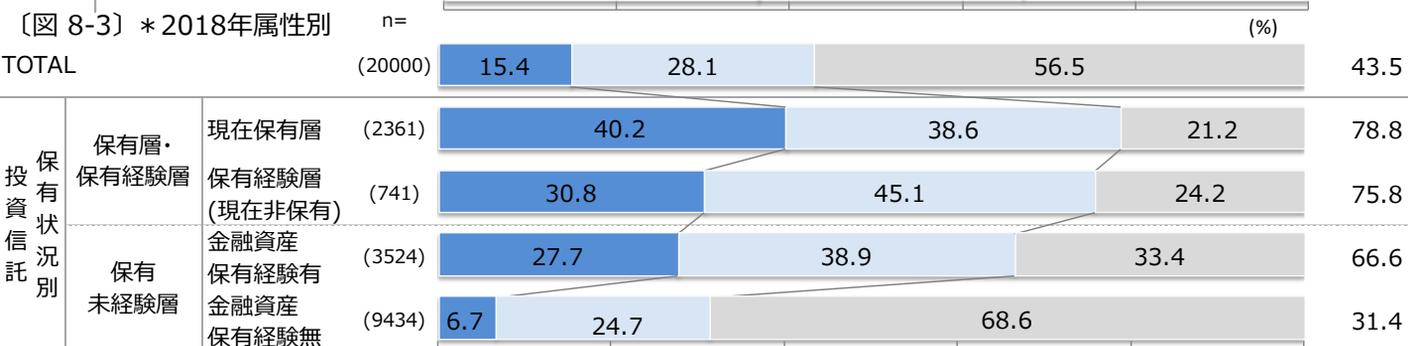
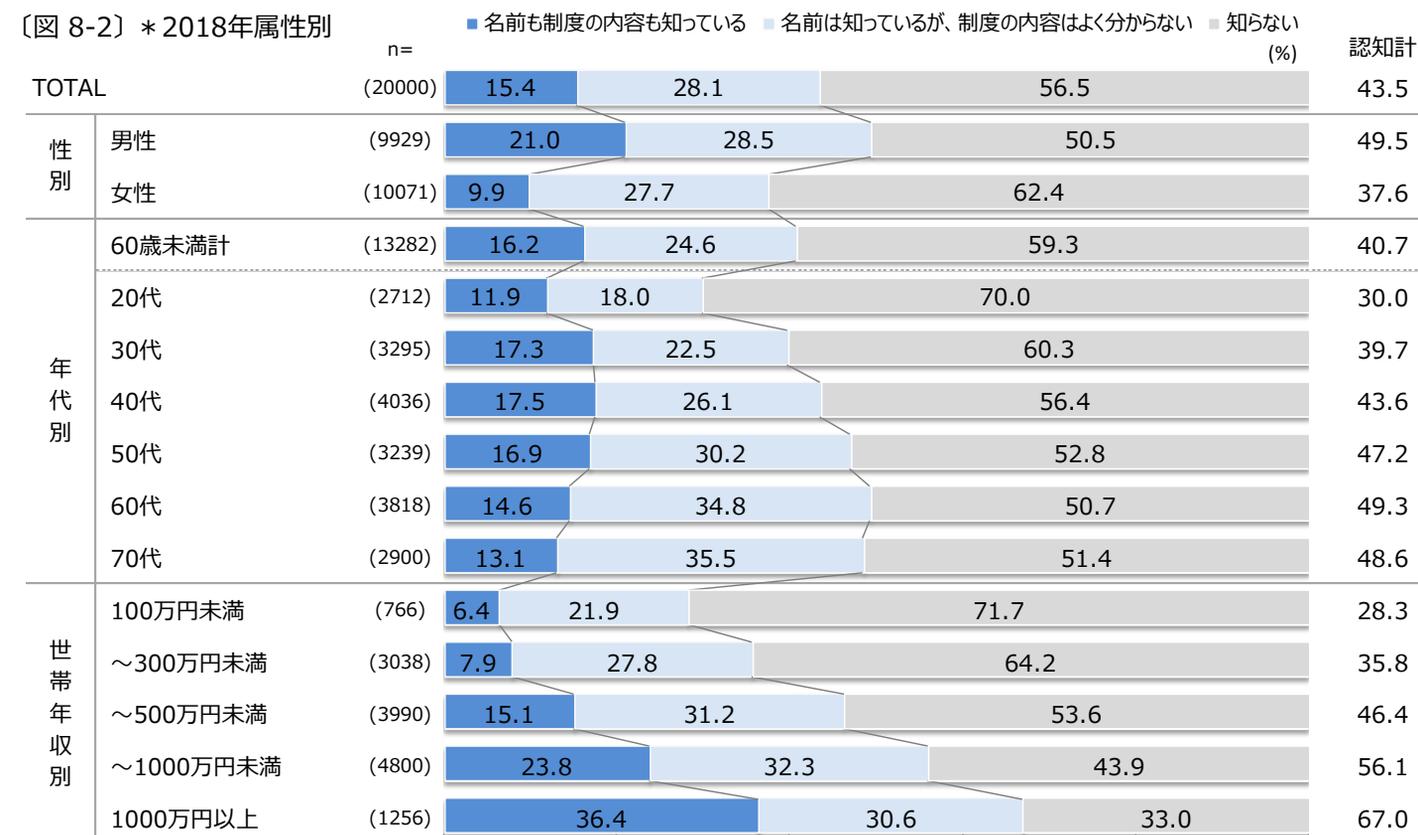
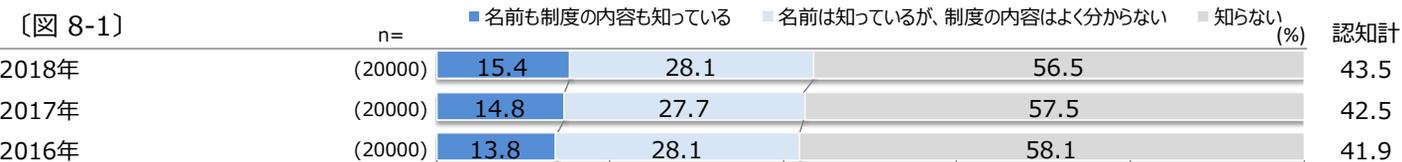
8. 企業型確定拠出年金の浸透状況、 今後の利用意向



8. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向

(1) 企業型確定拠出年金の認知〔Q15④:単数回答〕

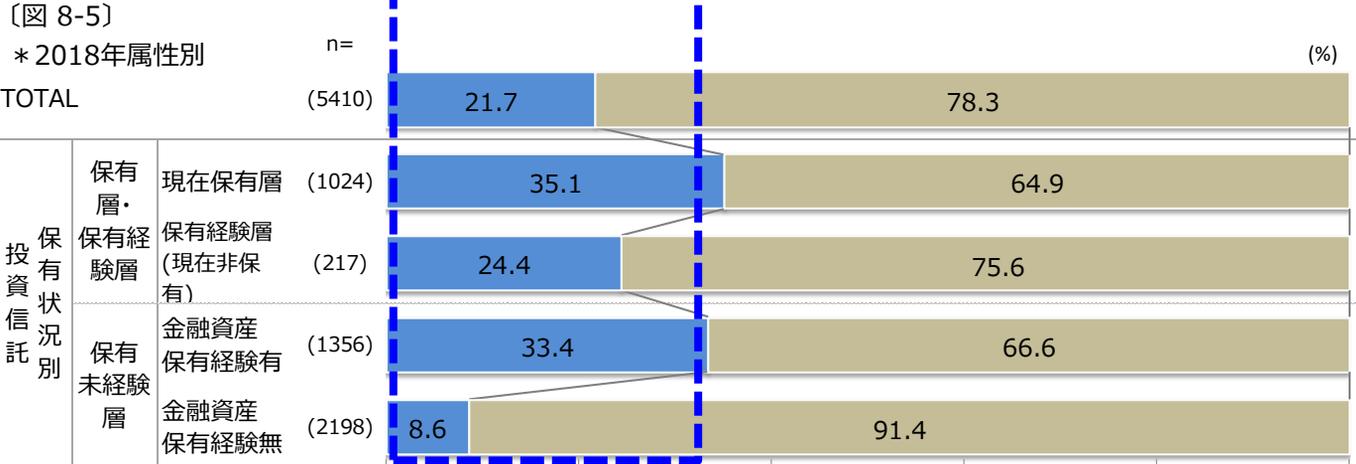
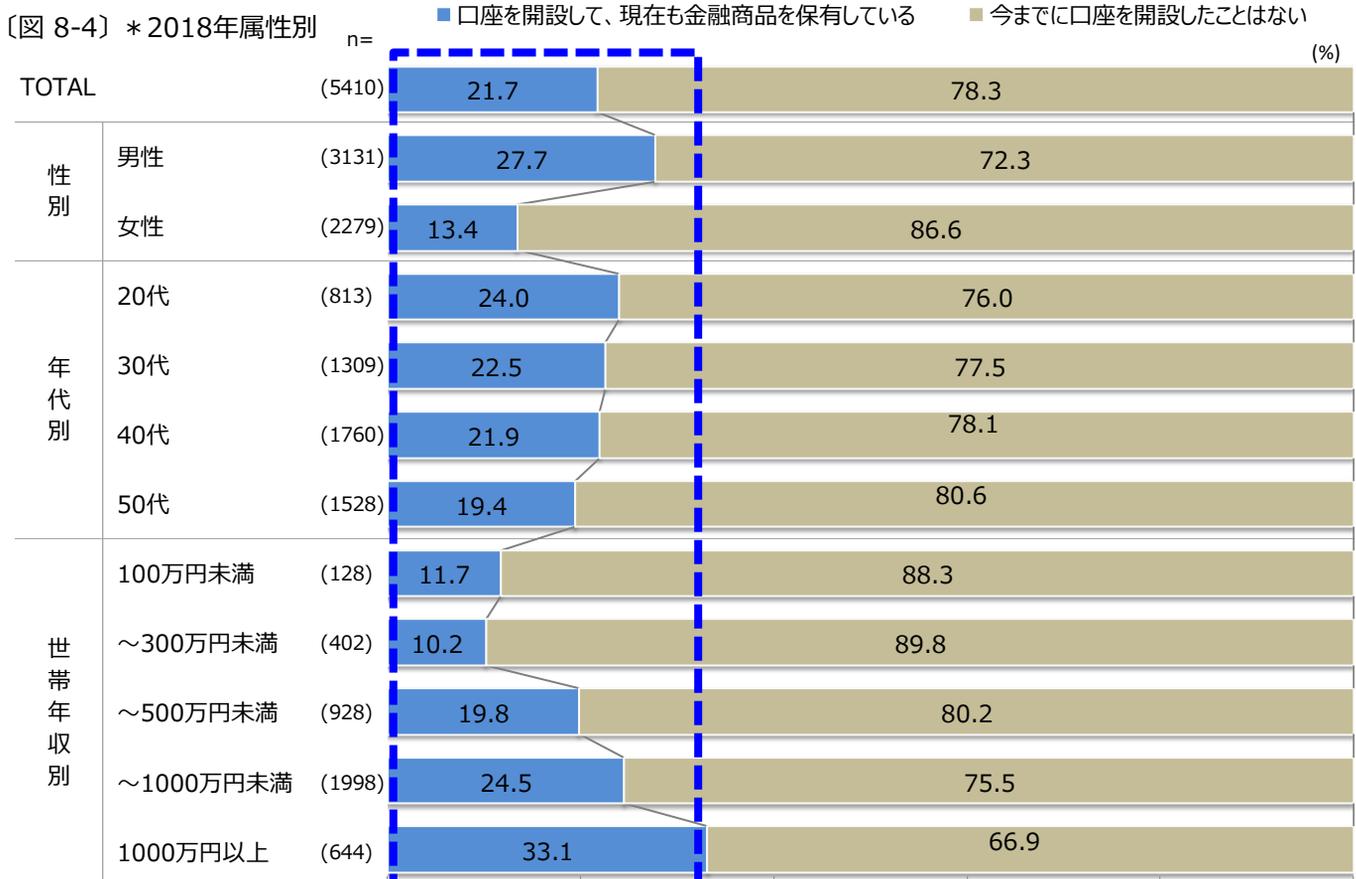
- 企業型DCの認知率(認知計：43.5%)、制度内容認知率(15.4%)とどちらも前回より微増。〔図8-1〕
- 高齢層ほど認知率は高まるが、制度内容認知率は20代、70代で低く、30～50代でやや高くなる。世帯年収別では高年収層ほど認知率、制度内容認知率ともに高くなる。〔図8-2〕
- 投資信託保有状況別でみると、投資への関与が強い層ほど認知率は高く、保有未経験層(金融資産保有経験無)での認知率は31.4%、制度内容認知率は6.7%に留まる。〔図8-3〕



8. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向

(2) 企業型確定拠出年金の利用状況(60歳未満の制度認知者) 〔Q16④:単数回答〕

- 企業型確定拠出年金での現在金融商品保有者は、21.7%。口座開設未経験が78.3%を占める。〔図8-4〕
- 同制度での現在金融商品保有率は、高年収層ほど多い。〔図8-4〕
- 投資信託保有状況別でみると、現在保有層の35.1%が同制度で現在金融商品を保有している。〔図8-5〕

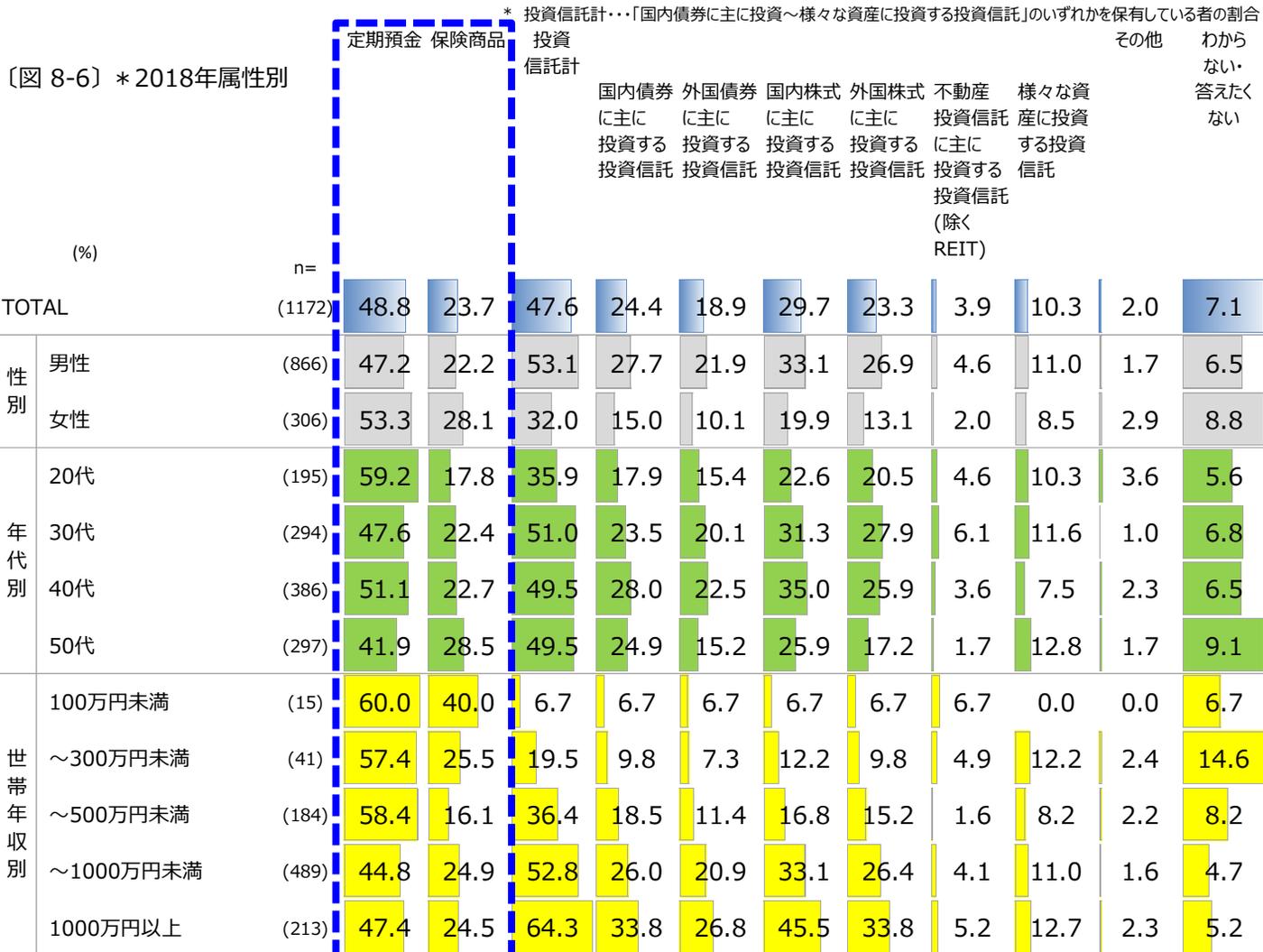


※企業型確定拠出では、「口座を開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」「口座を開設したが、まだ金融商品を購入したことはない」を「口座を開設して、現在も金融商品を保有している」に統合。(TOTALでは2.5%と3.0%を16.2%に統合)

8. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向

(3) 企業型確定拠出年金での保有金融商品(60歳未満で、企業型確定拠出年金での現在金融商品保有者)[Q17④:重複回答]

- 企業型DCでの保有金融商品では、「投資信託計*」は47.6%と約半数が保有。投資信託商品の中では「国内株式に主に投資する投資信託」の保有が多くなる。
- 年代別では20代で「投資信託計」が他年代よりやや低い。また世帯年収別では1000万円以上の世帯で「投資信託計」が他層に比べて高くなる。〔図8-6〕
- 金融商品の保有を「定期預金・保険」(定期預金か保険商品保有)、「債券投信」(国内か海外債券に主に投資する投信保有)、「株式投信」(国内か海外株式に主に投資する投信保有)、「不動産投信」(不動産投信に主に投資する投信保有)、「その他」(様々な資産に投資する投信かその他商品保有)に分類して併用状況を確認した。その結果、どの年代でも「定期預金・保険」1種類の保有が約40%以上で最も高く、20代では「株式投信」のみ、30代では「債券投信+株式投信」の2種類、40代では「定期預金・保険」+「債券投信」+「株式投信」の3種類の保有が続く。50代では「その他のみ」が続く。〔図8-7〕

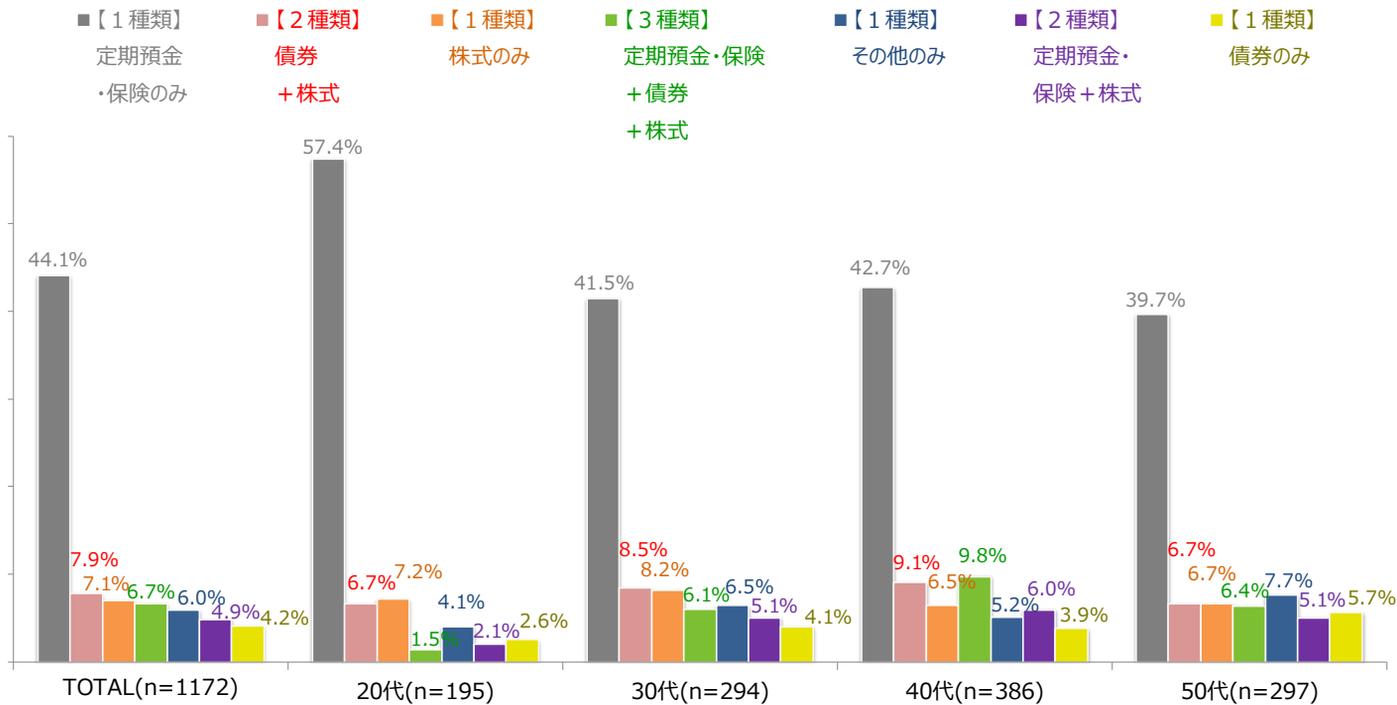


※企業型確定拠出では、「口座を開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」「口座を開設したが、まだ金融商品を購入したことはない」層を「口座を開設して、現在も金融商品保有している」層に統合(P101)。保有金融商品では、その統合した層を「定期預金」「保険商品」の2商品に案分し含有。(案分比率は統合前の定期預金/保険商品構成比に準じている。TOTALでは「定期預金42.7」「保険商品20.7」で案分。※構成比は各属性で異なる。)

8. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向

(3) 企業型確定拠出年金での保有金融商品(60歳未満で、企業型確定拠出年金での現在金融商品保有者)[Q17④:重複回答]

[図 8-7]【年代別での金融商品保有種類別比率】* 2018年属性別



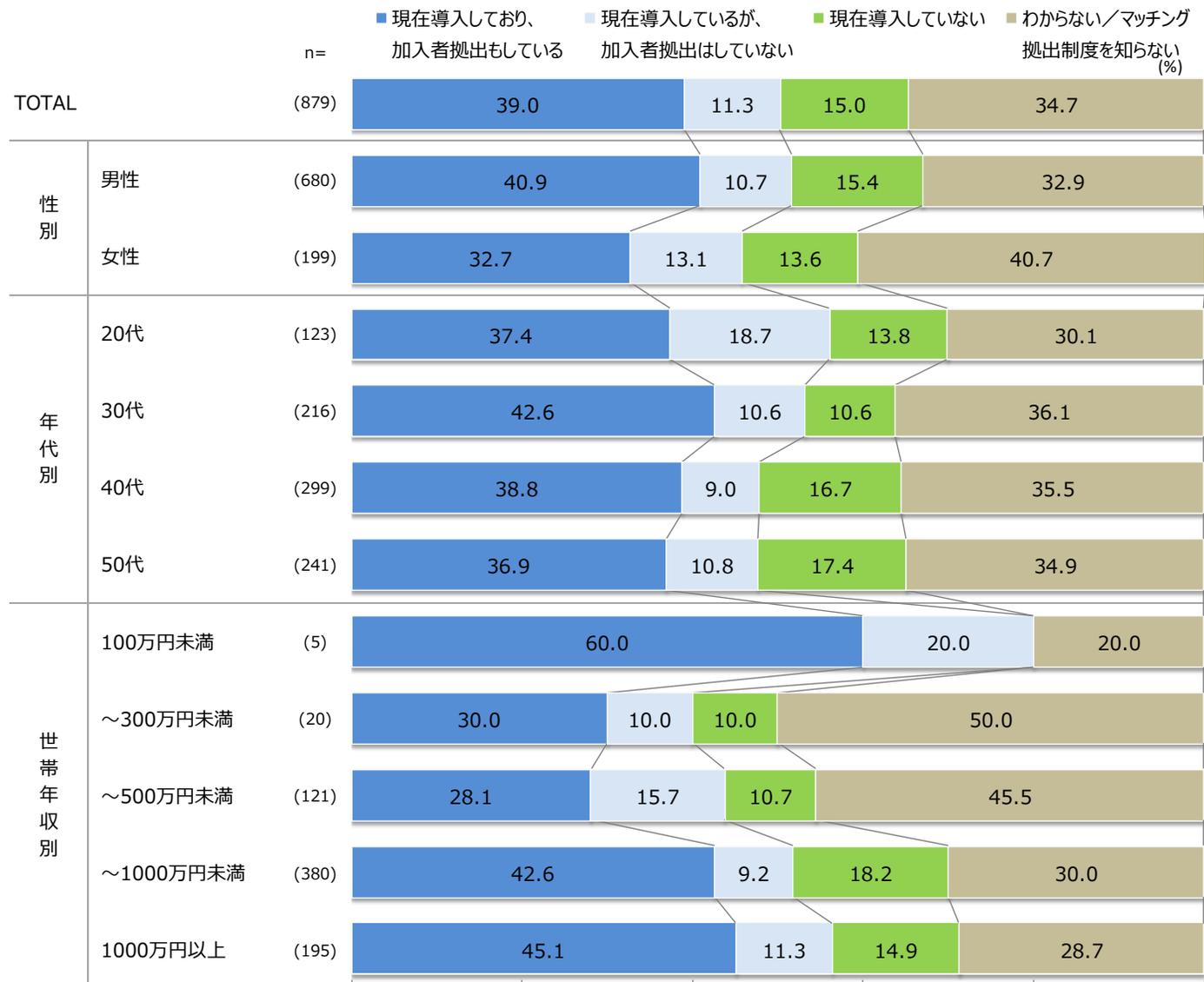
8. 企業型確定拠出年金の浸透状況、今後の利用意向

(4) 企業型確定拠出年金のマッチング拠出実施状況

(60歳未満の企業型確定拠出年金加入層)〔Q30:単数回答〕

- マッチング拠出の実施率は39.0%。「わからない／マッチング拠出制度を知らない」(34.7%)も同程度みられる。〔図8-8〕
- またマッチング拠出実施者は、30代で42.6%とやや多い。〔図8-8〕

〔図 8-8〕 * 2018年属性別



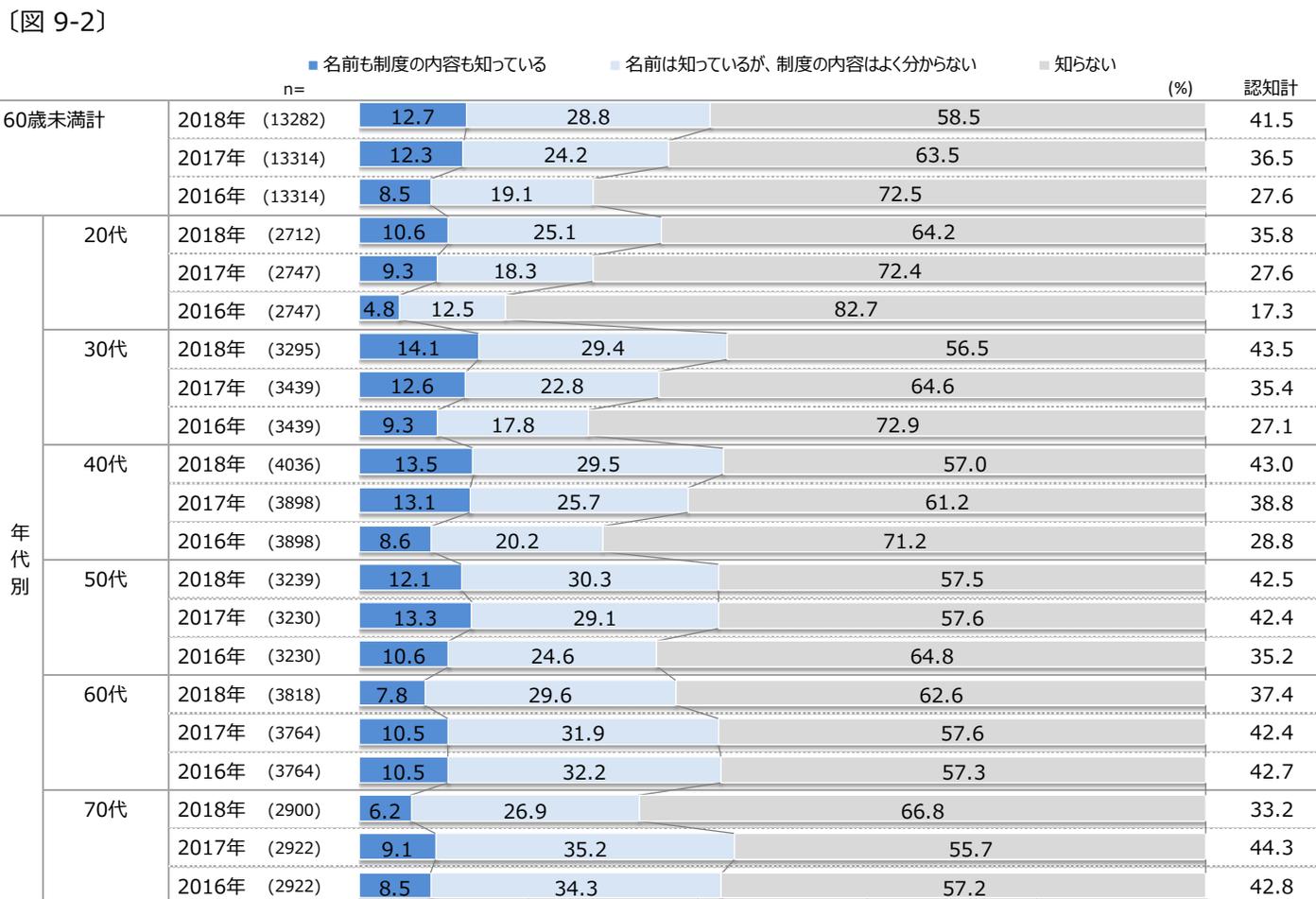
9. 個人型確定拠出年金の浸透状況、 今後の利用意向



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(1) 個人型確定拠出年金の認知〔Q15⑤:単数回答〕

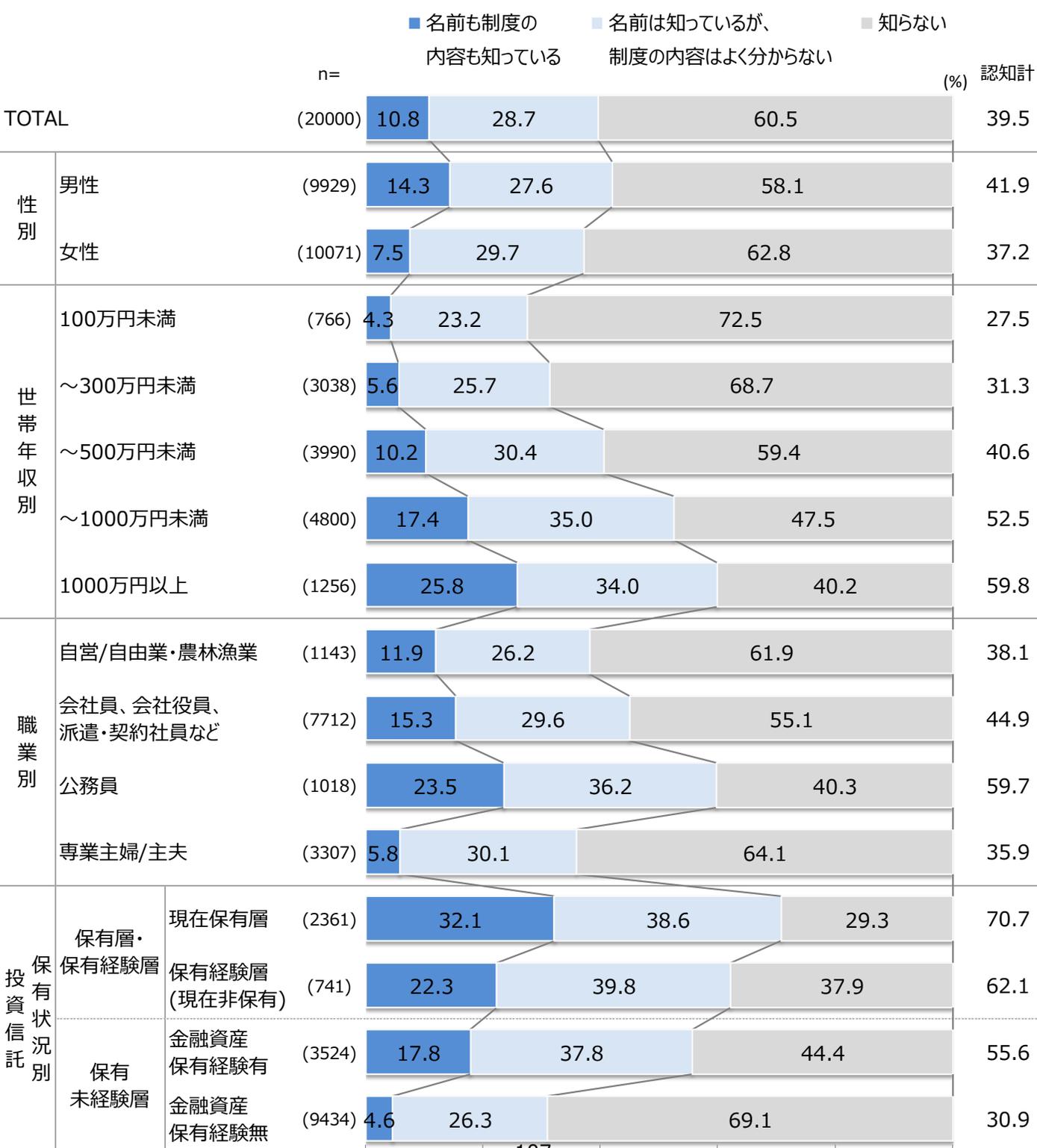
- 個人型確定拠出年金の認知率(認知計：39.5%)は僅かだが増加傾向。制度内容認知率(10.8%)は前回と同水準となる。〔図9-1〕
- 年代別に認知率、制度内容認知率をみると、40代以下では増加傾向にあり浸透が進んでいる様子。50代は前回と同程度となり、60代以上では前回よりやや減少している。〔図9-2〕
- 世帯年収別では高年収層ほど認知率、制度内容認知率共に高くなる。職業別では「専業主婦/主夫」で認知率が低い様子。投資信託保有状況別でみると、投資への関与が強い層ほど認知率は高い。〔図9-3〕



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(1) 個人型確定拠出年金の認知〔Q15⑤:単数回答〕

〔図 9-3〕 * 2018年属性別

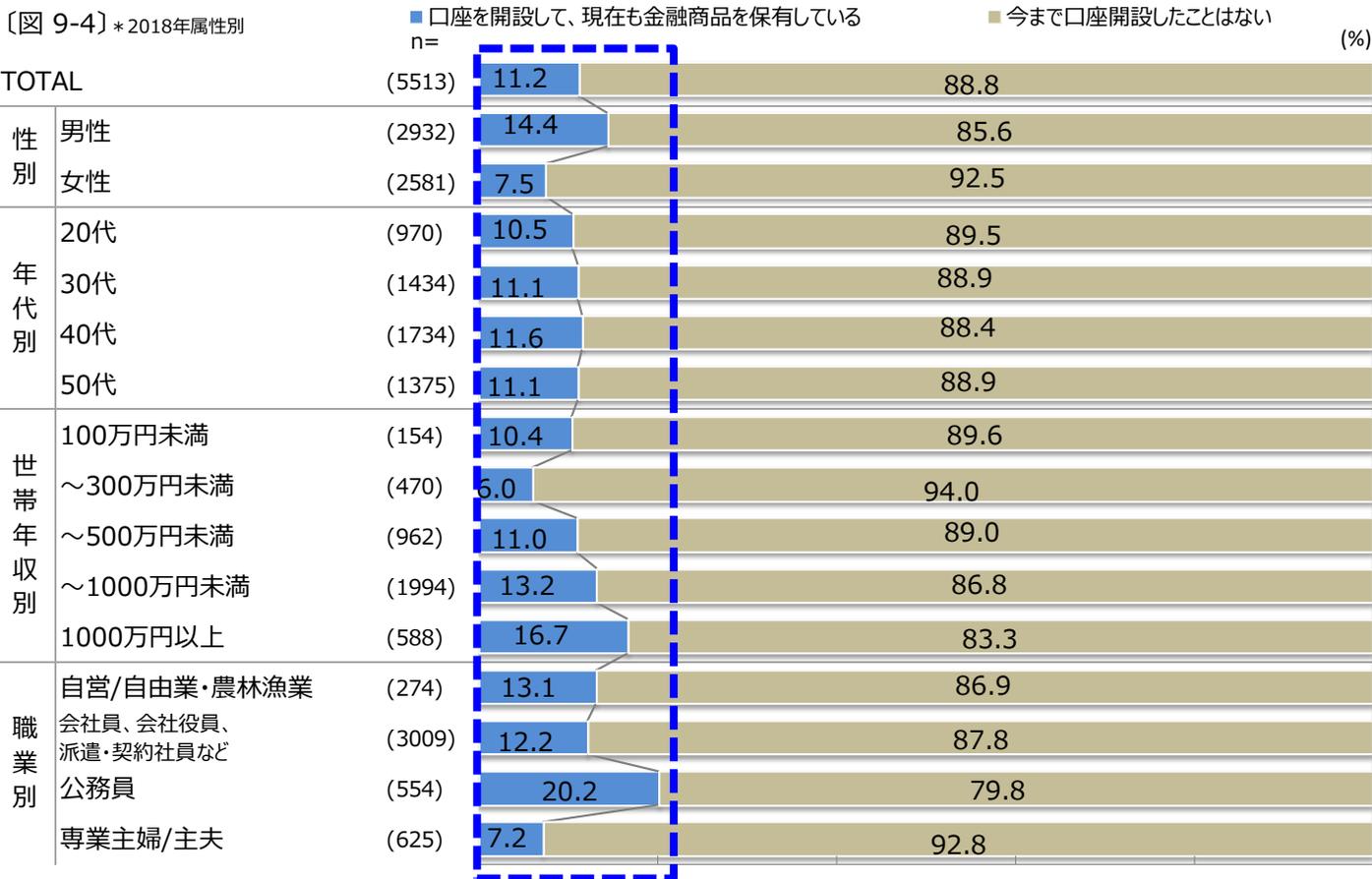


9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

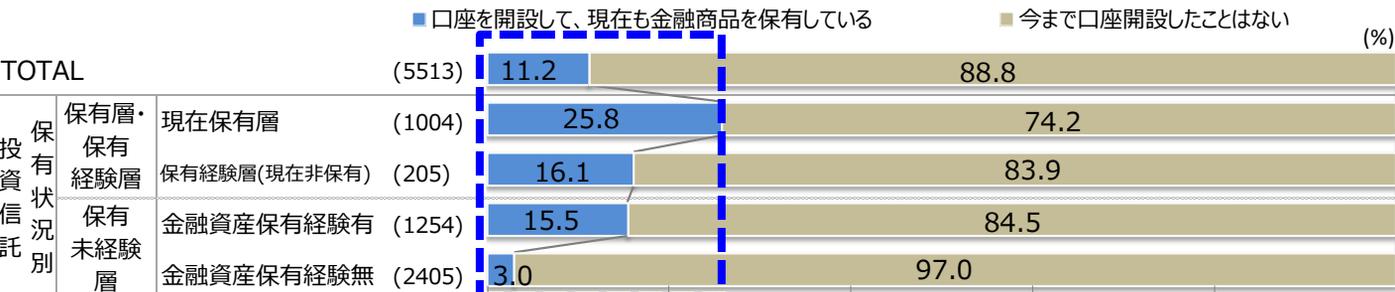
(2) 個人型確定拠出年金の利用状況(60歳未満の制度認知者) 〔Q16⑤:単数回答〕

- 個人型確定拠出年金を知っている人のうち、口座開設率は11.2%。90%弱が口座未開設。〔図9-4〕
- 現在金融商品保有率は、女性より男性で高く、年代間で大きな差はみられない。世帯年収別では「1000万円以上」層で高い。また職業では公務員が最も高くなる。〔図9-4〕
- 投資信託保有状況別でみると、投資信託への関与が強い層ほど、個人型確定拠出年金での現在金融保有率も高くなる傾向。〔図9-5〕
- 個人型確定拠出年金の、口座開設・現在金融商品保有層の平均年齢は、41.5歳〔図9-6〕

〔図9-4〕*2018年属性別



〔図9-5〕*2018年属性別

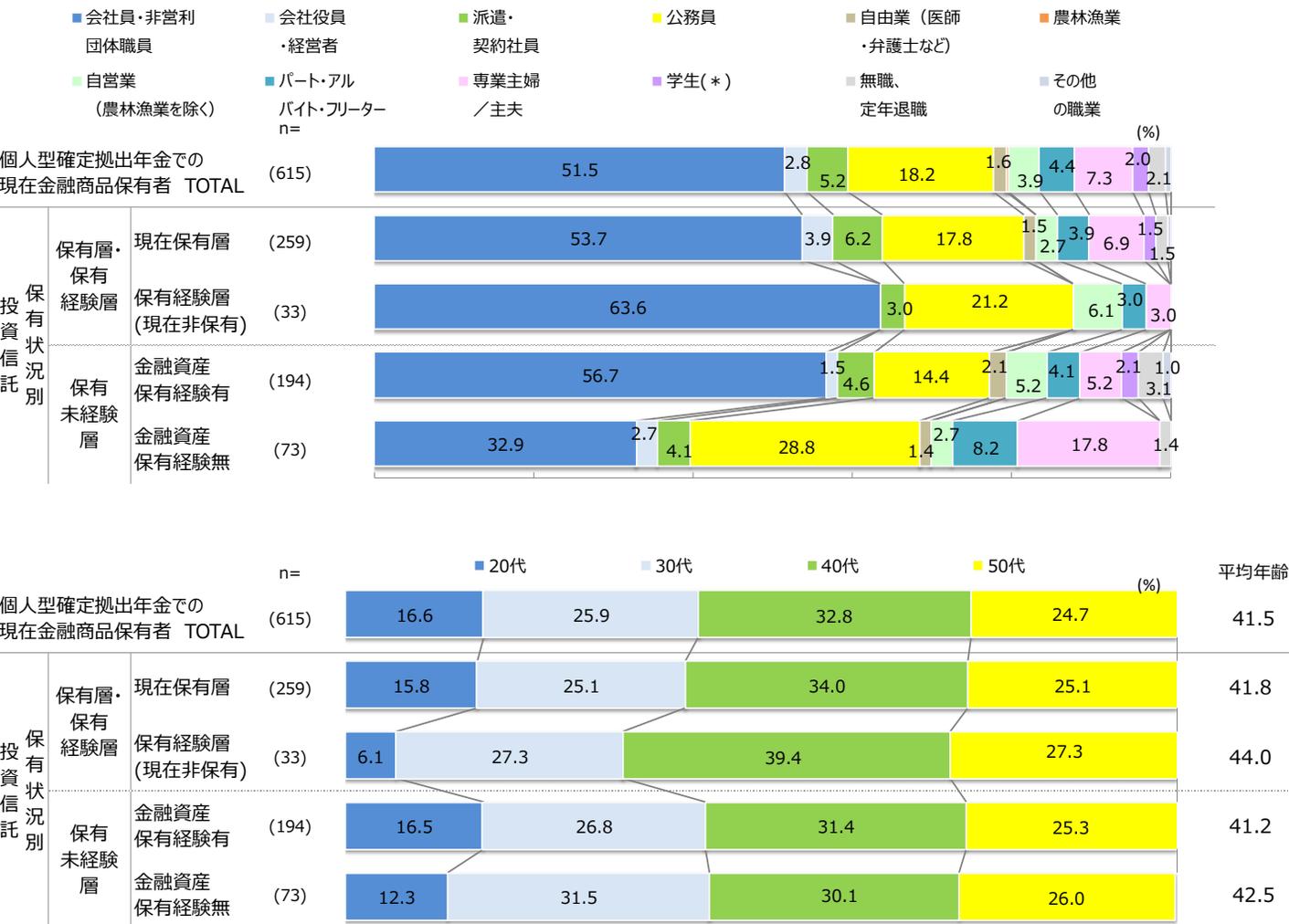


※個人型確定拠出年金では「口座を開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」「口座を開設したが、まだ金融商品を購入したことはない」を「口座を開設して、現在も金融商品を保有している」に統合。(TOTALでは0.8%と2.5%を7.9%に統合)

9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(2) 個人型確定拠出年金の利用状況(60歳未満の制度認知者) 〔Q16⑤:単数回答〕

〔図 9-6〕【個人型確定拠出年金 現在金融商品保有者の年代／職業 投信保有状況別】* 2018年属性別



* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

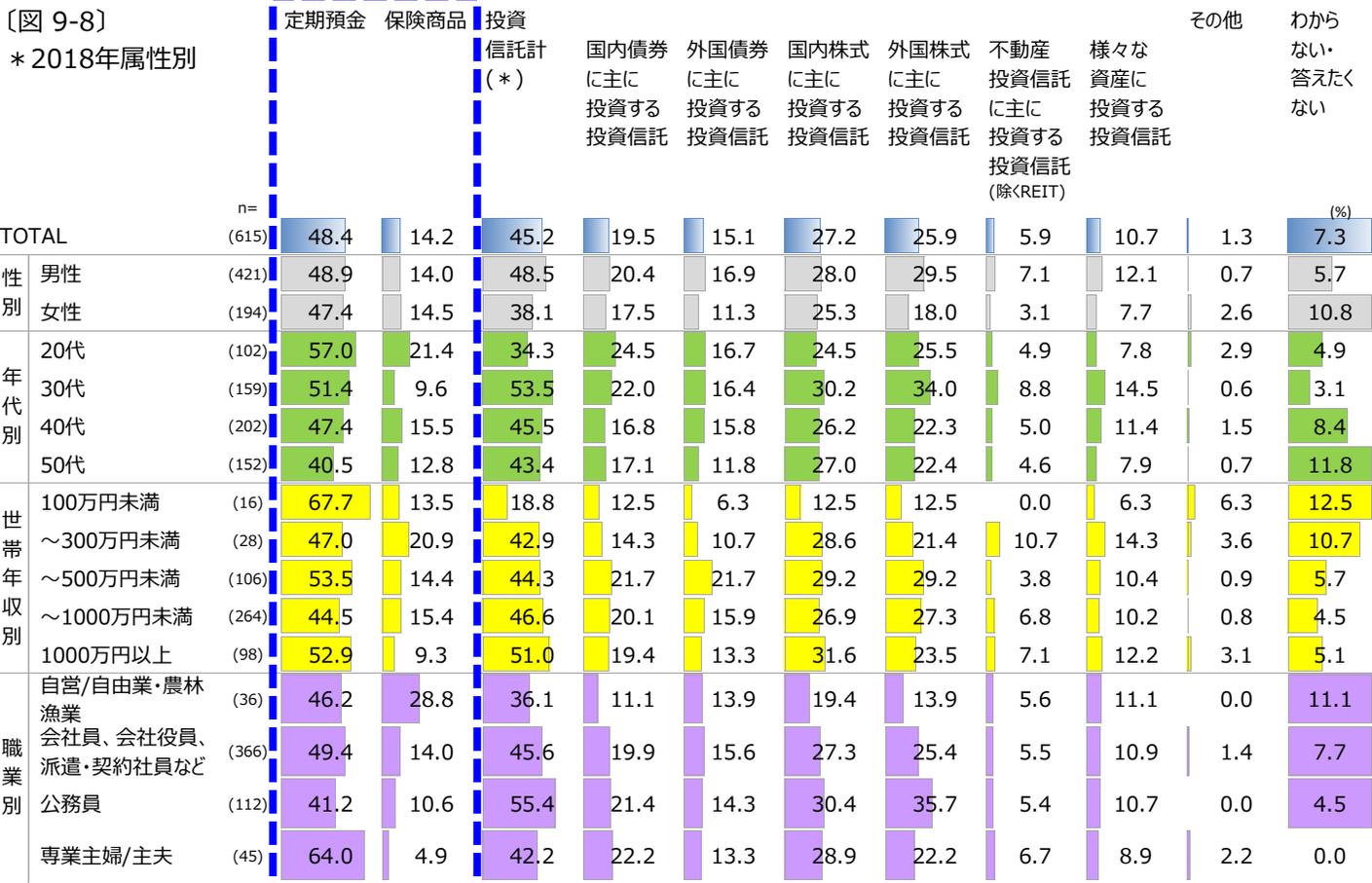
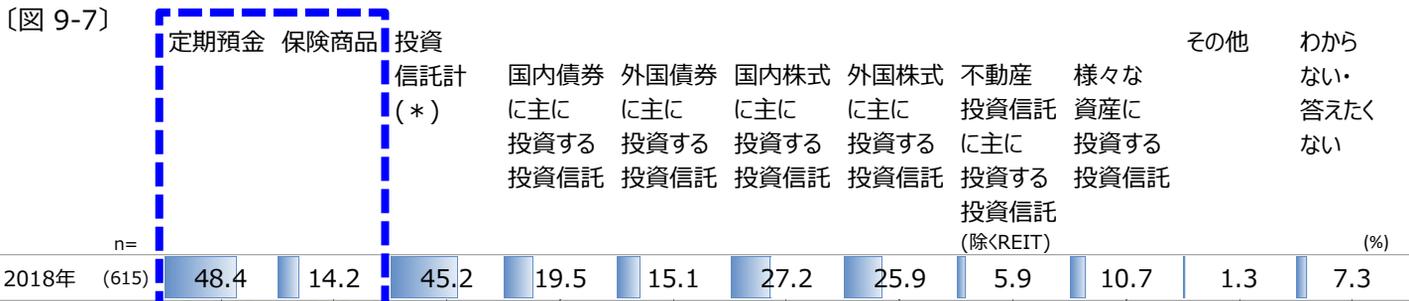
* 1%未満非表示

9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(3) 個人確定拠出年金での保有金融商品(60歳未満で、個人型確定拠出年金での現在金融商品保有者)[Q17⑤:重複回答]

- 個人型確定拠出年金での保有金融商品は、「投資信託計*」が45.2%となり、中でも「国内株式／外国株式に主に投資する投資信託」の保有率が20%以上で高い。〔図9-7〕
- 年代別で見ると、30代で「投資信託計」が50%以上と高く、「国内・外国株式に主に投資する投資信託」の他に、「不動産投信に主に投資する投資信託」「様々な資産に投資する投資信託」の保有がやや高くなる。また「国内・外国債券に主に投資する投資信託」は、若年層ほど保有率が微増。職業別で見ると、「公務員」では「外国株式に主に投資する投資信託」保有率が他職業に比べ高い。〔図9-8〕

* 投資信託計・・・「国内債券に主に投資～様々な資産に投資する投資信託」のいずれかを保有している者の割合



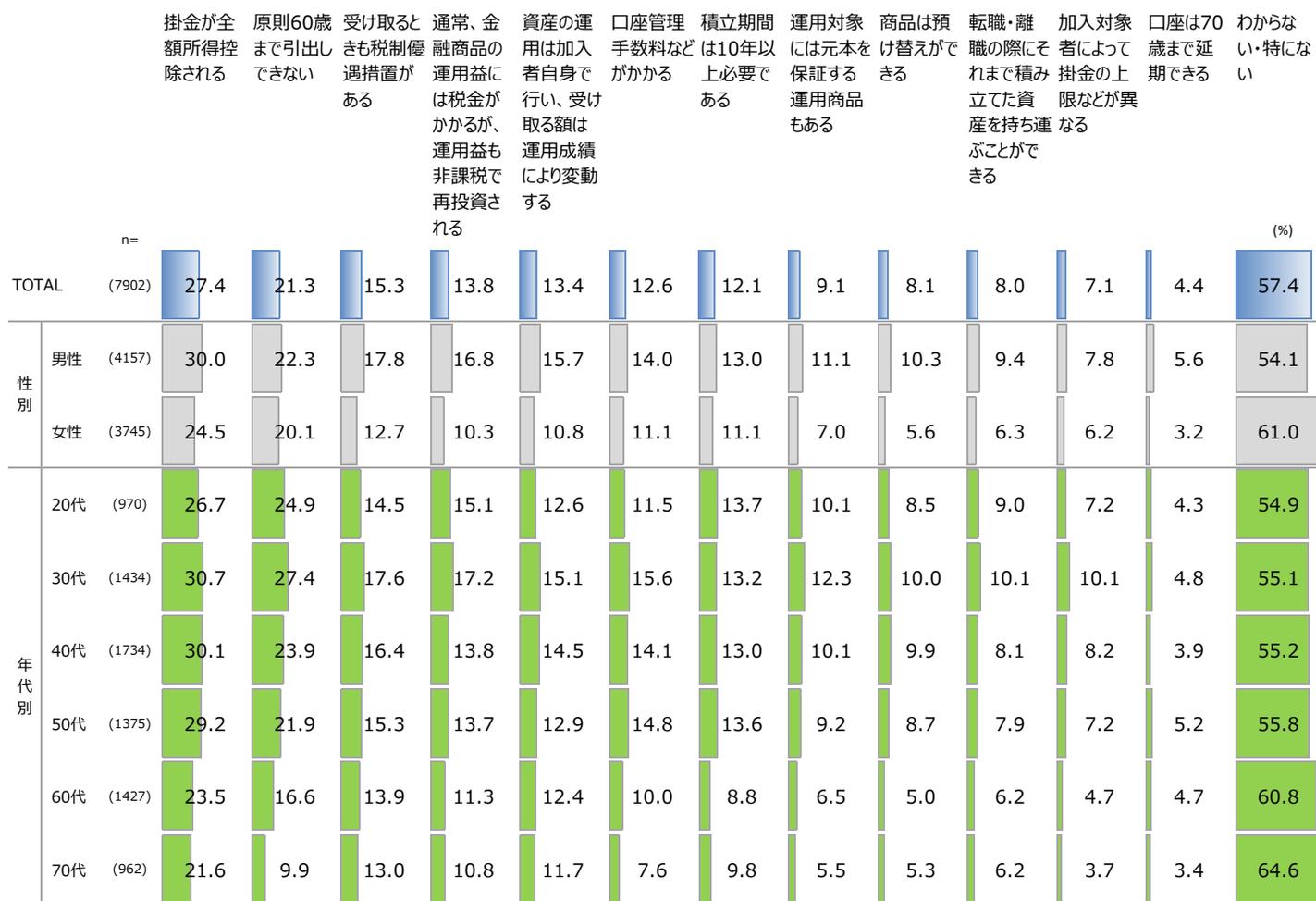
※個人型確定拠出では、「口座を開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない」「口座を開設したが、まだ金融商品を購入したことはない」層を「口座を開設して、現在も金融商品保有している」層に統合(P108)。保有金融商品では、その統合した層を「定期預金」「保険商品」の2商品に案分し含有。(案分比率は統合前の定期預金/保険商品構成比に準じている。TOTALでは「定期預金36.3」「保険商品10.6」で案分。※構成比は各属性で異なる。)

9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(4) 個人型確定拠出年金の特徴認知(制度認知者全体)[Q27①:複数回答]

- 個人型確定拠出年金の特徴では、「掛金が全額所得控除される」(27.4%)、「原則60歳まで引出しできない」(21.3%)が上位に続く。
- 年代別で見ると、多くの項目において、30代の認知率が他年代より高くなる傾向。〔図9-9〕

〔図 9-9〕 * 2018年属性別



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

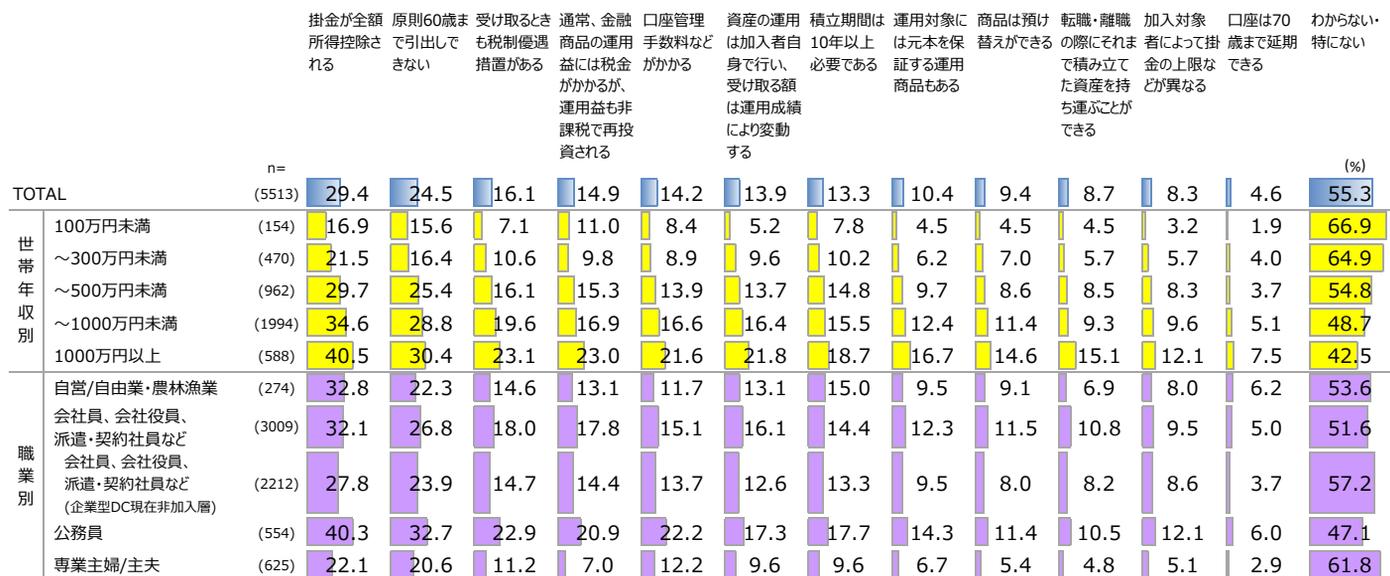
(5) 個人型確定拠出年金の特徴認知(60歳未満の制度認知者) 〔Q27①:複数回答〕

- 60歳未満で個人型確定拠出年金を知っている人に絞ってみると、同制度の特徴認知率は全体的に前回より微減傾向。〔図9-10〕
- 世帯年収別では全体的に高年収層ほど認知は高い。また職業別でみると、他職業に比べ全体的に「公務員」で認知率が高く、「専業主婦/主夫」で認知率が低くなる。〔図9-11〕〔図9-12〕

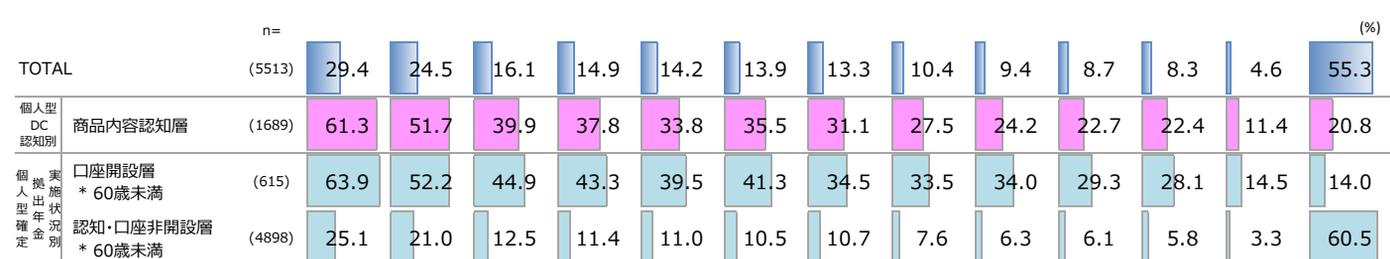
〔図 9-10〕



〔図 9-11〕 * 2018年属性別



〔図 9-12〕 * 2018年属性別



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(6) 個人型確定拠出年金の魅力点(60歳未満の者)[Q27②:重複回答]

- 個人型確定拠出年金の魅力点では、「掛金が全額所得控除される」(18.7%)が前回同様に最も高い。〔図9-13〕
- どの属性でみても「掛金が全額所得控除される」の魅力度が最も高くなる。〔図9-14〕〔図9-15〕

〔図 9-13〕

	掛金が全額所得控除される	受け取る時も税制優遇措置がある	通常、金融商品の運用には税金がかかるが、運用益も非課税で再投資される	運用対象には元本を保証する運用商品もある	商品は預け替えができる	転職・離職の際にそれまで積み立てた資産を持ち運ぶことができる	資産の運用は加入者自身で行い、受け取る額は運用成績により変動する	原則60歳まで引出できない	口座は70歳まで延期できる	積立期間は10年以上必要である	加入対象者によって掛金の上限などが異なる	口座管理手数料などがかかる	わからない・特にな	(%)
2018年 (13282)	18.7	8.9	8.7	5.9	3.3	3.3	2.2	1.9	1.8	1.7	1.0	0.8	72.4	
2017年 (13314)	19.8	10.4	9.5	6.5	3.6	4.1	2.4	1.6	1.8	1.6	0.9	0.7	70.3	
2016年 (13314)	17.2	9.4	7.8	6.1	3.3	3.6	2.1	1.4	1.6	1.2	0.8	0.6	73.9	

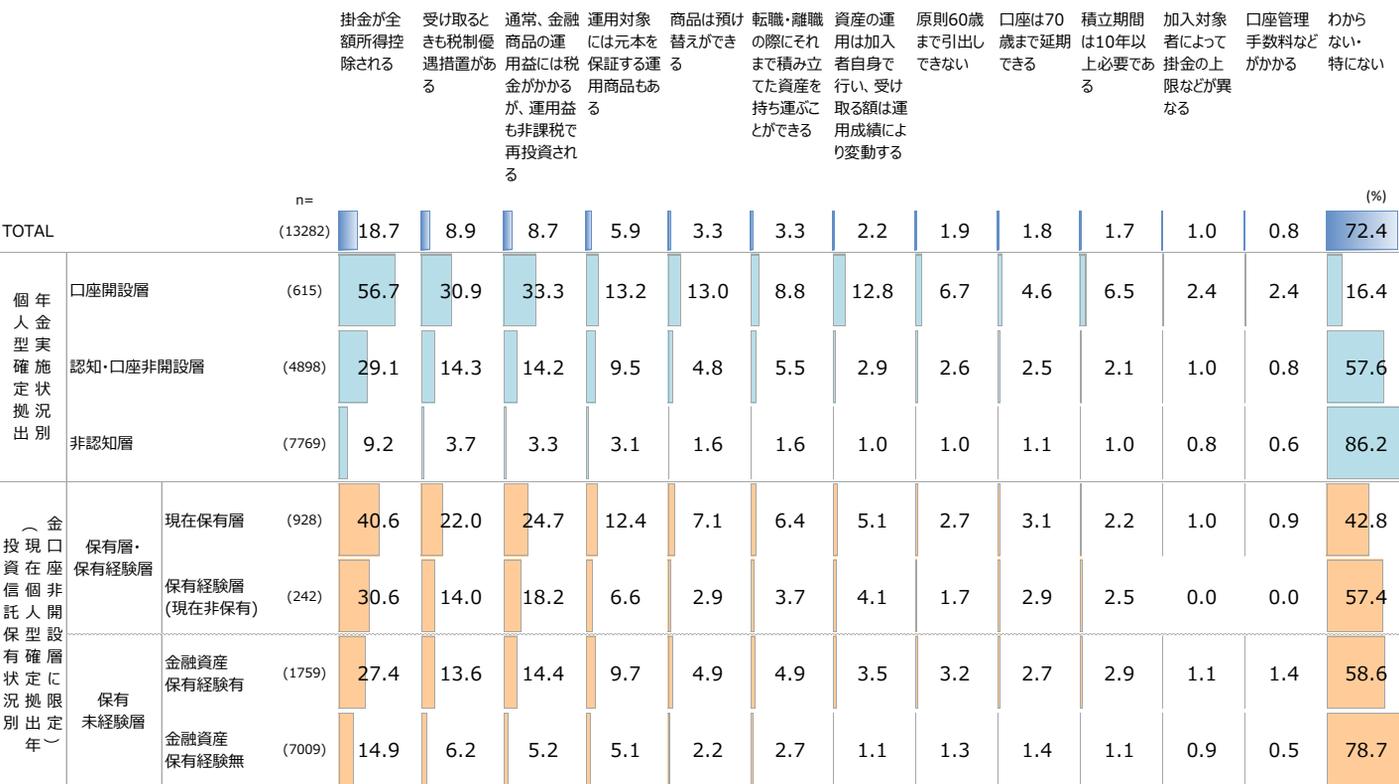
〔図 9-14〕 * 2018年属性別

	掛金が全額所得控除される	受け取る時も税制優遇措置がある	通常、金融商品の運用には税金がかかるが、運用益も非課税で再投資される	運用対象には元本を保証する運用商品もある	商品は預け替えができる	転職・離職の際にそれまで積み立てた資産を持ち運ぶことができる	資産の運用は加入者自身で行い、受け取る額は運用成績により変動する	原則60歳まで引出できない	口座は70歳まで延期できる	積立期間は10年以上必要である	加入対象者によって掛金の上限などが異なる	口座管理手数料などがかかる	わからない・特にな	(%)
TOTAL (13282)	18.7	8.9	8.7	5.9	3.3	3.3	2.2	1.9	1.8	1.7	1.0	0.8	72.4	
性別														
男性 (6741)	19.3	9.3	10.4	5.5	3.3	3.3	2.9	1.9	1.7	2.0	1.1	0.9	70.8	
女性 (6541)	18.1	8.5	7.0	6.4	3.3	3.4	1.5	1.8	1.8	1.4	0.9	0.6	74.1	
年代別														
20代 (2712)	15.7	7.0	7.2	5.5	2.8	3.8	2.2	1.7	2.0	1.7	1.1	0.8	74.5	
30代 (3295)	20.9	9.7	9.6	5.9	3.2	3.9	2.3	2.2	1.5	1.9	0.9	0.5	70.3	
40代 (4036)	19.4	8.5	8.4	5.9	3.4	3.4	2.2	1.7	1.6	1.6	0.9	0.8	72.3	
50代 (3239)	18.1	10.1	9.4	6.4	3.6	2.4	2.1	1.9	2.2	1.5	1.1	0.9	72.9	
世帯年収別														
100万円未満 (514)	13.6	6.0	5.8	6.0	1.9	3.1	1.4	1.2	1.4	1.9	1.4	0.4	76.7	
~300万円未満 (1403)	16.2	8.4	7.0	6.0	3.0	3.8	1.8	2.0	1.9	1.9	1.3	1.1	75.3	
~500万円未満 (2334)	19.8	9.1	8.0	6.4	3.7	3.8	2.6	2.0	2.0	1.9	1.3	0.7	69.7	
~1000万円未満 (3692)	25.0	12.0	12.4	7.0	4.2	4.1	2.9	2.6	2.4	2.1	1.1	0.9	63.5	
1000万円以上 (964)	28.6	15.7	16.5	8.2	5.1	4.6	4.0	2.8	2.5	2.4	1.0	1.2	58.0	
職業別														
自営/自由業・農林漁業 (658)	19.5	8.8	7.4	7.9	3.6	2.9	2.6	1.8	3.8	2.4	1.2	0.9	70.2	
会社員、会社役員、派遣・契約社員など (6648)	20.5	9.7	10.2	6.0	3.6	3.8	2.8	2.2	1.7	1.8	0.9	0.8	69.6	
会社員、会社役員、派遣・契約社員など (企業型DC現在非加入層) (5676)	17.5	7.8	8.1	5.1	2.7	2.9	1.9	2.0	1.5	1.6	0.8	0.7	74.3	
公務員 (900)	27.0	12.6	14.3	7.0	4.1	3.7	3.1	1.9	1.8	2.7	1.1	0.9	62.3	
専業主婦/主夫 (1558)	16.8	8.6	6.9	5.6	3.1	2.4	1.1	1.4	1.5	1.2	0.4	0.4	75.5	

9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(6) 個人型確定拠出年金の魅力点(60歳未満の者)[Q27②:重複回答]

〔図 9-15〕 * 2018年属性別



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(6) 個人型確定拠出年金の最魅力点(60歳未満の者)[Q27③:単数回答]

- 個人型確定拠出年金の最魅力点は、魅力点と同様に「掛金が全額所得控除される」(14.4%)が前回に続いて最も高い。〔図9-16〕
- また魅力点と同様に、どの属性でも「掛金が全額所得控除される」が最も高くなる。〔図9-17〕〔図9-18〕

〔図 9-16〕

	掛金が全額所得控除される	運用対象には元本を保証する運用商品もある	通常、金融商品の運用益には税金がかかるが、運用益も非課税で再投資される	受け取る時も税制優遇措置がある	商品は預け替えができる	転職・離職の際にそれまで積み立てた資産を持ち運ぶことができる	資産の運用は加入者自身で行い、受け取る額は運用成績により変動する	積立期間は10年以上必要である	原則60歳まで引出しできない	口座は70歳まで延期できる	加入対象者によって掛金の上限などが異なる	口座管理手数料などがかかる	わからない・特にな
2018年 (13282)	14.4	3.0	2.9	2.4	0.9	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.3	72.4
2017年 (13314)	15.1	3.2	3.2	3.1	0.9	1.0	0.8	0.5	0.5	0.7	0.5	0.3	70.3
2016年 (13314)	12.6	3.1	2.5	2.9	1.0	1.0	0.8	0.4	0.5	0.6	0.4	0.2	73.9

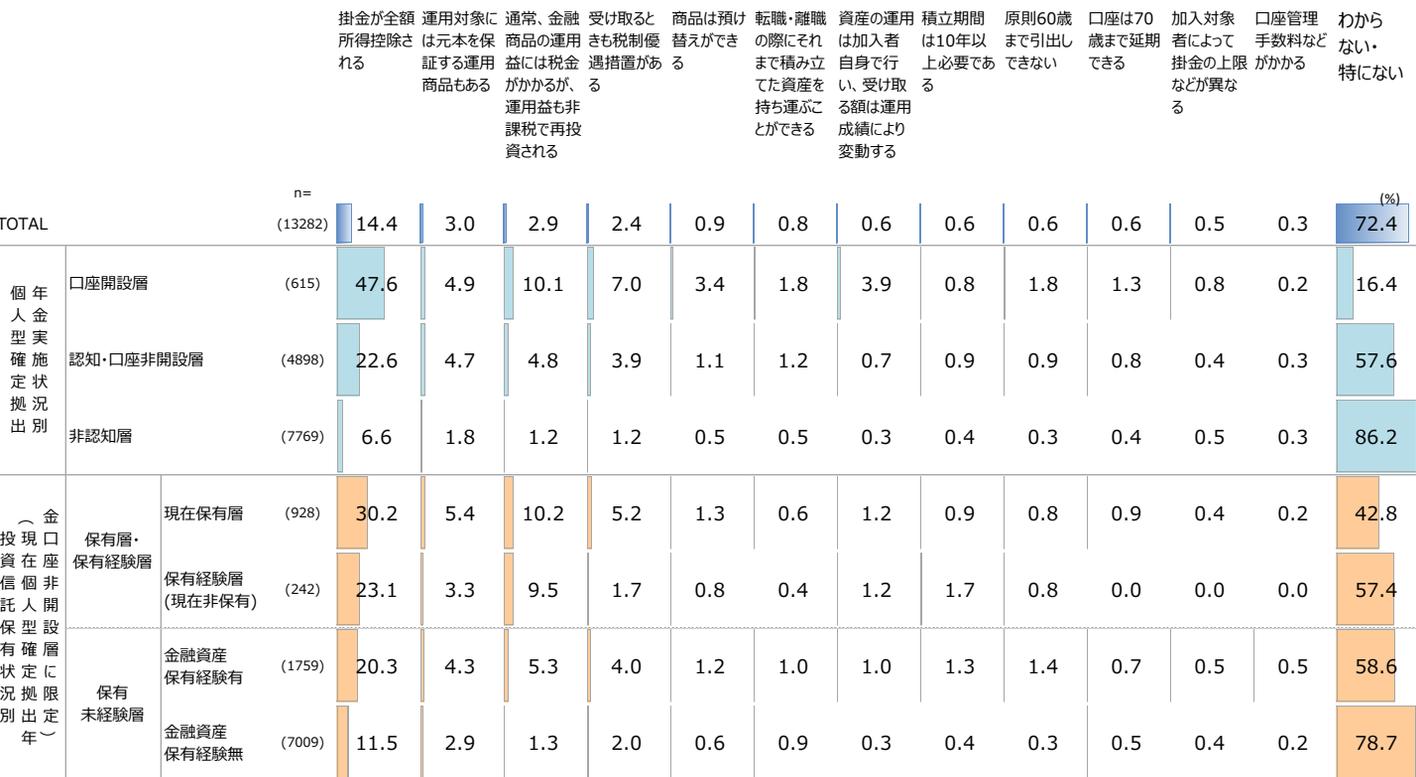
〔図 9-17〕 * 2018年属性別

	掛金が全額所得控除される	運用対象には元本を保証する運用商品もある	通常、金融商品の運用益には税金がかかるが、運用益も非課税で再投資される	受け取る時も税制優遇措置がある	商品は預け替えができる	転職・離職の際にそれまで積み立てた資産を持ち運ぶことができる	資産の運用は加入者自身で行い、受け取る額は運用成績により変動する	積立期間は10年以上必要である	原則60歳まで引出しできない	口座は70歳まで延期できる	加入対象者によって掛金の上限などが異なる	口座管理手数料などがかかる	わからない・特にな
TOTAL (13282)	14.4	3.0	2.9	2.4	0.9	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.3	72.4
性別													
男性 (6741)	15.1	2.6	3.9	2.4	0.9	0.7	0.8	0.8	0.7	0.5	0.6	0.4	70.8
女性 (6541)	13.7	3.5	1.9	2.5	0.9	1.0	0.4	0.4	0.5	0.6	0.4	0.2	74.1
年代別													
20代 (2712)	12.1	2.9	2.4	2.1	1.0	1.1	0.7	0.4	0.7	0.8	0.8	0.4	74.5
30代 (3295)	16.6	2.7	2.8	2.5	0.8	1.2	0.6	0.8	0.7	0.6	0.3	0.2	70.3
40代 (4036)	15.2	3.0	3.0	2.4	0.8	0.7	0.5	0.6	0.3	0.3	0.4	0.3	72.3
50代 (3239)	13.0	3.4	3.5	2.7	1.0	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.2	72.9
世帯年収別													
100万円未満 (514)	11.3	3.1	2.3	1.6	0.4	1.4	0.6	0.6	0.4	0.8	0.8	0.2	76.7
~300万円未満 (1403)	11.8	2.9	1.5	3.0	1.1	1.1	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	0.4	75.3
~500万円未満 (2334)	15.0	3.6	2.9	2.7	1.0	1.3	0.7	0.9	0.6	0.6	0.7	0.3	69.7
~1000万円未満 (3692)	19.7	3.2	4.4	3.0	1.2	0.9	0.9	0.8	0.9	0.8	0.5	0.3	63.5
1000万円以上 (964)	22.5	3.5	6.5	4.6	0.7	0.5	1.0	0.8	0.6	0.7	0.3	0.1	58.0
職業別													
自営/自由業・農林漁業 (658)	14.3	4.7	3.0	2.4	0.6	0.5	0.5	0.9	0.5	1.2	0.9	0.3	70.2
会社員、会社役員、派遣・契約社員など (6648)	15.9	2.7	3.6	2.6	1.1	1.0	0.8	0.6	0.7	0.5	0.5	0.3	69.6
会社員、会社役員、派遣・契約社員など (企業型DC現在非加入層) (5676)	13.7	2.6	2.7	2.2	0.9	0.7	0.5	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	74.3
公務員 (900)	22.8	3.0	4.4	2.8	0.9	0.3	0.8	1.1	0.4	0.3	0.6	0.2	62.3
専業主婦/主夫 (1558)	13.1	3.4	2.1	2.1	0.8	0.7	0.3	0.5	0.4	0.6	0.3	0.1	75.5

9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(6) 個人型確定拠出年金の最魅力点(60歳未満の者)[Q27③:単数回答]

〔図 9-18〕 * 2018年属性別



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(7) 個人型確定拠出年金の口座開設・投資性商品未購入理由及び口座未開設理由 (60歳未満の口座開設・投資性商品未購入、口座未開設層)〔Q25:重複回答〕

- 個人型確定拠出年金で投資性商品(定期預金・保険を除く商品)未購入や口座未開設の理由は、「投資に回すお金がない」(22.1%)、「制度の内容を知らない」(17.6%)、「投資の知識がない／知識がないと難しそう」(17.4%)が上位となる。時系列で見ると、「投資の知識がない／知識がないと難しそう」は僅かだが増加している。〔図9-19〕
- 若年層や世帯年収が低い層ほど「投資に回すお金がない」との経済的理由や、「制度内容を知らない」「投資の知識がない／知識がないと難しそう」「制度が複雑で理解できない」との知識や理解不足が多く上がる。また職業別では「専業主婦/主夫」層で全体的に他職業より高くなる傾向。〔図9-20〕

〔図 9-19〕

	投資に回す お金がない から	制度の内容 を知らないか ら	投資の知識 がないから/ 知識がない と難しそう だから	制度が複雑 がよく理解で きないから	投資は元本 が保証され ないから	どの金融商 品を購入し たらよいかわ からないから	企業型確定 拠出年金に 加入してい るので	口座開設の 申込手続き が煩雑で面 倒だから	投資したい 金融商品が ないから	既に十分な 資産があり、 投資は必要 ないから	金融機関に 勧められて 口座開設し ただけだから	その他	特に理由は ない
2018年 (5141)	22.1	17.6	17.4	13.4	12.4	11.6	8.0	6.0	3.9	1.0	0.3	1.9	34.1
2017年 (4555)	21.7	17.2	14.3	12.8	14.0	11.5	10.3	7.2	4.9	0.9	0.2	1.9	31.8
2016年 (3470)	20.8	15.6	12.5	10.2	12.2	9.7	9.2	5.3	4.3	0.8	0.1	1.3	36.0

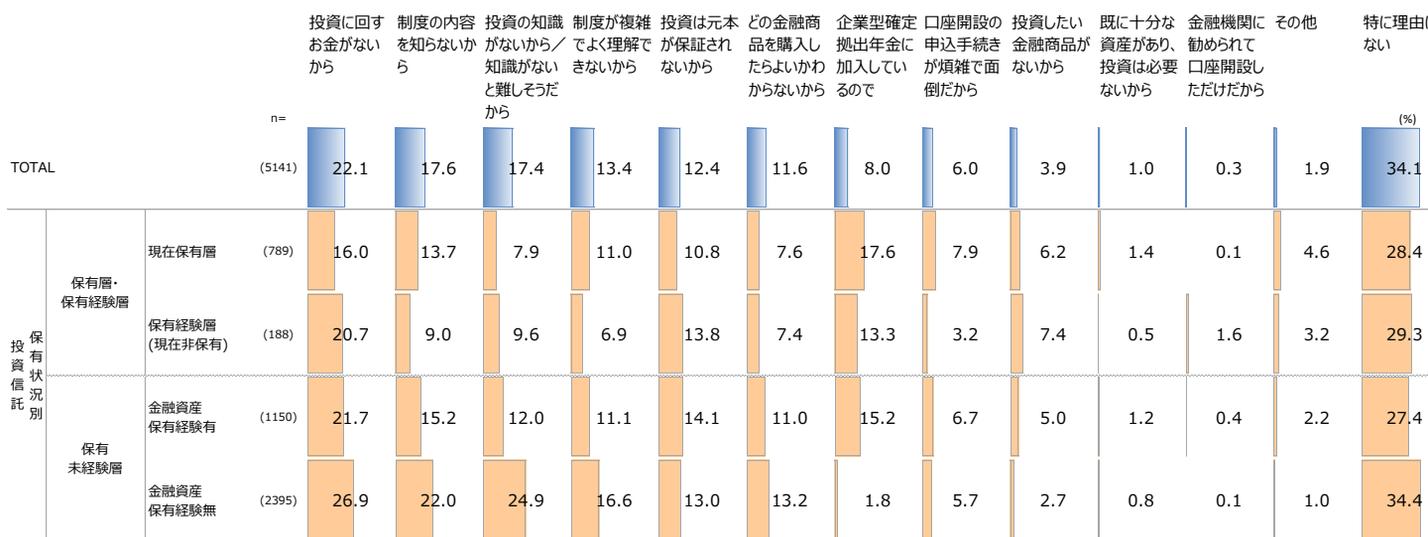
〔図 9-20〕 * 2018年属性別

	投資に回す お金がない から	制度の内容 を知らないか ら	投資の知識 がないから/ 知識がない と難しそう だから	制度が複雑 がよく理解で きないから	投資は元本 が保証され ないから	どの金融商 品を購入し たらよいかわ からないから	企業型確定 拠出年金に 加入してい るので	口座開設の 申込手続き が煩雑で面 倒だから	投資したい 金融商品が ないから	既に十分な 資産があり、 投資は必要 ないから	金融機関に 勧められて 口座開設し ただけだから	その他	特に理由は ない
TOTAL (5141)	22.1	17.6	17.4	13.4	12.4	11.6	8.0	6.0	3.9	1.0	0.3	1.9	34.1
性別													
男性 (2664)	20.6	13.6	12.7	9.5	10.7	9.2	11.9	5.4	4.4	1.1	0.4	2.1	35.8
女性 (2477)	23.7	21.8	22.6	17.5	14.3	14.3	3.7	6.6	3.4	0.9	0.2	1.6	32.2
年代別													
20代 (915)	23.3	22.3	20.5	16.3	9.4	12.2	7.0	7.2	4.4	1.5	0.1	1.7	33.3
30代 (1331)	22.8	20.7	18.7	16.5	11.9	11.3	8.5	7.8	3.2	0.8	0.2	2.3	31.7
40代 (1610)	22.7	15.5	15.7	10.8	12.7	11.4	8.4	5.2	3.8	0.9	0.2	1.3	35.6
50代 (1285)	19.8	13.5	16.1	11.3	14.8	11.9	7.5	4.2	4.4	1.1	0.5	2.3	35.2
世帯年収別													
100万円未満 (146)	30.8	23.3	24.7	17.1	13.0	13.7	0.7	4.8	3.4	2.1	0.0	0.7	32.9
~300万円未満 (454)	32.4	24.2	23.1	17.8	13.0	15.4	1.5	7.9	6.6	1.1	0.0	1.1	31.7
~500万円未満 (898)	28.1	19.7	18.0	14.0	10.4	11.2	6.3	5.3	3.1	0.8	0.4	2.1	30.8
~1000万円未満 (1842)	21.3	16.9	16.4	13.2	13.8	10.7	10.1	6.5	4.1	1.4	0.2	2.1	28.9
1000万円以上 (522)	11.5	11.5	12.3	8.2	12.6	12.1	18.6	4.6	3.4	1.9	0.6	2.5	32.4
職業別													
自営/自由業・ 農林漁業 会社員、会社役員、 派遣・契約社員など 公務員 (2782)	24.3	13.9	14.3	11.2	13.5	12.0	2.0	4.4	5.6	1.2	0.4	1.6	36.3
専業主婦/主夫 (604)	19.3	15.7	14.5	11.8	11.5	10.5	13.8	5.9	3.9	0.8	0.2	1.7	33.9
(485)	21.0	18.6	19.4	12.4	12.4	13.4	1.6	5.8	3.5	1.9	0.6	3.7	33.8
(604)	23.3	20.7	26.0	19.2	14.9	14.7	1.2	5.6	3.5	1.2	0.3	1.7	31.6

9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(7) 個人型確定拠出年金の口座開設・投資性商品未購入理由及び口座未開設理由 (60歳未満の口座開設・投資性商品未購入、口座未開設層)〔Q25:重複回答〕

〔図 9-21〕 * 2018年属性別



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(8) 個人型確定拠出年金での投資性商品購入及び口座開設検討のきっかけ (60歳未満の口座開設・投資性商品未購入、口座未開設層)〔Q26:重複回答〕

- 個人型確定拠出年金での投資性商品(定期預金・保険を除く商品)購入や、口座開設検討のきっかけでは、「投資に回すお金ができたら」(23.0%)が前回同様に最も高い。〔図9-22〕
- 職業別でみると、「会社員、会社役員、派遣・契約社員など」層では「企業型確定拠出年金加入者でも加入できるようになったら」が高い。また「公務員」では「手取り収入が増えたら」の他に「専門の知識を持つ人に教えてもらえたら」「初心者セミナーなどでわかりやすく説明してもらえたら」が他層より僅かに高い。〔図9-23〕

〔図 9-22〕

	投資に回すお金ができたら	金融や投資を勉強して理解できた	手取り収入が増えたら	金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえたら	身近な人に勧められたら	制度内容や勤務先の規約が改訂され、企業型確定拠出年金加入者でも加入することができるようになったら	経済が上向きになり、値上がりが見込めるようになったら	セカンドライフを考えると投資したい金融商品がラインナップされたら	その他	特になし	
n=											(%)	
2018年 (5141)	23.0	16.2	15.2	13.0	11.2	10.7	8.1	8.0	4.8	4.2	0.9	42.3
2017年 (4555)	23.2	16.0	15.1	13.2	11.5	9.1	10.7	8.3	5.8	5.6	0.6	41.7
2016年 (3470)	24.1	14.6	14.2	11.0	10.6	7.9	9.6	8.2	5.2	5.6	0.7	43.7

〔図 9-23〕

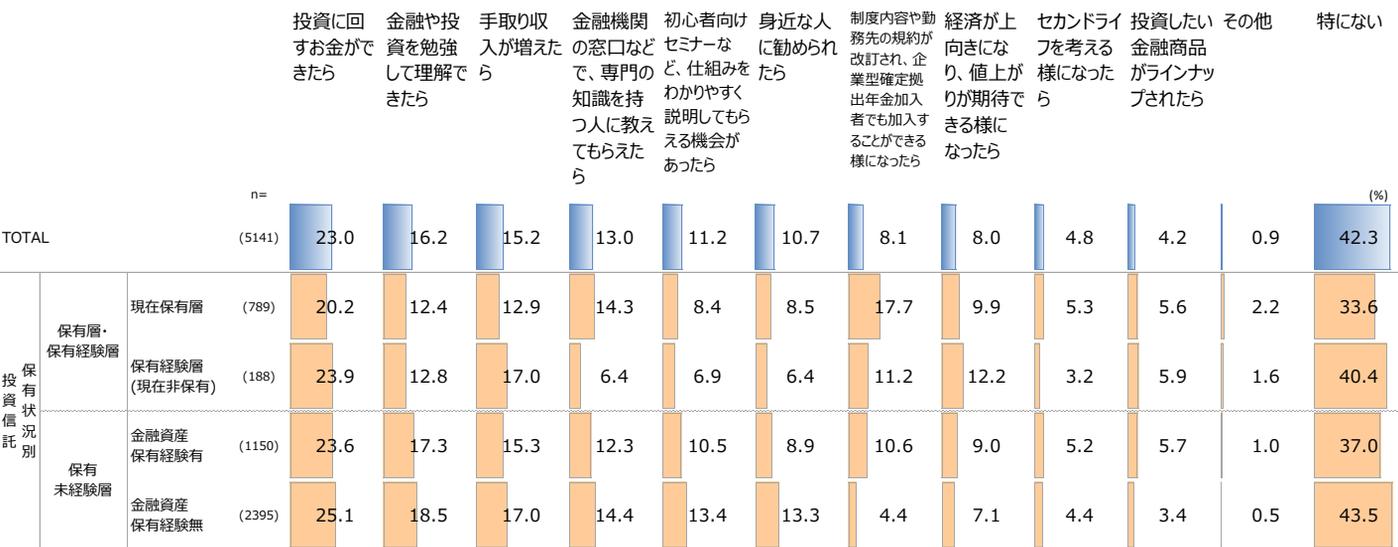
* 2018年 属性別

	投資に回すお金ができたら	金融や投資を勉強して理解できた	手取り収入が増えたら	金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえたら	身近な人に勧められたら	制度内容や勤務先の規約が改訂され、企業型確定拠出年金加入者でも加入することができるようになったら	経済が上向きになり、値上がりが見込めるようになったら	セカンドライフを考えると投資したい金融商品がラインナップされたら	その他	特になし	
n=											(%)	
TOTAL (5141)	23.0	16.2	15.2	13.0	11.2	10.7	8.1	8.0	4.8	4.2	0.9	42.3
性別												
男性 (2664)	20.8	13.9	14.5	10.4	8.2	7.7	10.0	7.8	5.0	4.0	1.1	44.7
女性 (2477)	25.4	18.8	16.0	15.8	14.5	13.9	6.1	8.2	4.6	4.5	0.6	39.8
年代別												
20代 (915)	23.8	18.9	19.8	17.0	15.6	15.7	9.1	7.5	4.7	4.7	0.7	37.6
30代 (1331)	24.7	19.8	17.4	13.7	13.6	13.7	9.6	8.1	5.4	5.0	1.1	37.8
40代 (1610)	22.9	13.7	14.5	12.0	9.9	8.5	8.6	7.5	4.0	3.7	0.7	44.5
50代 (1285)	20.9	13.9	10.7	10.6	7.3	6.8	5.3	8.7	5.3	3.8	1.0	47.8
世帯年収別												
100万円未満 (146)	27.4	17.1	15.1	15.1	10.3	11.0	4.8	5.5	4.1	3.4	0.0	45.9
~300万円未満 (454)	31.3	21.1	24.0	15.2	13.4	10.1	4.8	8.1	3.7	5.7	0.4	39.6
~500万円未満 (898)	25.6	19.0	20.3	14.3	12.6	11.8	8.5	7.1	5.8	3.9	0.9	37.0
~1000万円未満 (1842)	24.0	15.6	14.4	13.4	11.4	11.7	10.1	8.6	4.3	4.0	1.2	37.1
1000万円以上 (522)	16.1	13.8	8.4	10.7	8.8	9.4	13.2	7.7	5.7	5.6	1.0	43.1
職業別												
自営/自由業・農林漁業 (251)	21.1	16.3	13.9	10.0	7.6	8.8	3.2	8.4	2.8	4.0	1.2	47.8
会社員、会社役員、派遣・契約社員など (2782)	21.1	15.4	14.7	12.3	10.5	9.4	11.1	8.2	4.8	4.2	1.0	41.8
公務員 (485)	22.3	17.9	17.3	16.9	15.7	14.6	5.6	8.7	4.7	5.2	1.2	40.0
専業主婦/主夫 (604)	26.3	19.9	12.6	14.2	13.4	14.6	3.6	7.0	5.3	3.6	0.5	40.4

9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(8) 個人型確定拠出年金での投資性商品購入及び口座開設検討のきっかけ (60歳未満の口座開設・投資性商品未購入、口座未開設層)〔Q26:重複回答〕

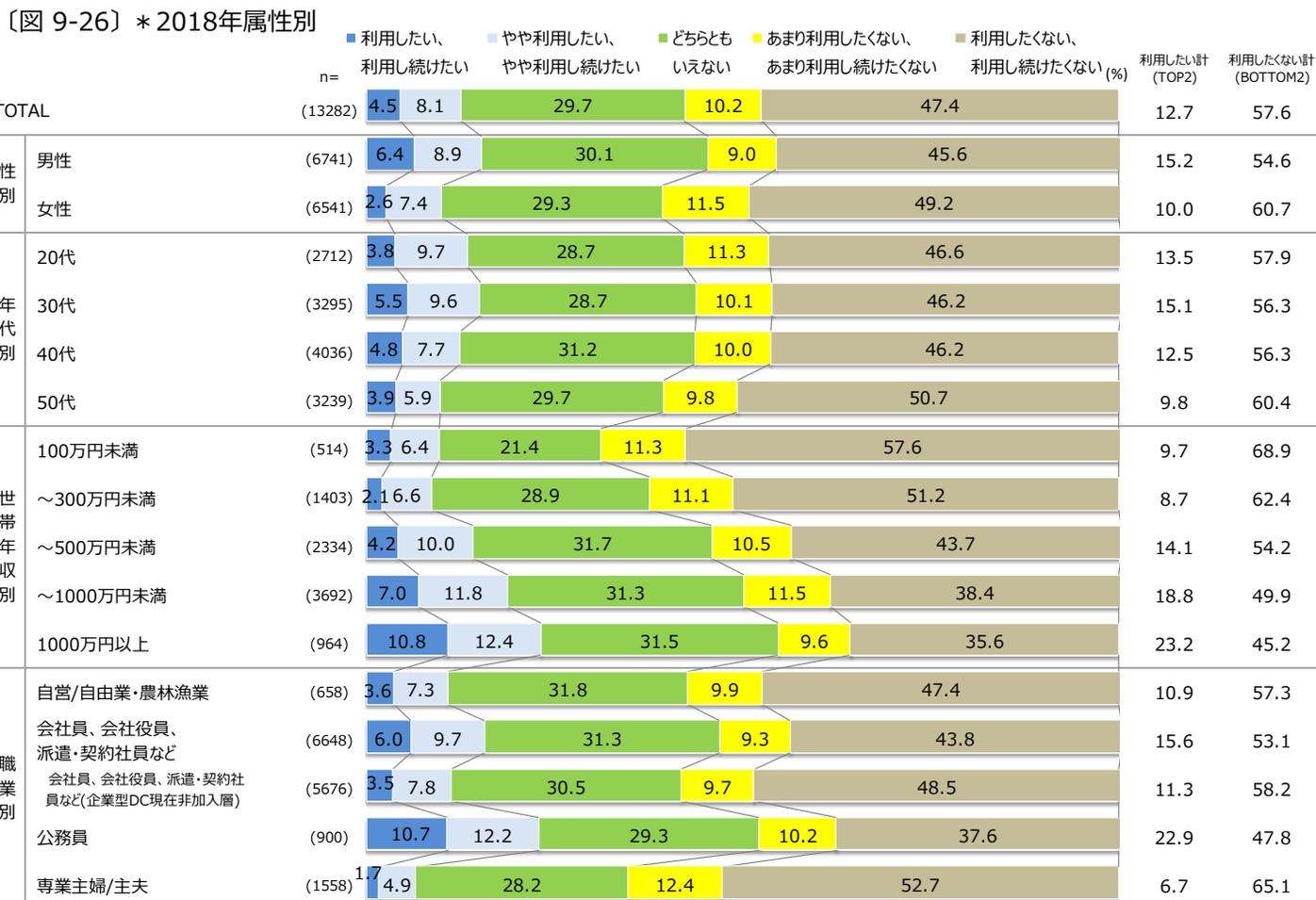
〔図 9-24〕 * 2018年属性別



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(9) 個人型確定拠出年金の今後の利用・継続利用意向(60歳未満の者) 〔Q28:単数回答〕

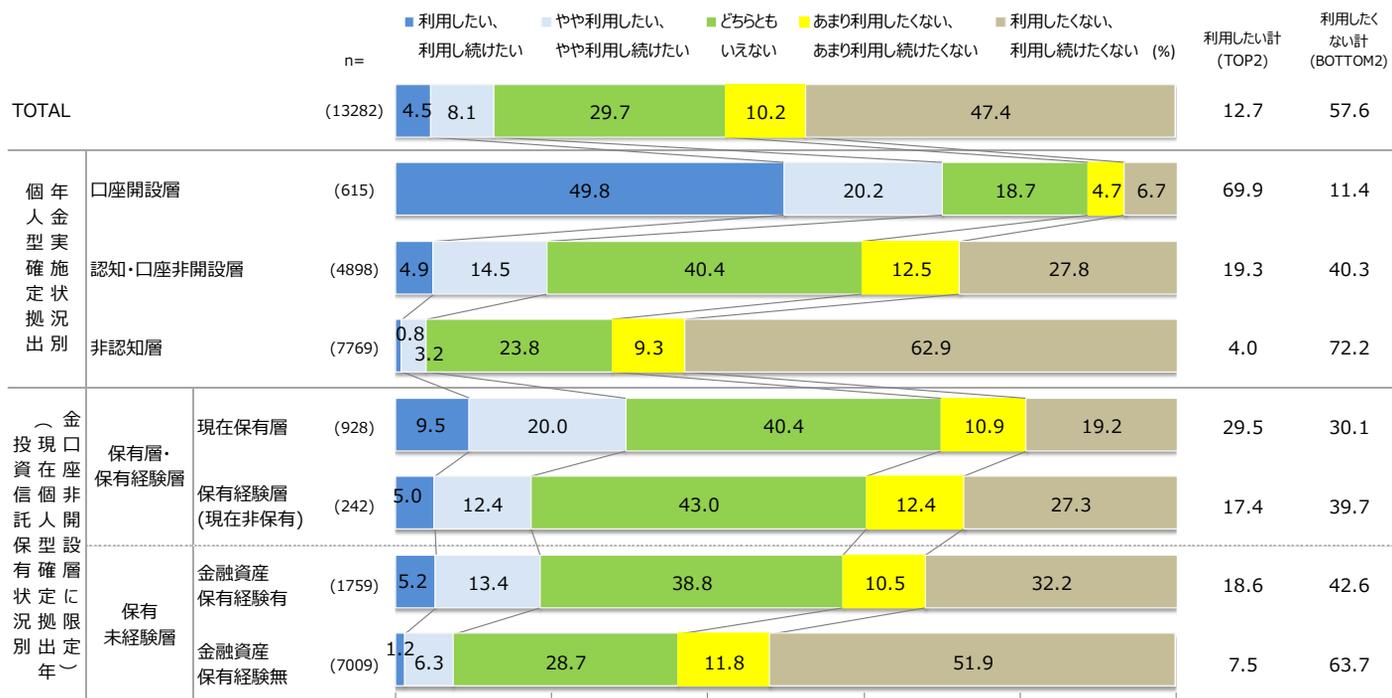
- 個人型確定拠出年金の利用意向は「利用したい計」(TOP2)が12.7%、「利用したくない計」(BOTTOM2)が57.6%と、前回と同程度となる。〔図9-25〕
- 「利用したい計」は30代、「公務員」で他層に比べて高く、また高年収層ほど高くなる。〔図9-26〕
- 口座開設層では、「利用したい計」は66.9%と継続意向を示す。また口座未開設層を投資信託保有状況別にみると、投資信託への関与が強い層ほど利用意向が強くなる傾向。〔図9-27〕



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(9) 個人型確定拠出年金の今後の利用・継続利用意向(60歳未満の者) 〔Q28:単数回答〕

〔図 9-27〕 * 2018年属性別

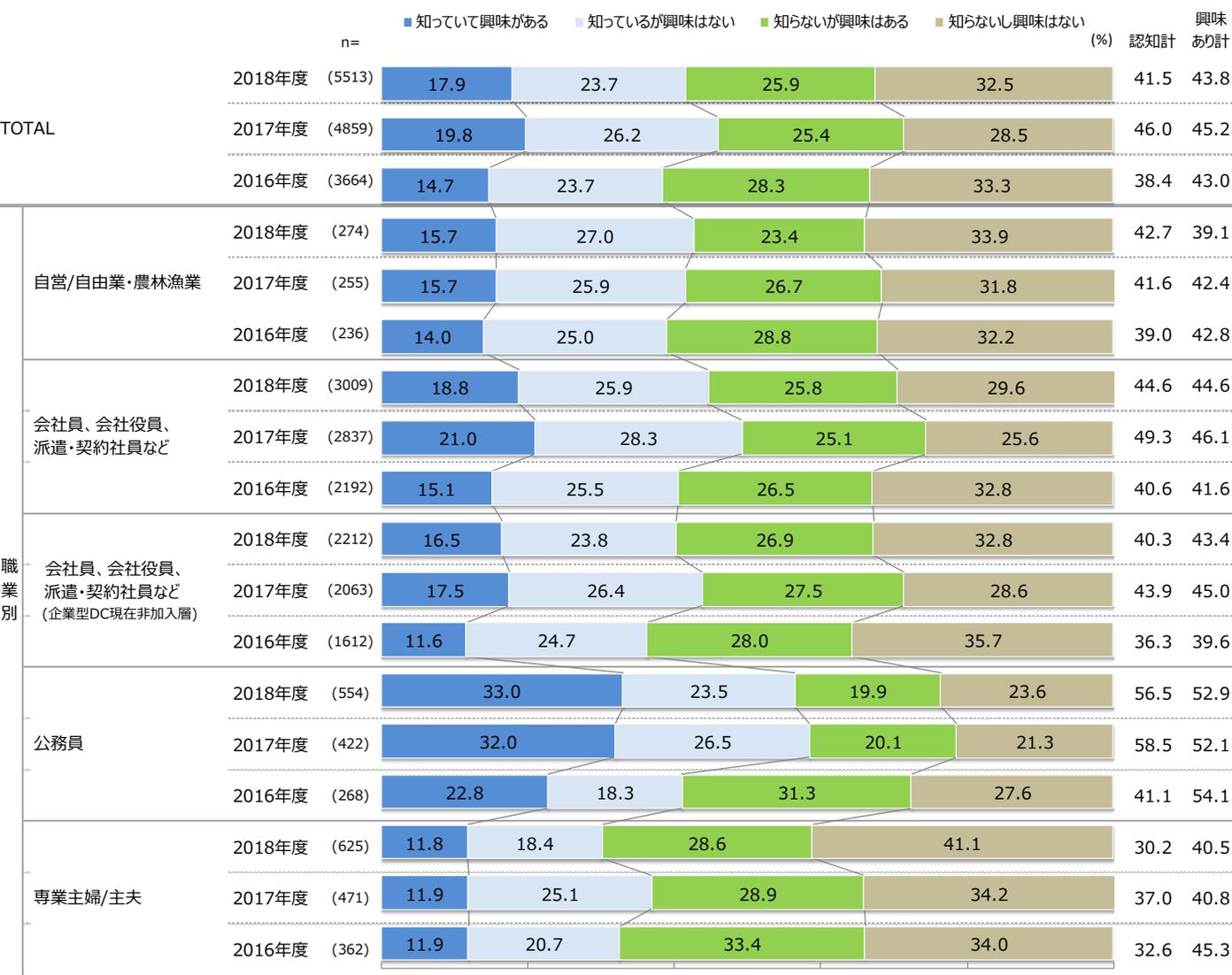


9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(10) 個人型確定拠出年金の利用対象者拡大に関する認知と興味度 (60歳未満の個人型確定拠出年金認知者)[Q29:単数回答]

- 60歳未満の個人型確定拠出年金を知っている人における、同制度利用者拡大の認知率(認知計)は41.5%と、前回よりやや減少。職業別では「専業主婦/主夫」で約7ポイント減少。〔図9-28〕
- 「公務員」「専業主婦/主夫」を属性別に分けてみると、「公務員」では20代の認知が他年代に比べ高くなるのに対し、「専業主婦/主夫」では20代の認知が最も低くなる。〔図9-29〕

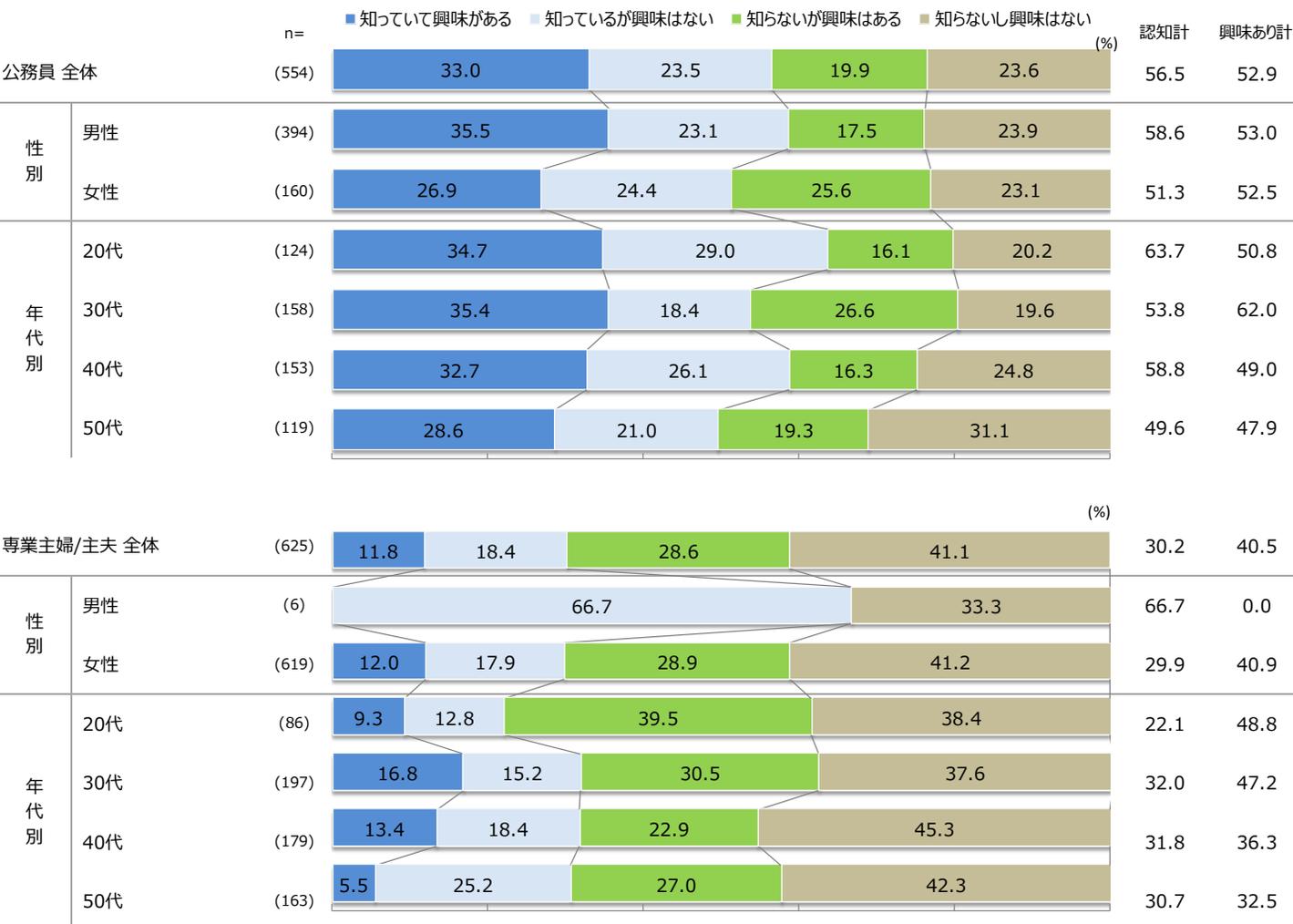
〔図 9-28〕



9. 個人型確定拠出年金(iDeCo)の浸透状況、今後の利用意向

(10) 個人型確定拠出年金の利用対象者拡大に関する認知と興味度 (60歳未満の個人型確定拠出年金認知者)[Q29:単数回答]

〔図 9-29〕 * 2018年属性別



10. その他項目



10. その他項目

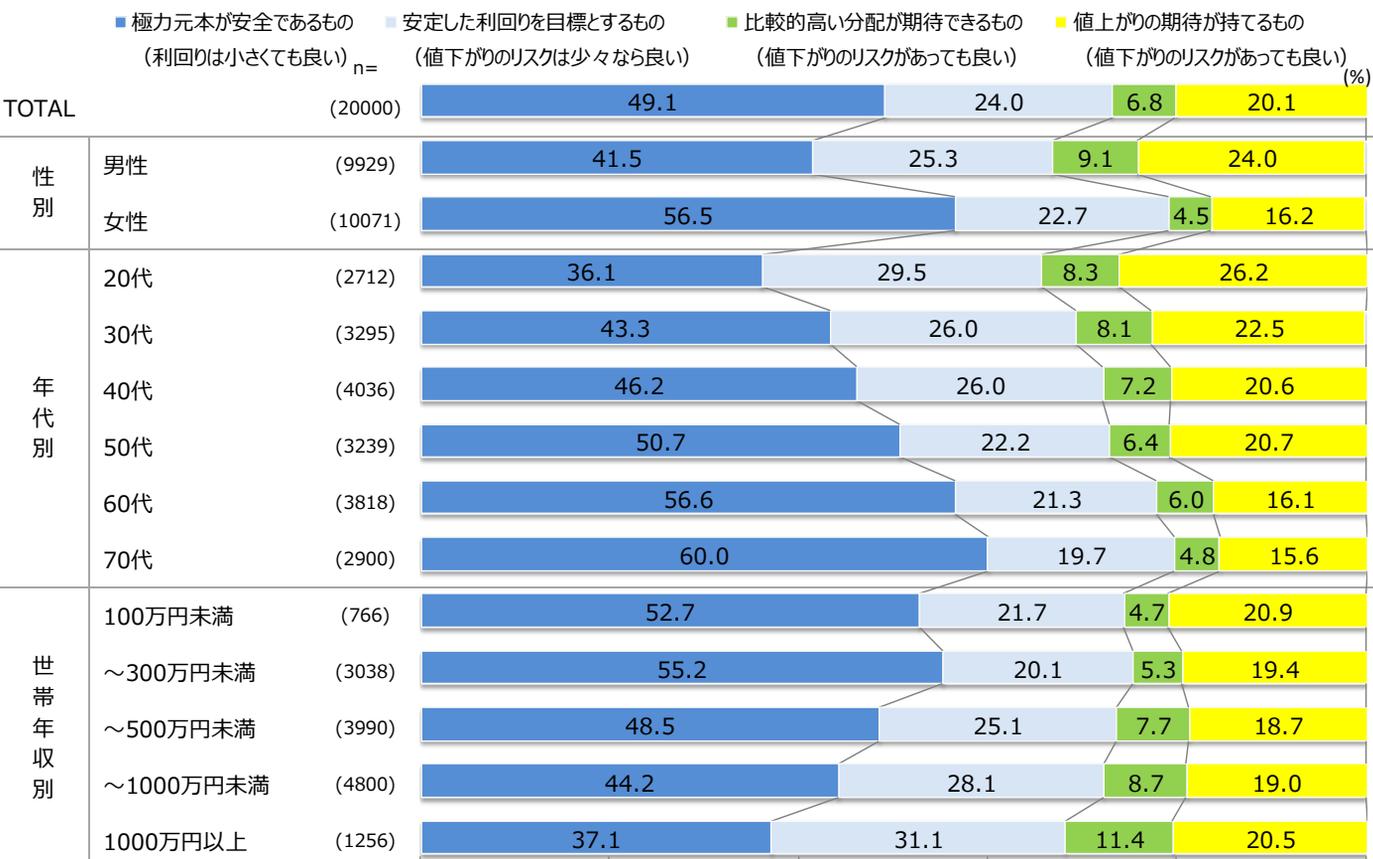
(1) NISAで投資する場合に、選択したい金融商品〔Q31①:単数回答〕

- NISAで投資したい商品は、前回と同様に「極力元本安全」商品(49.1%)が最多となる。〔図10-1〕
- 高齢層ほど「極力元本安全」商品が増加。また高年収層ほど「極力元本安全」商品が減少し、「安定利回り目標」「比較的高い分配が期待できる」商品が増加する。〔図10-2〕
- 今後NISA利用意向有層全体では「安定利回り目標」商品が最も高い。〔図10-3〕

〔図 10-1〕



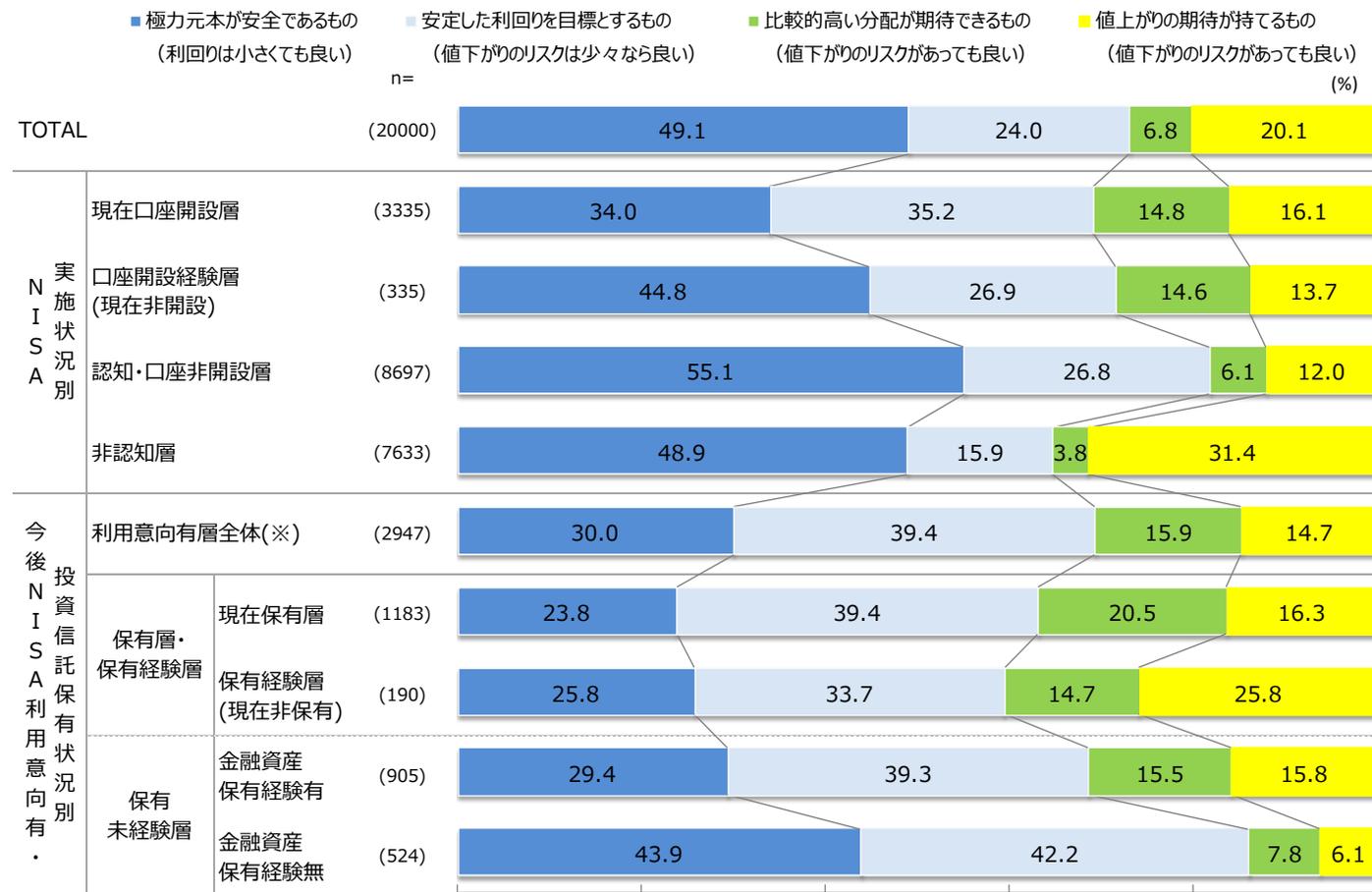
〔図 10-2〕 * 2018年属性別



10. その他項目

(1) NISAで投資する場合に、選択したい金融商品〔Q31①:単数回答〕

〔図 10-3〕 * 2018年属性別



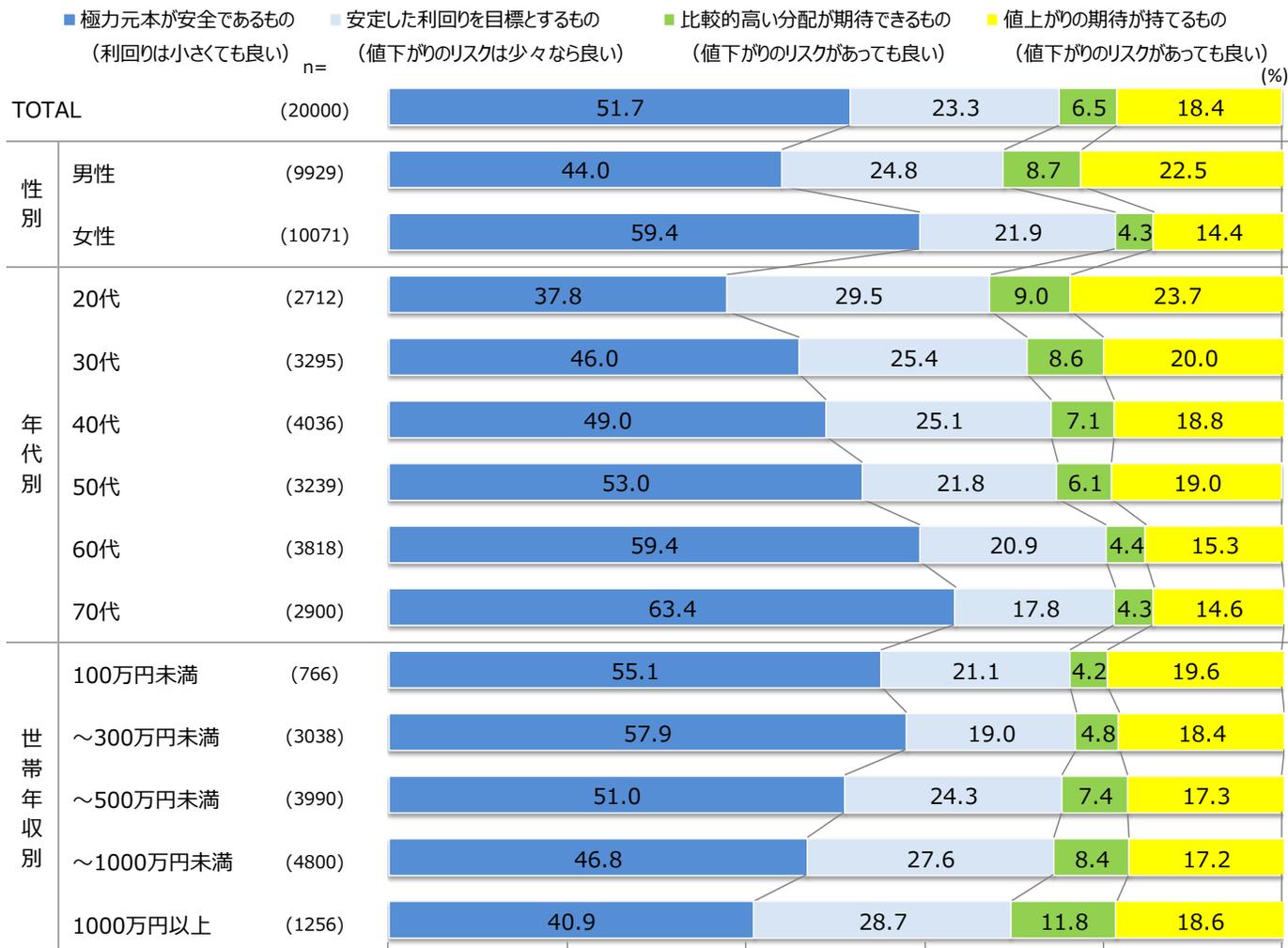
※「利用意向有層全体」では、「過去・現在保有の金融資産(Q6①②)」で「不明・回答拒否」の者も含めているが、「保有層・保有経験層」「保有未経験層」では金融資産の保有状況が不明の為、除外している。

10. その他項目

(1) つみたてNISAで投資する場合に、選択したい金融商品〔Q31②:単数回答〕

- つみたてNISAで投資したい商品は、「極力元本安全」商品(51.7%)が最多。〔図10-4〕
- 高齢層ほど「極力元本安全」商品が増加。また高年収層ほど「極力元本安全」商品が減少し、「安定利回り目標」「比較的高い分配が期待できる」商品が増加する。〔図10-4〕
- 今後つみたてNISA利用意向有層では、「安定利回り目標」商品が40%以上で高くなる。〔図10-5〕

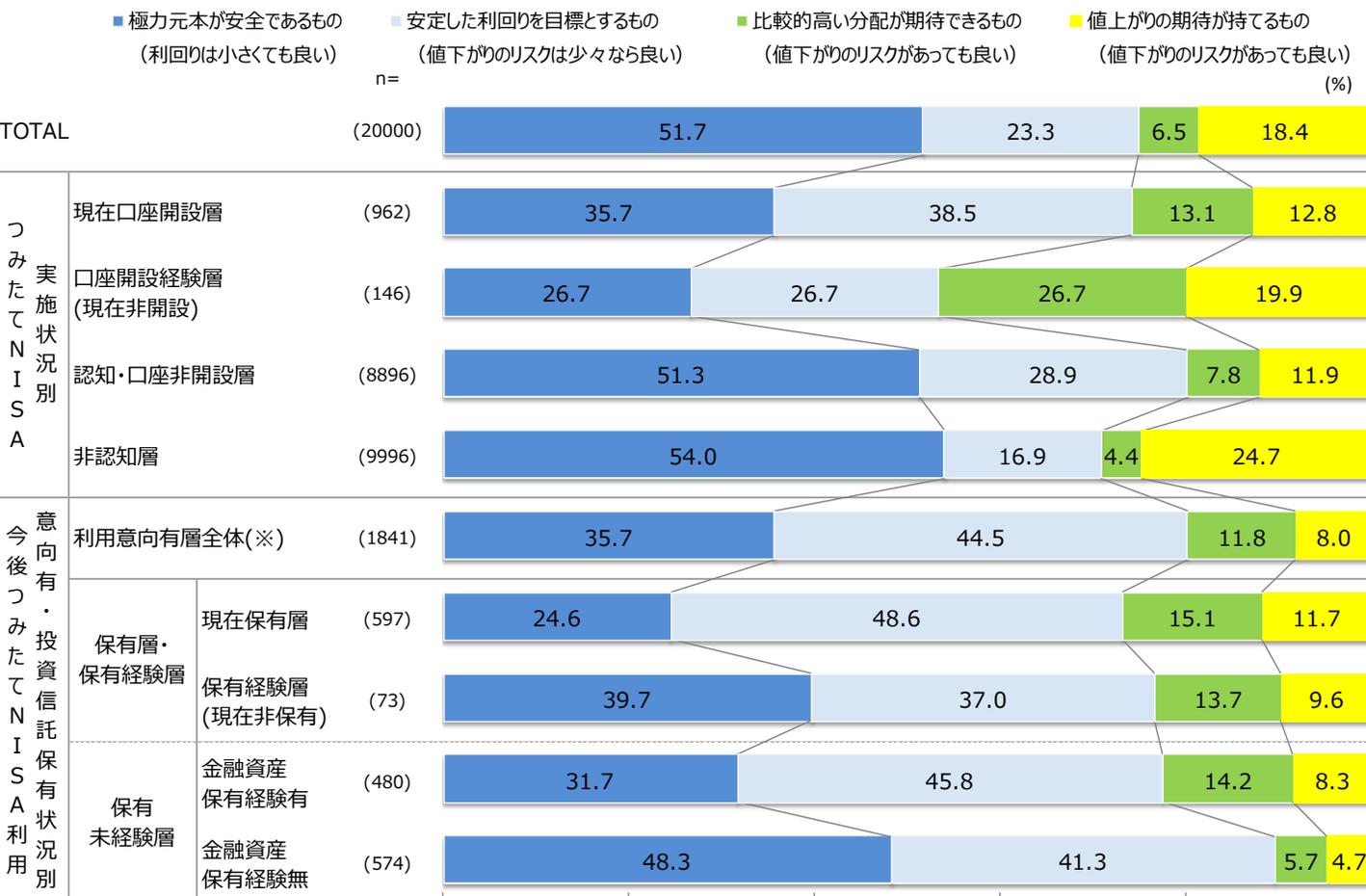
〔図 10-4〕 * 2018年属性別



10. その他項目

(1) つみたてNISAで投資する場合に、選択したい金融商品〔Q31②:単数回答〕

〔図 10-5〕 * 2018年属性別



※「利用意向有層全体」では、「過去・現在保有の金融資産(Q6①②)」で「不明・回答拒否」の者も含めているが、「保有層・保有経験層」「保有未経験層」では金融資産の保有状況が不明の為、除外している。

10. その他項目

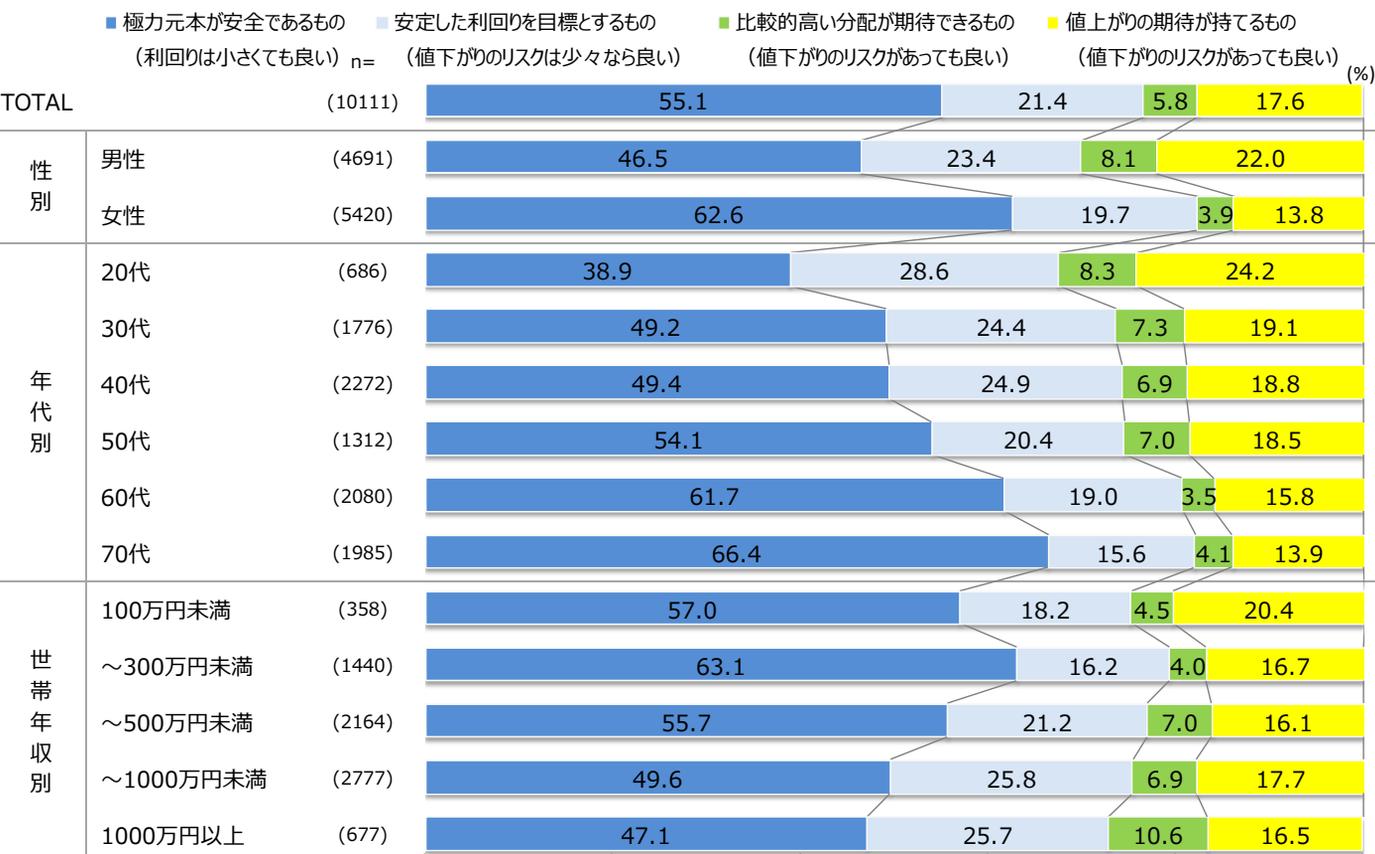
(1) ジュニアNISAで投資する場合に、選択したい金融商品 (20歳未満の親族がいる者)〔Q31③:単数回答〕

- ジュニアNISAで投資したい商品は、前回同様に「極力元本安全」商品(55.1%)が最多。〔図10-6〕
- NISAと同様に高齢層ほど「極力元本安全」商品が増加。また高年収層ほど「極力元本安全」商品が減少し、「安定利回り目標」「比較的高い分配が期待できる」商品が増加する。〔図10-7〕
- 今後ジュニアNISA利用意向有層では「極力元本安全」商品、「安定利回り目標」商品が共に40%程度で高くなる。〔図10-8〕

〔図 10-6〕



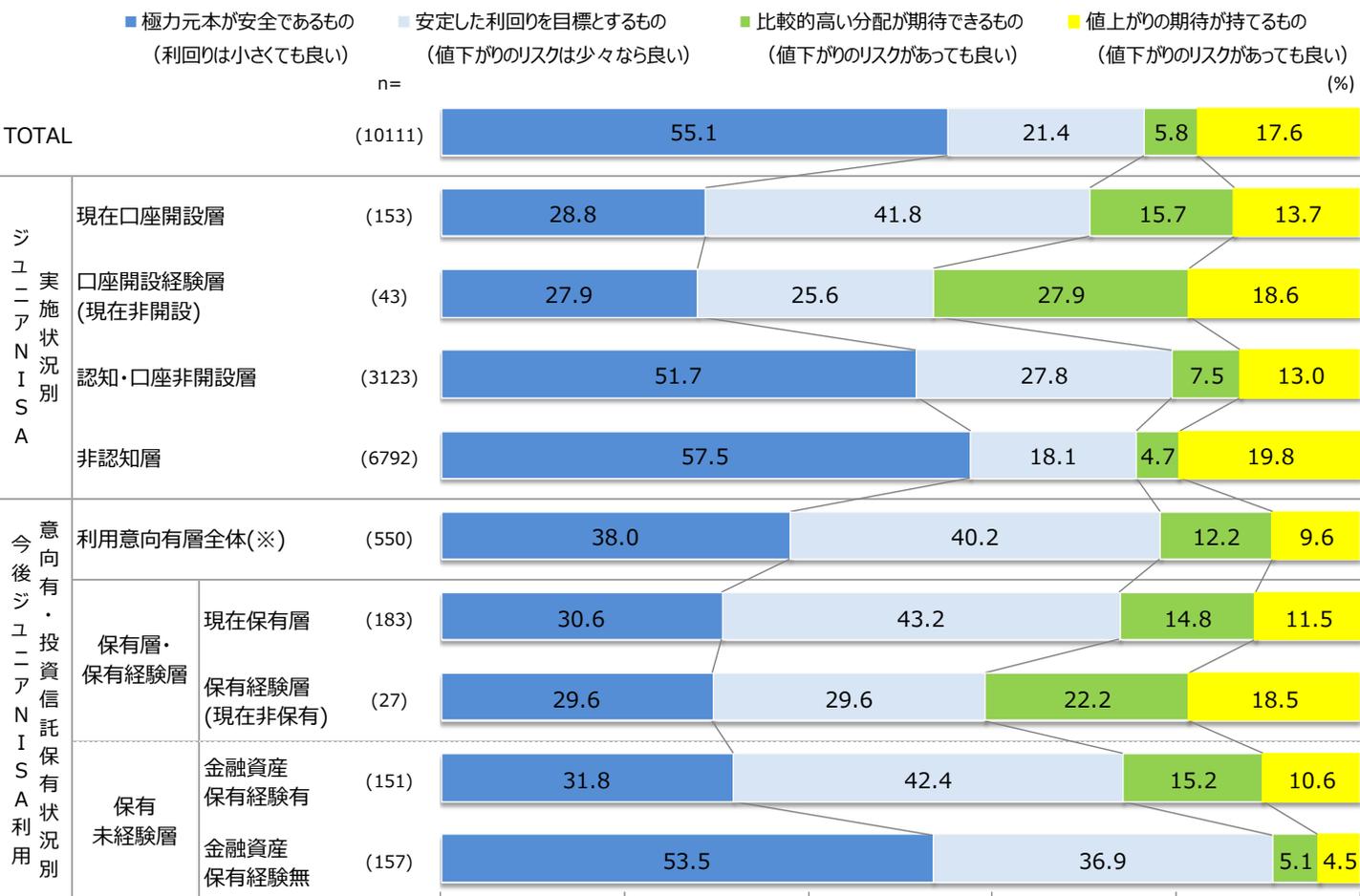
〔図 10-7〕 * 2018年属性別



10. その他項目

(1) ジュニアNISAで投資する場合に、選択したい金融商品 (20歳未満の親族がいる者)〔Q31③:単数回答〕

〔図 10-8〕 * 2018年属性別



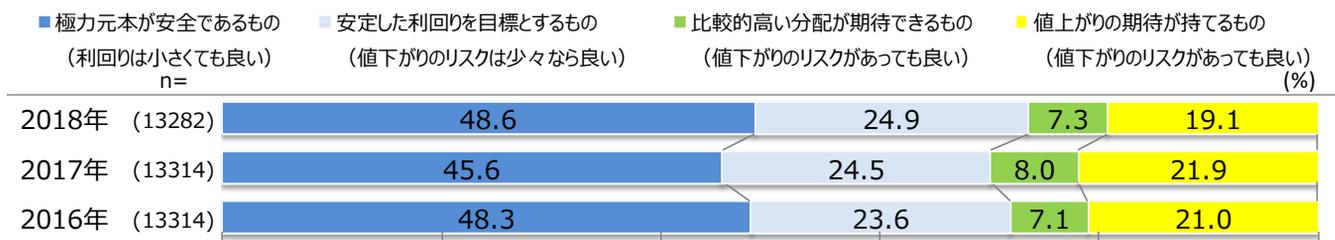
※「利用意向有層全体」では、「過去・現在保有の金融資産(Q6①②)」で「不明・回答拒否」の者も含めているが、「保有層・保有経験層」「保有未経験層」では金融資産の保有状況が不明の為、除外している。

10. その他項目

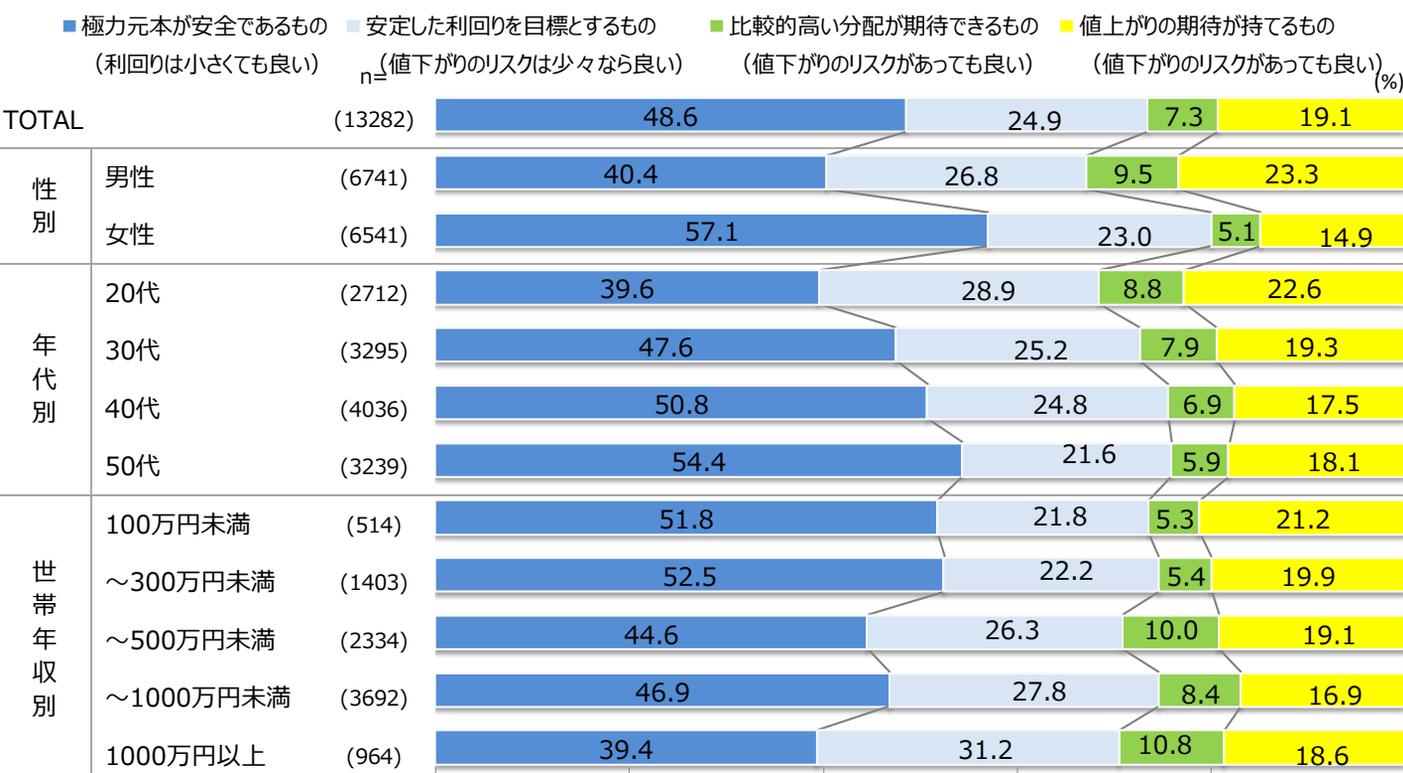
(2) 企業型確定拠出年金で投資する場合に、選択したい金融商品 (60歳未満の者)〔Q31④:単数回答〕

- 企業型確定拠出年金で投資したい商品は、前回同様に「極力元本安全」商品(48.6%)が最多。〔図10-9〕
- 高齢層ほど「極力元本安全」商品が増加。また高年収層ほど「極力元本安全」商品が減少し、「安定利回り目標」「比較的高い分配が期待できる」商品が増加する。〔図10-10〕
- 現在口座開設層では「安定利回り目標」商品が最も高い。〔図10-11〕

〔図 10-9〕



〔図 10-10〕 * 2018年属性別



〔図 10-11〕 * 2018年属性別 n=

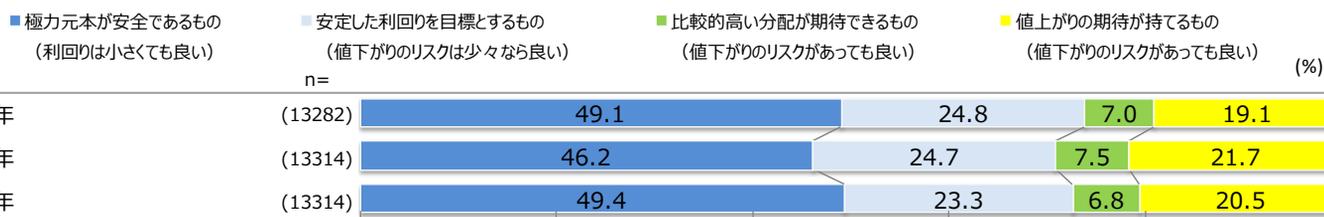


10. その他項目

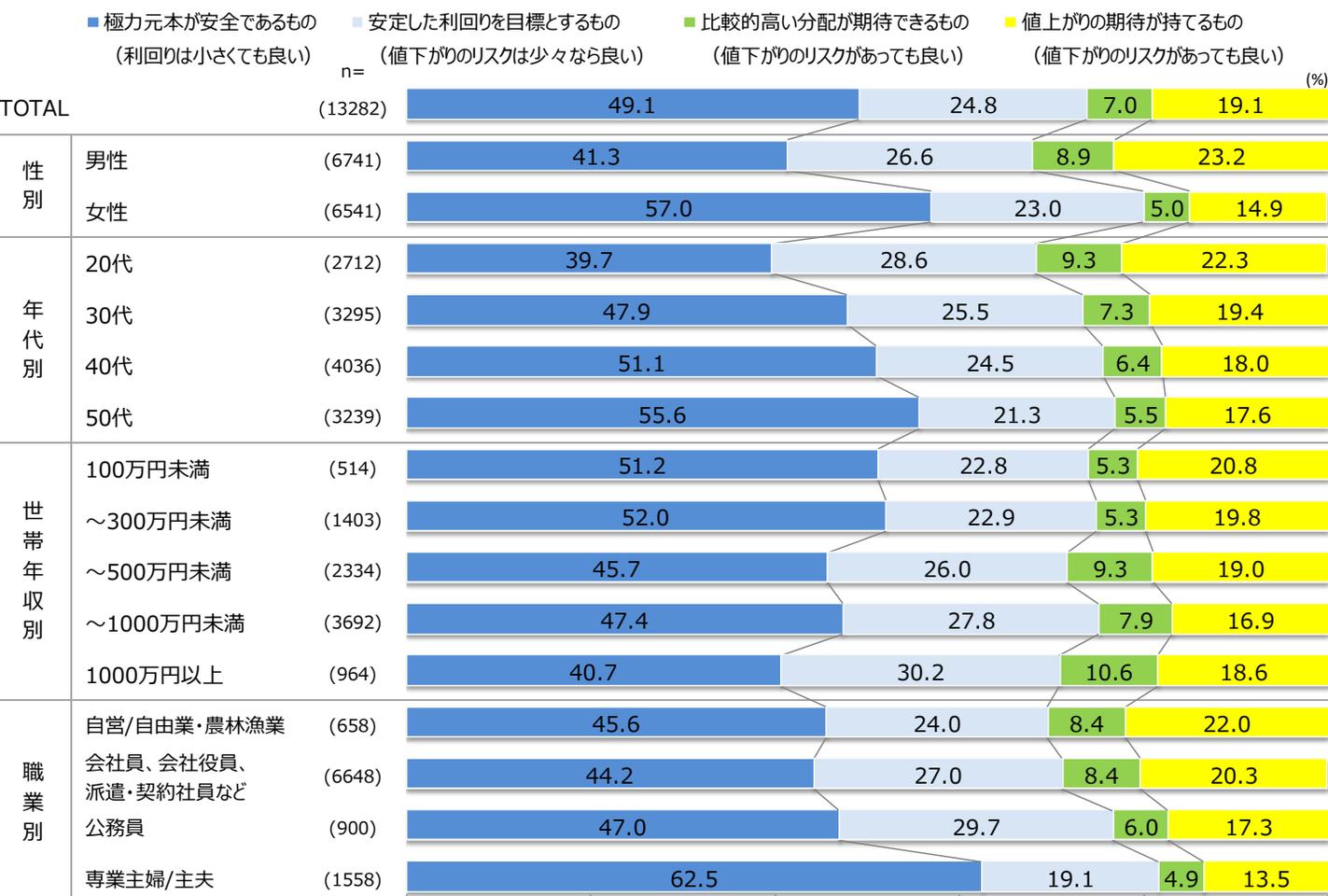
(2) 個人型確定拠出年金で投資する場合に、選択したい金融商品 (60歳未満の者)〔Q31⑤:単数回答〕

- 個人型確定拠出年金で投資したい商品は、前回同様に「極力元本安全」商品(49.1%)が最多。〔図10-12〕
- 「極力元本安全」商品は高齢層ほど増加し、職業別では専業主婦/主夫で60%を超え高い。〔図10-13〕
- 現在口座開設層や今後利用意向有層では「安定利回り目標」商品が他商品よりやや高い。〔図10-14〕

〔図 10-12〕



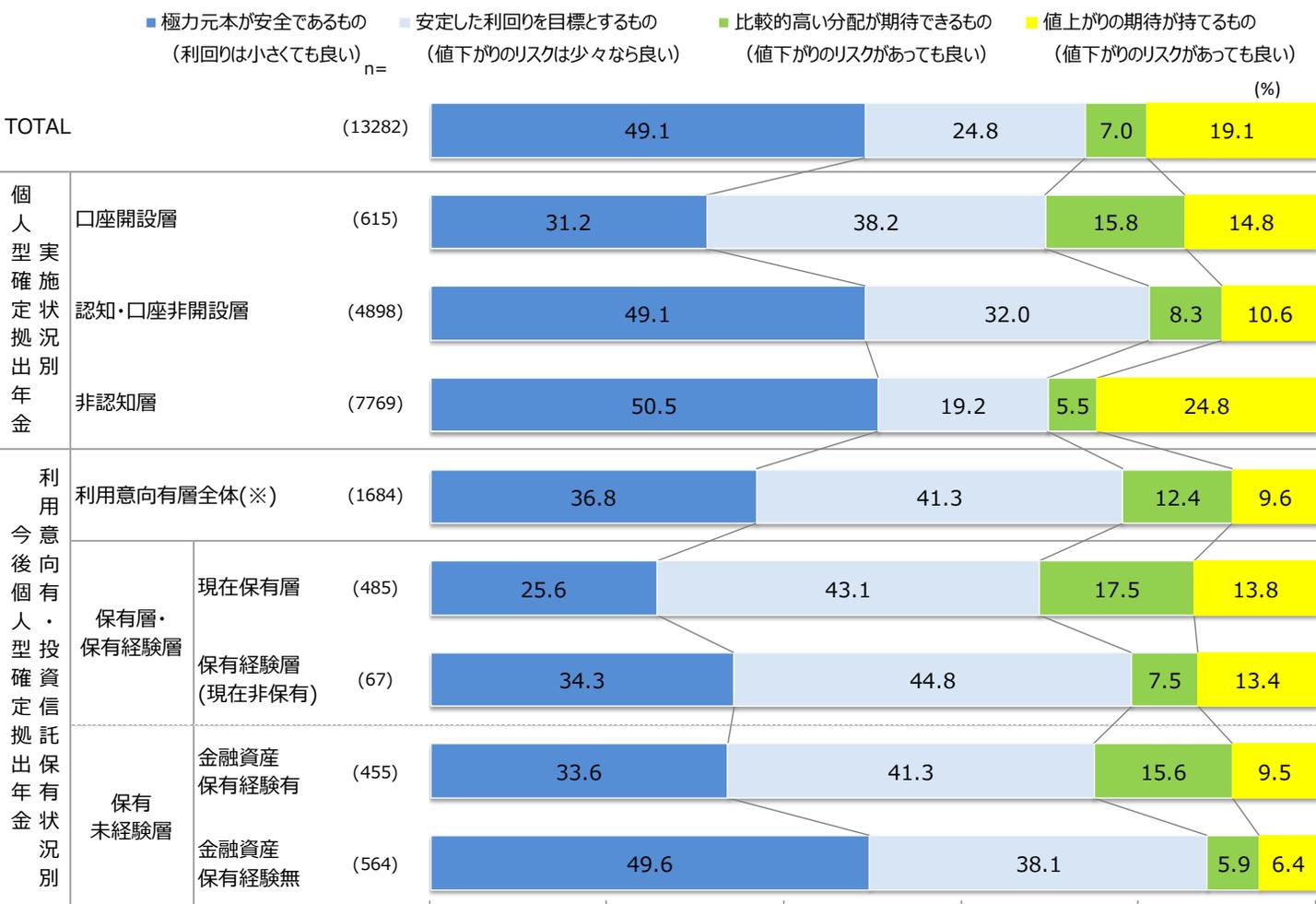
〔図 10-13〕 * 2018年属性別



10. その他項目

(2) 個人型確定拠出年金で投資する場合に、選択したい金融商品 (60歳未満の者)〔Q31⑤:単数回答〕

〔図 10-14〕 * 2018年属性別



※「利用意向有層全体」では、「過去・現在保有の金融資産(Q6①②)」で「不明・回答拒否」の者も含めているが、「保有層・保有経験層」「保有未経験層」では金融資産の保有状況が不明の為、除外している。

末尾添付資料：調査票



添付資料：調査票

Q1 あなたの性別をお答えください。

1 男性

2 女性

Q2 あなたの年齢をお答えください。

1 歳

Q3 あなたの職業をお知らせください。

1 会社員・非営利団体職員

2 会社役員・経営者

3 派遣・契約社員

4 公務員

5 自由業（医師・弁護士など）

6 農林漁業

7 自営業（農林漁業を除く）

8 パート・アルバイト・フリーター

9 専業主婦／主夫

10 大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

11 無職、定年退職

12 その他の職業

添付資料：調査票

Q4 あなたの親族に20歳未満の人はいますか。あてはまる人数をお答えください。

1 1人	2 2人	3 3人以上	4 該当する親族で、 20歳未満の人はいない
---------	---------	-----------	------------------------------

1 あなたの子ども(20歳未満)	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 あなたの孫(20歳未満)	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q5 あなたの世帯年収と、個人年収をお知らせください。

1 100万円未満	2 100～300万円未満	3 300～500万円未満	4 500～800万円未満	5 800～1,000万円未満	6 1,000～1,500万円未満	7 1,500万円以上	8 わからない・答えたくない
--------------	------------------	------------------	------------------	--------------------	----------------------	----------------	-------------------

1 あなたの世帯年収	→	<input type="radio"/>						
2 あなたの個人年収	→	<input type="radio"/>						

添付資料：調査票

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q6 あなたはこれまでに「現金・預貯金(円)以外の金融資産」を保有したことがありますか。

※「現金・預貯金(円)以外の金融資産」…外貨預金、株式、債券(国債・公社債など)、投資信託、FX、ETF、J-REITなど。
土地や不動産そのもの、保険は除きます。

		1 外貨預金	2 国内株式	3 外国株式	4 投資信託 (除くETF、REIT)	5 ETF	6 不動産投信 [J-REIT]	7 個人向け国債	8 国内債券 (個人向け国債除く)	9 外国債券	10 先物、オプション、 コモディティ商品(金など)	11 FX	12 その他	13 この中で保有したものはない／ 保有しているものはない <ex>	14 わからない・答えたくない <ex>
1 保有したことがある金融資産	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 現在保有している金融資産	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

<Q7①聴取対象：投資信託現在保有者(Q6②=4)>

<Q7②聴取対象：ETF現在保有者(Q6②=5)>

<Q7③聴取対象：J-REIT現在保有者(Q6②=6)>

- 金融商品についてお伺いします。
- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q7 現在あなたは、以下の金融商品をどの程度の期間、保有していますか。

※複数のファンドを保有している方は平均保有期間でお答えください。

		1 1年未満	2 1年以上 3年未満	3 3年以上 5年未満	4 5年以上 10年未満	5 10年以上
1 投資信託(除くETF、REIT) Q6の項目『2現在保有している...』の選択肢『4.投資信託(除くETF...』を選択した	→	<input type="radio"/>				
2 ETF Q6の項目『2現在保有している...』の選択肢『5.ETF』を選択した	→	<input type="radio"/>				
3 不動産投信[J-REIT] Q6の項目『2現在保有している...』の選択肢『6.不動産投信[J-RE...』を選択した	→	<input type="radio"/>				

添付資料：調査票

■金融商品についてお聞いします。

Q8 あなたは、以下の金融商品をどの程度ご存知ですか。

※ 「ETF」とは、株価指数などに連動する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているものを指します。
 ※ 「不動産投信(J-REIT)」とは、不動産に投資する、日本の証券取引所に上場しているものを指します。

1 名前も商品の内容も知っていない
 2 名前は知っているが、商品の内容はよく分からない
 3 知らない

1 ETF	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 不動産投信(J-REIT)	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

<Q9①聴取対象：ETF認知者(Q8①=1-2)>

■金融商品についてお聞いします。

Q9 金融商品のETF(株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの)には以下の様々な特徴があります。それぞれの特徴を読んで、各質問にあてはまるものを全てお答えください。

※ 成行(なりゆき)注文とは・・・売買価格を指定せず、銘柄、数量のみを指定して取引する形態のこと
 ※ 指値注文とは・・・一口当りの売買価格を指定して注文をすること

1 元本保証はない
 2 一般的な投資信託の購入価額は一日1つの基準価額であるが、ETFはその時々々の取引価格が購入価額となる
 3 成行(なりゆき)・指値注文が可能
 4 証券会社ごとに購入時の手数料が異なる
 5 運用管理費用(含指値報酬)などの手数料は、一般的な投資信託より低い
 6 分散投資ができるのでリスクの低減が期待できる
 7 指数などに連動するので値動きがわかりやすい
 8 わからない・特はない

1 あなたが知っている特徴 (回答はいくつでも) Q8の項目「ETF」の選択肢「1.名前も商品の内容も知らない」「2.名前は知っている」の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>							
2 あなたが魅力を感じた特徴 (回答はいくつでも)	→	<input type="checkbox"/>							
3 あなたが最も魅力を感じた特徴 (回答は1つ)	→	<input type="radio"/>							

<Q10①②聴取対象：ETF保有経験者および内容認知者(Q6①=5 or Q8①=1)>

■金融商品についてお伺いします。

ETF(株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの)を保有したことがある方、内容についてご存知の方に、お伺いします。

Q10 ETFで不満を感じるのどのような点ですか。あてはまるものを全てお答えください。そのうち特に不満を感じている点を1つあげてください。

		1 仕組みや運用実績がわかりにくい	2 専門知識がないと商品を選びにくい	3 リターン(収益)が低い	4 分配金が少ない	5 株式に比べて面白さに欠ける	6 債券に比べてリスクが高い	7 購入後の運用に関する情報が少ない	8 手続きがわずらわしい	9 最低購入価額が高い	10 種類が多く選択に迷う	11 元本保証がない	12 その他	13 わからない・特にない <ex>
1 不満を感じる点 (回答はいくつでも)	→	<input type="checkbox"/>												
2 その中で特に不満を感じている点 (回答は1つ)	→	<input type="radio"/>												

■金融商品についてお伺いします。

Q11 以下の金融商品の「ETF」の説明文を読んで、あなたは今後、どの程度購入してみたいと思いますか。また現在保有している方は、今後どの程度保有し続けたいとお考えですか。あてはまるものを1つだけお答えください。

<ETFの特徴>

「ETF」とは、日本の証券取引所に上場している投資信託です。取引所に上場されていることから株式と同様に成行・指値注文等が可能で、取引所の時価で売買が可能です。日経平均やTOPIXなどの指数などに連動するので値動きがわかりやすい金融商品です。

投資信託の中でも運用管理費用(信託報酬)などの手数料が一般的に低くなっていることも特徴の一つです。

※ 成行(なりゆき)注文とは・・・売買価格を指定せず、銘柄、数量のみを指定して取引する形態のこと

※ 指値注文とは・・・一口当りの売買価格を指定して注文をすること

- 1 購入してみたい、保有し続けたい
- 2 やや購入してみたい、やや保有し続けたい
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり購入したくない、あまり保有し続けたくない
- 5 購入したくない、保有し続けたくない

<Q12①聴取対象：J-REIT認知者(Q8②=1-2)>

■金融商品についてお伺いします。

Q12 金融商品の不動産投信(J-REIT)(不動産に投資する、日本の証券取引所に上場しているもの)には以下の様な特徴があります。それぞれの特徴を読んで、各質問にあてはまるものを全てお答えください。

- 1 少額から不動産投資できる
- 2 複数の不動産に分散して投資できる
- 3 専門家が運用や物件の管理などを行う
- 4 物件の賃料収入を主な分配金原資としている
- 5 運用益のほとんどが分配されている(投資法人に係る課税の特例制度があるため)
- 6 インフレになると不動産価格や賃料が上がり、REITの価格や分配金も上がるので、インフレ対策になる
- 7 比較的高い利回りが期待できる
- 8 保有する資産にはオフィスビル、住宅、商業施設、ホテル、物流施設などの建物を、単体あるいは複合で保有するタイプがある
- 9 ファンドによって決算期(分配)が分散している
- 10 株式と同様に取引所で売買ができるため、換金性・流動性が高い
- 11 開示されている情報が入手しやすい
- 12 元本保証がない
- 13 わからない・特にない <ex>

1 あなたが知っている特徴 (回答はいくつでも) Q8の項目『不動産投信(J-REIT)』の選択肢『1名前も商品の内容』、『2名前は知っている』の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>												
2 あなたが魅力を感じた特徴 (回答はいくつでも)	→	<input type="checkbox"/>												
3 あなたが最も魅力を感じた特徴 (回答は1つ)	→	<input type="radio"/>												

<Q13①②聴取対象：J-REIT保有経験者および内容認知者(Q6①=6 or Q8②=1)>

■金融商品についてお伺いします。

不動産投信(J-REIT)(不動産に投資する、日本の証券取引所に上場しているもの)を保有したことがある方、内容についてご存知の方に、お伺いします。

Q13 不動産投信(J-REIT)で不満を感じるのどのような点ですか。あてはまるものを全てお答えください。
そのうち特に不満を感じている点を一つあげてください。

	1 仕組みや運用実績がわかりにくい	2 専門知識がないと商品を選びにくい	3 リターン(収益)が低い	4 分配金が少ない	5 株式に比べて面白さに欠ける	6 債券に比べてリスクが高い	7 購入後の運用に関する情報が少ない	8 手続きがわずらわしい	9 最低購入価額が高い	10 種類が多く選択に迷う	11 元本保証がない	12 その他	13 わからない・特にない
	<input type="checkbox"/>												

1 不満を感じる点
(回答はいくつでも)

→

<input type="checkbox"/>													
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

2 その中で特に不満を感じている点
(回答は1つ)

→

<input type="radio"/>													
-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

■金融商品についてお伺いします。

Q14 以下の金融商品の「不動産投信(J-REIT)」の説明文を読んで、あなたは今後、どの程度購入してみたいと思いますか。
また現在保有している方は、今後どの程度保有し続けたいとお考えですか。あてはまるものを一つだけお答えください。

<不動産投信(J-REIT)の特徴>

「不動産投信(J-REIT)」とは、日本の証券取引所に上場している投資信託の一種で、不動産に投資する金融商品です。

一般的な不動産投資とは異なり、専門家が運用を行い、少額から複数の不動産に分散して投資ができます。

物件から得られた賃料など運用益のほとんどが分配されるため、分配利回りが比較的高いとされている金融商品です。

また不動産価格や賃料に連動して値動きするのでインフレ対策にもなると言われています。

取引所で売買されているので流動性があり、実物不動産とは異なり換金しやすい商品です。

- 1 購入してみたい、保有し続けたい
- 2 やや購入してみたい、やや保有し続けたい
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり購入したくない、あまり保有し続けたくない
- 5 購入したくない、保有し続けたくない

添付資料：調査票

■投資制度についてお伺いします。

Q15 あなたは、以下の投資に関する制度についてご存知ですか。それぞれあてはまるものをお答えください。

※ NISAとは、20歳以上を対象に2014年から始まった、投資から得られる収益に対する非課税制度です。毎年120万円までの新規投資額から得られる収益に対し、5年間非課税となります。

※ つみたてNISAとは、20歳以上を対象に、2018年1月から始まった制度です。投資対象商品は金融庁が定めた要件を満たす「長期の積立・分散投資に適した一定の投資信託」に限定されており、毎年40万円までの新規投資額から得られる収益に対し、非課税となります。非課税期間は最長で20年間となり、非課税投資枠は20年間で最大800万円となります。

※ ジュニアNISAとは、2016年から始まった、投資から得られる収益に対する非課税制度です。0歳～19歳の未成年者が対象ですが、親権者が子や孫に代わって運用を管理できます。毎年80万円までの新規投資額から得られる収益に対し、5年間非課税となります。

※ 確定拠出年金とは、国民年金や厚生年金保険などの公的年金と異なり、加入者自身が運用を行う私的年金制度です。また確定拠出年金は「企業型」と「個人型」に分かれますが、「企業型」の加入対象者は確定拠出年金を導入している企業の従業員です。

1 名前も制度の内容も知っている
2 名前は知っているが、制度の内容はよく分からない
3 知らない

		1	2	3
1 NISA	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 つみたてNISA	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 ジュニアNISA	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 企業型確定拠出年金	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 個人型確定拠出年金【iDeCo(イデコ)】	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

添付資料：調査票

- <Q16①聴取対象：NISA認知者(Q15①=1-2)>
- <Q16②聴取対象：つみたてNISA認知者(Q15②=1-2)>
- <Q16③聴取対象：ジュニアNISA認知者(Q15③=1-2)>
- <Q16④聴取対象：60歳未満の企業型確定拠出年金認知者(Q2<60 且つ Q15④=1-2)>
- <Q16⑤聴取対象：60歳未満の個人型確定拠出年金認知者(Q2<60 且つ Q15⑤=1-2)>
- <Q16⑥聴取対象：60歳以上の企業型確定拠出年金認知者(Q2 ≥ 60 且つ Q15④=1-2)>
- <Q16⑦聴取対象：60歳以上の個人型確定拠出年金認知者(Q2 ≥ 60 且つ Q15⑤=1-2)>

■投資制度についてお伺いします。
各投資制度をご存知の方にお伺いします。

Q16 あなたは、以下の投資制度で口座を開設し、株式や投資信託などの金融商品を購入したことがありますか、それぞれあてはまるものを1つだけお答えください。

	1 口座を開設して、現在も金融商品を保有している	2 口座を開設し金融商品を購入したが、現在は売却し保有していない(口座は開けていない)	3 口座を開設したが、また金融商品を購入したことはない	4 過去に口座を開設し金融商品を保有していたが、現在は口座を閉じている	5 過去に口座を開設したが、金融商品を保有することなく口座を閉じた	6 今までに口座を開設したことはない
1 NISA Q15の項目① NISAの選択肢①「名前も制度の内容..」, ②「名前知っている..」の中でいずれかを選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 つみたてNISA Q15の項目② つみたてNISAの選択肢①「名前も制度の内容..」, ②「名前知っている..」の中でいずれかを選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 ジュニアNISA Q15の項目③ ジュニアNISAの選択肢①「名前も制度の内容..」, ②「名前知っている..」の中でいずれかを選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 企業型確定拠出年金 Q15の項目④「企業型確定拠出年金」の選択肢①「名前も制度の内容..」, ②「名前知っている..」の中でいずれかを選択したかつ Q2の回答欄①「<60	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 個人型確定拠出年金【iDeCo(イデコ)】 Q15の項目⑤「個人型確定拠出年金」の選択肢①「名前も制度の内容..」, ②「名前知っている..」の中でいずれかを選択したかつ Q2の回答欄①「<60	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 企業型確定拠出年金 Q15の項目④「企業型確定拠出年金」の選択肢①「名前も制度の内容..」, ②「名前知っている..」の中でいずれかを選択したかつ Q2の回答欄①「>=60	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 個人型確定拠出年金【iDeCo(イデコ)】 Q15の項目⑤「個人型確定拠出年金」の選択肢①「名前も制度の内容..」, ②「名前知っている..」の中でいずれかを選択したかつ Q2の回答欄①「>=60	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

添付資料：調査票

<Q17①聴取対象：NISA口座開設・現在金融商品保有者(Q16①=1)>

<Q17②聴取対象：つみたてNISA口座開設・現在金融商品保有者(Q16②=1)>

<Q17③聴取対象：ジュニアNISA口座開設・現在金融商品保有者(Q16③=1)>

<Q17④聴取対象：60歳未満の企業型確定拠出年金口座開設・現在金融商品保有者(Q2<60且つQ16④=1)>

<Q17⑤聴取対象：60歳未満の個人型確定拠出年金口座開設・現在金融商品保有者(Q2<60且つQ16⑤=1)>

■投資制度についてお伺いします。

現在、各制度で金融商品を保有している方にお伺いします。

Q17 あなたが現在保有している金融商品を、各制度ごとにお答えください。

		1 定期預金	2 保険商品	3 株式	4 国内債券に主に投資する投資信託	5 外国債券に主に投資する投資信託	6 国内株式に主に投資する投資信託	7 外国株式に主に投資する投資信託	8 不動産投資信託に主に投資する投資信託（除くREIT）	9 様々な資産に投資する投資信託	10 ETF（上場株式投資信託）	11 REIT（不動産投資信託）	12 その他（上記にあてはまらないもの）	13 わからない・答えたくない <ex>
1 NISA Q16の項目『1.NISA』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した	→	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
2 つみたてNISA Q16の項目『2.つみたてNISA』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した	→	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
3 ジュニアNISA Q16の項目『3.ジュニアNISA』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した	→	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
4 企業型確定拠出年金 Q16の項目『4.【60歳未満】企業...』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択したかつ Q2の回答欄『1』<60	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
5 個人型確定拠出年金【iDeCo(イデコ)】 Q16の項目『5.【60歳未満】個人...』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択したかつ Q2の回答欄『1』<60	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-	<input type="checkbox"/>	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

添付資料：調査票

<Q18①/Q19①聴取対象：NISA口座開設・現在金融商品保有者(Q16①=1)>

<Q19②聴取対象：つみたてNISA口座開設・現在金融商品保有者(Q16②=1)>

<Q18③/Q19③聴取対象：ジュニアNISA口座開設・現在金融商品保有者(Q16③=1)>

■NISA/ジュニアNISAについてお伺いします。

NISAまたはジュニアNISAで、「口座を開設して、現在も金融商品を保有している」方にお伺いします。

Q18 あなたは現在NISA/ジュニアNISA口座で積立投資を実施していますか。

		1 実施している	2 実施していない
1 NISA Q16の項目『1.NISA』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 ジュニアNISA Q16の項目『3.ジュニアNISA』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

■NISA/つみたてNISA/ジュニアNISAについてお伺いします。

NISA、つみたてNISA、またはジュニアNISAで、「口座を開設して、現在も金融商品を保有している」方にお伺いします。

Q19 あなたが、NISA/つみたてNISA/ジュニアNISAの口座を開設した金融機関などを教えてください。

※ 勤務先を通じて口座を開設された方は、「勤務先を通じて」を選択してください。

		1 証券会社	2 ネット証券	3 銀行	4 信託銀行	5 信用金庫	6 その他（上記以外の金融機関）	7 勤務先を通じて	8 わからない・答えたくない
1 NISA Q16の項目『1.NISA』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した	→	<input type="radio"/>							
2 つみたてNISA Q16の項目『2.つみたてNISA』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した	→	<input type="radio"/>							
3 ジュニアNISA Q16の項目『3.ジュニアNISA』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した	→	<input type="radio"/>	-	<input type="radio"/>					

添付資料：調査票

<Q20①聴取対象：NISA口座開設・現在金融商品未購入者および口座未開設者(Q16①=3 or 6)>

<Q20②聴取対象：つみたてNISA口座開設・現在金融商品未購入者および口座未開設者(Q16②=3 or 6)>

<Q20③聴取対象：ジュニアNISA口座開設・現在金融商品未購入者および口座未開設者(Q16③=3 or 6)>

■NISA／つみたてNISA／ジュニアNISAについてお伺いします。

NISA、つみたてNISA、またはジュニアNISAで、「口座を開設したが、まだ金融商品を購入したことはない」方、「今までに口座を開設したことはない」方にお伺いします。

Q20 以下の制度で、金融商品を購入していない、または口座を開設していないのはなぜですか。それぞれあてはまるものをいくつでもお答えください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
口座開設の申込手続きが煩雑で面倒だから	非課税期間が短いから	株式や投資信託以外の商品（国債、公社債など）が購入できないから	年間の非課税投資限度額（NISA120万円／つみたてNISA40万円／ジュニアNISA80万円）が小さいから	どの商品を購入してよいかわからないから	経済状況など、商品購入や口座開設のタイミングを見定めているから	制度の内容を知らないから	制度が複雑でよく理解できないから	投資に回すお金がないから	既に十分な資産があり、投資は必要ないから	投資の知識がないから／知識がないと難しそうだから	金融機関に勧められて口座開設したただけだから	投資自体に関心がないから	その他	特に理由はない <ex>

1 NISA Q16の項目『1.NISA』の選択肢『3.口座を開設したが...』、『6.今までに口座を開...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>												
2 つみたてNISA Q16の項目『2.つみたてNISA』の選択肢『3.口座を開設したが...』、『6.今までに口座を開...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>												
3 ジュニアNISA Q16の項目『3.ジュニアNISA』の選択肢『3.口座を開設したが...』、『6.今までに口座を開...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>												

添付資料：調査票

<Q21①聴取対象：NISA口座開設・現在金融商品未購入者および口座未開設者(Q16①=3 or 6)>

<Q21②聴取対象：つみたてNISA口座開設・現在金融商品未購入者および口座未開設者(Q16②=3 or 6)>

<Q21③聴取対象：ジュニアNISA口座開設・現在金融商品未購入者および口座未開設者(Q16③=3 or 6)>

■NISA／つみたてNISA／ジュニアNISAについてお伺いします。
NISA、つみたてNISA、またはジュニアNISAで、「口座を開設したが、まだ金融商品を購入したことはない」方、「今までに口座を開設したことはない」方にお伺いします。

Q21 あなたが、以下の制度で金融商品の購入や口座の開設を検討するきっかけとなりそうな項目を、全てお答えください。

	1 身近な人（家族・友人など）に勧められたら	2 金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら	3 初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえらる機会があったら	4 金融や投資を勉強して理解できたら	5 貯蓄が一定額に達したら	6 手取り収入が増えたら	7 退職金・相続などでの臨時収入があったら	8 低リスクの投資信託商品が充実してきたら	9 手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	10 経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	11 税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	12 その他	13 特になし <ex>
1 NISA Q16の項目『1.NISA』の選択肢『3.口座を開設したが...』、『6.今までに口座を開...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
2 つみたてNISA Q16の項目『2.つみたてNISA』の選択肢『3.口座を開設したが...』、『6.今までに口座を開...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
3 ジュニアNISA Q16の項目『3.ジュニアNISA』の選択肢『3.口座を開設したが...』、『6.今までに口座を開...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>

添付資料：調査票

■NISA／つみたてNISA／ジュニアNISAについてお伺いします。

Q22

下記の説明を読んで、あなたは今後NISA／つみたてNISA／ジュニアNISAをどの程度利用したいと思いますか。現在利用している方は、今後どの程度利用し続けたいとお考えですか。

<NISAの特徴>

NISAは、毎年120万円までの株式や投資信託への投資から得られる収益(収益分配金・配当金、譲渡益)が、5年間非課税になる制度です。20歳以上が対象となり、現在は平成35年までの期限限定の制度とされています。

<つみたてNISAの特徴>

つみたてNISAは20歳以上を対象とした非課税制度です。

投資対象商品は「長期の積立・分散投資に適した一定の投資信託」に限定されており、毎年40万円までの新規投資額から得られる収益に対し、非課税となります。非課税期間は最長で20年間となり、非課税投資枠は20年間で最大800万円となります。

※購入方法は定期かつ継続的な買い付けに限られています。また現行のNISAとつみたてNISAの2つの制度を併用して利用することはできません。

<ジュニアNISAの特徴>

ジュニアNISAは、毎年80万円までの投資から得られる収益(収益分配金・配当金、譲渡益)が、5年間非課税になる制度です。

0歳～19歳の未成年者が対象ですが、親権者が子や孫に代わって運用を管理できます。

NISAとは異なり子や孫が18歳になるまでは口座内の金融資産や資金を払い出すことはできません。

また口座内の金融資産や資金は、子や孫のために用いることができます。

- | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-------------------|-----------------------|---------------|-----------------------------|-----------------------|
| 利用したい、
利用し続けたい | やや利用したい、
やや利用し続けたい | どちらとも
いえない | あまり利用したくない、
あまり利用し続けたくない | 利用したくない、
利用し続けたくない |

1 NISA	→	<input type="radio"/>				
2 つみたてNISA	→	<input type="radio"/>				
3 ジュニアNISA	→	<input type="radio"/>				

添付資料：調査票

<Q23①聴取対象：NISA今後利用意向者(Q22①=1-2)>

<Q23③聴取対象：ジュニアNISA今後利用意向者(Q22③=1-2)>

■NISA/ジュニアNISAについてお伺いします。

NISA、ジュニアNISAを「今後利用したい、利用し続けたい」とお考えの方にお伺いします。

Q23 あなたはNISA、ジュニアNISAで、どのような投資方法を実施したいですか。お気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。

1 年に1度の投資ですませたい
2 年に数回タイミングをみて分けて投資したい
3 毎月一定額を積み立て投資したい
4 わからない

1 NISA Q22の項目『1.NISA』の選択肢『1.利用したい、利用...』、『2.やや利用したい、...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 ジュニアNISA Q22の項目『3.ジュニアNISA』の選択肢『1.利用したい、利用...』、『2.やや利用したい、...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

<Q24①聴取対象：NISAでの毎月一定額積立投資意向者(Q23①=3)>

<Q24②聴取対象：つみたてNISA今後利用意向者(Q22②=1-2)>

<Q24③聴取対象：ジュニアNISAでの毎月一定額積立投資意向者(Q23③=3)>

■NISA/つみたてNISA/ジュニアNISAについてお伺いします。

NISA、ジュニアNISAで「毎月一定額を積み立て投資したい」、つみたてNISAを「利用したい、利用し続けたい」とお考えの方にお伺いします。

Q24 あなたはNISA、つみたてNISA、ジュニアNISAで、毎月いくらずつ積み立てたいですか。お気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。

		1 2 万円未 満	2 4 万円未 満	3 6 万円未 満	4 8 万円未 満	5 8 万円以 上	6 1 万円未 満	7 2 万円未 満	8 4 万円未 満	9 6 万円未 満	1 0 6 万円以 上	1 1 1 万円未 満	1 2 2 万円未 満	1 3 2 万円以 上
1 NISA Q23の項目『1.NISA』の選択肢『3.毎月一定額を積み...』を選択した	→	<input type="radio"/>	-	-	-	-	-	-	-	-				
2 つみたてNISA Q22の項目『2.つみたてNISA』の選択肢『1.利用したい、利用...』、『2.やや利用したい、...』の中でいずれかを選択した	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 ジュニアNISA Q23の項目『2.ジュニアNISA』の選択肢『3.毎月一定額を積み...』を選択した	→	-	-	-	-	-	<input type="radio"/>	-	-	-				

添付資料：調査票

<Q25/Q26聴取対象：60歳未満で、個人型確定拠出年金で口座開設・投資性商品未購入者および口座未開設者
{ Q2<60 且つ (「Q17⑤で1か2のみ回答」 or 「Q16⑤=3」 or 「Q16④=5」) } >

■個人型確定拠出年金についてお伺いします。
個人型確定拠出年金【iDeCo(イデコ)】で、「投資信託などの金融商品を購入していない」方、「今までに口座を開いたことはない」方にお伺いします。

Q25 個人型確定拠出年金で、金融商品を購入していない、または口座を開していないのはなぜですか。あてはまるものをいくつかもお答えください。

- 1 企業型確定拠出年金に加入しているので
Q16の項目『4. 【60歳未満】企業...』の選択肢『1.口座を開設して、...』を選択した
- 2 投資は元本が保証されないから
- 3 口座開設の申込手続きが煩雑で面倒だから
Q16の項目『5. 【60歳未満】個人...』の選択肢『6.今までに口座を開...』を選択した
- 4 制度の内容を知らないから
- 5 制度が複雑でよく理解できないから
- 6 投資したい金融商品がないから
- 7 投資に回すお金がないから
- 8 既に十分な資産があり、投資は必要ないから
- 9 投資の知識がないから／知識がないと難しそうだから
- 10 どの金融商品を購入したらよいかわからないから
- 11 金融機関に勧められて口座開設しただけだから
Q16の項目『5. 【60歳未満】個人...』の選択肢『3.口座を開設したが...』を選択した または Q17の項目『5.個人型確定拠出年...』の選択肢『1.定期預金』、『2.保険商品』の中でいずれかを選択した かつ Q17の項目『5.個人型確定拠出年...』の選択肢『3.株式』～『13.わからない・答え...』の中でいずれかを選択した
- 12 その他
- 13 特に理由はない <ex>

■個人型確定拠出年金についてお伺いします。
個人型確定拠出年金【iDeCo(イデコ)】で、「投資信託などの金融商品を購入していない」方、「今までに口座を開いたことはない」方にお伺いします。

Q26 あなたが、個人型確定拠出年金で、金融商品の購入や口座の開設を検討するきっかけとなりそうな項目を、全てお答えください。

- 1 制度内容や勤務先の規約が改訂され、企業型確定拠出年金加入者でも加入することができる様になったら
- 2 身近な人（家族・友人など）に勧められたら
- 3 金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら
- 4 初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら
- 5 金融や投資を勉強して理解できたら
- 6 投資したい金融商品がラインナップされたら
- 7 投資に回すお金ができたら
- 8 手取り収入が増えたら
- 9 経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら
- 10 セカンドライフを考える様になったら
- 11 その他
- 12 特にない <ex>

<Q27①聴取対象：個人型確定拠出年金認知者(Q15⑤=1-2)>

■個人型確定拠出年金についてお伺いします。

Q27 個人型確定拠出年金【DeCo(イデコ)】には以下の特徴があります。それぞれの特徴を読んで、各質問にあてはまるものを全てお答えください。

- 1 掛金が全額所得控除される
- 2 通常、金融商品の運用益には税金（源泉分離課税20・315%）がかかるが、運用益も非課税で再投資される
- 3 受け取る時も税制優遇措置がある（一時金は「退職控除」、年金は「公的年金等控除」という控除が受けられる）
- 4 資産の運用は加入者自身で行い、受け取る額は運用成績により変動する
- 5 運用対象には元本を保証する運用商品もある
- 6 商品は預け替えができる
- 7 積立期間は10年以上必要である
- 8 転職・離職の際にそれまで積み立てた資産を持ち運びすることができる
- 9 原則60歳まで引出しできない
- 10 口座は70歳まで延期できる
- 11 口座管理手数料などがかかる
- 12 加入対象者によって掛金の上限などが異なる
- 13 わからない・特にない <ex>

1 あなたが知っている特徴 (回答はいくつでも) Q15の項目『5.個人型確定拠出年...』の選択肢『1.名前も制度の内容...』、『2.名前知っている...』の中でいずれかを選択した	→	<input type="checkbox"/>											
2 あなたが魅力を感じた特徴 (回答はいくつでも)	→	<input type="checkbox"/>											
3 あなたが最も魅力を感じた特徴 (回答は1つ)	→	<input type="radio"/>											

添付資料：調査票

■個人型確定拠出年金についてお伺いします。

Q28 下記の説明を読んで、あなたは今後個人型確定拠出年金制度をどの程度利用したいと思いますか。現在利用している方は、今後どの程度利用し続けたいとお考えですか。あてはまるものを一つだけお答えください。

<個人型確定拠出年金の特徴>

個人型確定拠出年金とは、国民年金や厚生年金保険などの公的年金と異なり、加入者自身が運用を行う私的年金制度です。「掛金は全額所得控除」「運用益は非課税で再投資可能」「受け取り時の控除措置」など、様々な税制優遇措置を受けることができます。また転職・離職の際にそれまで積み立てた資産を持ち運ぶことができます。但し原則として60歳まで引き出しができません。また口座管理費などの手数料がかかります。

- 1 利用したい、利用し続けたい
- 2 やや利用したい、やや利用し続けたい
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり利用したくない、あまり利用し続けたくない
- 5 利用したくない、利用し続けたくない

<Q29聴取対象：60歳未満の個人型確定拠出年金認知者(Q2<60 且つ Q15⑤=1-2)>

■個人型確定拠出年金についてお伺いします。
個人型確定拠出年金【iDeCo(イデコ)】をご存知の方にお伺いします。

Q29 個人型確定拠出年金の利用対象者が2017年1月から専業主婦・公務員の方にも拡大され、これにより日本に住む基本的に60歳未満のすべての人が確定拠出年金を利用できるようになりました。あなたはこの改正についてご存知でしたか。またこの制度に興味がありますか。

- 1 知っていて興味がある
- 2 知っているが興味はない
- 3 知らないが興味はある
- 4 知らないし興味はない

<Q30聴取対象：60歳未満の企業型確定拠出年金口座開設・現在金融商品保有者(Q2<60且つQ16④=1)>

■企業型確定拠出年金についてお伺いします。
 企業型確定拠出年金で金融資産を保有している方にお伺いします。

Q30 あなたの職場は企業型確定拠出年金における、マッチング拠出制度を導入していますか。またマッチング拠出の加入者拠出をしていますか。

※マッチング拠出とは、確定拠出年金において、事業主(企業)の拠出額に上乗せする形で加入者(従業員)が拠出できる制度です。

- 1 現在導入しており、加入者拠出もしている
- 2 現在導入しているが、加入者拠出はしていない
- 3 現在導入していない
- 4 わからない/マッチング拠出制度を知らない

■投資制度についてお伺いします。

Q31 各制度で新規投資、追加投資(増額)を考えるとした場合、あなたはどのような金融商品を選択しますか。お気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。

<Q31③、④聴取対象 ：60歳未満全員(Q2<60)>

- 1 極力元本が安全であるもの(利回りは小さくても良い)
- 2 安定した利回りを目標とするもの(値下がりのリスクは少々なら良い)
- 3 比較的高い分配が期待できるもの(値下がりのリスクがあっても良い)
- 4 値上がりの期待が持てるもの(値下がりのリスクがあっても良い)

		1	2	3	4
1 NISA	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 つみたてNISA	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 ジュニアNISA	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 企業型確定拠出年金 Q2の回答欄『1』<60	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 個人型確定拠出年金【IDeCo(イデコ)】 Q2の回答欄『1』<60	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>